

2024 年度 早稲田大学新入生調査
報告書

2025 年 2 月

早稲田大学 大学総合研究センター

研究倫理番号 2023-412

全体要旨

本報告書は、大学総合研究センターが、2024 年度に学部・大学院に入学した新生を対象に実施した新生調査の集計、分析結果を掲載した報告書である。調査は、2024 年の4月から5月までにかけて12,697 名を対象に回答依頼をメールアドレス宛に送付し、5,207 件の回答を得た（回収率 41.0%）。

第1章では、本調査の概要について整理し、第2章では、新生のアドミッション・ポリシー（以降：AP）の理解と、大学入学前の能力獲得について分析をおこなった。新生全体の傾向として、大学では56.9%、学部では58.7%が、APを知っていた（「やや知っていた」と「よく知っていた」の合計）と回答した（図）。新生のAP理解（共感）においては、大学では94.4%、学部では95.2%が、APを理解（共感）できる（「少し理解（共感）できる」と「大いに理解（共感）できる」の合計）と回答した。AP関連の行動に関する項目では、全体的に8割程度が肯定的な回答であった。特に肯定的な回答の割合が低かった項目は、「自分の考えを口頭あるいは図や文章を用いて明確に表現することができた」（75.7%）と「他者の意見に惑わされずに自分の考えで行動できた」（78.6%）であった。

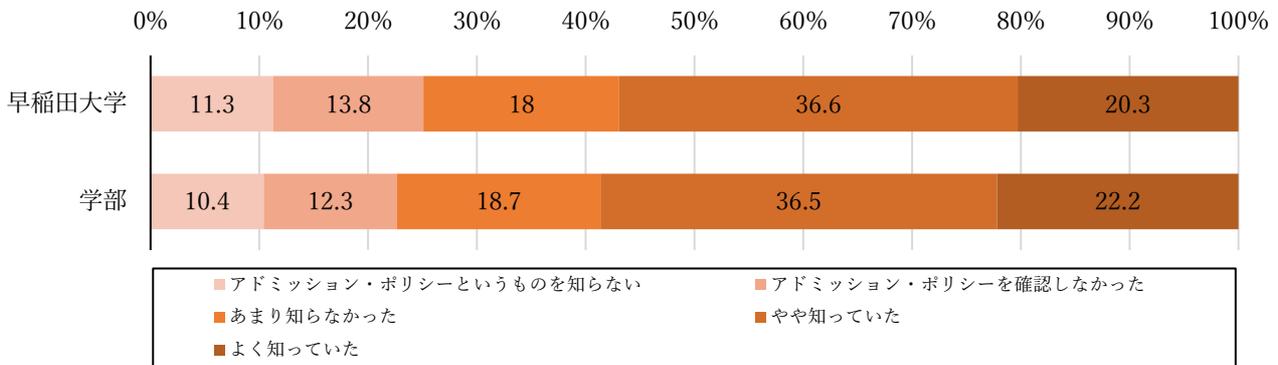


図 学部新生の AP 認知

第3章では、学部新生を対象に、首都圏（埼玉、千葉、東京、神奈川）出身入学者と非首都圏（地方）出身入学者の比較分析を行い、それぞれの特徴を明らかにすることを目的とした。学びという点で述べれば、出身地域に関わらず、一般・共通よりも推薦等の方がより高校時に主体的な学びを実践できており、かつ早稲田大学と入学学部が第一志望で、アドミッション・ポリシーはじめ必要な情報をより収集している傾向にある。しかし、出身地域間に差がある項目もある。例えば、早稲田大学を志望した理由として、奨学金の受給可能性（図3-22）を、非首都圏推薦等がより魅力的に感じている。

第4章では、大学院新生を対象に、入学までのプロセスを記述分析してきた。まず、文理の別、課程別に分けた4つのタイプごとに記述分析したところ、大学院や研究科のAP認知については、理系修士を除くと6割程度は認知していた。大学院新生から留学生、社会人院生を抽出し、それぞれの特徴を分析すると、進学までのプロセスについて、留学生では出身国の社会経済状況を考慮した回答が見られ、社会人院生においてはキャリア形成において大学院を活用しようとする意識が高いことが読み取れた。

目次

第1章 調査概要と対象について.....	p. 3
第2章 アドミッション・ポリシーの理解と大学入学前の能力獲得.....	p. 4
2-1. 調査項目と記述統計.....	p. 4
2-2. 全体の傾向.....	p. 6
2-3. 4類型の比較：AP 認知・理解（共感）.....	p. 8
2-4. 4類型の比較：AP 関連の能力.....	p. 11
2-5. 4類型の比較：DP 関連の能力.....	p. 16
2-6. まとめ.....	p. 23
2-7. 資料.....	p. 25
第3章 首都圏出身入学者と比較した地方出身入学者の特徴.....	p. 29
3-1. 本章の目的.....	p. 29
3-2. 基本情報と入試区分との関係.....	p. 29
3-3. 出身地域・入試タイプと志望理由の分析.....	p. 30
3-4. 出身地域・入試タイプと進学までのプロセス.....	p. 38
3-5. 出身地域・入試タイプと進学理由.....	p. 44
3-6. 出身地域・入試タイプと高校までの学習の分析.....	p. 47
3-7. まとめ.....	p. 55
第4章 大学院新入生の分析.....	p. 57
4-1. 本章の目的.....	p. 57
4-2. 入学時の意識・能力の分析.....	p. 57
4-3. 志望理由と出願に影響を受けた人・情報源の分析.....	p. 63
4-4. 進学理由.....	p. 73
4-5. 留学生院生・社会人院生.....	p. 76
4-6. まとめ.....	p. 81
付録 全体の集計データ.....	p. 83

第1章 調査概要について

大学総合研究センターは、2018年度から卒業生を対象に卒業生調査を、2020年度から全学生を対象に学生生活・学修行動調査を毎年度実施し、それらを集計・分析し、回答者である卒業生、在学生、及び学内外へフィードバックを重ね、早稲田大学の教学マネジメントに欠かせない客観的な根拠を示してきた。2024年度においては、より早稲田大学生の入学時点での状況を的確に把握するため学部・大学院新入生を対象にした新入生調査を企画、実施した。

本報告書では、新入生調査のデータに基づいて、学部・大学院新入生を対象に、複数の観点から分析を行った。第2章では、新入生のアドミッション・ポリシーの認知や理解（共感）を中心に分析した。第3章では、学部新入生を対象に地域や入試区分による違いを分析した。第4章では、大学院新入生を対象に進学までのプロセスなどを分析し、別途、留学生、社会人に分けた分析も行った。

なお調査は大学総合研究センターが実施し、データ分析、報告書執筆は同センター遠藤健（第3章、第4章）、山田寛邦（第2章）が担当し、付録作成を元学生スタッフ丸川拓己が担当した。

なお、調査概要は以下の通りである。調査時期は、入学後間もない4月から5月にかけて実施した。回収率は41.0%とこれまでの学生生活・学修行動調査よりも高くなった。

対象者：2024年度学部・大学院入学者（2023年度9月入学者含む）

回収時期：2024年4月3日～2024年5月10日

調査方法：ウェブ回答 URL を登録されたメールアドレスに送付

送付数：12,697

回答数：5,207

回収率：41.0%

第2章 アドミッション・ポリシーの理解と大学入学前の能力獲得

本章では新入生のアドミッション・ポリシー（以降：AP）の認知・理解と、大学入学前の能力獲得について分析をする。まずは新入生全体の傾向を把握し、その後入試区分の「一般入試（一般入試・共通テスト利用）」と「非一般入試（推薦・A0・付属・系属）」、それと出身地の「首都圏（東京・神奈川・千葉・埼玉）出身」と「非首都圏出身」をクロスさせ、4類型（一般首都圏，一般非首都圏，非一般首都圏，非一般非首都圏）を作成して比較する。なお本章では、大学院生、社会人入試入学者、海外出身の入学者を分析から除外した。大学院生に関しては第4章において詳細に報告する。

2-1. 調査項目と記述統計

本調査では新入生のAPの認知及び理解（共感）について、大学（大学院）と学部に関して、質問・回答項目を次のように設定した。AP認知の質問文は、例えば大学に関しては「あなたは「早稲田大学」入学前に、アドミッション・ポリシーを確認しましたか」であり、回答方法は「アドミッション・ポリシーというものを知らない」「アドミッション・ポリシーを確認しなかった」「あまり知らなかった」「やや知っていた」「よく知っていた」であった。APの理解（共感）の質問文は、例えば大学に関しては「あなたは「早稲田大学」入学前に、アドミッション・ポリシーを確認しましたか」などであり、回答方法は「全く理解（共感）できない」「あまり理解（共感）できない」「少し理解（共感）できる」「大いに理解（共感）できる」の4件法であった。

また本調査では、APに関連する能力の質問項目として8項目と、早稲田大学のディプロマ・ポリシー（以降：DP）に関する能力の質問項目として12項目を設定した。AP関連の能力の質問文は、例えば「あなたのこれまで（学部・大学院に入学するまで）のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にはどの程度あてはまりますか。 - 自分の考えを論理的に構成することができた」などであり、回答方法は「あてはまらない」「あまりあてはまらない」「ややあてはまる」「あてはまる」の4件法であった。DP関連の能力の質問文は、例えば「あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 新しいことに挑戦できる」などであり、回答方法は「身に付いていない」「あまり身に付いていない」「まあまあ身に付いている」「身に付いている」の4件法であった。

質問項目と記述統計を、表2-1に掲載した。

表 2-1 質問項目と記述統計

	度数	最 小 値	最 大 値	平均値	標準 偏差
あなたは「早稲田大学（大学院生の場合、早稲田大学大学院）」入学前に、アドミッション・ポリシーを確認しましたか。「大学（大学院）のアドミッション・ポリシー」「入学した学部（研究科）のアドミッション・ポリシー」それぞれについてお答えください（それぞれあてはまるものを選択）。 - 早稲田大学（大学院）のアドミッション・ポリシー	2902	1	5	3.43	1.26
あなたは「早稲田大学（大学院生の場合、早稲田大学大学院）」入学前に、アドミッション・ポリシーを確認しましたか。「大学（大学院）のアドミッション・ポリシー」「入学した学部（研究科）のアドミッション・ポリシー」それぞれについてお答えください（それぞれあてはまるものを選択）。 - 学部（研究科）のアドミッション・ポリシー	2767	1	4	3.43	.66
「大学（大学院）のアドミッション・ポリシー」および「入学した学部（研究科）のアドミッション・ポリシー」の内容について、理解（共感）できるかどうか、それぞれについてお答えください（それぞれあてはまるものを選択）。 - 早稲田大学（大学院）のアドミッション・ポリシー	2907	1	5	3.51	1.23
「大学（大学院）のアドミッション・ポリシー」および「入学した学部（研究科）のアドミッション・ポリシー」の内容について、理解（共感）できるかどうか、それぞれについてお答えください（それぞれあてはまるものを選択）。 - 学部（研究科）のアドミッション・ポリシー	2904	1	4	3.48	.63
あなたのこれまで（学部・大学院に入学するまで）のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にほどの程度あてはまりますか。 - 自分の考えを論理的に構成することができた	3019	1	4	3.04	.75
あなたのこれまで（学部・大学院に入学するまで）のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にほどの程度あてはまりますか。 - 複数の選択肢の中から自分なりの根拠を示して結論を導くことができた	3016	1	4	3.26	.73
あなたのこれまで（学部・大学院に入学するまで）のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にほどの程度あてはまりますか。 - 自分の考えを口頭あるいは図や文章を用いて明確に表現することができた	3018	1	4	2.96	.82
あなたのこれまで（学部・大学院に入学するまで）のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にほどの程度あてはまりますか。 - 自分で必要だと考えた学習や活動に取り組むことができた	3016	1	4	3.29	.80
あなたのこれまで（学部・大学院に入学するまで）のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にほどの程度あてはまりますか。 - 同じ目標に向けて他者と協働することができた	3017	1	4	3.29	.83
あなたのこれまで（学部・大学院に入学するまで）のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にほどの程度あてはまりますか。 - 他者の意見に惑わされずに自分の考えで行動できた	3019	1	4	3.11	.83
あなたのこれまで（学部・大学院に入学するまで）のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にほどの程度あてはまりますか。 - 相手の立場や考え方に共感することができた	3016	1	4	3.36	.73
あなたのこれまで（学部・大学院に入学するまで）のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にほどの程度あてはまりますか。 - 大学で学ぶ（学んだ）ことを利用して、社会に貢献したいと考えていた	3020	1	4	3.35	.81
あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 新しいことに挑戦できる	3022	1	4	3.05	.78
あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 既存の考え方にとらわれず、新しいアイデアを生み出せる	3020	1	4	2.78	.82
あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 物事を論理的に考えることができる	3023	1	4	3.09	.75
あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 課題の解決方法を提案できる	3018	1	4	3.03	.75
あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 自分の考えを分かりやすく表現できる	3019	1	4	2.87	.80
あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 相手の状況や考え方を尊重できる	3020	1	4	3.38	.71
あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 物事を多面的に考えることができる	3019	1	4	3.09	.77
あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 健全に批判することができる	3018	1	4	2.97	.79
あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 公正な視点で多様性を受け入れられる	3017	1	4	3.28	.74
あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 異文化を理解できる	3017	1	4	3.30	.73
あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 外国語を理解し、話せる	3013	1	4	2.50	.88
あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 自身の専門に関する知識	3017	1	4	2.45	.87

2-2. 全体の傾向

まずは新入生全体の傾向をまとめる。新入生の AP 認知 (図 2-1) は、大学と学部いずれの場合も、10%程度が「AP というものを知らない」と回答した。そのうえで、「やや知っていた」と「よく知っていた」を合計すると、大学では 56.9%、学部では 58.7%が、AP を知っていたと回答した。

新入生の AP 理解 (共感) (図 2-2) は、「少し理解 (共感) できる」と「大いに理解 (共感) できる」を合計すると、大学では 94.4%、学部では 95.2%が、AP を理解 (共感) できると回答した。

図 2-3 は、AP 関連の能力に関する項目である。「ややあてはまる」と「あてはまる」を合計すると、全体の項目では 8 割程度が肯定的な回答であった。特に肯定的な回答の割合が低かった項目は、「自分の考えを口頭あるいは図や文章を用いて明確に表現することができた」(75.7%)と「他者の意見に惑わされずに自分の考えで行動できた」(78.6%)であった。

図 2-4 は、DP 関連の能力に関する項目である。「ややあてはまる」と「あてはまる」を合計すると、全体の項目では 7 割 5 分程度が肯定的な回答であった。特に肯定的な回答の割合が低かった項目は、「既存の考え方にとらわれず、新しいアイデアを生み出せる」(64.6%)、「外国語を理解し、話せる」(50.2%)、「自身の専門に関する知識」(53.9%)であった。

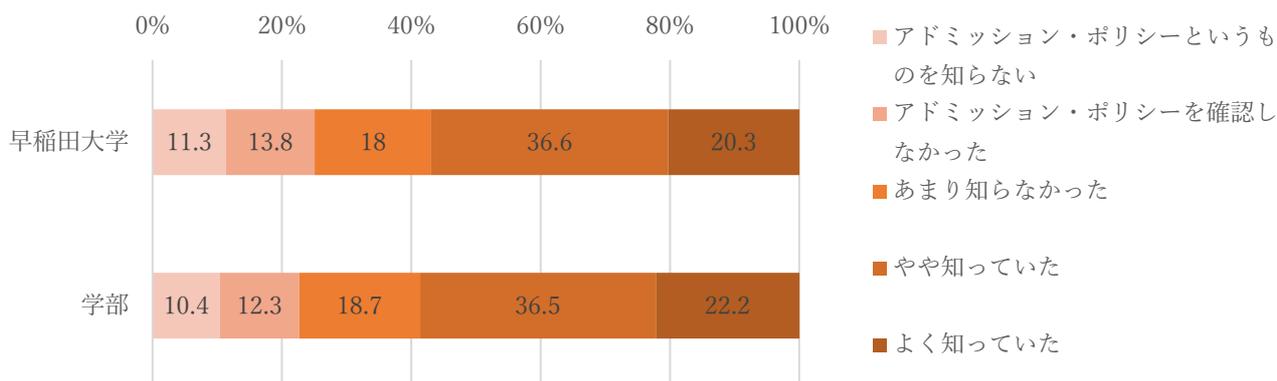


図 2-1 AP 認知

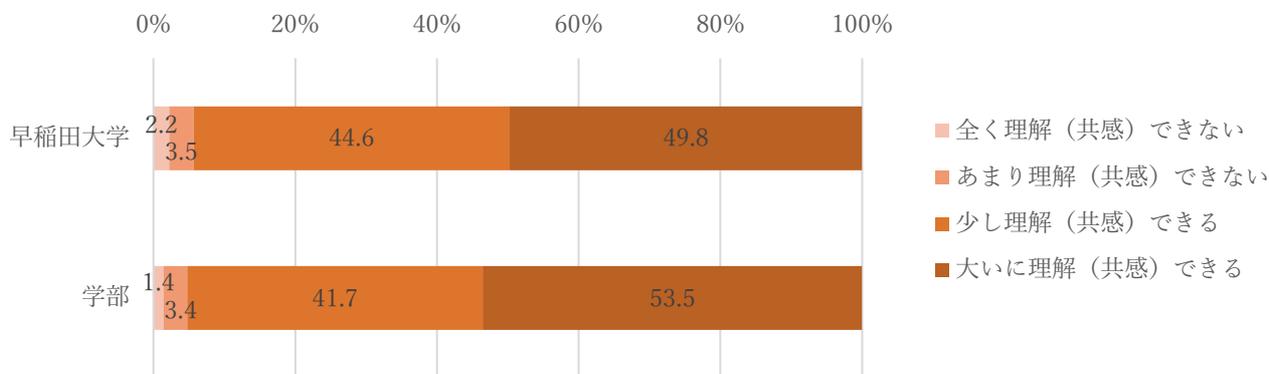


図 2-2 AP 理解 (共感)

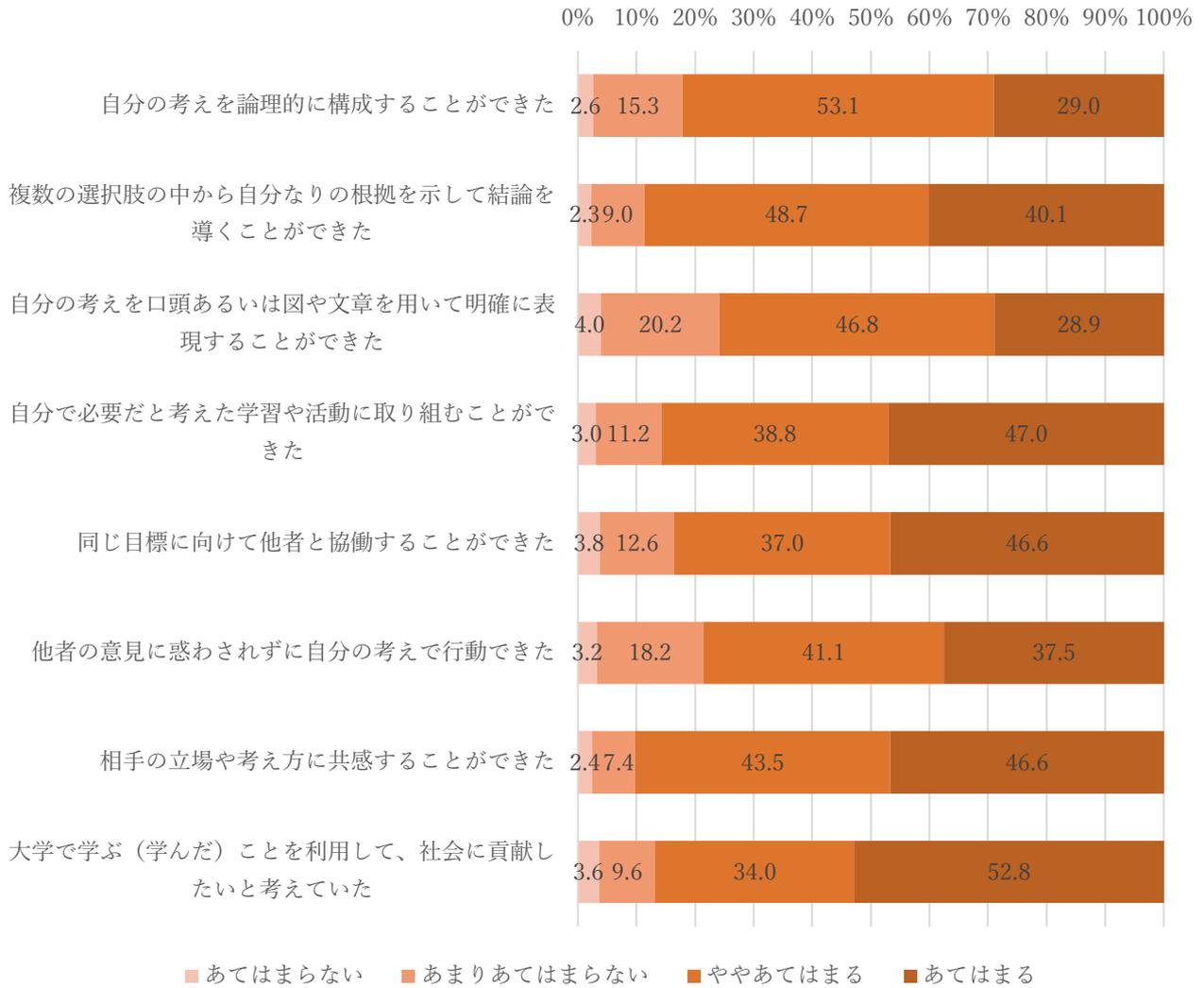


図 2 - 3 AP 関連の能力

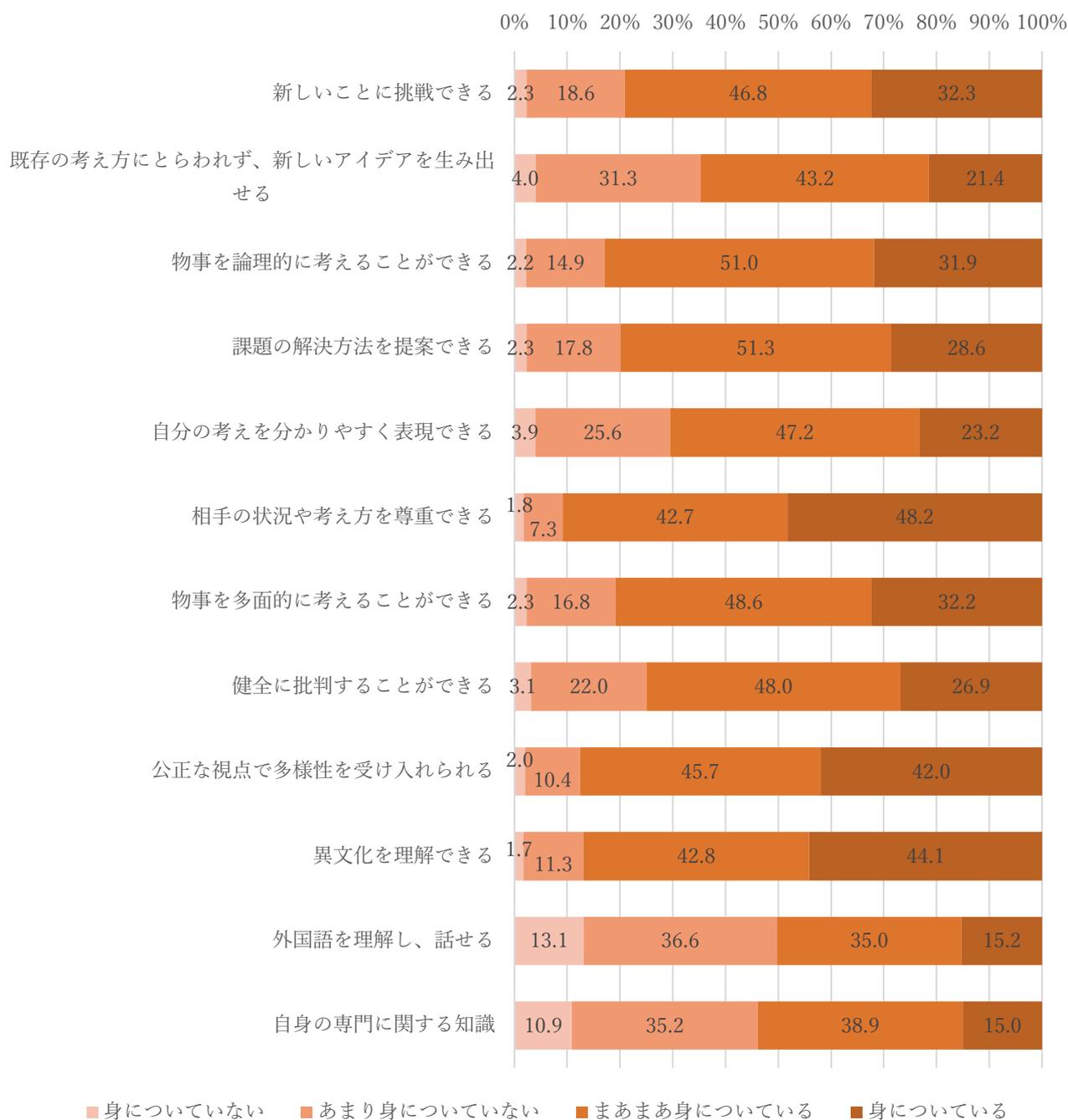


図 2-4 DP 関連の能力

2-3. 4 類型の比較：AP 認知・理解（共感）

新入生の AP 認知について、新入生を 4 つの類型（一般首都圏，一般非首都圏，非一般首都圏，非一般非首都圏）に分けて比較をする。4 類型ごとの記述統計は、章末に資料として掲載した。

図 2-5 は、4 類型ごとの、新入生の早稲田大学の AP 認知である。AP というものを知らないと回答した割合は、非一般首都圏が 25.5% と大きく、この類型に付属・系属の学生が多いこととの関連が予想される。一方で「やや知っていた」と「よく知っていた」の合計の割合は、非一般非首都圏が 84.6% と最も大きく、この類型に推薦入試生が多いこととの関連が予想される。

図2-6は、4類型ごとの、新入生の早稲田大学のAPの理解（共感）である。この質問項目では、いずれの類型でも肯定的な回答（「やや知っていた」と「よく知っていた」の合計）の割合が大きかったが、特にその割合が小さかったのは、非一般首都圏（89.9%）であり、AP認知の低さとの関連と思われる。特に「大いに共感（理解）できる」に注目すると、非一般非首都圏は60.4%と、他の類型に比べて大きかった。

図2-7は、4類型ごとの、新入生の学部のAP認知である。APを知らないと回答した割合は、非一般非首都圏が23.9%と大きく、一方で「やや知っていた」と「よく知っていた」の合計の割合は、非一般非首都圏が92.4%と最も大きく、これらは大学のAPと同様の傾向であった。

図2-8は、4類型ごとの、新入生の学部のAPの理解（共感）である。この質問項目では、いずれの類型でも肯定的な回答（「やや知っていた」と「よく知っていた」の合計）の割合が大きかったが、特にその割合が小さかったのは、非一般非首都圏（98.0%）であった。しかし、ほぼ全ての新入生が学部APを理解していたと言えるだろう。

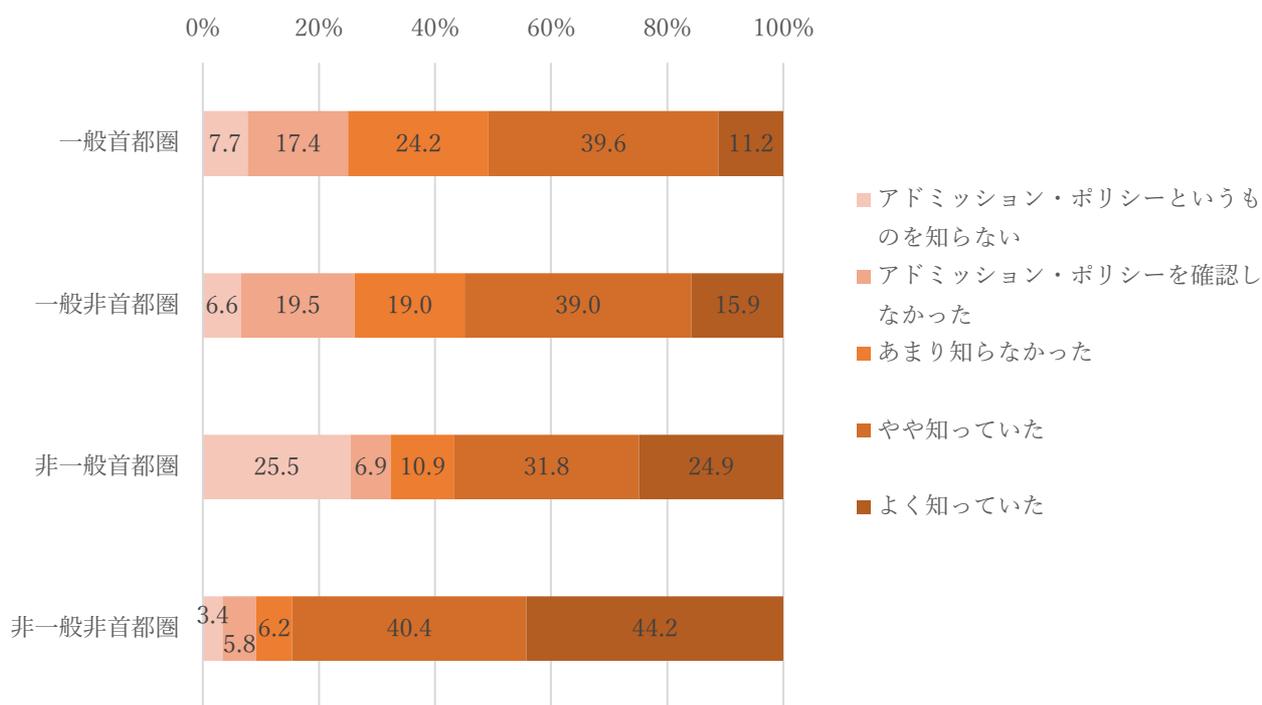


図2-5 大学AP認知（4類型）

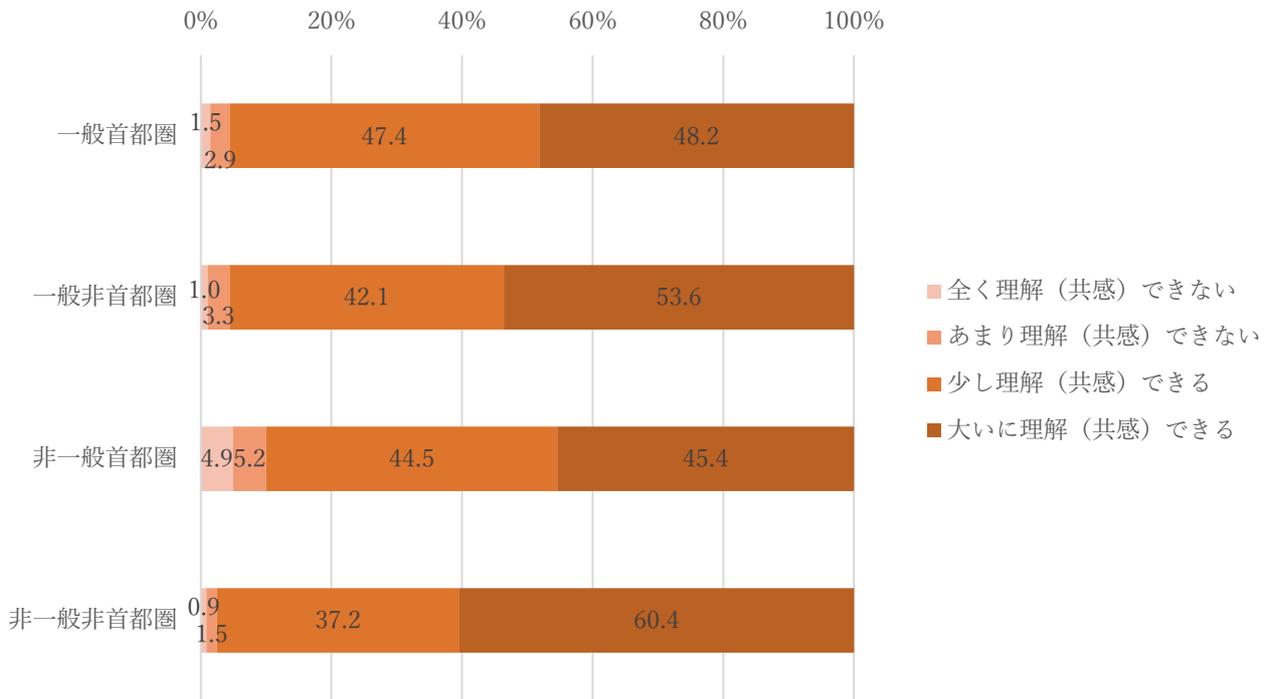


図 2 - 6 大学 AP 理解（共感）（4 類型）

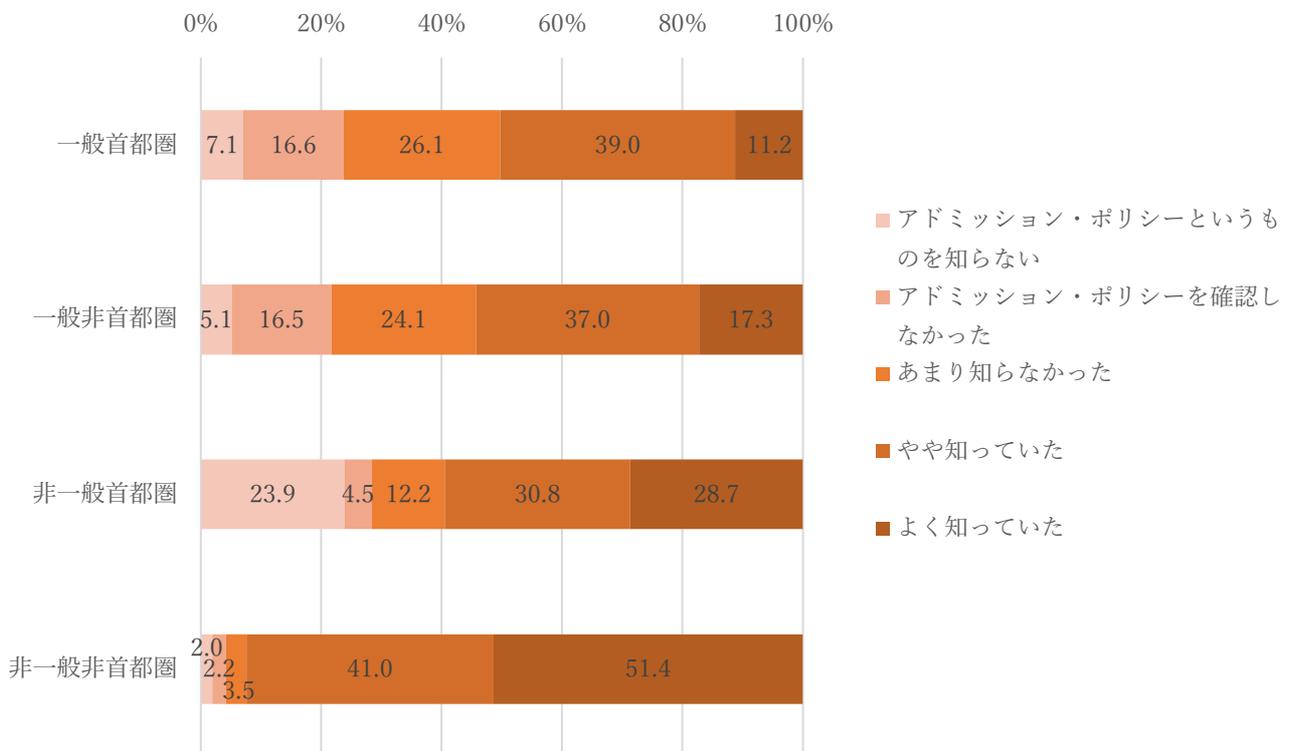


図 2 - 7 学部 AP 認知（4 類型）

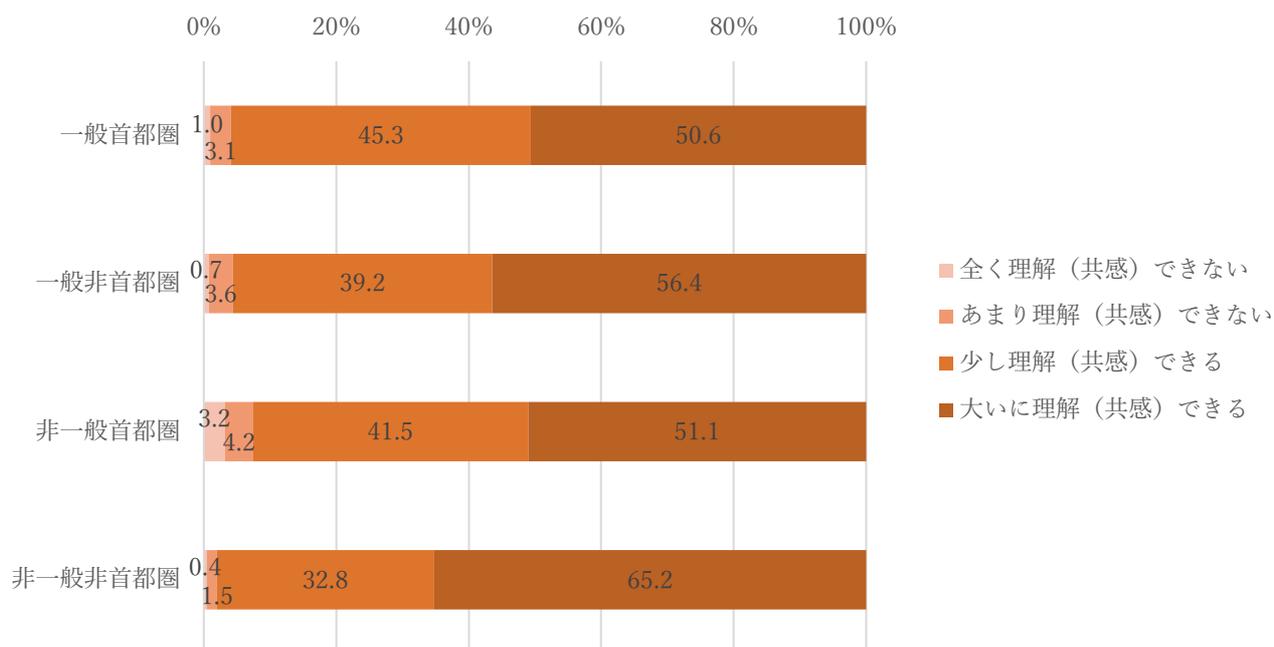


図 2-8 学部 AP 理解 (共感) (4 類型)

2-4. 4 類型の比較 : AP 関連の能力

新入生の AP に関連する能力の項目 (8 項目) について、新入生を 4 つの類型 (一般首都圏, 一般非首都圏, 非一般首都圏, 非一般非首都圏) に分けて比較をする。質問文は「あなたのこれまで (学部・大学院に入学するまで) のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にはどの程度あてはまりますか」であり、回答方法は 4 件法 (あてはまらない, あまりあてはまらない, ややあてはまる, あてはまる) であった。4 類型ごとの記述統計は、章末に資料として掲載した。

図 2-9 は、AP 関連能力の「自分の考えを論理的に構成することができた」という項目の、4 類型の比較である。肯定的な回答 (「ややあてはまる」と「あてはまる」の合計) の割合は、全体的に 8 割程度であったが、特に非一般非首都圏 (79.7%) が相対的に小さかった。

図 2-10 は、AP 関連能力の「複数の選択肢の中から自分なりの根拠を示して結論を導くことができた」という項目の、4 類型の比較である。肯定的な回答 (「ややあてはまる」と「あてはまる」の合計) の割合は、全体的に 9 割程度であったが、特に非一般首都圏 (87.1%) が相対的に小さかった。また、「あてはまる」に着目すると、例えば一般首都圏の 43.5% に対し、非一般首都圏は 33.2% と小さい値であった。

図 2-11 は、AP 関連能力の「自分の考えを口頭あるいは図や文章を用いて明確に表現することができた」という項目の、4 類型の比較である。肯定的な回答 (「ややあてはまる」と「あてはまる」の合計) の割合は、全体的に 8 割程度であったが、特に一般首都圏 (73.8%) と一般非首都圏 (73.3%) が相対的に小さかった。つまりこの項目では、一般受験生よりも、推薦生や付属・系属出身者である非一般受験生の方が、肯定的な回答の割合が大きかった。

図 2-12 は、AP 関連能力の「自分で必要だと考えた学習や活動に取り組むことができた」という項目の、4 類型の比較である。肯定的な回答 (「ややあてはまる」と「あてはまる」の合計) の割合は、全体

的に8割5分程度であったが、特に非一般非首都圏（89.6%）が、相対的に大きかった。

図2-13は、AP関連能力の「同じ目標に向けて他者と協働することができた」という項目の、4類型の比較である。肯定的な回答（「ややあてはまる」と「あてはまる」の合計）の割合は、非一般非首都圏（90.1%）が、他の類型と比較して相対的に大きかった。つまりこの項目では、地方の推薦生などの回答が、より肯定的である傾向があった。

図2-14は、AP関連能力の「他者の意見に惑わされずに自分の考えで行動できた」という項目の、4類型の比較である。肯定的な回答（「ややあてはまる」と「あてはまる」の合計）の割合は、全体的に8割程度であり、4類型で大きな違いは見られなかった。

図2-15は、AP関連能力の「相手の立場や考え方に共感することができた」という項目の、4類型の比較である。肯定的な回答（「ややあてはまる」と「あてはまる」の合計）の割合は、全体的に9割程度であったが、特に非一般非首都圏（92.8%）が、他の類型と比較して相対的に大きかった。つまりこの項目では、地方の推薦生などの回答が、より肯定的な傾向であった。

図2-16は、AP関連能力の「大学で学ぶ（学んだ）ことを利用して、社会に貢献したいと考えていた」という項目の、4類型の比較である。肯定的な回答（「ややあてはまる」と「あてはまる」の合計）の割合は、最も大きかったのが非一般非首都圏（93.5%）であり、次いで一般非首都圏（87.1%）であり、一般首都圏（85.8%）と非一般首都圏（85.0%）は同程度であった。つまり非首都圏出身の入学者の方が、首都圏出身の入学者よりも肯定的な回答をしており、特に非首都圏の推薦生などの回答で、その傾向が大きかった。

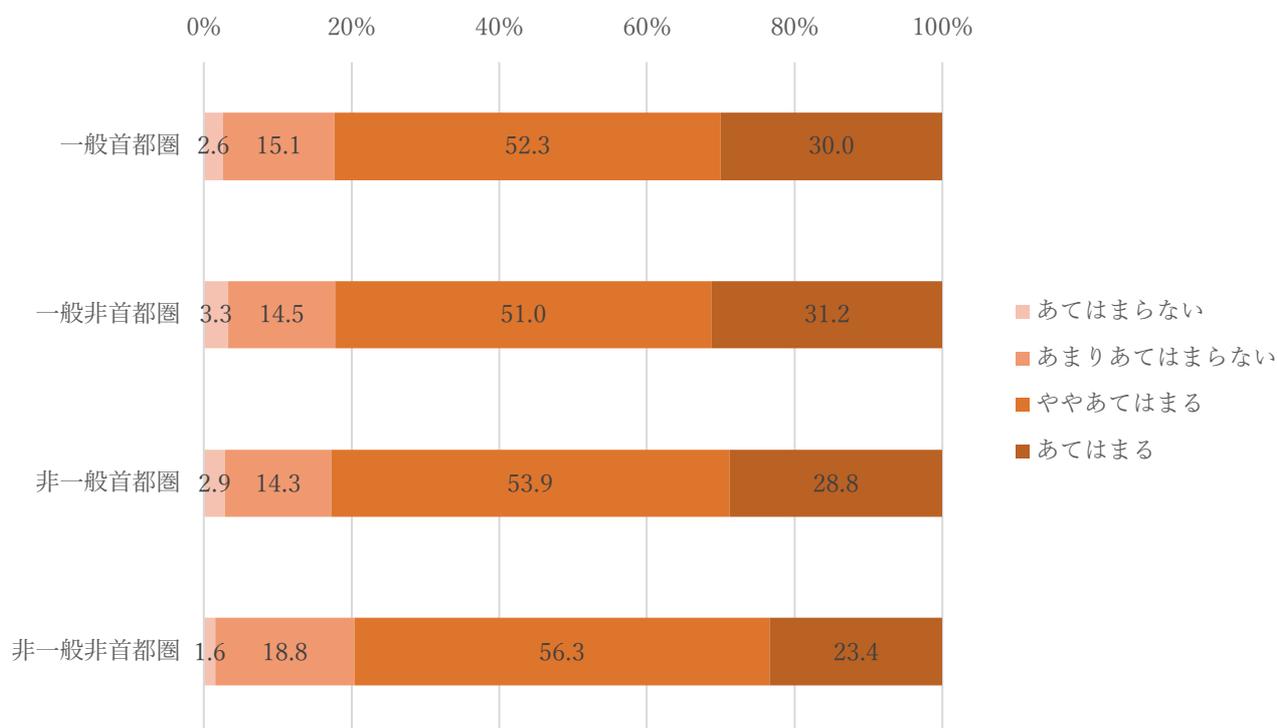


図2-9 AP関連能力：自分の考えを論理的に構成することができた（4類型）

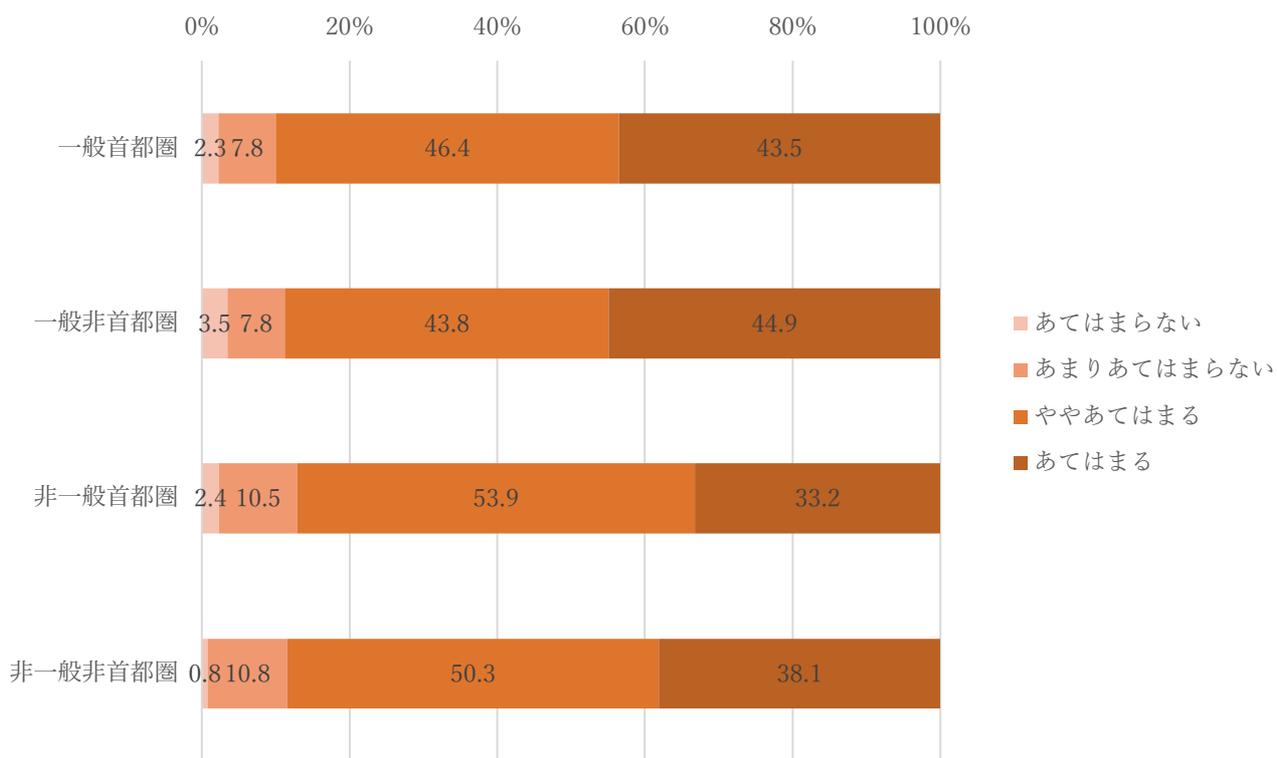


図 2-10 AP 関連能力：複数の選択肢の中から自分なりの根拠を示して結論を導くことができた（4 類型）

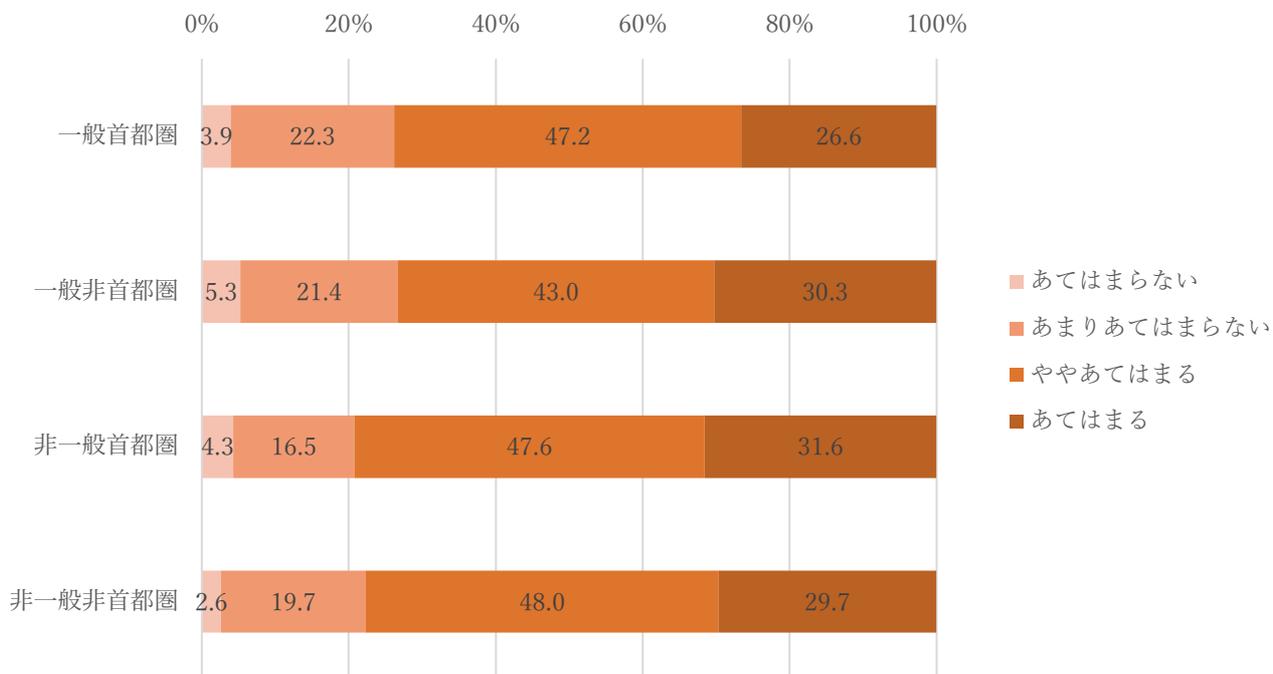


図 2-11 AP 関連能力：自分の考えを口頭あるいは図や文章を用いて明確に表現することができた（4 類型）

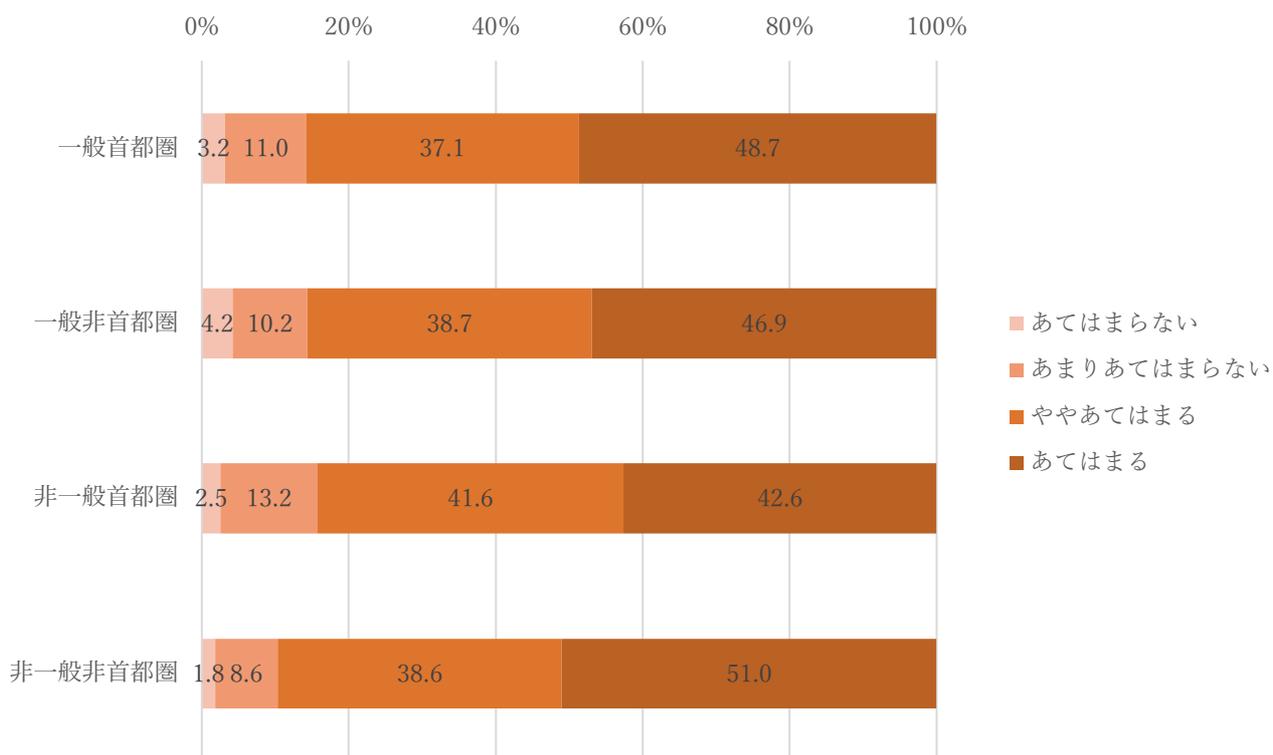


図 2-12 AP 関連能力：自分で必要だと考えた学習や活動に取り組むことができた（4 類型）

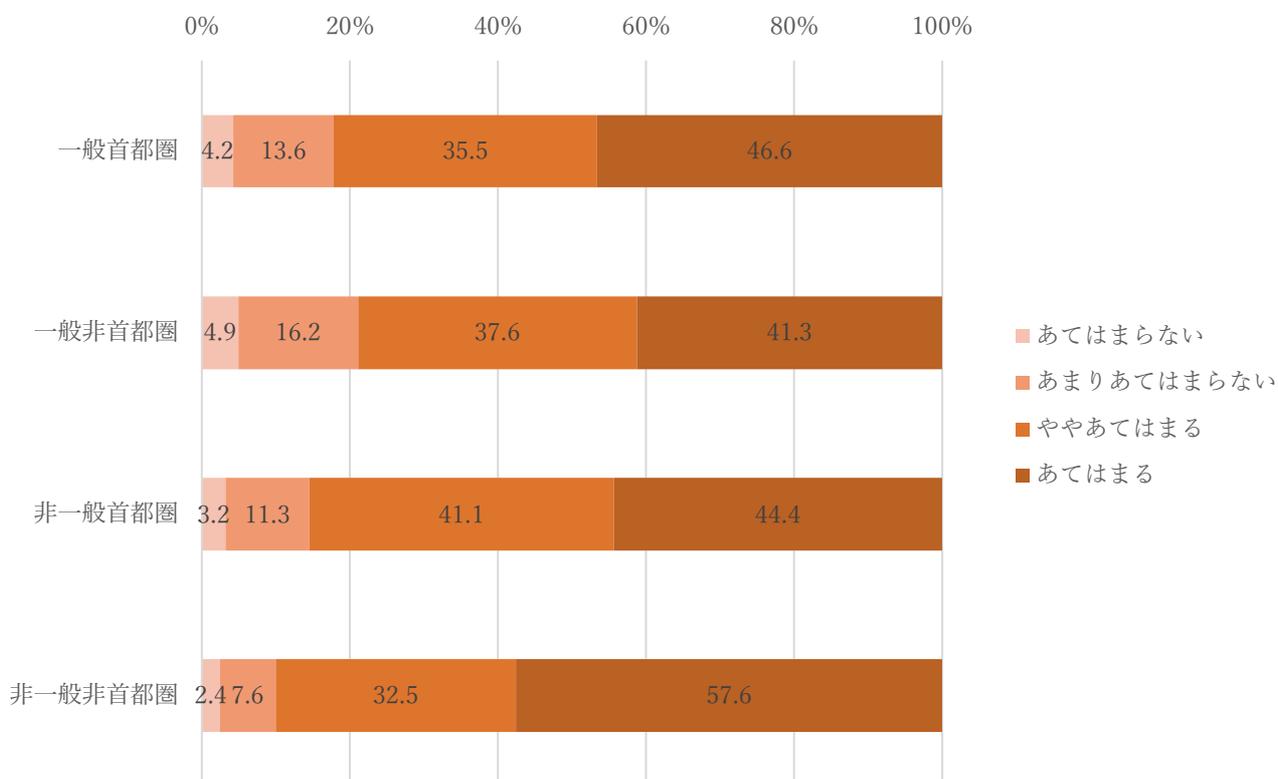


図 2-13 AP 関連能力：同じ目標に向けて他者と協働することができた（4 類型）

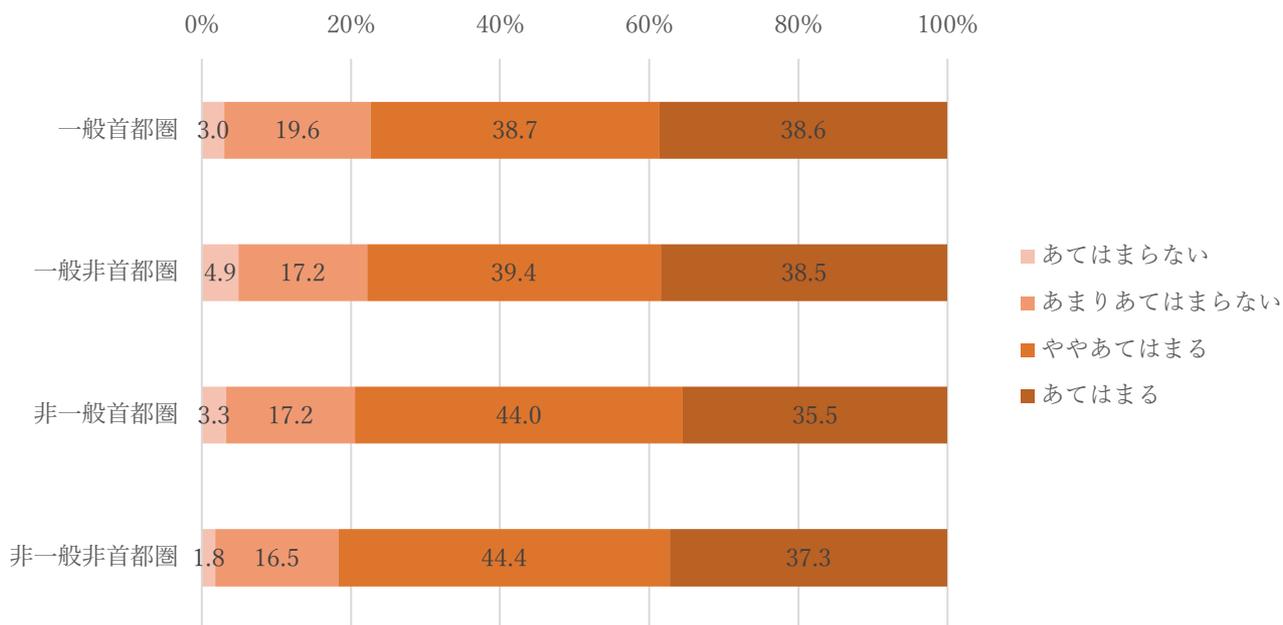


図 2-14 AP 関連能力：他者の意見に惑わされずに自分の考えで行動できた（4 類型）

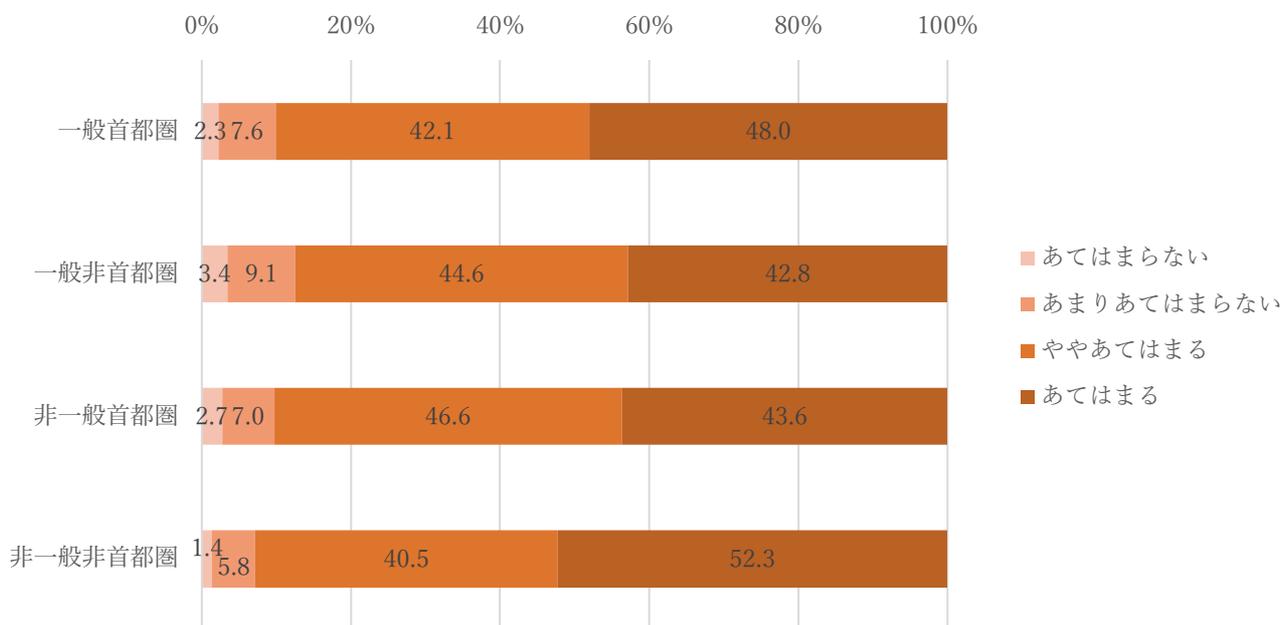


図 2-15 AP 関連能力：相手の立場や考え方に共感することができた（4 類型）

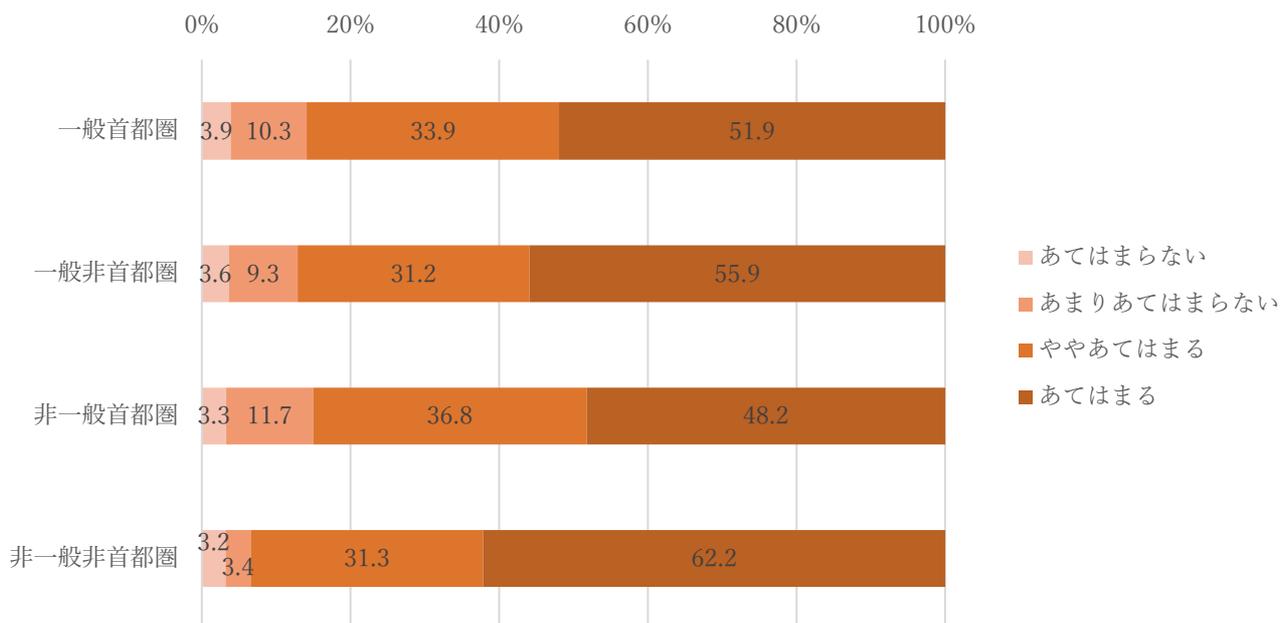


図 2-16 AP 関連能力：大学で学ぶ（学んだ）ことを利用して、社会に貢献したいと考えていた（4 類型）

2-5. 4 類型の比較：DP 関連の能力

新入生の DP に関連する能力の項目（12 項目）について、新入生を 4 つの類型（一般首都圏，一般非首都圏，非一般首都圏，非一般非首都圏）に分けて比較をする。質問文は「あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください」であり、回答方法は 4 件法（身についていない，あまり身についていない，まあまあ身についている，身についている）であった。4 類型ごとの記述統計は、章末に資料として掲載した。

図 2-17 は、DP 関連能力の「新しいことに挑戦できる」という項目の、4 類型の比較である。肯定的な回答（「まあまあ身についている」と「身についている」の合計）の割合は、全体的に 7 割 5 分程度であったが、特に非一般非首都圏（80.2%）が相対的に大きかった。

図 2-18 は、DP 関連能力の「既存の考え方にとらわれず、新しいアイデアを生み出せる」という項目の、4 類型の比較である。肯定的な回答（「まあまあ身についている」と「身についている」の合計）の割合は、全体的に 6 割程度と、他の項目と比べて低かったが、特に非一般非首都圏（65.1%）は、他の類型と比べて相対的に大きかった。

図 2-19 は、DP 関連能力の「物事を論理的に考えることができる」という項目の、4 類型の比較である。肯定的な回答（「まあまあ身についている」と「身についている」の合計）の割合は、全体的に 8 割程度であり、4 類型で大きな違いは見られなかった。しかし、「身についている」に注目すると、非一般非首都圏（23.2%）は、一般非首都圏（33.1%）や非一般首都圏（29.7%）と比べると、相対的に小さい割合であった。つまり非首都圏の推薦生は、入学時点で、自分が論理的な思考ができると思う程度は小さい傾向があるといえる。

図2-20は、DP関連能力の「課題の解決方法を提案できる」という項目の、4類型の比較である。肯定的な回答（「まあまあ身についている」と「身についている」の合計）の割合は、全体的に8割弱程度であり、4類型で大きな違いは見られなかった。

図2-21は、DP関連能力の「自分の考えを分かりやすく表現できる」という項目の、4類型の比較である。肯定的な回答（「まあまあ身についている」と「身についている」の合計）の割合は、全体的に7割弱程度であったが、非一般首都圏（72.6%）や一般首都圏（69.9%）の方が、非一般非首都圏（66.6%）と一般非首都圏（64.3%）に比べて、相対的に大きかった。つまり首都圏出身の方が、非首都圏出身者より大きいという傾向が見られた。

図2-22は、DP関連能力の「相手の状況や考え方を尊重できる」という項目の、4類型の比較である。肯定的な回答（「まあまあ身についている」と「身についている」の合計）の割合は、全体的に9割程度であったが、特に一般非首都圏（87.1%）が、相対的に小さかった。

図2-23は、DP関連能力の「物事を多面的に考えることができる」という項目の、4類型の比較である。肯定的な回答（「まあまあ身についている」と「身についている」の合計）の割合は、全体的に8割程度であったが、特に一般非首都圏（76.7%）が、相対的に小さかった。ただし「身についている」に注目すると、一般非首都圏（34.8%）は、他の類型と比較して、相対的に大きな割合であった。

図2-24は、DP関連能力の「健全に批判することができる」という項目の、4類型の比較である。肯定的な回答（「まあまあ身についている」と「身についている」の合計）の割合は、全体的に7割5分程度であり、4類型で大きな違いは見られなかった。

図2-25は、DP関連能力の「公正な視点で多様性を受け入れられる」という項目の、4類型の比較である。肯定的な回答（「まあまあ身についている」と「身についている」の合計）の割合は、全体的に9割弱程度であったが、特に一般非首都圏（81.7%）が、相対的に小さかった。

図2-26は、DP関連能力の「異文化を理解できる」という項目の、4類型の比較である。肯定的な回答（「まあまあ身についている」と「身についている」の合計）の割合は、全体的に9割弱程度であったが、特に一般非首都圏（84.1%）が相対的に小さく、非一般非首都圏（90.0%）との間に、約6ポイントの差が見られた。

図2-27は、DP関連能力の「外国語を理解し、話せる」という項目の、4類型の比較である。肯定的な回答（「まあまあ身についている」と「身についている」の合計）の割合は、全体的に5割弱程度であり、他の項目と比べて低く自己評価される項目である。一般首都圏（50.3%）や非一般首都圏（51.3%）と比べて、一般非首都圏（45.1%）や非一般非首都圏（44.1%）は相対的に低い値であった。

図2-28は、DP関連能力の「自身の専門に関する知識」という項目の、4類型の比較である。肯定的な回答（「まあまあ身についている」と「身についている」の合計）の割合は、全体的に5割弱程度であるが、新入生であるため、専門分野の知識の自己評価が低いのは当然といえる。その中でも、特に非一般首都圏（52.8%）と非一般非首都圏（49.7%）は、一般首都圏（43.7%）や一般非首都圏（41.9%）と比べて、肯定的な回答の割合が相対的に大きかった。

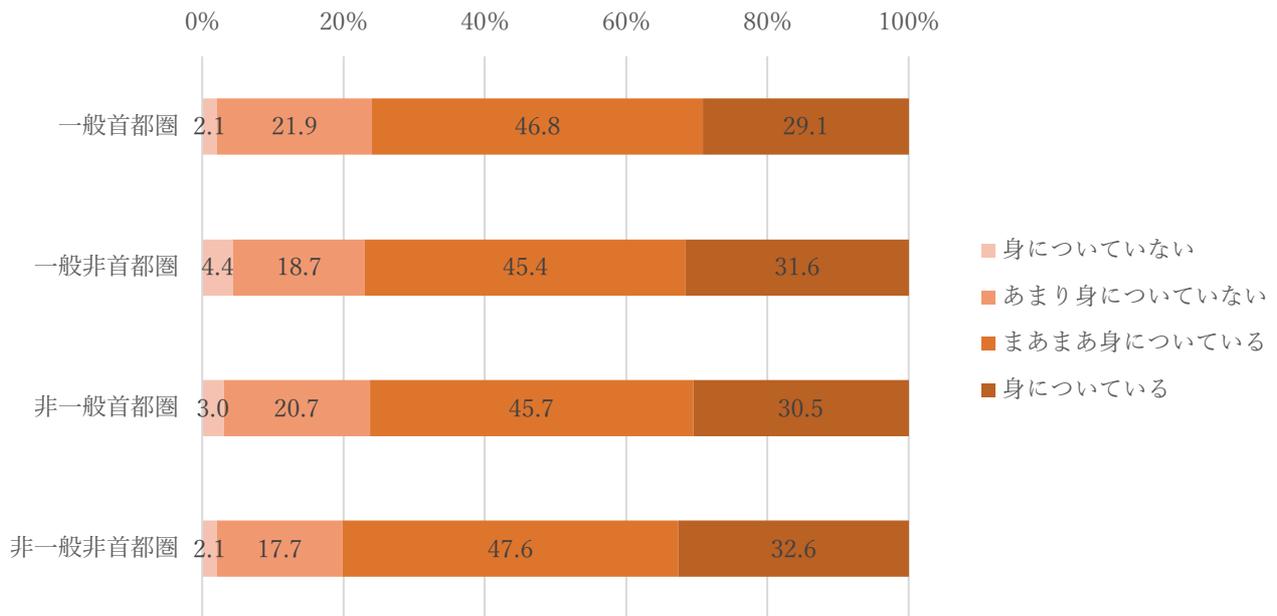


図 2-17 DP 関連能力：新しいことに挑戦できる（4 類型）



図 2-18 DP 関連能力：既存の考え方にとらわれず、新しいアイデアを生み出せる（4 類型）

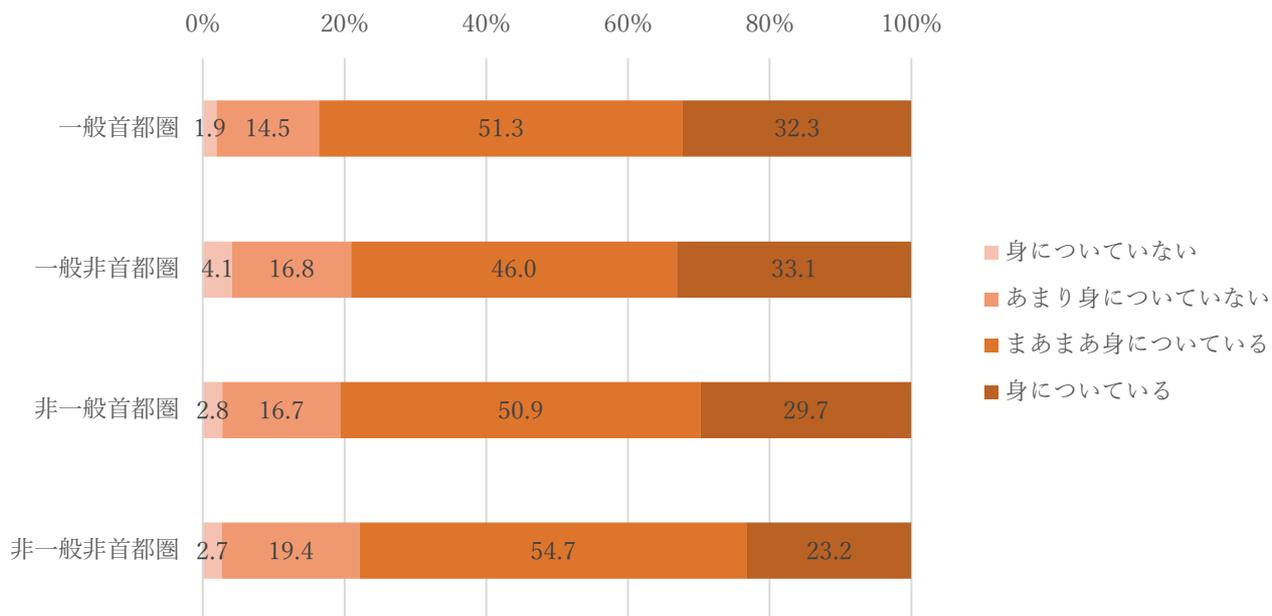


図 2-19 DP 関連能力：物事を論理的に考えることができる（4 類型）



図 2-20 DP 関連能力：課題の解決方法を提案できる（4 類型）

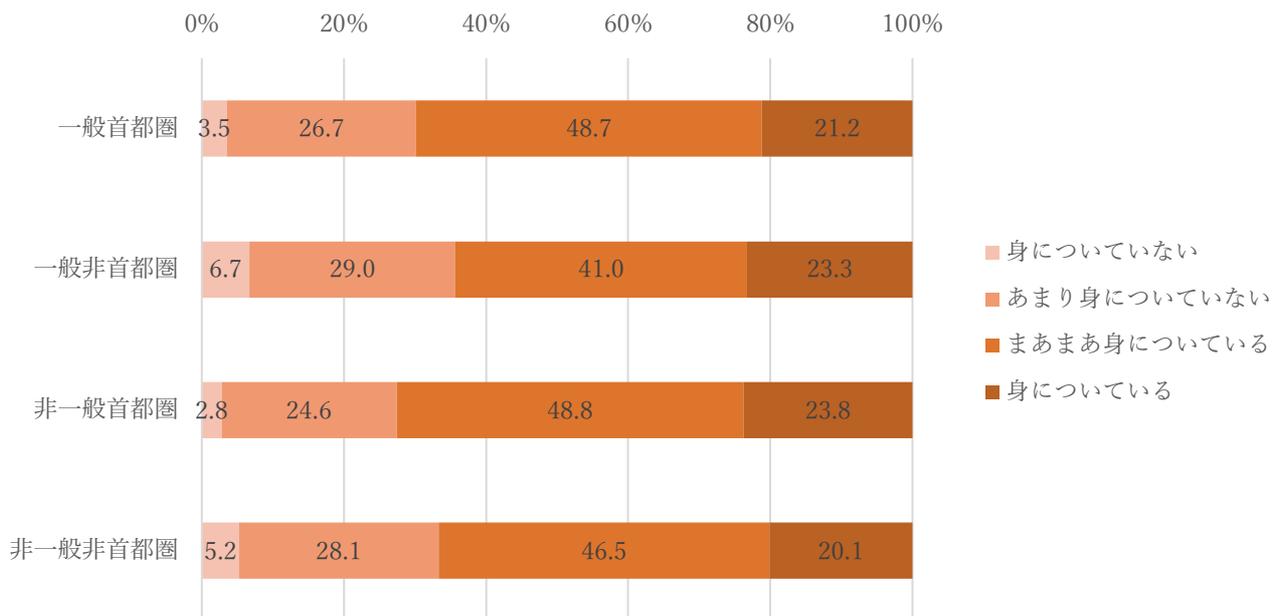


図 2-21 DP 関連能力：自分の考えを分かりやすく表現できる（4 類型）

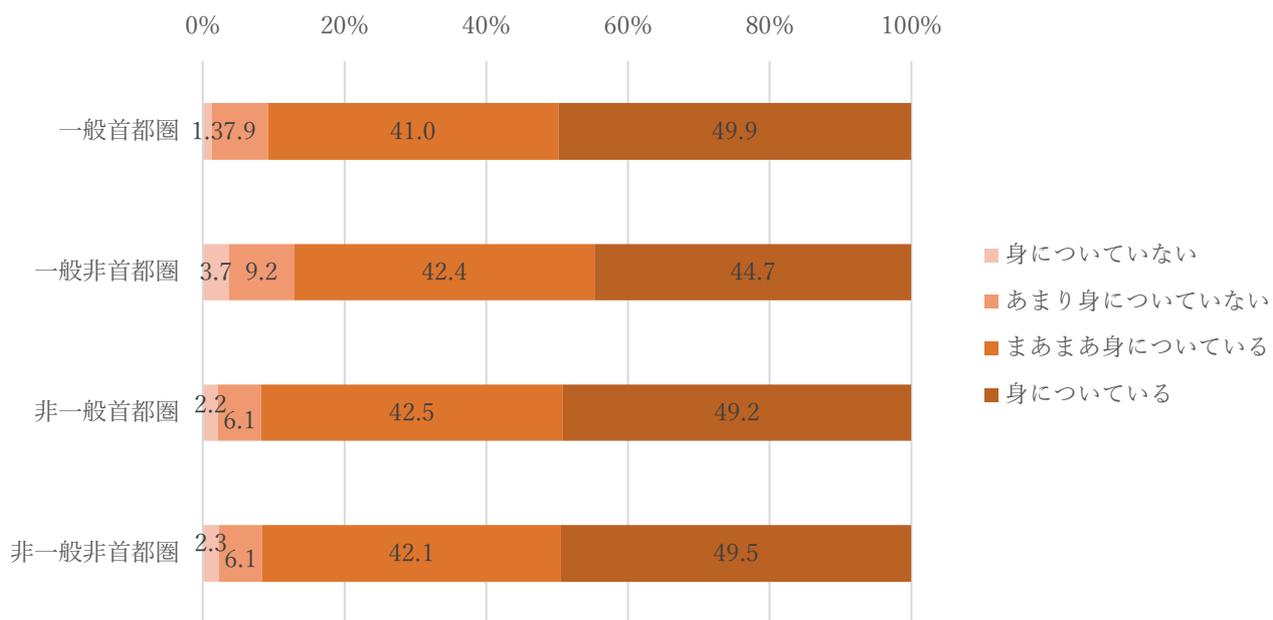


図 2-22 DP 関連能力：相手の状況や考え方を尊重できる（4 類型）

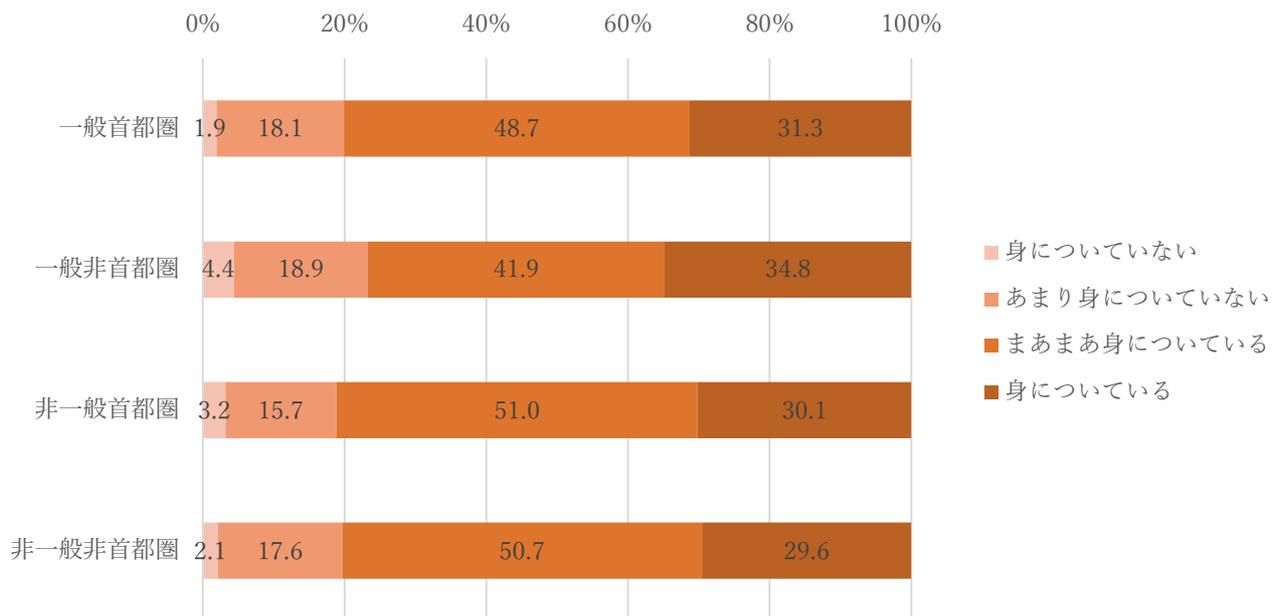


図 2-23 DP 関連能力：物事を多面的に考えることができる（4 類型）

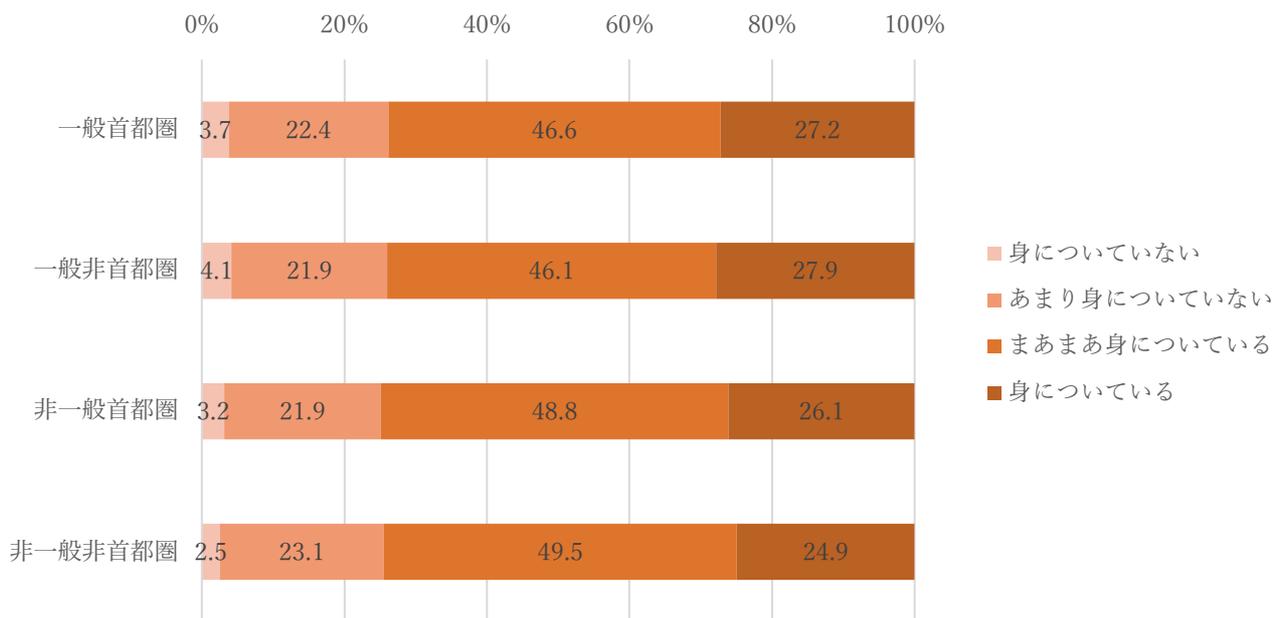


図 2-24 DP 関連能力：健全に批判することができる（4 類型）

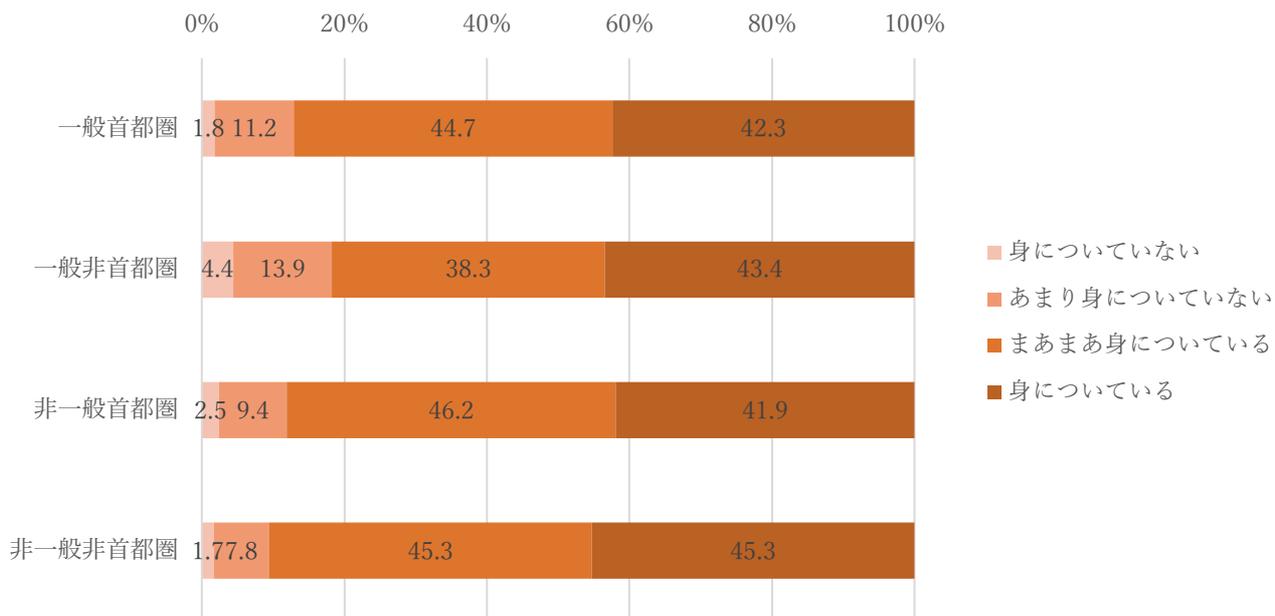


図 2-25 DP 関連能力：公正な視点で多様性を受け入れられる（4 類型）

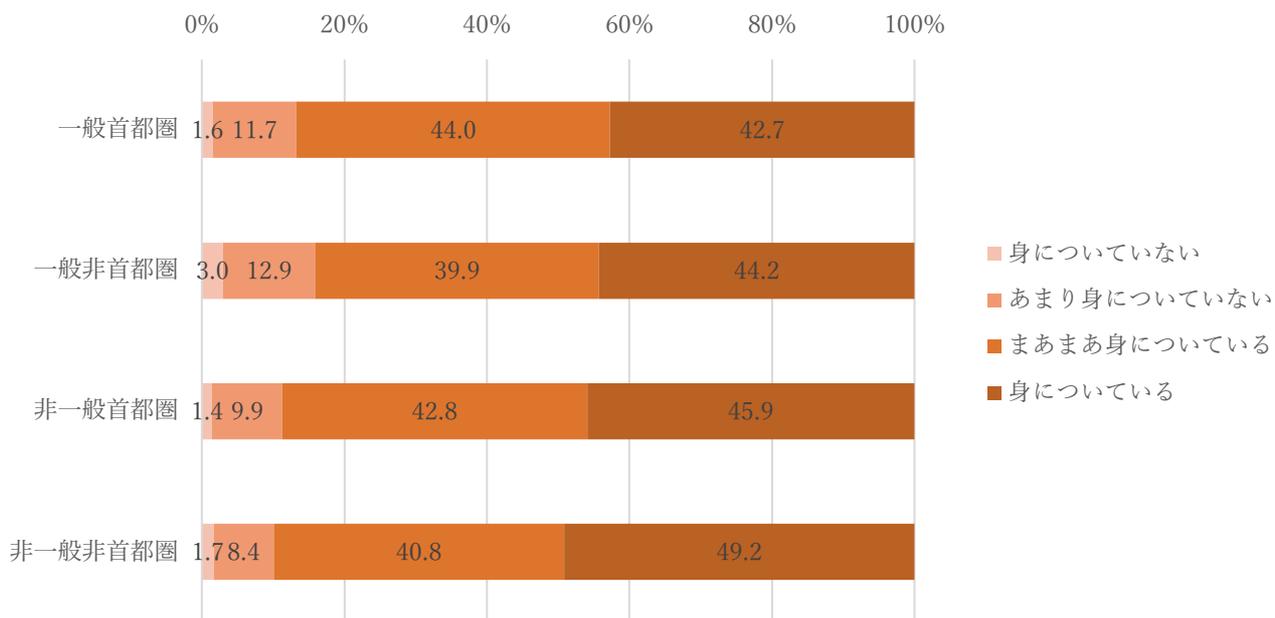


図 2-26 DP 関連能力：異文化を理解できる（4 類型）



図 2-27 DP 関連能力：外国語を理解し、話せる（4 類型）

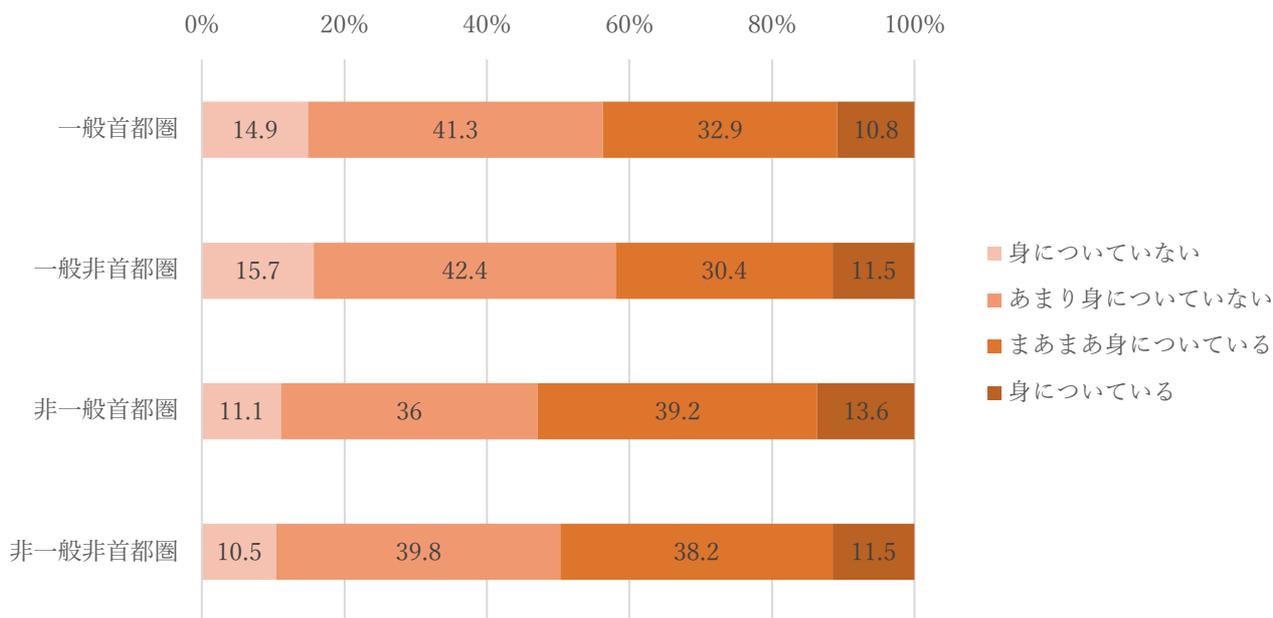


図 2-28 DP 関連能力：自身の専門に関する知識（4 類型）

2-6. まとめ

本章では新入生のアドミッション・ポリシー（以降：AP）の理解と、大学入学前の能力獲得について分析をおこなった。新入生全体の傾向及び、入試区分と出身地をクロスさせた 4 類型（一般首都圏，一般非首都圏，非一般首都圏，非一般非首都圏）の比較をまとめた。新入生の AP（大学・学部）の認知、AP の理解（共感）、AP に関連する能力（8 項目）、DP に関連する能力（12 項目）の質問項目を用いた。

新入生全体の傾向としては、新入生の AP 認知では、大学では 56.9%、学部では 58.7%が、AP を知っていた（「やや知っていた」と「よく知っていた」の合計）と回答した。新入生の AP 理解（共感）は、大学では 94.4%、学部では 95.2%が、AP を理解（共感）できる（「少し理解（共感）できる」と「大いに理解（共感）できる」の合計）と回答した。

AP 関連の能力に関する項目では、全体的に 8 割程度が肯定的な回答（「ややあてはまる」と「あてはまる」の合計）であった。特に肯定的な回答の割合が低かった項目は、「自分の考えを口頭あるいは図や文章を用いて明確に表現することができた」（75.7%）と「他者の意見に惑わされずに自分の考えで行動できた」（78.6%）であった。

DP 関連の資質・能力に関する項目では、全体的に 7 割 5 分程度が肯定的な回答（「ややあてはまる」と「あてはまる」の合計）であった。特に肯定的な回答の割合が低かった項目は、「既存の考え方にとらわれず、新しいアイデアを生み出せる」（64.6%）、「外国語を理解し、話せる」（50.2%）、「自身の専門に関する知識」（53.9%）であった。

新入生を 4 つの類型（一般首都圏、一般非首都圏、非一般首都圏、非一般非首都圏）に分けた比較において、いずれかの類型に特徴が見られた項目をまとめる。新入生の早稲田大学の AP 認知では、AP（というものを）を知らないと回答した割合は、非一般首都圏が 25.5%と大きく、肯定的な回答（「やや知っていた」と「よく知っていた」の合計）の割合は、非一般非首都圏が 84.6%と最も大きかった。学部の AP 認知でも、同様の傾向であり、また AP の理解（共感）に関しては、大学も学部も肯定的な回答が 95%程度と大きかった。

新入生の AP に関連する能力の項目うち、「複数の選択肢の中から自分なりの根拠を示して結論を導くことができた」では、「あてはまる」という回答は、一般首都圏（43.5%）に対し非一般首都圏（33.2%）は、10 ポイントほど小さい値であった。「自分の考えを口頭あるいは図や文章を用いて明確に表現することができた」では、一般受験生よりも、推薦生や付属・系属出身者である非一般受験生の方が、肯定的な回答（「ややあてはまる」と「あてはまる」の合計）の割合が大きかった。「同じ目標に向けて他者と協働することができた」では、肯定的な回答の割合は非一般非首都圏（90.1%）が大きかった。「相手の立場や考え方に共感することができた」では、特に非一般非首都圏（92.8%）が肯定的な回答の割合が大きかった。「大学で学ぶ（学んだ）ことを利用して、社会に貢献したいと考えていた」では、非首都圏出身の入学者の方が、首都圏出身の入学者よりも肯定的な回答をしていた。

新入生の DP に関連する能力の項目のうち、「物事を論理的に考えることができる」では、特に「身につけている」という回答の割合は、一般非首都圏（33.1%）や非一般首都圏（29.7%）と比べると、非一般非首都圏（23.2%）は相対的に小さかった。「自分の考えを分かりやすく表現できる」では、肯定的な回答（「まあまあ身につけている」と「身につけている」の合計）の割合は、首都圏出身の方が、非首都圏出身者より大きい傾向であった。「公正な視点で多様性を受け入れられる」では、肯定的な回答の割合は、特に一般非首都圏（81.7%）が、相対的に小さかった。「外国語を理解し、話せる」は、肯定的な回答が全体的に 5 割弱程度と、他の項目と比べて低く自己評価される項目であり、首都圏出身の方が、非首都圏出身者よりも外国語を理解し話せるということに関して、高く自己評価しているようであり、

受験区分による違いはほぼ見られなかった。また一般受験を行っていない、付属・系属出身者や推薦入試生は、一般入試生と比べて、自身の専門知識に関して、入学時点で高く自己評価しているようである。

2-7. 資料

資料2-1に、4類型（一般首都圏、一般非首都圏、非一般首都圏、非一般非首都圏）ごとの記述統計を掲載した。

資料2-1 4類型ごとの記述統計

		最	平均	標準
		度数	値	偏差
		小	大	値
	あなたは「早稲田大学（大学院生の場合、早稲田大学大学院）」入学前に、アドミッション・ポリシーを確認しましたか。「大学（大学院）のアドミッション・ポリシー」「入学した学部（研究科）のアドミッション・ポリシー」それぞれについてお答えください（それぞれあてはまるものを選択）。 - 早稲田大学（大学院）のアドミッション・ポリシー	1357	1.5	3.291.11
	あなたは「早稲田大学（大学院生の場合、早稲田大学大学院）」入学前に、アドミッション・ポリシーを確認しましたか。「大学（大学院）のアドミッション・ポリシー」「入学した学部（研究科）のアドミッション・ポリシー」それぞれについてお答えください（それぞれあてはまるものを選択）。 - 学部（研究科）のアドミッション・ポリシー	1369	1.5	3.311.09
	「大学（大学院）のアドミッション・ポリシー」および「入学した学部（研究科）のアドミッション・ポリシー」の内容について、理解（共感）できるかどうか、それぞれについてお答えください（それぞれあてはまるものを選択）。 - 早稲田大学（大学院）のアドミッション・ポリシー	1289	1.4	3.42 .63
	「大学（大学院）のアドミッション・ポリシー」および「入学した学部（研究科）のアドミッション・ポリシー」の内容について、理解（共感）できるかどうか、それぞれについてお答えください（それぞれあてはまるものを選択）。 - 学部（研究科）のアドミッション・ポリシー	1367	1.4	3.46 .61
	あなたのこれまで（学部・大学院に入学するまで）のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にはどの程度あてはまりますか。 - 自分の考えを論理的に構成することができた	1417	1.4	3.07 .75
	あなたのこれまで（学部・大学院に入学するまで）のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にはどの程度あてはまりますか。 - 複数の選択肢の中から自分なりの根拠を示して結論を導くことができた	1417	1.4	3.31 .73
	あなたのこれまで（学部・大学院に入学するまで）のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にはどの程度あてはまりますか。 - 自分の考えを口頭あるいは図や文章を用いて明確に表現することができた	1416	1.4	2.92 .82
一般	あなたのこれまで（学部・大学院に入学するまで）のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にはどの程度あてはまりますか。 - 自分で必要だと考えた学習や活動に取り組むことができた	1414	1.4	3.31 .81
/	あなたのこれまで（学部・大学院に入学するまで）のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にはどの程度あてはまりますか。 - 同じ目標に向けて他者と協働することができた	1416	1.4	3.26 .85
首都圏	あなたのこれまで（学部・大学院に入学するまで）のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にはどの程度あてはまりますか。 - 他者の意見に惑わされずに自分の考えで行動できた	1417	1.4	3.11 .84
	あなたのこれまで（学部・大学院に入学するまで）のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にはどの程度あてはまりますか。 - 相手の立場や考え方に共感することができた	1415	1.4	3.36 .73
	あなたのこれまで（学部・大学院に入学するまで）のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にはどの程度あてはまりますか。 - 大学で学ぶ（学んだ）ことを利用して、社会に貢献したいと考えていた	1417	1.4	3.32 .82
	あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 新しいことに挑戦できる	1418	1.4	3.03 .77
	あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 既存の考え方にとらわれず、新しいアイデアを生み出せる	1419	1.4	2.76 .81
	あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 物事を論理的に考えることができる	1419	1.4	3.14 .73
	あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 課題の解決方法を提案できる	1419	1.4	3.02 .74
	あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 自分の考えを分かりやすく表現できる	1418	1.4	2.87 .78
	あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 相手の状況や考え方を尊重できる	1418	1.4	3.39 .69
	あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 物事を多面的に考えることができる	1418	1.4	3.09 .75

	あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 健全に批判することができる	1417	1	4	2.97	.80
	あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 公正な視点で多様性を受け入れられる	1417	1	4	3.28	.73
	あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 異文化を理解できる	1417	1	4	3.28	.73
	あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 外国語を理解し、話せる	1415	1	4	2.52	.88
	あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 自身の専門に関する知識	1415	1	4	2.40	.87
	あなたは「早稲田大学（大学院生の場合、早稲田大学大学院）」入学前に、「アドミッション・ポリシーを確認しましたか。」「大学（大学院）のアドミッション・ポリシー」「入学した学部（研究科）のアドミッション・ポリシー」それぞれについてお答えください（それぞれあてはまるものを選択）。 - 早稲田大学（大学院）のアドミッション・ポリシー	410	1	5	3.381	.16
	あなたは「早稲田大学（大学院生の場合、早稲田大学大学院）」入学前に、「アドミッション・ポリシーを確認しましたか。」「大学（大学院）のアドミッション・ポリシー」「入学した学部（研究科）のアドミッション・ポリシー」それぞれについてお答えください（それぞれあてはまるものを選択）。 - 学部（研究科）のアドミッション・ポリシー	411	1	5	3.451	.11
	「大学（大学院）のアドミッション・ポリシー」および「入学した学部（研究科）のアドミッション・ポリシー」の内容について、理解（共感）できるかどうか、それぞれについてお答えください（それぞれあてはまるものを選択）。 - 早稲田大学（大学院）のアドミッション・ポリシー	390	1	4	3.48	.62
	「大学（大学院）のアドミッション・ポリシー」および「入学した学部（研究科）のアドミッション・ポリシー」の内容について、理解（共感）できるかどうか、それぞれについてお答えください（それぞれあてはまるものを選択）。 - 学部（研究科）のアドミッション・ポリシー	411	1	4	3.51	.61
	あなたのこれまで（学部・大学院に入学するまで）のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にはどの程度あてはまりますか。 - 自分の考えを論理的に構成することができた	436	1	4	3.06	.78
	あなたのこれまで（学部・大学院に入学するまで）のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にはどの程度あてはまりますか。 - 複数の選択肢の中から自分なりの根拠を示して結論を導くことができた	435	1	4	3.28	.80
	あなたのこれまで（学部・大学院に入学するまで）のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にはどの程度あてはまりますか。 - 自分の考えを口頭あるいは図や文章を用いて明確に表現することができた	436	1	4	2.92	.88
	あなたのこれまで（学部・大学院に入学するまで）のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にはどの程度あてはまりますか。 - 自分で必要だと考えた学習や活動に取り組むことができた	435	1	4	3.26	.85
	あなたのこれまで（学部・大学院に入学するまで）のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にはどの程度あてはまりますか。 - 同じ目標に向けて他者と協働することができた	435	1	4	3.14	.90
一般	あなたのこれまで（学部・大学院に入学するまで）のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にはどの程度あてはまりますか。 - 他者の意見に惑わされずに自分の考えで行動できた	436	1	4	3.06	.90
/	あなたのこれまで（学部・大学院に入学するまで）のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にはどの程度あてはまりますか。 - 相手の立場や考え方に共感することができた	436	1	4	3.25	.80
非	あなたのこれまで（学部・大学院に入学するまで）のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にはどの程度あてはまりますか。 - 大学で学ぶ（学んだ）ことを利用して、社会に貢献したいと考えていた	436	1	4	3.34	.84
首都	あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 新しいことに挑戦できる	434	1	4	3.04	.82
圏	あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 既存の考え方にとらわれず、新しいアイデアを生み出せる	433	1	4	2.79	.84
	あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 物事を論理的に考えることができる	435	1	4	3.08	.81
	あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 課題の解決方法を提案できる	433	1	4	3.01	.81
	あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 自分の考えを分かりやすく表現できる	434	1	4	2.81	.87
	あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 相手の状況や考え方を尊重できる	434	1	4	3.28	.78
	あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 物事を多面的に考えることができる	434	1	4	3.07	.84
	あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 健全に批判することができる	434	1	4	2.98	.82
	あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 公正な視点で多様性を受け入れられる	433	1	4	3.21	.84
	あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 異文化を理解できる	434	1	4	3.25	.79
	あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 外国語を理解し、話せる	432	1	4	2.43	.89
	あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 自身の専門に関する知識	434	1	4	2.38	.88

	あなたは「早稲田大学（大学院生の場合、早稲田大学大学院）」入学前に、アドミッション・ポリシーを確認しましたか。「大学（大学院）のアドミッション・ポリシー」「入学した学部（研究科）のアドミッション・ポリシー」それぞれについてお答えください（それぞれあてはまるものを選択）。 - 早稲田大学（大学院）のアドミッション・ポリシー	667	1	5	3.	241.	53
	あなたは「早稲田大学（大学院生の場合、早稲田大学大学院）」入学前に、アドミッション・ポリシーを確認しましたか。「大学（大学院）のアドミッション・ポリシー」「入学した学部（研究科）のアドミッション・ポリシー」それぞれについてお答えください（それぞれあてはまるものを選択）。 - 学部（研究科）のアドミッション・ポリシー	666	1	5	3.	361.	53
	「大学（大学院）のアドミッション・ポリシー」および「入学した学部（研究科）のアドミッション・ポリシー」の内容について、理解（共感）できるかどうか、それぞれについてお答えください（それぞれあてはまるものを選択）。 - 早稲田大学（大学院）のアドミッション・ポリシー	636	1	4	3.	31	.78
	「大学（大学院）のアドミッション・ポリシー」および「入学した学部（研究科）のアドミッション・ポリシー」の内容について、理解（共感）できるかどうか、それぞれについてお答えください（それぞれあてはまるものを選択）。 - 学部（研究科）のアドミッション・ポリシー	660	1	4	3.	40	.72
	あなたのこれまで（学部・大学院に入学するまで）のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にはどの程度あてはまりますか。 - 自分の考えを論理的に構成することができた	690	1	4	3.	01	.75
	あなたのこれまで（学部・大学院に入学するまで）のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にはどの程度あてはまりますか。 - 複数の選択肢の中から自分なりの根拠を示して結論を導くことができた	688	1	4	3.	16	.72
	あなたのこれまで（学部・大学院に入学するまで）のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にはどの程度あてはまりますか。 - 自分の考えを口頭あるいは図や文章を用いて明確に表現することができた	689	1	4	3.	02	.83
	あなたのこれまで（学部・大学院に入学するまで）のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にはどの程度あてはまりますか。 - 自分で必要だと考えた学習や活動に取り組むことができた	690	1	4	3.	21	.80
	あなたのこれまで（学部・大学院に入学するまで）のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にはどの程度あてはまりますか。 - 同じ目標に向けて他者と協働することができた	689	1	4	3.	33	.78
非	あなたのこれまで（学部・大学院に入学するまで）のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にはどの程度あてはまりますか。 - 他者の意見に惑わされずに自分の考えで行動できた	689	1	4	3.	11	.81
一般	あなたのこれまで（学部・大学院に入学するまで）のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にはどの程度あてはまりますか。 - 相手の立場や考え方に共感することができた	689	1	4	3.	37	.73
/	あなたのこれまで（学部・大学院に入学するまで）のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にはどの程度あてはまりますか。 - 大学で学ぶ（学んだ）ことを利用して、社会に貢献したいと考えていた	690	1	4	3.	29	.82
首都	あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付けていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 新しいことに挑戦できる	691	1	4	3.	04	.80
圏	あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付けていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 既存の考え方にとらわれず、新しいアイデアを生み出せる	690	1	4	2.	77	.83
	あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付けていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 物事を論理的に考えることができる	690	1	4	3.	08	.75
	あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付けていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 課題の解決方法を提案できる	691	1	4	3.	05	.75
	あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付けていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 自分の考えを分かりやすく表現できる	690	1	4	2.	94	.77
	あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付けていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 相手の状況や考え方を尊重できる	691	1	4	3.	39	.70
	あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付けていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 物事を多面的に考えることができる	690	1	4	3.	08	.76
	あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付けていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 健全に批判することができる	690	1	4	2.	98	.78
	あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付けていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 公正な視点で多様性を受け入れられる	690	1	4	3.	28	.73
	あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付けていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 異文化を理解できる	690	1	4	3.	33	.71
	あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付けていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 外国語を理解し、話せる	690	1	4	2.	54	.90
	あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付けていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 自身の専門に関する知識	691	1	4	2.	55	.86
	あなたは「早稲田大学（大学院生の場合、早稲田大学大学院）」入学前に、アドミッション・ポリシーを確認しましたか。「大学（大学院）のアドミッション・ポリシー」「入学した学部（研究科）のアドミッション・ポリシー」それぞれについてお答えください（それぞれあてはまるものを選択）。 - 早稲田大学（大学院）のアドミッション・ポリシー	468	1	5	4.	161.	01
	あなたは「早稲田大学（大学院生の場合、早稲田大学大学院）」入学前に、アドミッション・ポリシーを確認しましたか。「大学（大学院）のアドミッション・ポリシー」「入学した学部（研究科）のアドミッション・ポリシー」それぞれについてお答えください（それぞれあてはまるものを選択）。 - 学部（研究科）のアドミッション・ポリシー	461	1	5	4.	38	.82
	「大学（大学院）のアドミッション・ポリシー」および「入学した学部（研究科）のアドミッション・ポリシー」の内容について、理解（共感）できるかどうか、それぞれについてお答えください（それぞれあてはまるものを選択）。 - 早稲田大学（大学院）のアドミッション・ポリシー	452	1	4	3.	57	.57

非	「大学（大学院）のアドミッション・ポリシー」および「入学した学部（研究科）のアドミッション・ポリシー」の内容について、理解（共感）できるかどうか、それぞれについてお答えください（それぞれあてはまるものを選択）。 - 学部（研究科）のアドミッション・ポリシー	466	1	4	3.63	.54
一般	あなたのこれまで（学部・大学院に入学するまで）のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にはどの程度あてはまりますか。 - 自分の考えを論理的に構成することができた	476	1	4	3.00	.69
/	あなたのこれまで（学部・大学院に入学するまで）のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にはどの程度あてはまりますか。 - 複数の選択肢の中から自分なりの根拠を示して結論を導くことができた	476	1	4	3.25	.67
非	あなたのこれまで（学部・大学院に入学するまで）のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にはどの程度あてはまりますか。 - 自分の考えを口頭あるいは図や文章を用いて明確に表現することができた	477	1	4	3.04	.77
首都	あなたのこれまで（学部・大学院に入学するまで）のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にはどの程度あてはまりますか。 - 自分で必要だと考えた学習や活動に取り組むことができた	477	1	4	3.38	.72
圏	あなたのこれまで（学部・大学院に入学するまで）のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にはどの程度あてはまりますか。 - 同じ目標に向けて他者と協働することができた	477	1	4	3.45	.75
	あなたのこれまで（学部・大学院に入学するまで）のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にはどの程度あてはまりますか。 - 他者の意見に感わされずに自分の考えで行動できた	477	1	4	3.16	.76
	あなたのこれまで（学部・大学院に入学するまで）のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にはどの程度あてはまりますか。 - 相手の立場や考え方に共感することができた	476	1	4	3.44	.68
	あなたのこれまで（学部・大学院に入学するまで）のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にはどの程度あてはまりますか。 - 大学で学ぶ（学んだ）ことを利用して、社会に貢献したいと考えていた	477	1	4	3.51	.72
	あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 新しいことに挑戦できる	479	1	4	3.11	.76
	あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 既存の考え方にとらわれず、新しいアイデアを生み出せる	478	1	4	2.84	.80
	あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 物事を論理的に考えることができる	479	1	4	2.98	.73
	あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 課題の解決方法を提案できる	475	1	4	3.04	.76
	あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 自分の考えを分かりやすく表現できる	477	1	4	2.82	.81
	あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 相手の状況や考え方を尊重できる	477	1	4	3.39	.71
	あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 物事を多面的に考えることができる	477	1	4	3.08	.74
	あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 健全に批判することができる	477	1	4	2.97	.76
	あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 公正な視点で多様性を受け入れられる	477	1	4	3.34	.69
	あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 異文化を理解できる	476	1	4	3.37	.71
	あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 外国語を理解し、話せる	476	1	4	2.44	.87
	あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。 - 自身の専門に関する知識	477	1	4	2.51	.83

第3章 首都圏出身入学者と比較した地方出身入学者の特徴

3-1. 本章の目的

本章では、学部新入生を対象に、首都圏（埼玉、千葉、東京、神奈川）出身入学者と非首都圏出身入学者（地方出身入学者と呼ぶ）の比較分析を行い、それぞれの特徴を明らかにすることを目的とする。近年、早稲田大学では首都圏出身者の割合がかつてより増加しており、その是非や対応を検討していく上での基礎的な知見を本章では提示したい。日本全国、地方から広く学生を受け入れ、多様な背景をもつ学生同士が学び合うことは確かに多様性の確保や教育効果の観点から一定の利点があると考えられるものの、科学的根拠から実態を把握し、丁寧に議論を重ねる必要があるだろう。

なお、ここでの出身地域は出身高校の所在地をもとにしている。従って、たとえば栃木県に居住しているが、高校は東京である場合には首都圏出身者として考える。また海外の学校出身者については本章の分析からは除外する。

3-2. 基本情報と入試区分との関係

まず、今回得られた学部新入生のうち国内高校出身者(N=3,447)の地域を見ると、首都圏出身者が71.0%で、非首都圏出身者が29.0%であった(図3-1)。一学年のうち首都圏、非首都圏の割合は7:3であることが分かる。

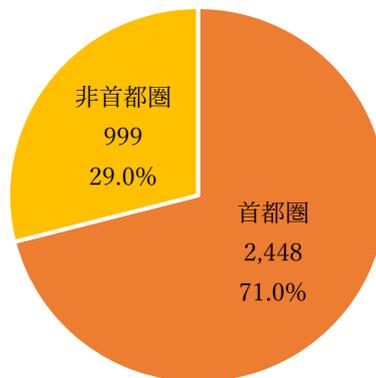


図3-1 本調査の新入生（学部）における出身地域

次に、入試区分を考慮して再度分布を示す。図3-2では首都圏、非首都圏別に入試区分割合を示した。なお、ここでは一般選抜と共通テスト利用入学者を「一般・共通テスト」とし、それ以外を「推薦等」と便宜的に示している。この分類からは首都圏の場合は、一般・共通テストによる入学者は62.0%であり、推薦等による入学者は22.0%であり、残りの16.0%は附属・系列校からの入学者となった。他方で、非首都圏の場合は、一般・共通テストの割合は49.4%であり、推薦等による入学者は50.6%となった。非首都圏の入学者は、首都圏入学者と比較して、推薦等の割合が多く、このデータから得られる限り、半数程度が推薦等による入学者であることが分かった。各学部によっては、学校推薦型選抜における指定校制の出願枠を意図して地方の高校に割り当てている可能性があるためと考えられる。

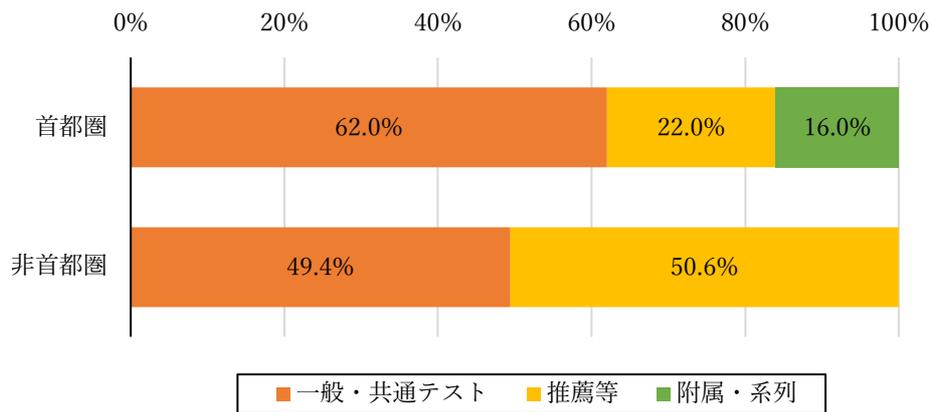


図3-2 本調査の出身地域ごとの入試区分割合

この結果から、全学・学部の意図した結果なのかは判別できないが、地方の出身者の方が入試方式として「推薦等」をより活用していることが明らかになった。

これまで大学総合研究センターが実施し、分析してきた結果からは、推薦やA0入試入学者が学修行動の面でより積極的であるという知見が出てきており、出身地域に加え、このような入試区分も加味した上で、入学時点での意識やそれまでの学習行動を整理する必要があるだろう。以下では、この出身地域と入試区分をもとに4タイプに分けた上で、志望理由(3-3)、進学までのプロセス(3-4)、進学理由(3-5)、高校までの学習(3-6)について分析していく。

3-3. 出身地域・入試タイプと志望理由の分析

本節では、学部新入生の志望理由について見ていく。まず、早稲田大学が第一志望であったか、否かという点では、出身地域に限らず一般・共通か推薦等といった入試区分で大きな違いがある(図3-3)。推薦等では9割以上が第一志望ではあるものの、一般・共通ではその割合は6割弱となる。

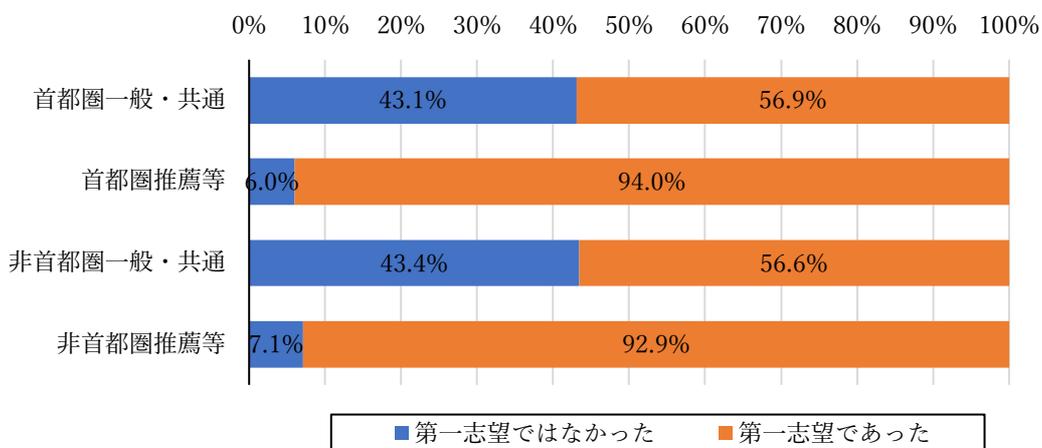


図3-3 出身地域・入試タイプと大学志望度

次に、学部志望度についても、同様の傾向が確認できる（図3-4）。ただし、非首都圏一般・共通では、「第一志望であった」の割合が大学の志望度に比べやや高くなる。

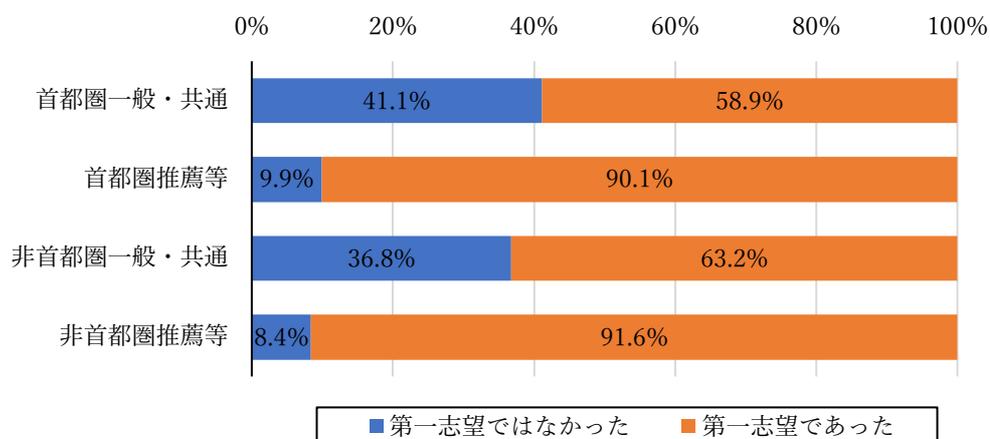


図3-4 出身地域・入試タイプと学部志望度

前章と重複するが、アドミッション・ポリシー（AP）の認知や理解（共感）の違いについては、出身地域に限らず、推薦等の方が、一般・共通と比較して、早稲田大学全体のAPをよく知っている割合が高い。一般・共通については、APを知らない、あるいは確認しなかった割合が合計で25%程度である。理解（共感）では入試区分によって若干の差はあるものの、全体的に9割以上が早稲田大学のAPにより共感している結果となった（図3-5、図3-6）。

この傾向は、学部AP（図3-7、図3-8）についても同様であり、推薦等については学部APの方が大学全体のAPよりも認知は高くなる。理解（共感）という点では、いずれのタイプもより共感できるとする割合が9割以上となり、かつ推薦等の場合には、「大いに理解（共感）できる」とする回答が7割弱となり、一般のそれが5割程度という結果と比べ高い。

APについては、当該大学・学部の受入方針であることから、新入生のなかでも推薦等による入学者の方がよりその方針を確認し、検討した上で出願、進学してきたことが明らかになった。

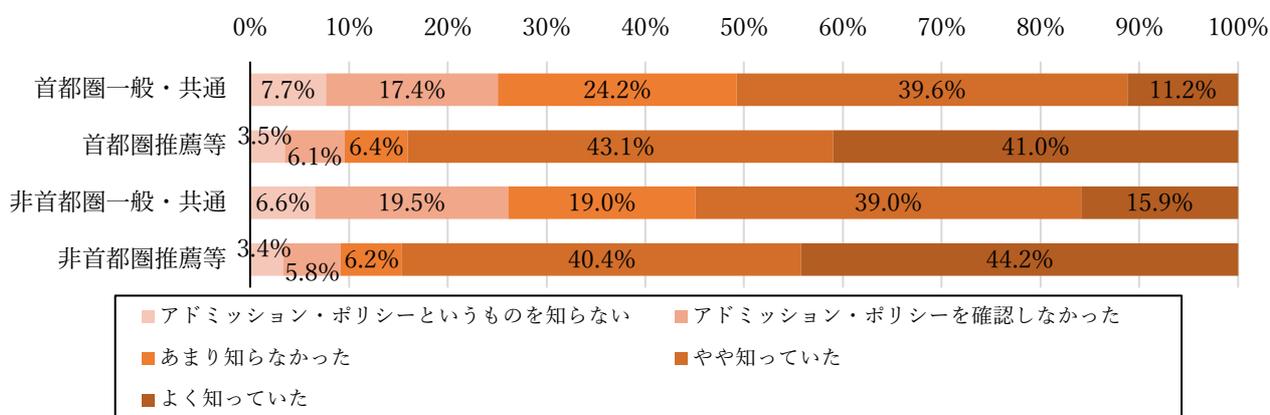


図3-5 出身地域・入試タイプと大学のAP認知

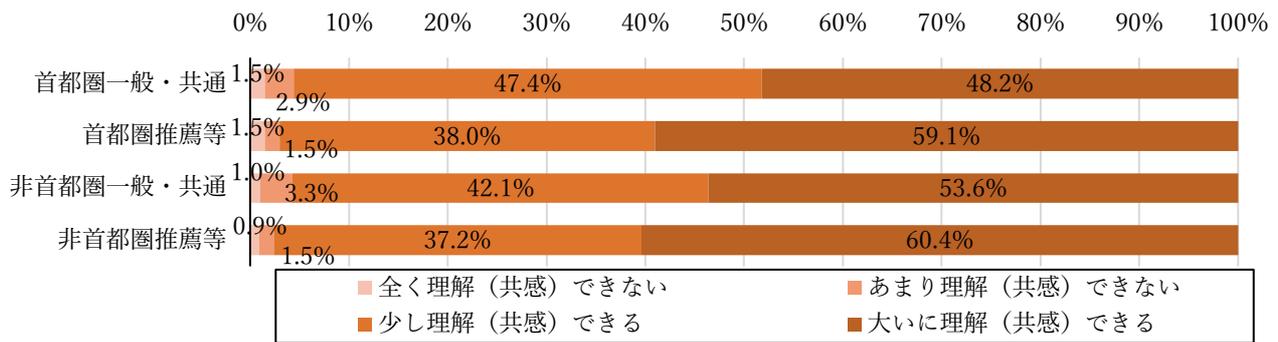


図3-6 出身地域・入試タイプと大学APに対する理解(共感)

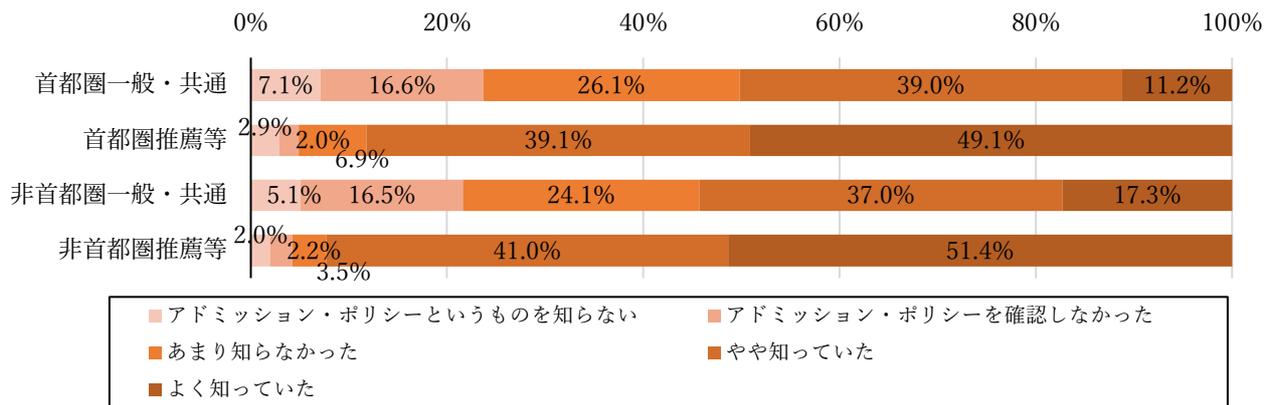


図3-7 出身地域・入試タイプと学部のAP認知

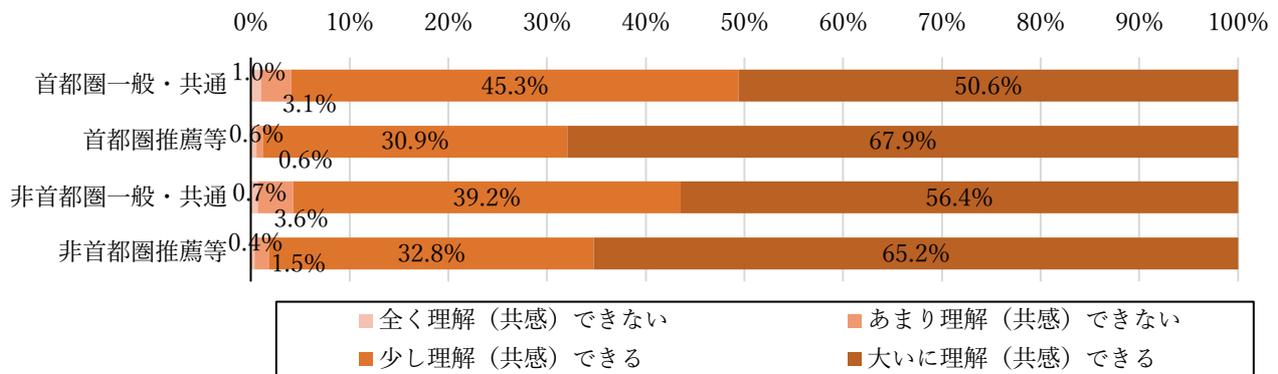


図3-8 出身地域・入試タイプと学部APに対する理解(共感)

次に、早稲田大学を志望した理由について見ていく。質問文は、「あなたは『学び・研究に関する点』について、どのような点に魅力を感じて早稲田大学を志望しましたか？」(図3-9～図3-17)と、「あなたは『進路・学生生活・イメージに関する点』について、どのような点に魅力を感じて早稲田大学を志望しましたか？」(図3-18～図3-26)である。

「学び・研究に関する点」については、いずれのタイプも、ほとんどの項目で魅力を感じたと回答している割合が8割を超えており、早稲田大学の学び・研究が高く評価されていることが分かる。タイプごとの違いでは、施設・設備(図3-17)を除いて、ほとんどの項目で出身地域に関わらず「推薦等」の方が「一般・共通」と比較して肯定的な回答の割合が高い。全体的に肯定的な回答が高く、「推薦等」ではより学びや研究に対して魅力を感じ、早稲田大学に入学していることが分かる。

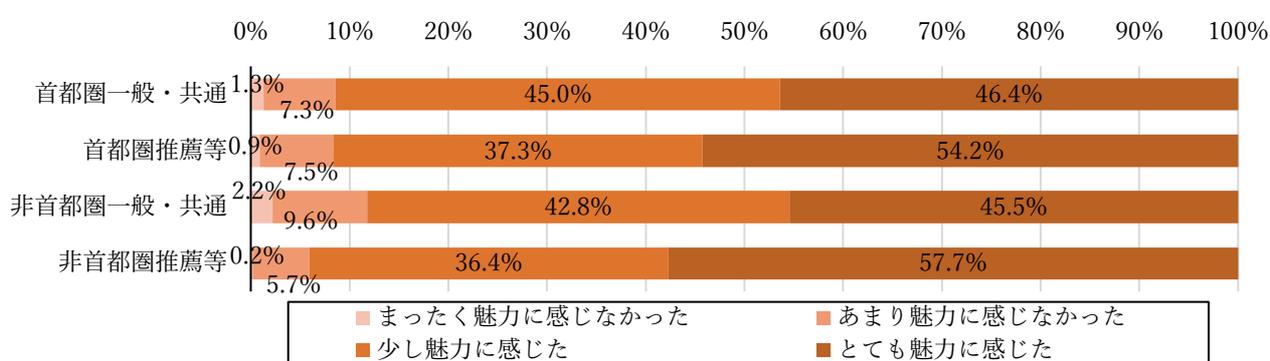


図3-9 特定の分野の専門性を高める体系的カリキュラム

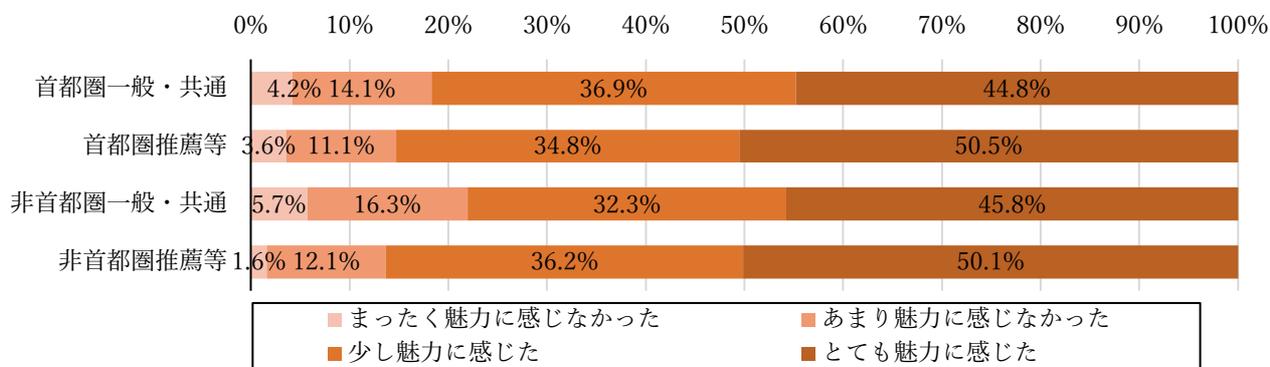


図3-10 入学後一定期間を経てから学科・専攻を決められる教育システム

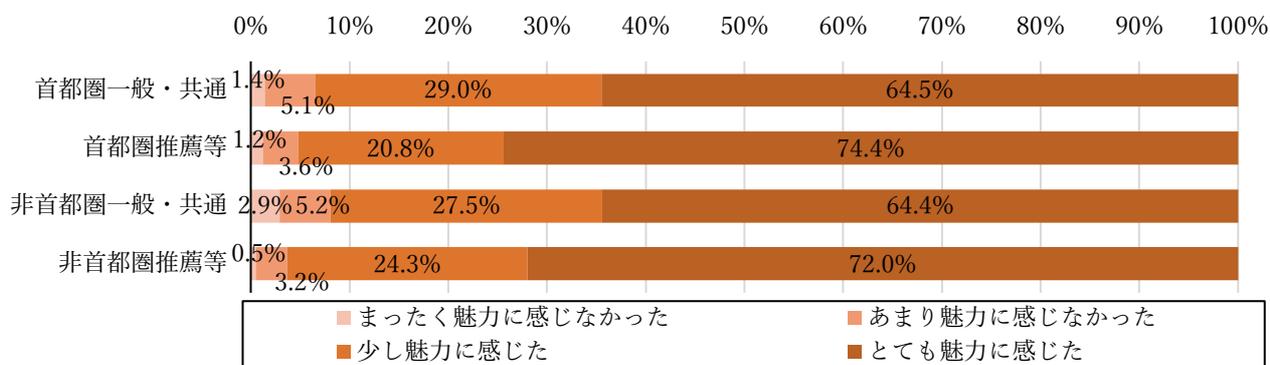


図3-11 複数の分野に跨って学べる学際的カリキュラム、全学的な教育システム

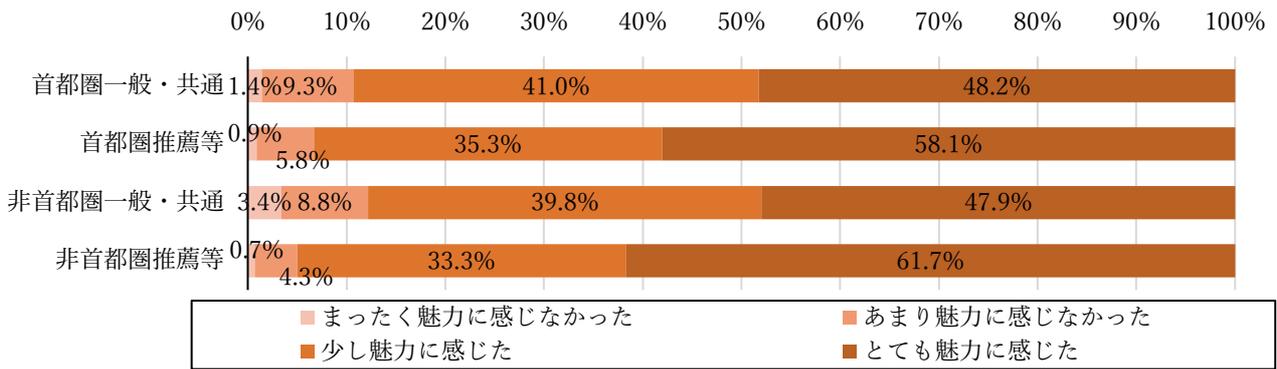


図 3-12 教員の全体的なレベル

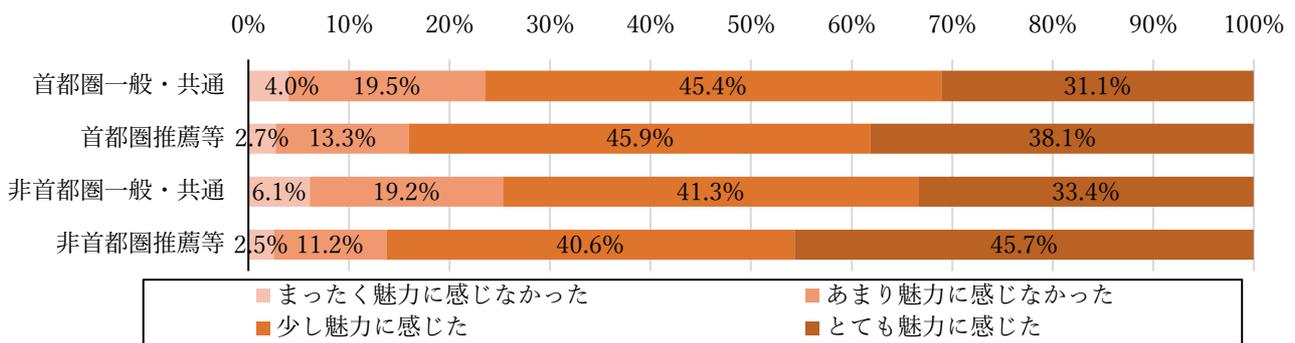


図 3-13 教員数と学生数の比率、少人数・双方向型授業の実施状況

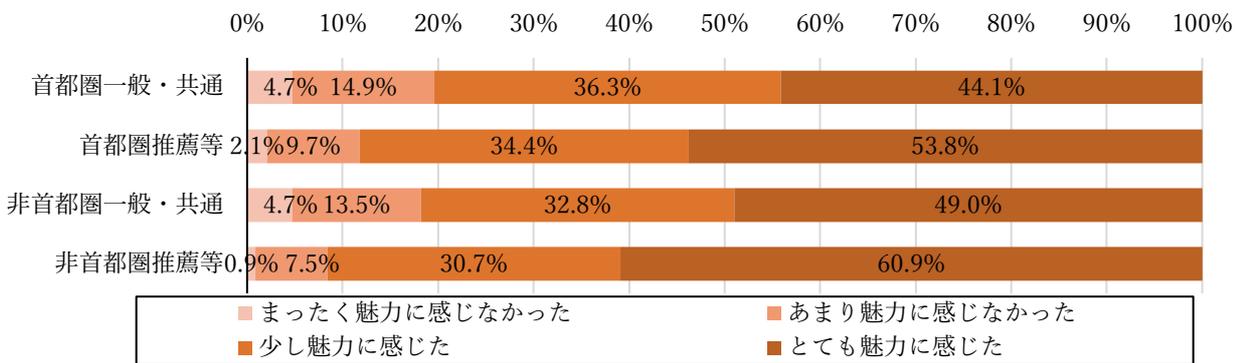


図 3-14 国際的な教育環境（英語による授業、留学生と共に学べる環境）、キャンパス内での国際交流の機会

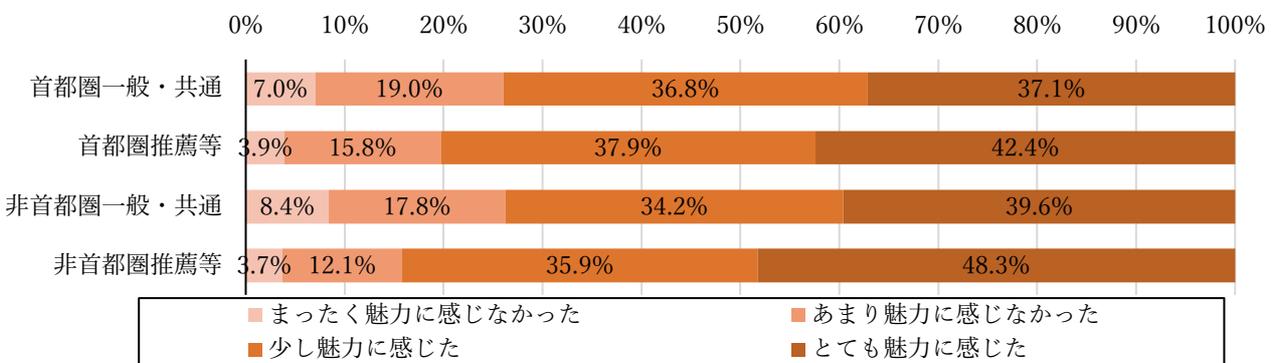


図 3-15 留学制度

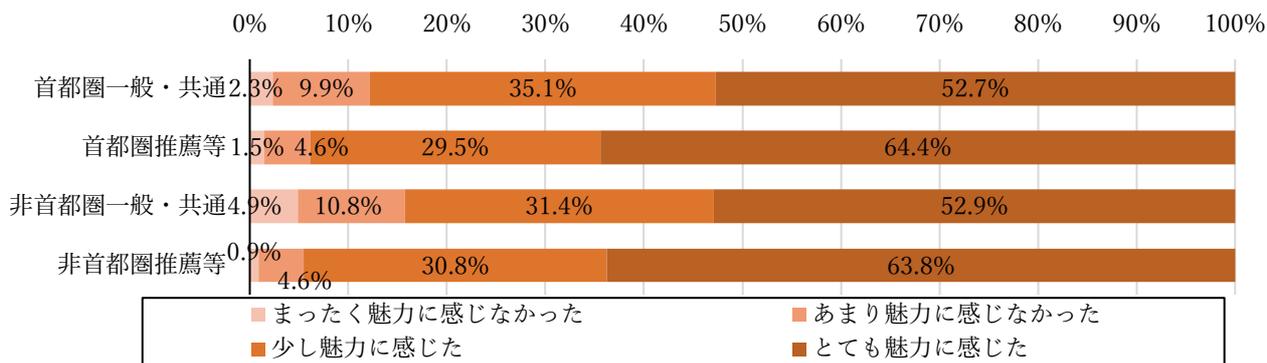


図3-16 大学としての研究レベル（大学ランキング、研究資金獲得実績等）、研究環境

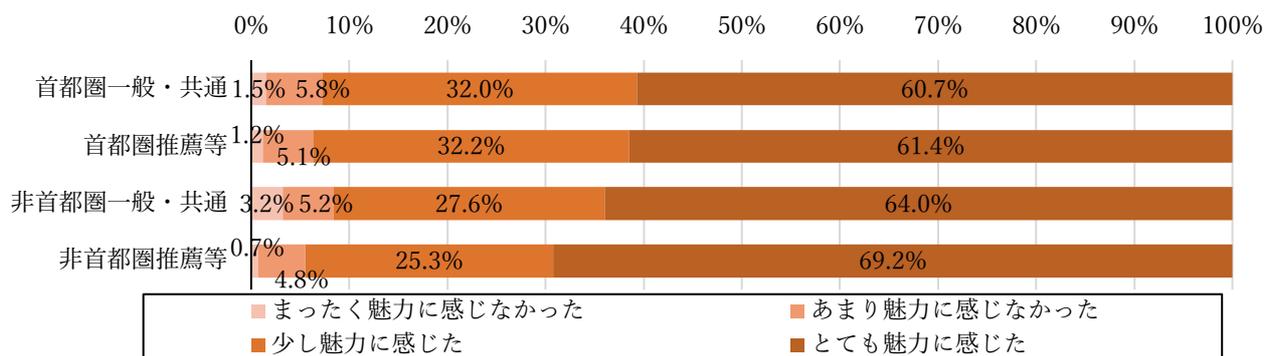


図3-17 施設・設備

「進路・学生生活・イメージに関する点」については、出身地域で特徴が出ている。たとえば、奨学金の受給可能性（図3-22）という点では、非首都圏推薦等がより魅力を感じている。同じ非首都圏でも、一般・共通の割合は、それほどは高くない。これは、単に奨学金を必要としていない、もしくは奨学金に関する情報を得られていないことの2つが理由として考えられる。

また、非首都圏推薦等については、学生へのケアやサポート体制（図3-23）やOB・OGの結束力、OB・OG会の社会的影響力（図3-26）について「とても魅力を感じた」が48.5%、60.2%と他タイプよりも高い。学修や学生生活面でのケア・サポート、校友の結束力や影響力を入学前により高く評価している点に特徴がある。

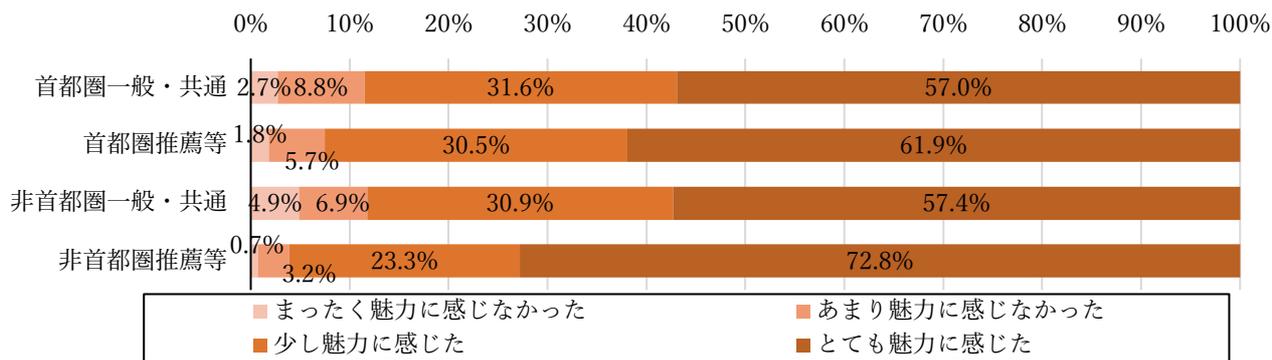


図3-18 就職実績・資格の取得実績

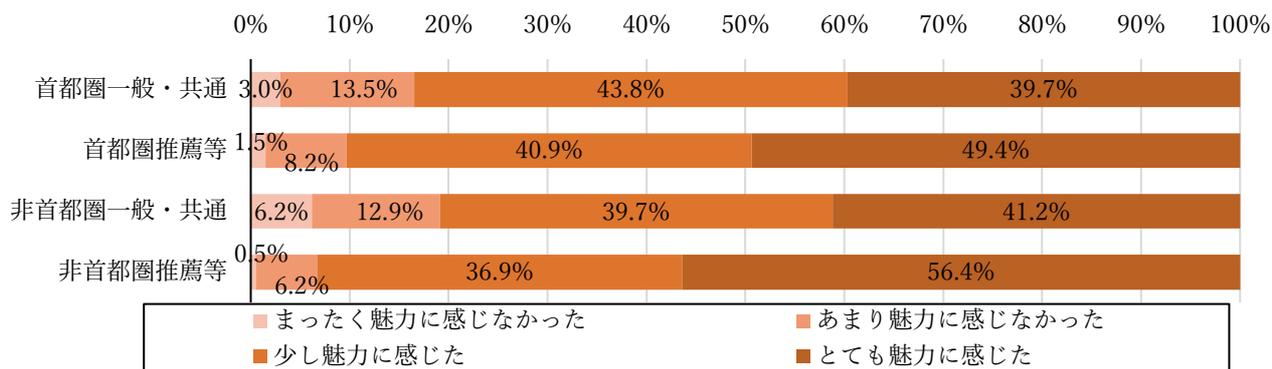


図3-19 就職活動へのサポート、キャリア支援体制

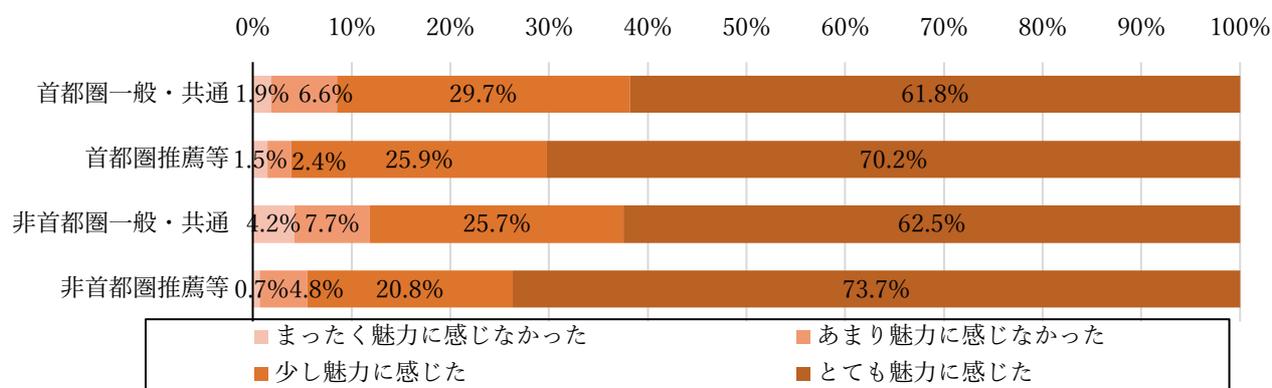


図3-20 多種多様な部活・サークル等の課外活動・勉学以外の経験を積める可能性

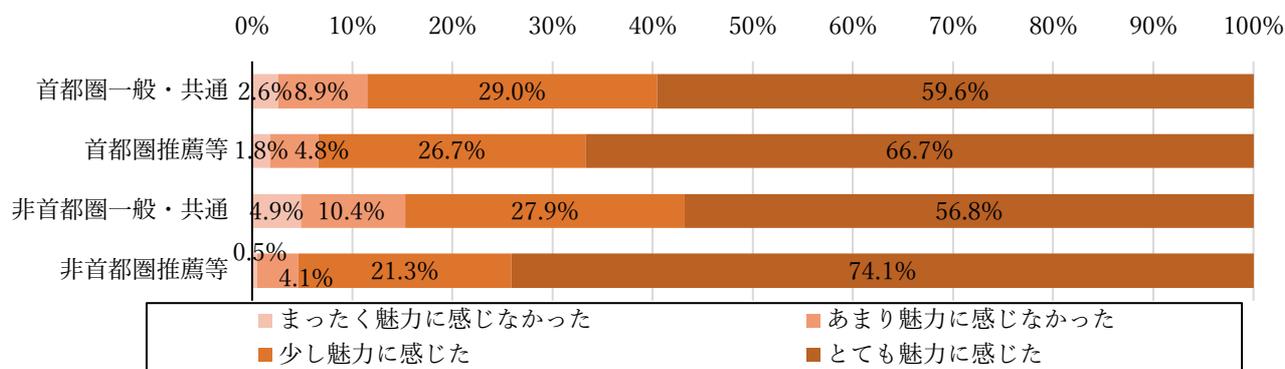


図3-21 学生数の多さ・学生の多様性、それに伴う大学全体の活気・交友関係の広がり

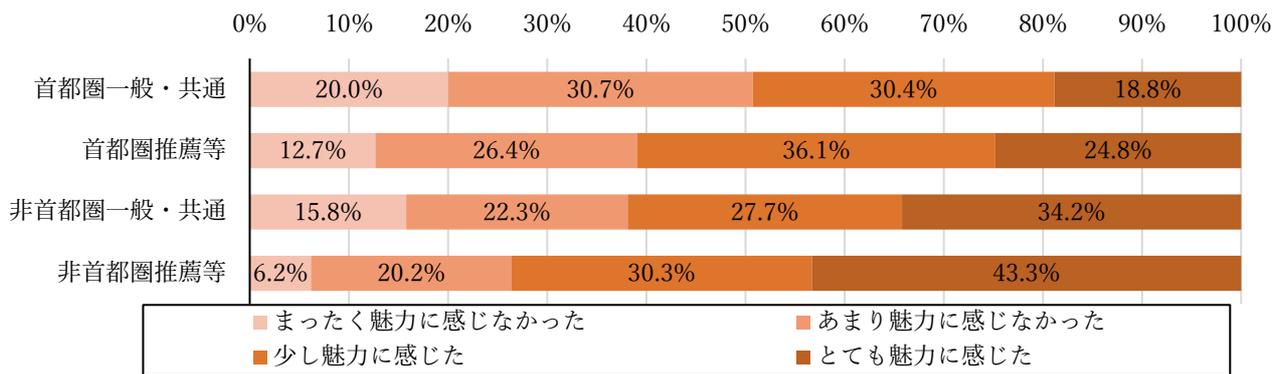


図 3-22 奨学金の受給可能性

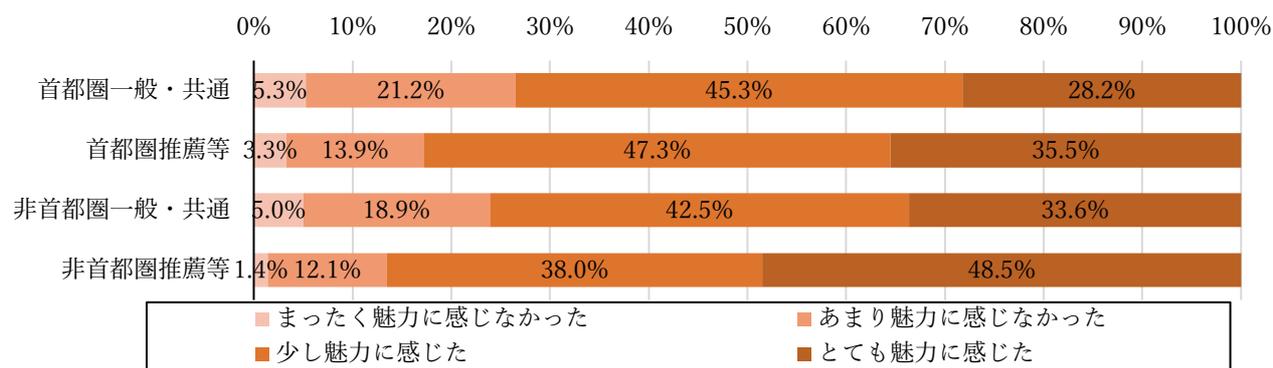


図 3-23 学生へのケアやサポート体制

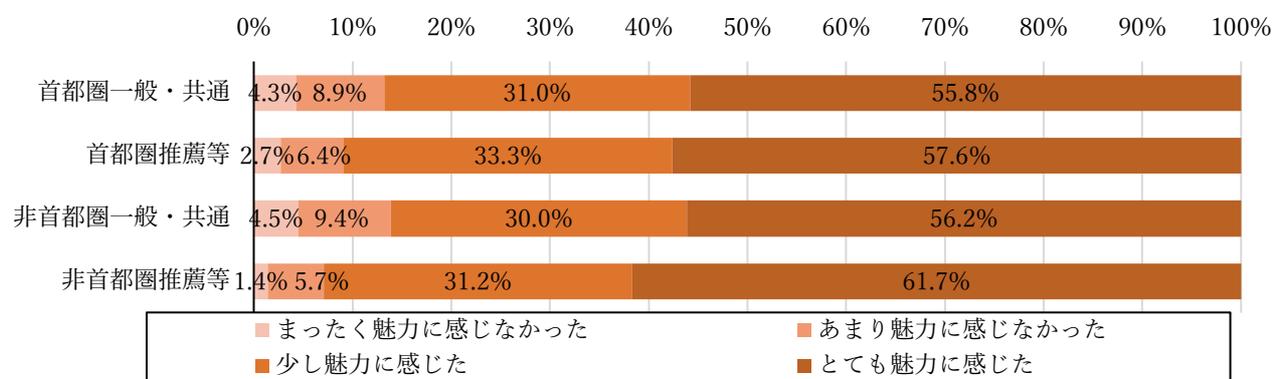


図 3-24 歴史・伝統・スクールカラー

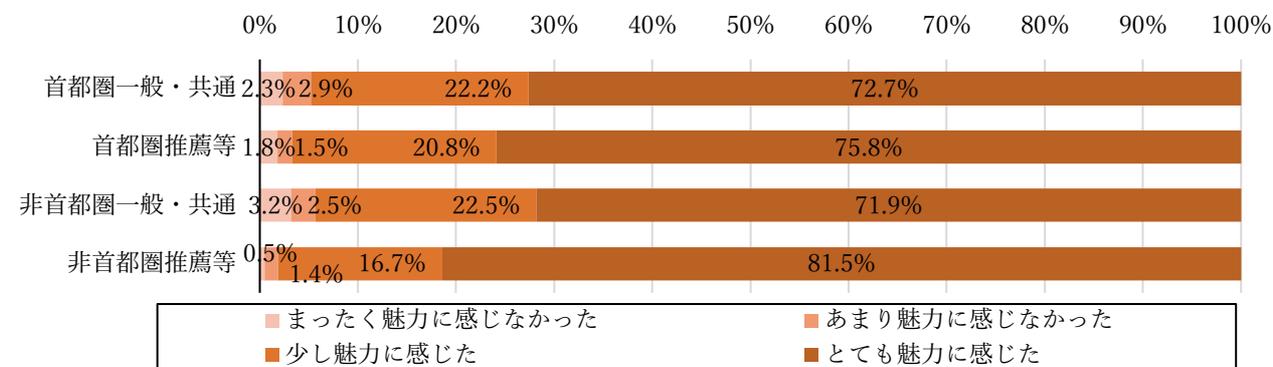


図 3-25 知名度・ブランド力

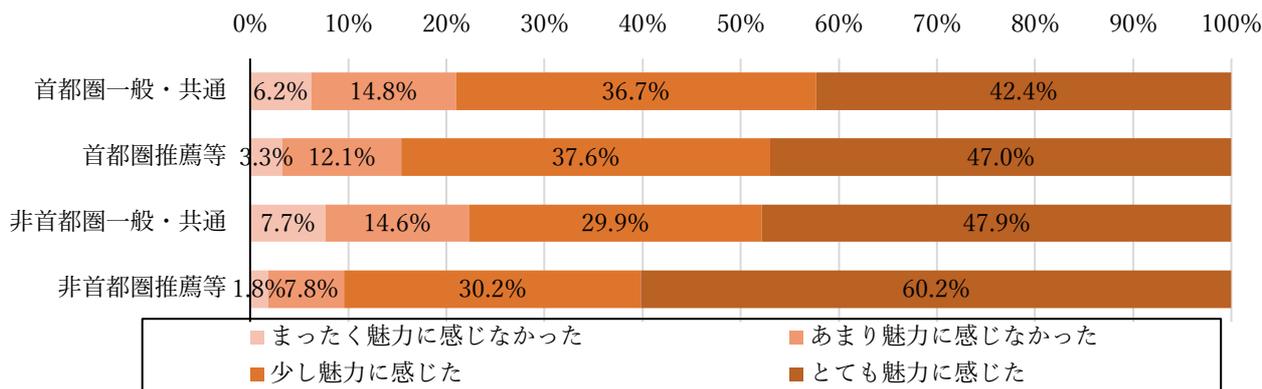


図 3-26 OB・OG の結束力、OB・OG 会の社会的影響力

3-4. 出身地域・入試タイプと進学までのプロセス

次に、早稲田大学に進学するまでのプロセスについて見ていく。具体的には、出願を決めた時期や参照した情報、影響を受けた人物、進学した上での理由である。

まず、現在在籍学部への出願を決定した時期については、出身地域に関わらず「推薦等」の場合は、「高校1年の時」と「高校2年の時」の割合がより高い。他方で、非首都圏一般・共通の場合、早稲田大学の出願を決めた時期が最も遅い「高校3年夏休み～大学出願時まで」である割合が42.9%とかなり高い。首都圏一般・共通の場合でも当該時期は33.8%であり、出身地域間で差が見られた。

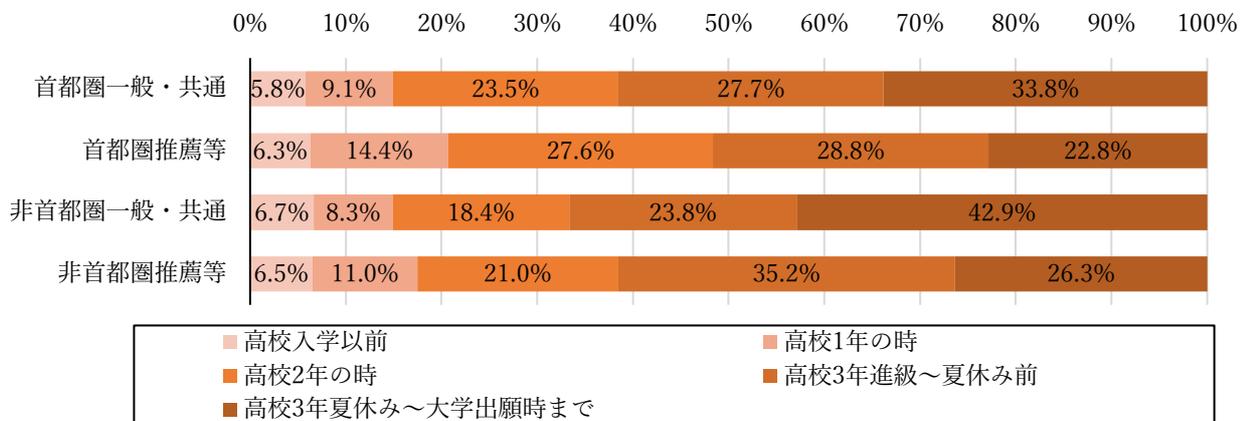


図 3-27 早稲田大学の現在籍学部への出願を決定した時期

次に、早稲田大学への出願を決定するにあたり影響を受けた人物について分析する。具体的な質問文は、「出願の決定（現在籍学部・研究科の出願）に際して影響を受けた人について、影響を受けた度合いをそれぞれ選択してください」であり、その程度を4件法で尋ねた。

まず特徴としては、出身地域に関わらず推薦等の場合には、家族（父親・母親・きょうだい）の影響をより受けている傾向にある。タイプ間の違いが顕著なのは、非首都圏推薦等で、「父親」（図3-28）に「とても影響を受けた」の割合が25.4%と特に高い。「活躍している卒業生や著名な教員」（図3-

34) では非首都圏推薦等でより影響を受けた割合が高く、身の回りやメディア等で校友の活躍を目にする機会が多いと考えられる。

また、「高校の先生」(図3-31)においても推薦等の割合がより高い。逆に、「高校の先生」は、非首都圏一般・共通では「ほとんど影響を受けなかった」の割合は52.6%であり、かつ「学校や会社の友人・同僚・先輩」(図3-33)で「ほとんど影響を受けなかった」の割合は53.0%と学校の中で早稲田大学への出願意思が形成されてはいない層が多い。

最後に、首都圏一般・共通では「予備校・塾の先生、スタッフ」(図3-32)の影響をより受けている傾向にある。「少し〜とても影響を受けた」割合は約半数であり、予備校や塾に勧められて出願に至っている。

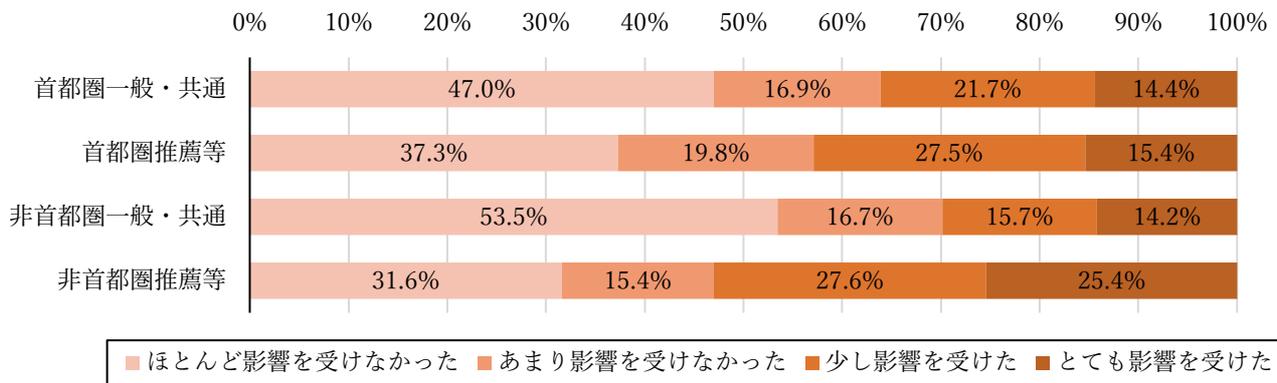


図3-28 出願の決定に影響—父親

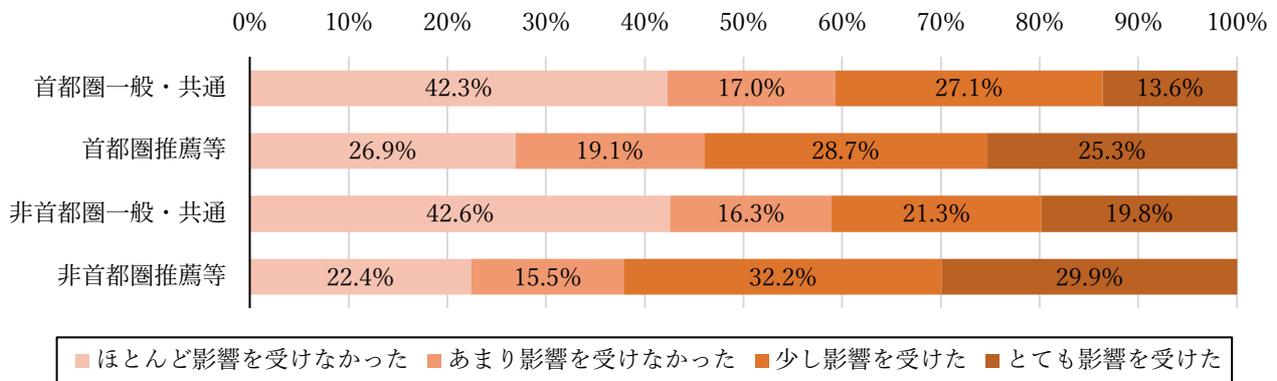


図3-29 出願の決定に影響—母親

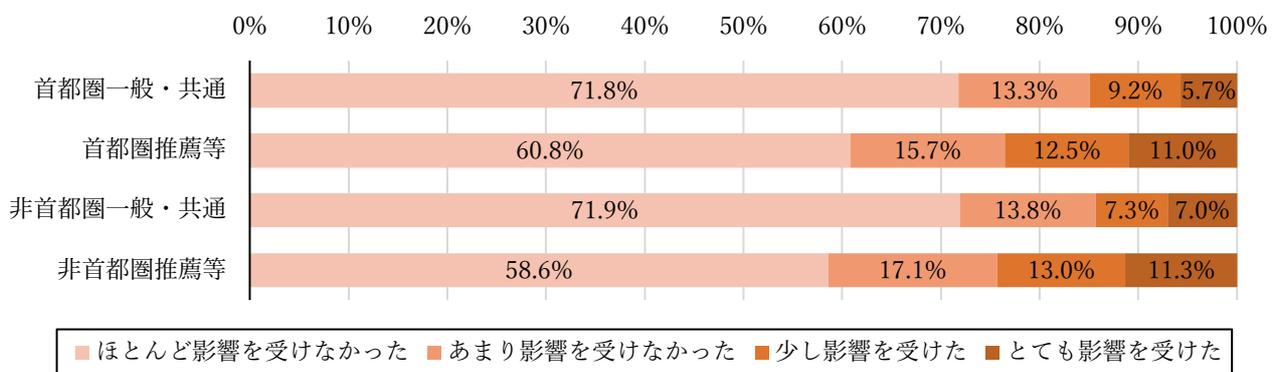


図3-30 出願の決定に影響—兄弟・姉妹

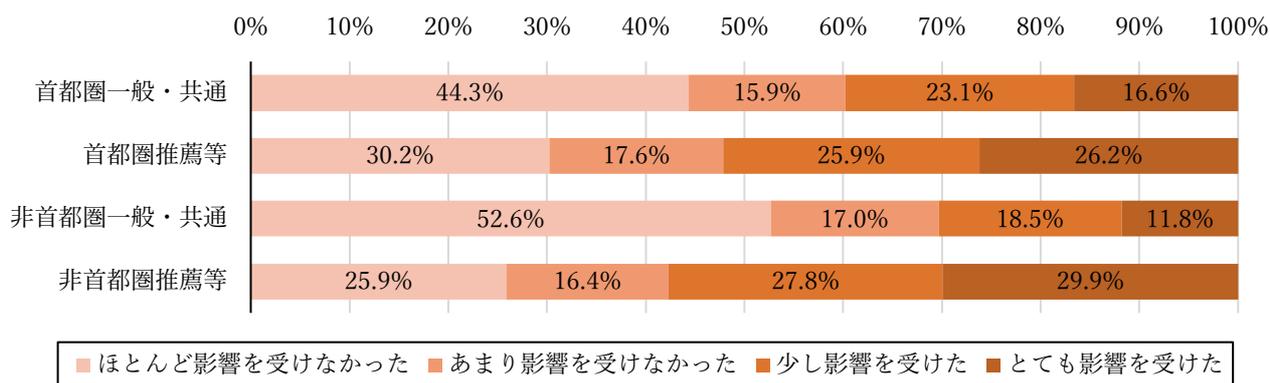


図3-31 出願の決定に影響－高校の先生

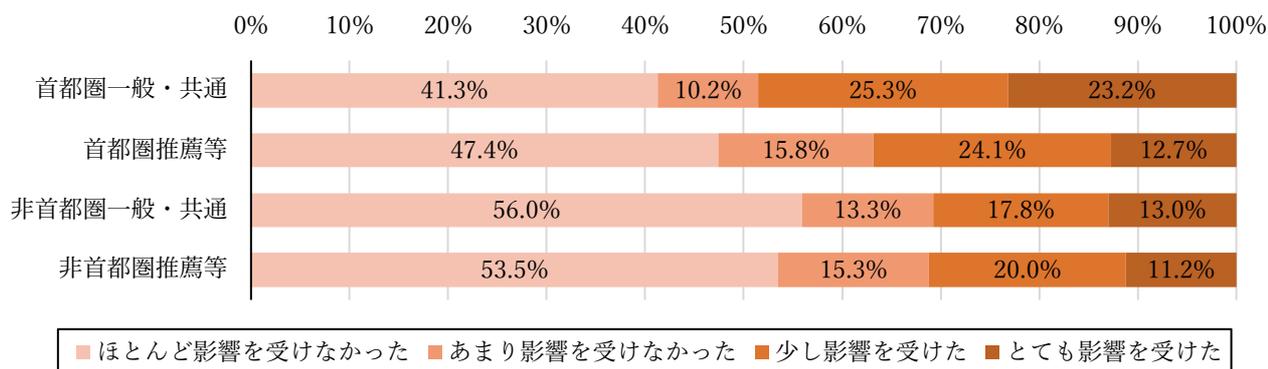


図3-32 出願の決定に影響－予備校・塾の先生、スタッフ

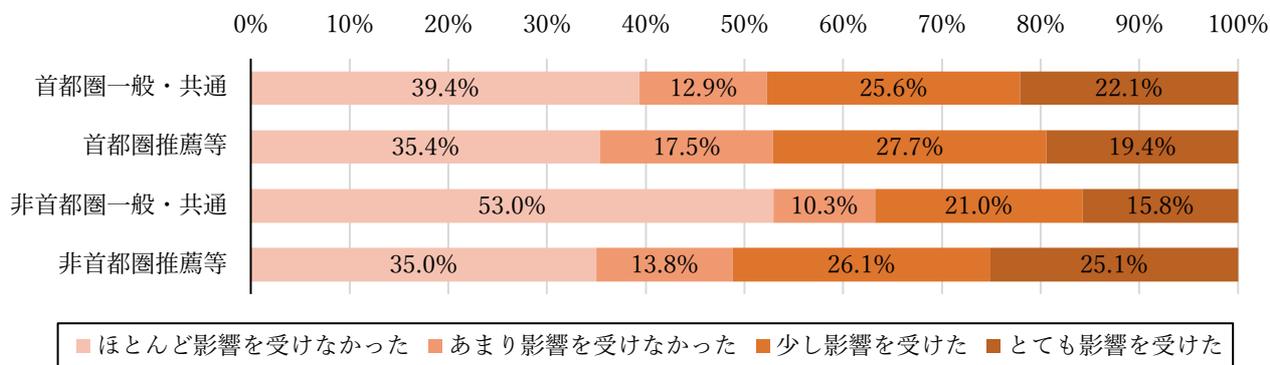


図3-33 出願の決定に影響－学校や会社の友人・同僚・先輩

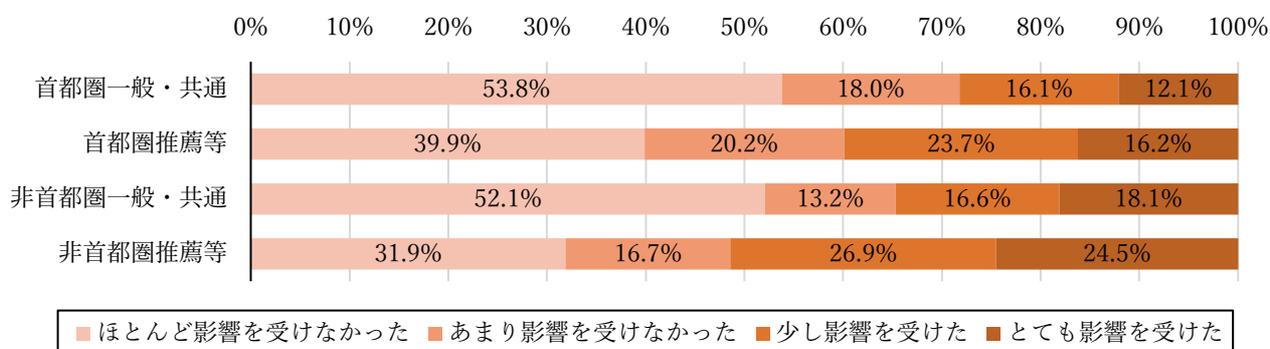


図3-34 出願の決定に影響－活躍している卒業生や著名な教員

次に、「出願の決定（現在籍学部・研究科の出願）に際して影響を受けた情報源」について見ていく。どのような情報から判断して、早稲田大学に進学したのだろうか。

まずタイプ間の特徴としては、これまでの分析結果と同様、出身地域に関わらず推薦等の場合、早稲田大学や学部が発信、発行する情報により接触している（図3-35～図3-41）。次に、「早稲田大学のオープンキャンパス・キャンパスツアー・大学祭（オンラインを含む）」（図3-42）については、首都圏推薦等が「とても影響を受けた」の割合が48.8%とより高い。他方で、非首都圏一般・共通は、「ほとんど経験しなかった」の割合が53.0%と半数以上が早稲田大学を直接的・間接的に経験したことがなかった。首都圏一般・共通では「ほとんど経験しなかった」の割合が35.6%であることから、居住地による早稲田大学へのアクセスの差も影響していると考えられる。

最後に、「模擬試験の結果」（図3-46）については、首都圏一般・共通がより影響を受けている傾向にある。上述した予備校・塾の先生、スタッフにより影響を受けていたのは同タイプであることから、受験準備の一環として模擬試験を受けていくなかで早稲田大学が自身の成績に見合い、志望する、あるいは予備校・塾から志望することを勧められるという経路が他のタイプと比較して、より多いことが確認できる。

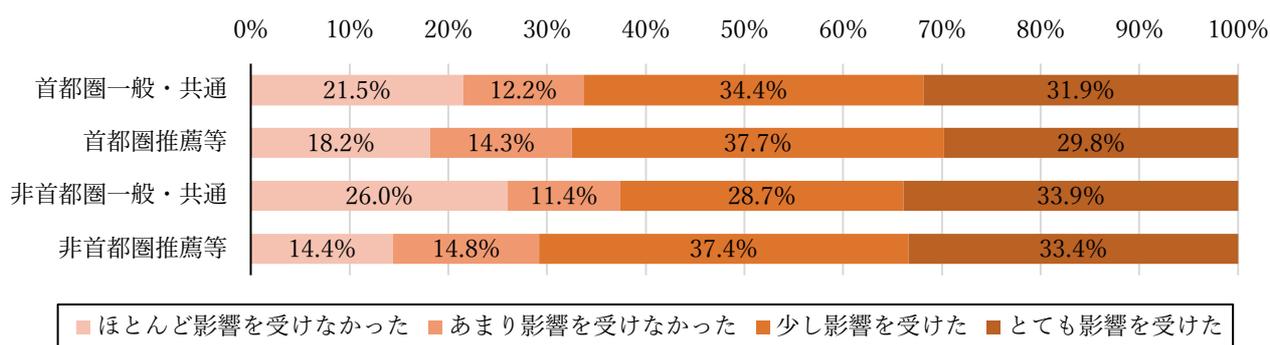


図3-35 受験情報誌・進学サイト（学部・大学院）

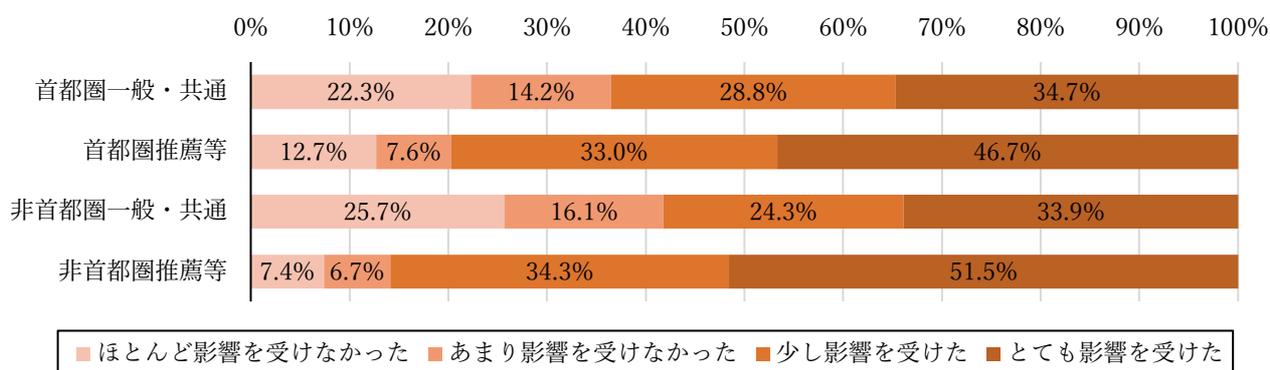


図3-36 早稲田大学・大学院の入学案内パンフレット

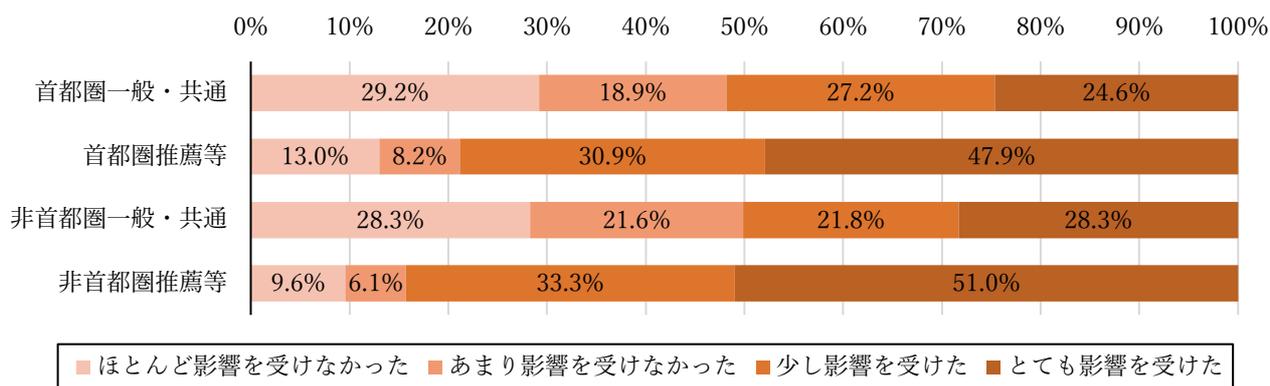


図 3-37 現在籍学部・研究科のパンフレット

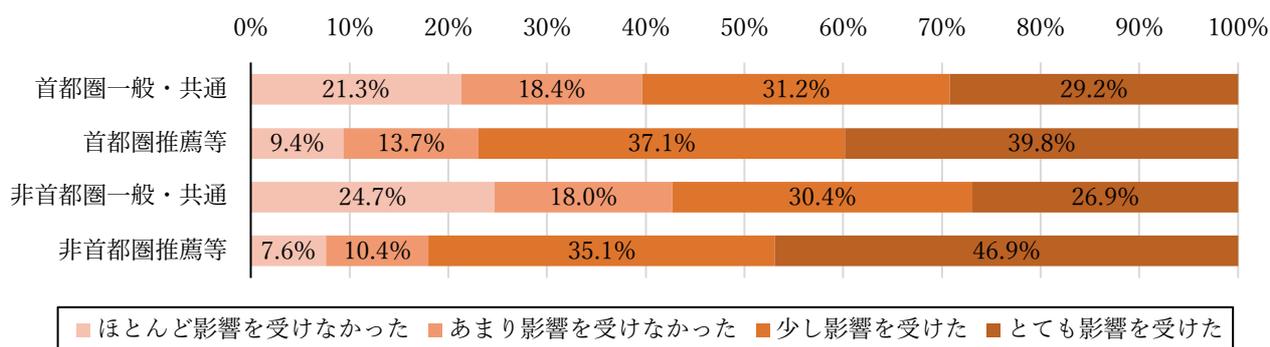


図 3-38 早稲田大学 Web サイト（大学全体のホームページ、入学センターのホームページ）

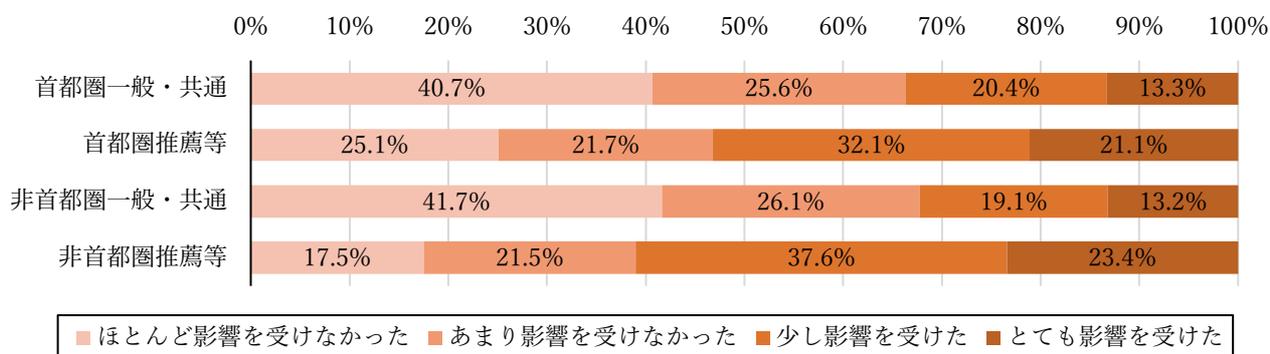


図 3-39 大学体験 Web サイト（早稲田大学各教員の模擬授業や学部説明等の動画コンテンツを閲覧できるサイト）

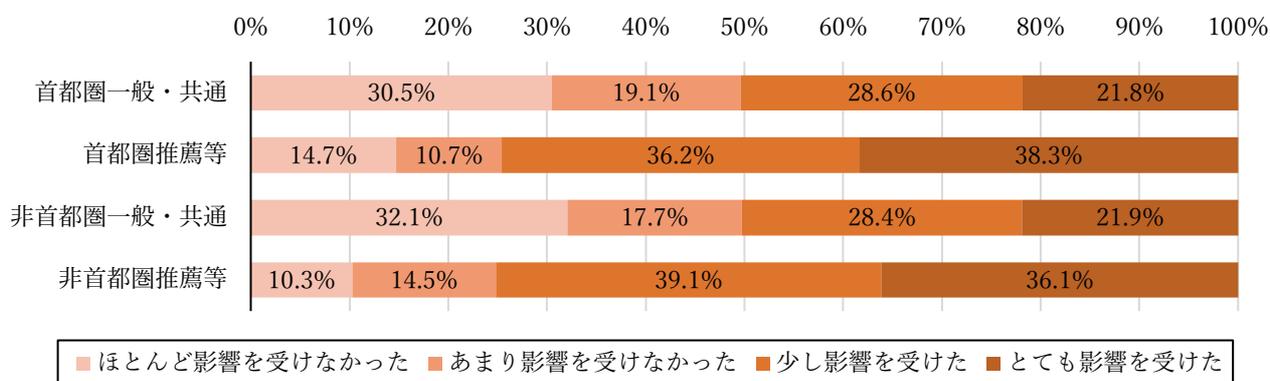


図 3-40 現在籍学部・研究科の Web サイト

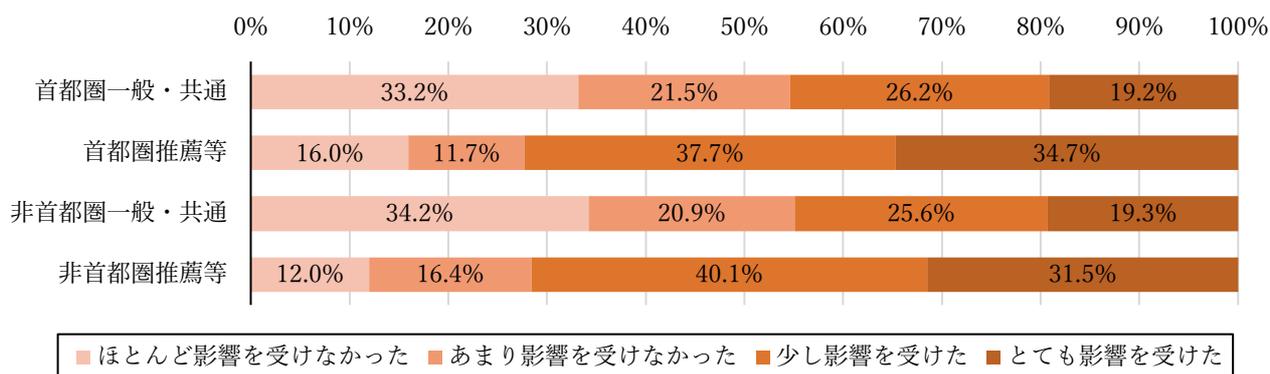


図3-41 現在籍学科・専攻のWeb サイト

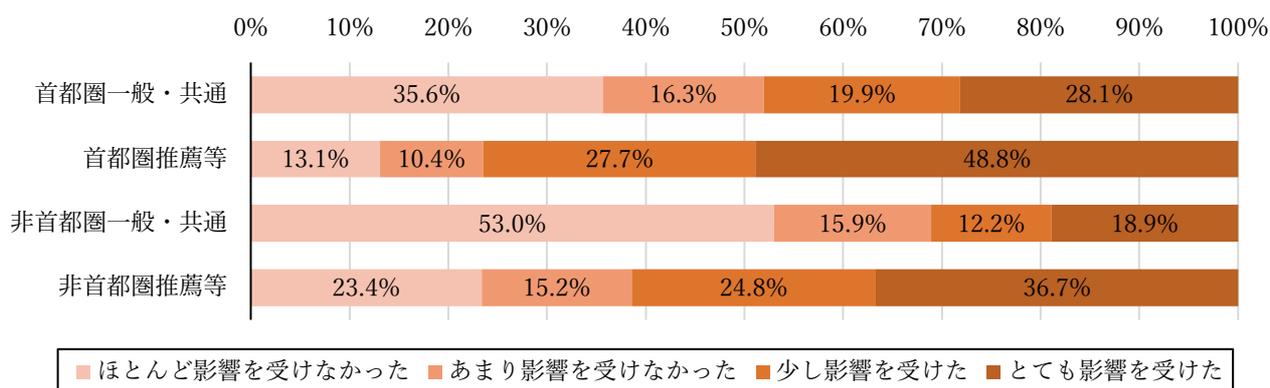


図3-42 早稲田大学のオープンキャンパス・キャンパスツアー・大学祭（オンラインを含む）

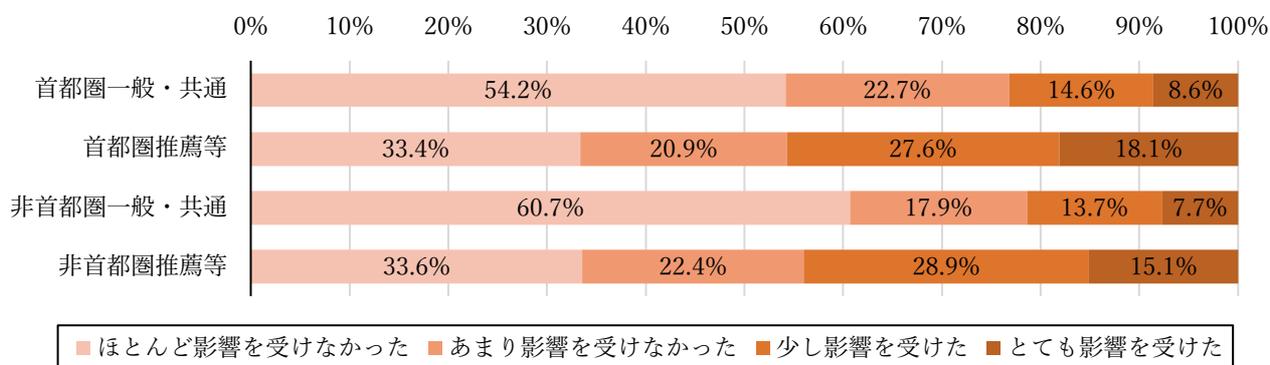


図3-43 早稲田大学教員の模擬授業や職員による説明会

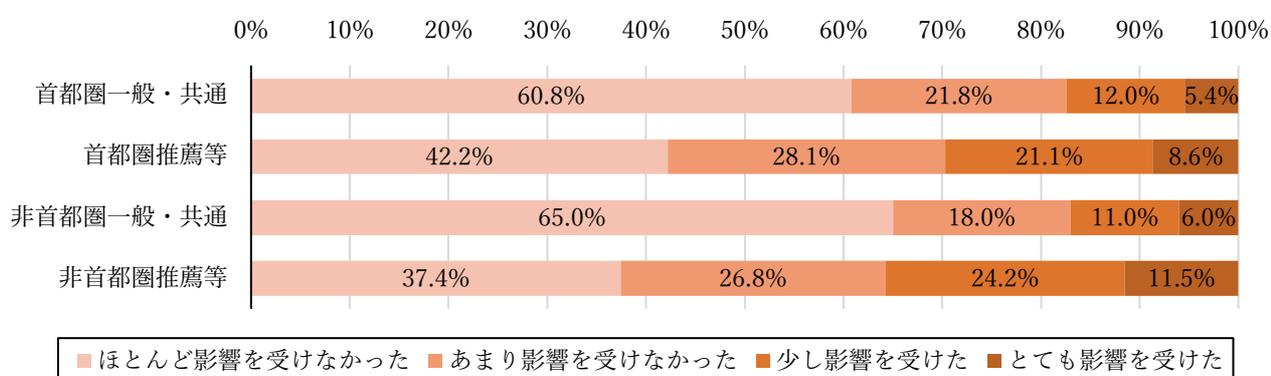


図3-44 進学相談会（学部・大学院）での早稲田大学のブース

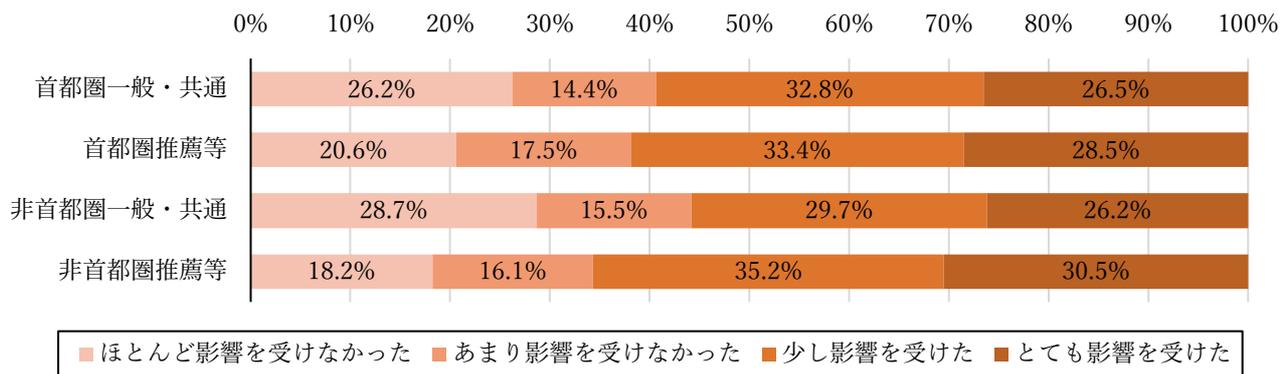


図3-45 メディアの報道・ネットでの評判

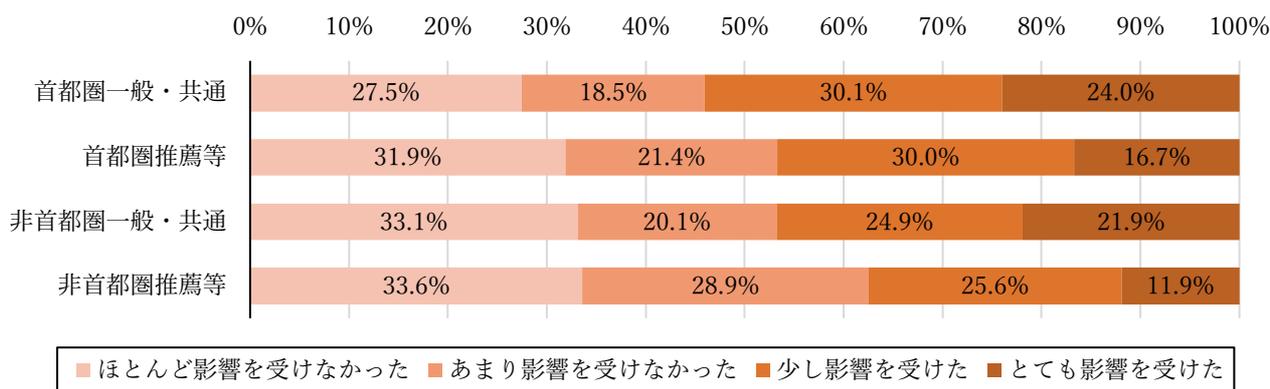


図3-46 模擬試験の結果

3-5. 出身地域・入試タイプと進学理由

ここでは、早稲田大学に進学した理由について見ていく。3-3ではあくまで早稲田大学を志望する理由であったが、最終的に進学するに至った理由を別途尋ねた。質問文は「あなたが大学に進学する上で、最終的に早稲田大学を選んだ理由は何ですか。」である。

特に違いが見られるのは、「教わりたい教員がいた」(図3-48)である。出身地域に関わらず、推薦等の方が、肯定的な回答の割合が高く、半数程度が教わりたい教員がいたから早稲田大学に進学している。自身の学びたい専門領域に加え、具体的に誰に教わりたいかよりイメージをもって進学してきたことが分かる。他方で、「学校の先生や親など周りの勧め」(図3-51)となると、非首都圏一般・共通はいずれのタイプよりもあてはまる、少しあてはまるといった肯定的な回答割合が小さく、約半数程度に留まる。

では、なぜ最終的に早稲田大学に進学したのか、といえば利用可能な入試制度があるか否か(図3-55)と、一般受験において希望していた大学に入学できなかったから(図3-56)によって説明される部分が多い。出身地域に関わらず、推薦等の進学者は当該入試制度があったことが早稲田大学への進学に繋がっている。志望理由と制度がマッチしていた層である。他方で、一般・共通の進学者は、あてはまる～少しあてはまるも含めて40%程度は、第一志望として早稲田大学に進学したかったわけではない。

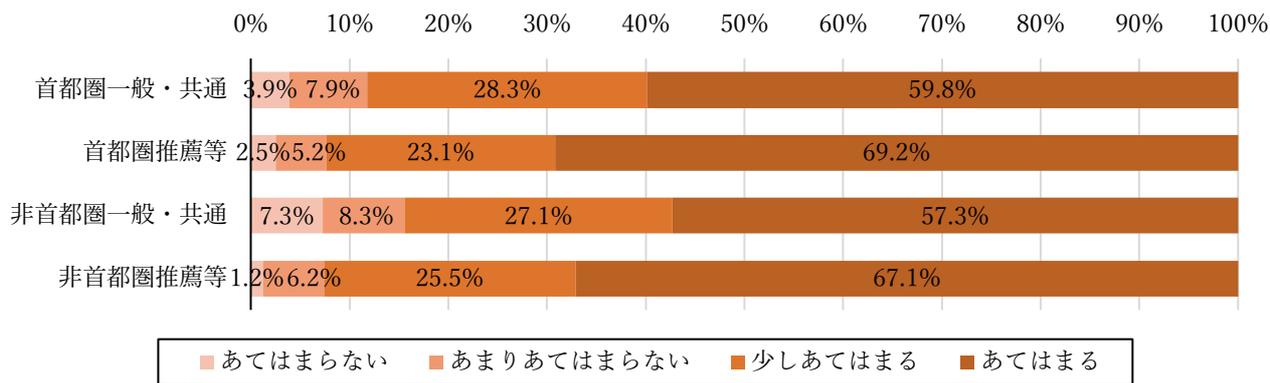


図3-47 自分の志望する専門分野があった

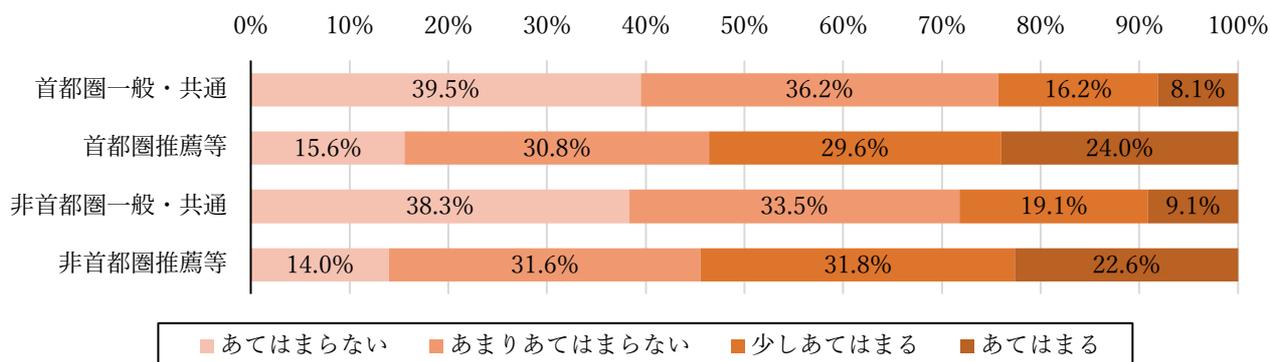


図3-48 教わりたい教員がいた

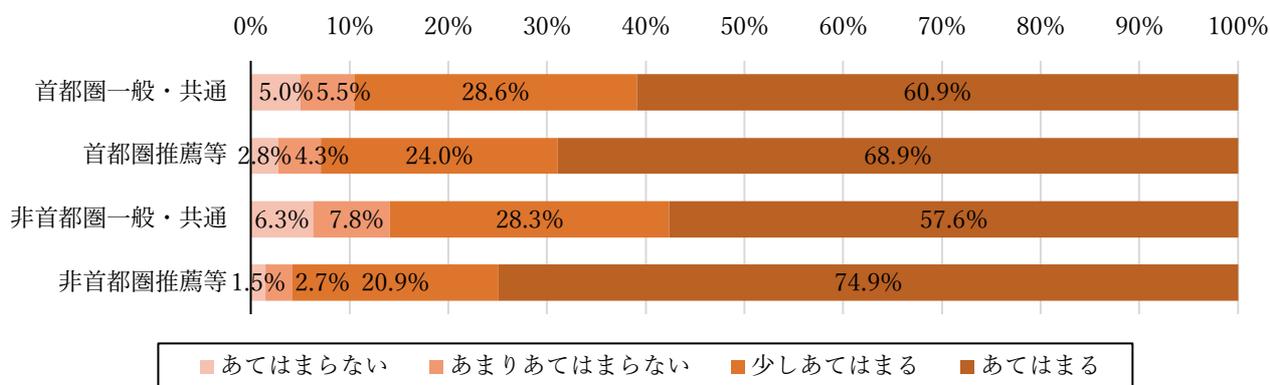


図3-49 将来の進路・就職に有利

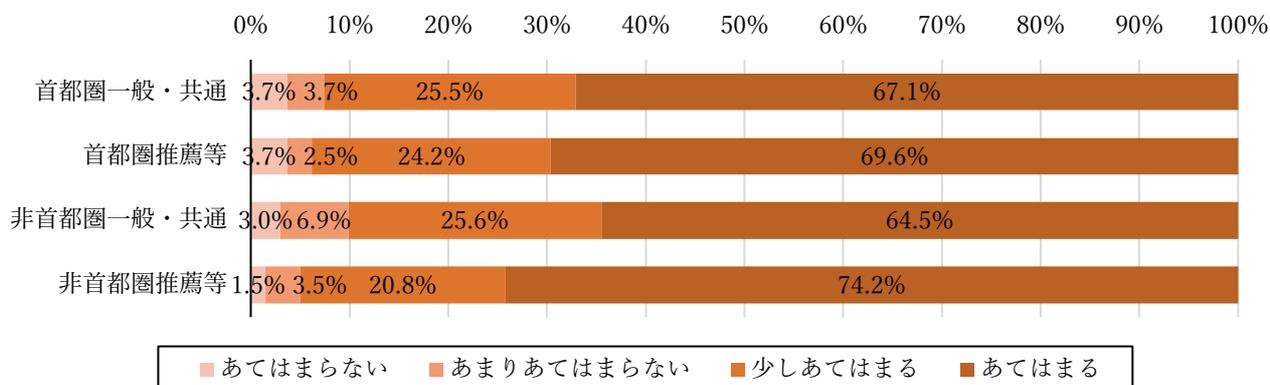


図3-50 知名度・注目度の高さ

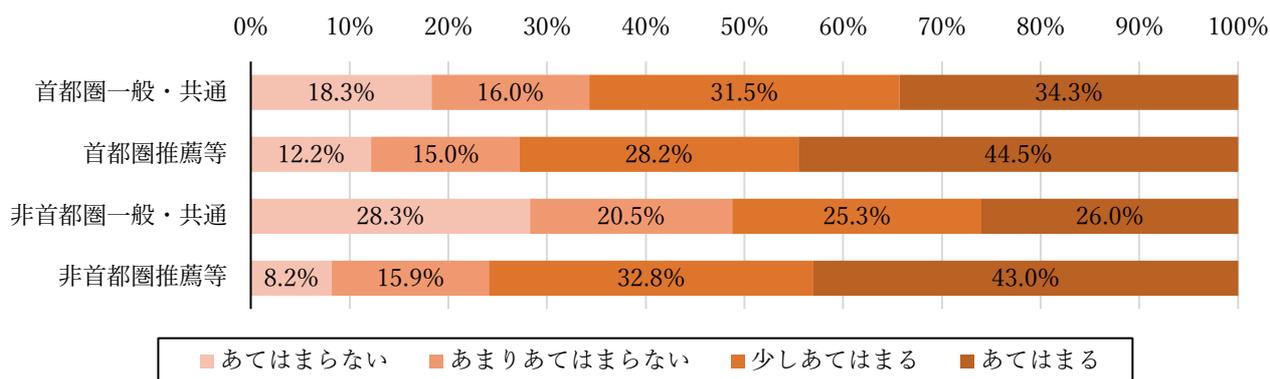


図3-51 学校の先生や親など周りの勧め

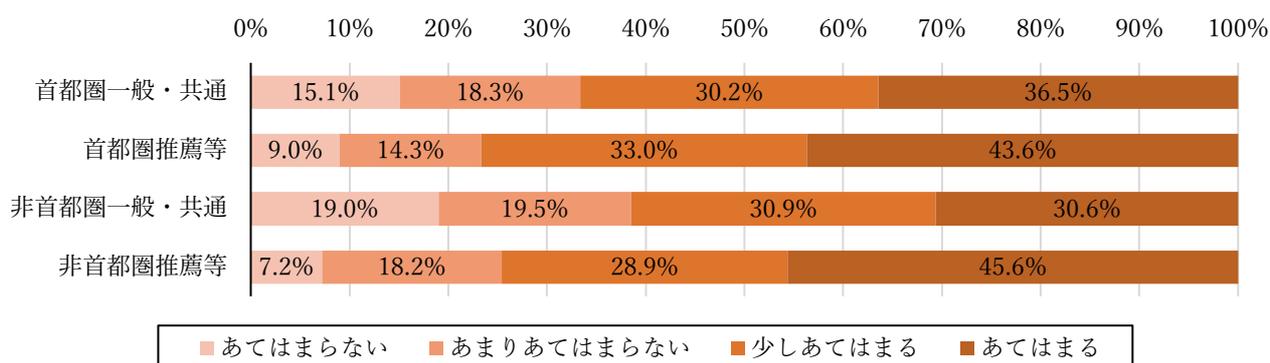


図3-52 クラブ・部・サークル活動が充実している

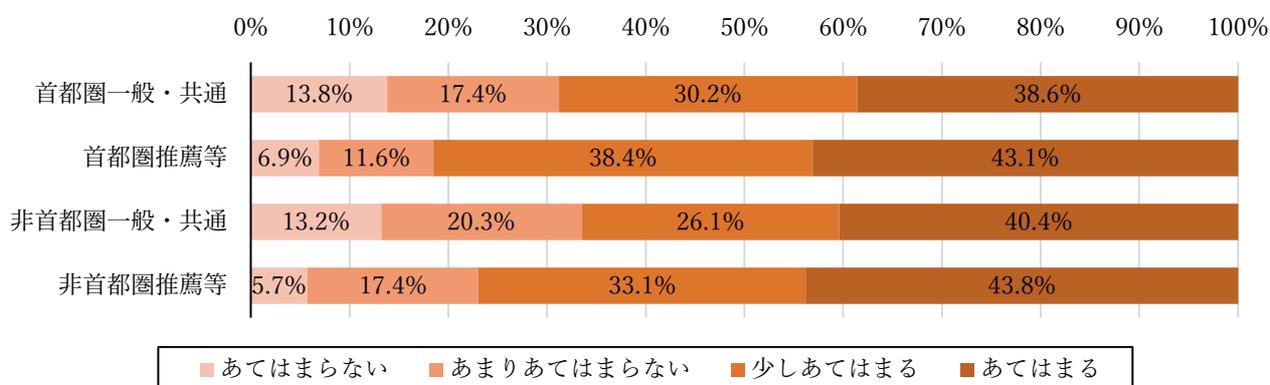


図3-53 伝統・校風が好き

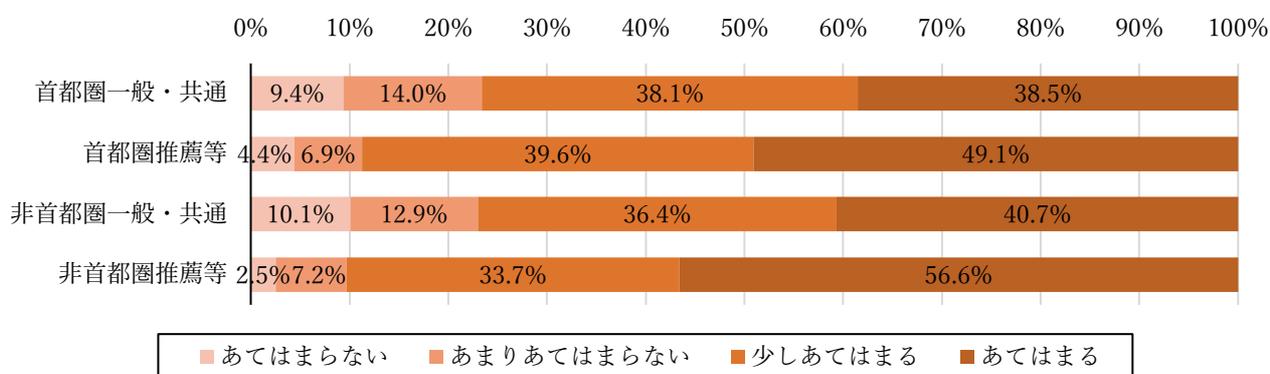


図3-54 学習環境や学生生活のサポートが充実している

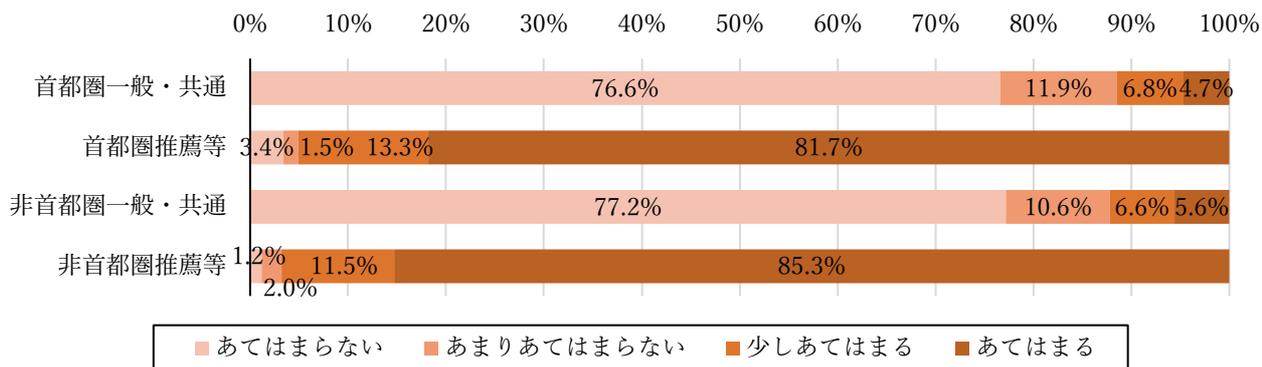


図3-55 利用可能な推薦・特別入試があった

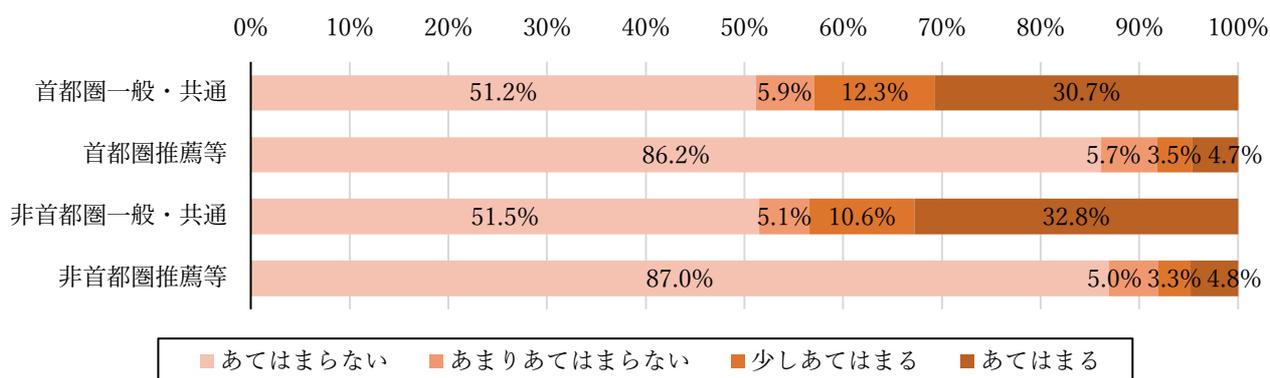


図3-56 希望した大学に入れなかった

3-6. 出身地域・入試タイプと高校までの学習の分析

この節では、高校時代の学習について見ていく。まず、高校時代の学習に対する態度では、出身地域に関わらず、推薦等の方が一般・共通と比較して、肯定的な回答の割合が大きい（図3-57～図3-59）。学習時間については、平日（ふだん）は若干差が見られるもののタイプ間でそれほど大きな違いはない（図3-60）。しかし、定期試験期間中（図3-61）となると、出身地域に関わらず推薦等の方が、1日あたり「5時間以上」、「4～5時間未満」の割合が高くなる。これは学校推薦型では校内の成績がより重視され、より定期試験に注力していると推察できる。

次に教育経験については、出身地域に関わらず一般・共通よりも推薦等の方が「グループワークなどで授業に積極的に参加する」（図3-63）「授業中に自分の意見や考えを述べる」（図3-64）といった主体的・対話的な学習経験をよりしており、後述する学習行動とも同様の傾向にある。「ボランティアについて学ぶ」（図3-67）では非首都圏推薦等がより経験している点も特徴的である。

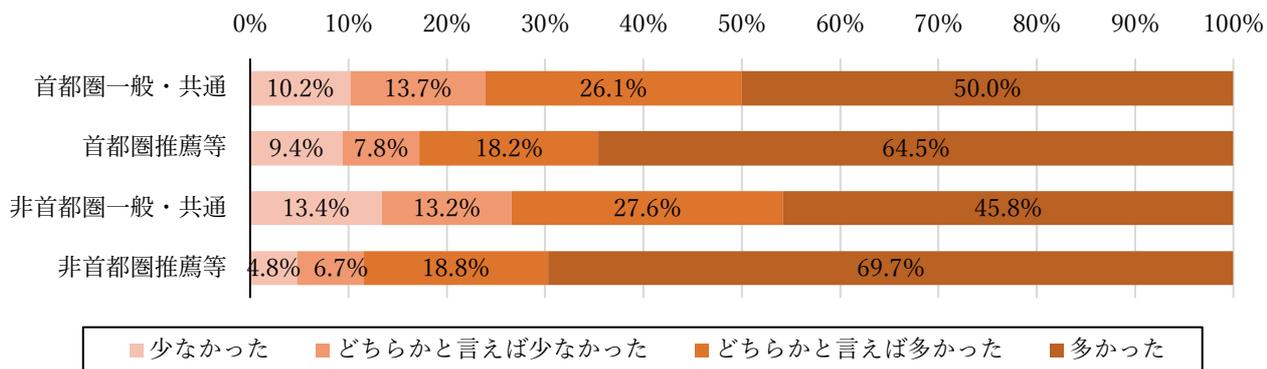


図3-57 少し体調が悪かったり、休んでよい理由があったりしても、できるだけ毎日学校に通うよう努力した

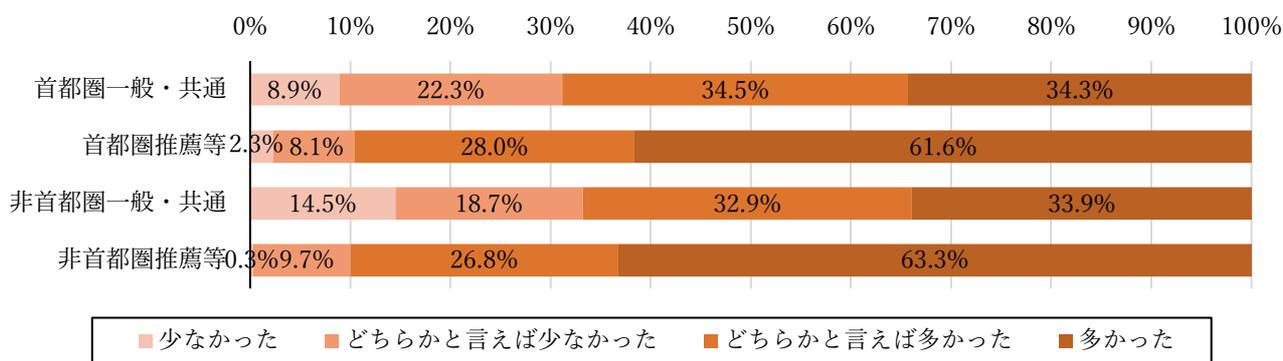


図3-58 学校の授業で、自分が好きではない勉強にも全力で取り組んだ

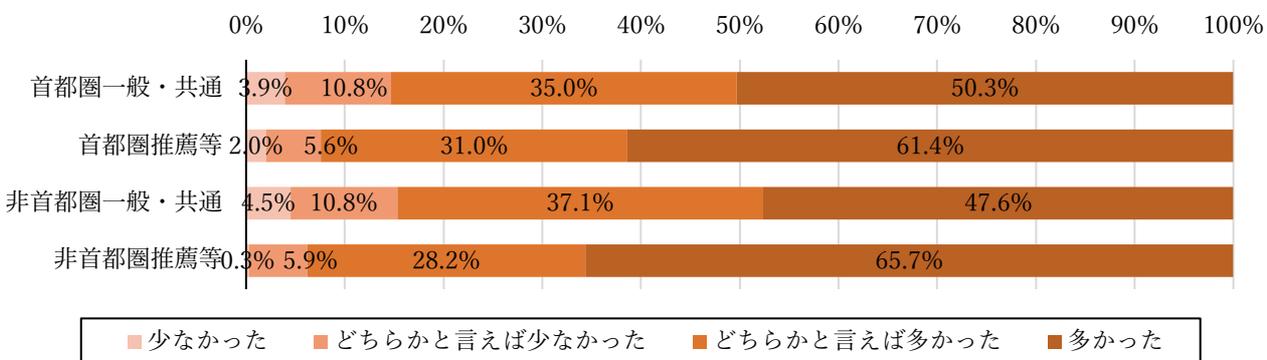


図3-59 なかなか成果が出なくてもあきらめずに、しっかり勉強を続けた

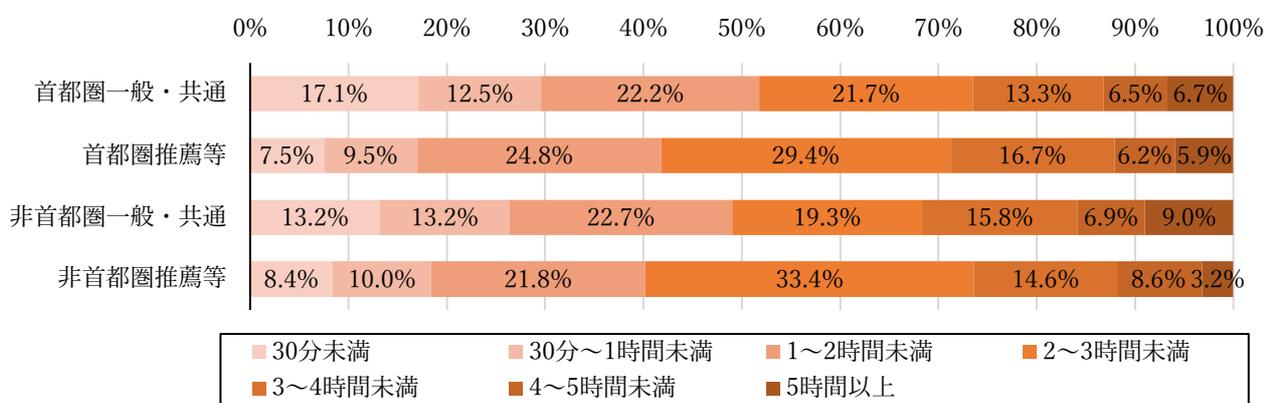


図3-60 「高校2年生の2学期」の頃、1日当たり学校の授業以外の学習時間- 平日（ふだん）

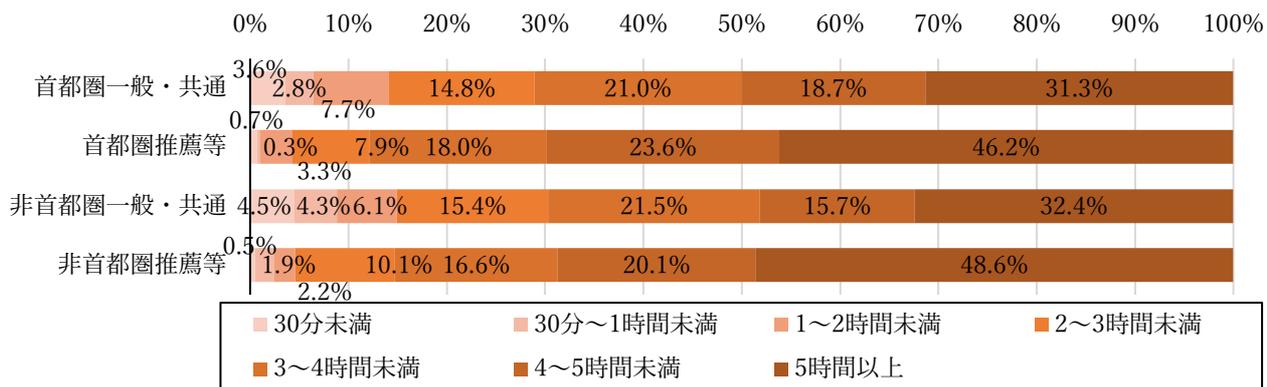


図3-61 「高校2年生の2学期」の頃、1日当たり学校の授業以外の学習時間- 定期試験期間中

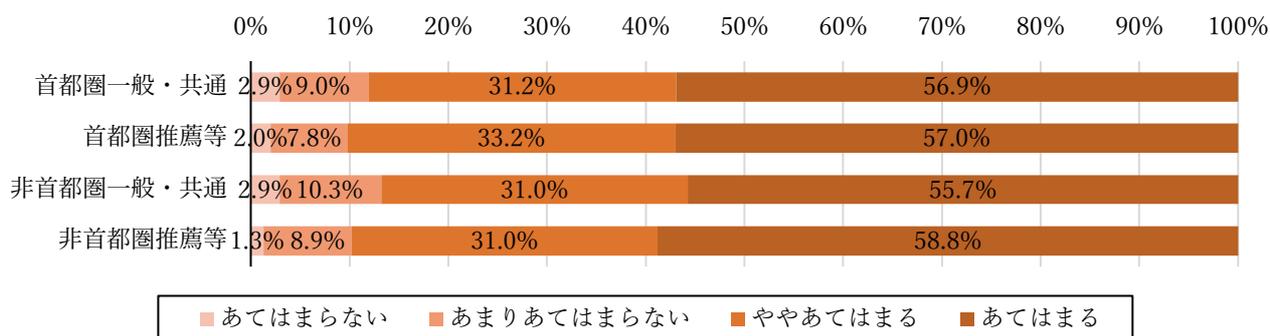


図3-62 勉強の方法を学ぶ

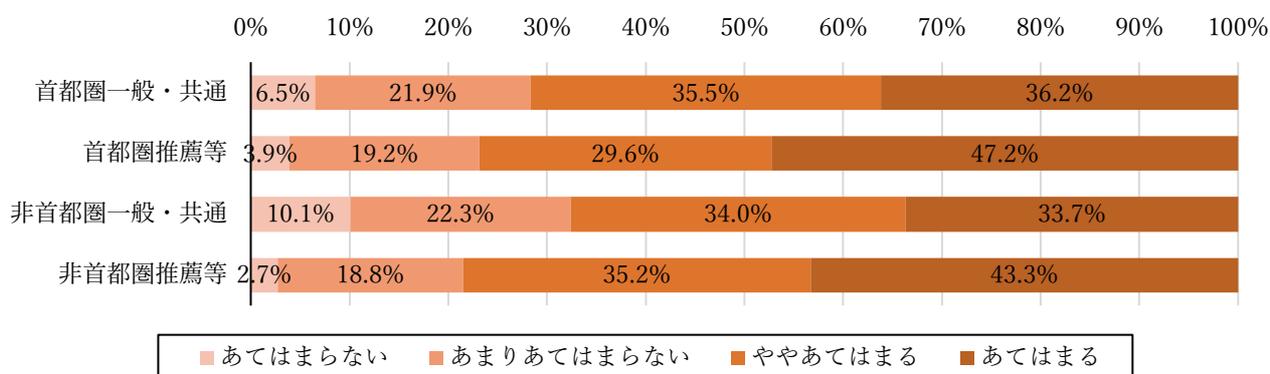


図3-63 グループワークなどで授業に積極的に参加する

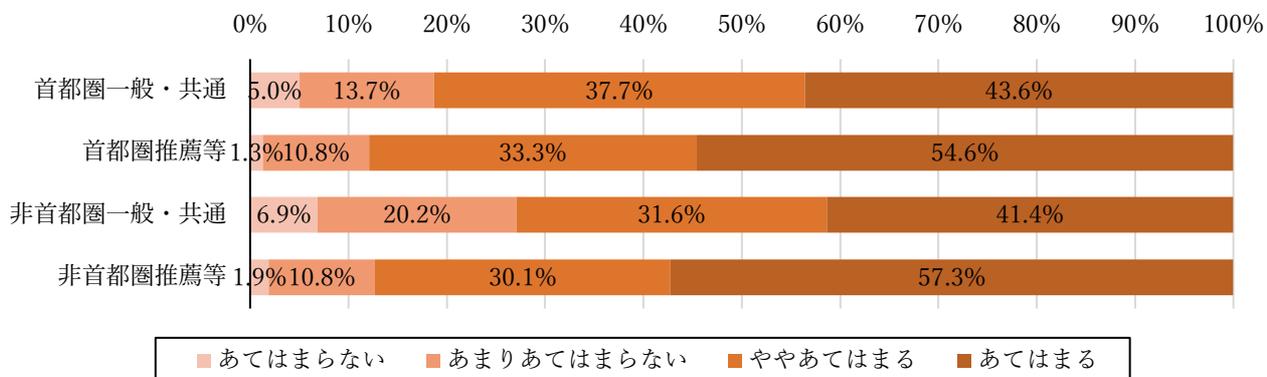


図3-64 授業中に自分の意見や考えを述べる

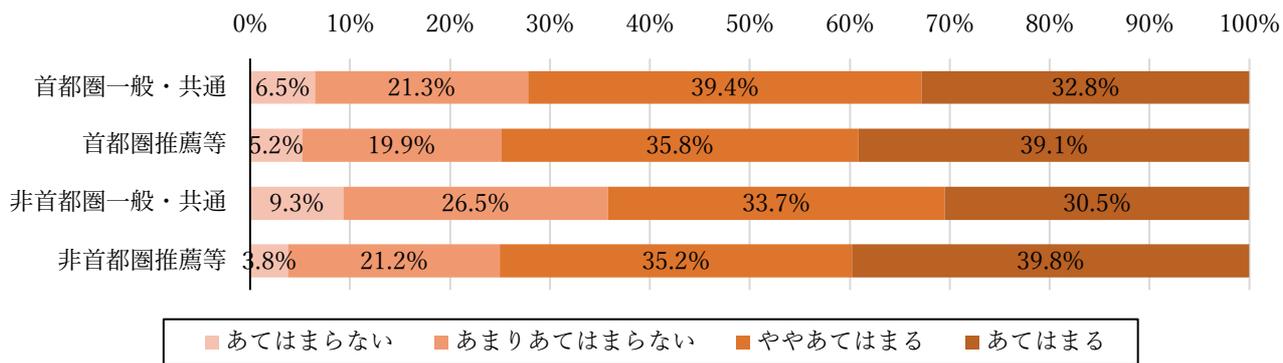


図3-65 社会や現実との関わりを意識しながら学ぶ

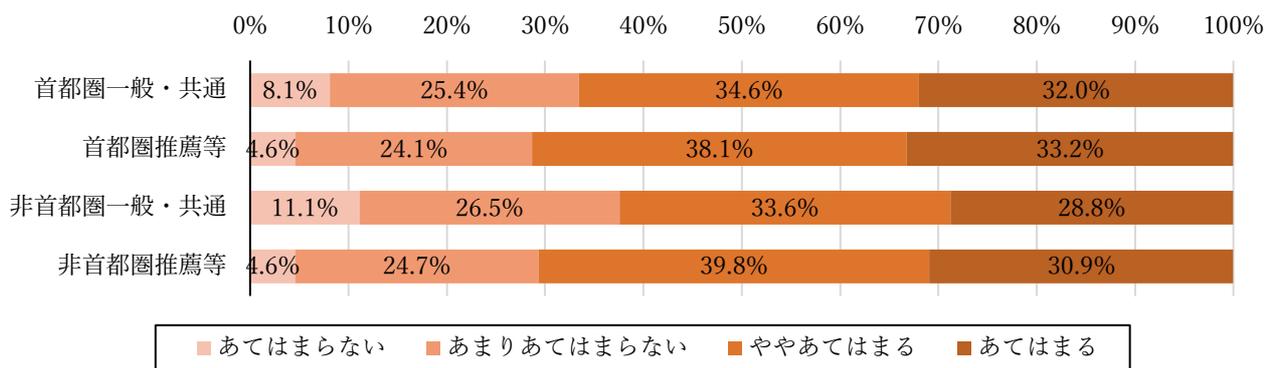


図3-66 異文化について学ぶ

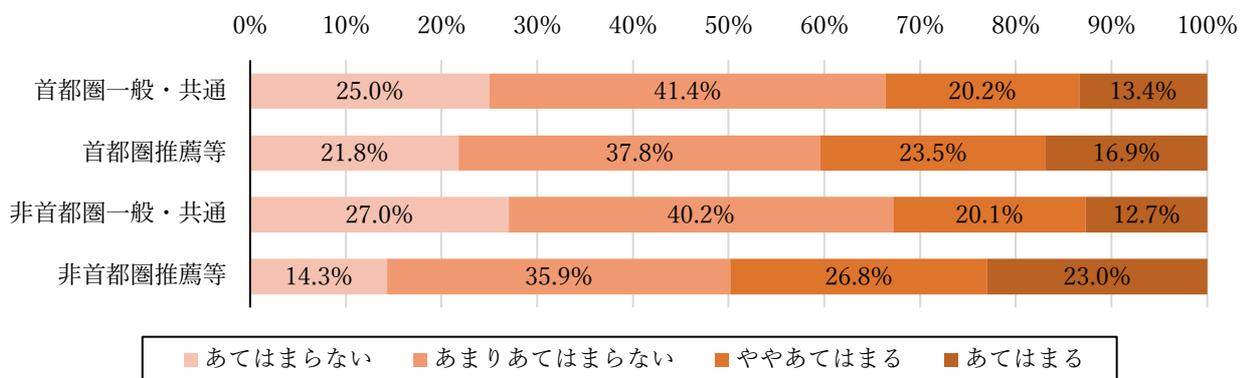


図3-67 ボランティアについて学ぶ

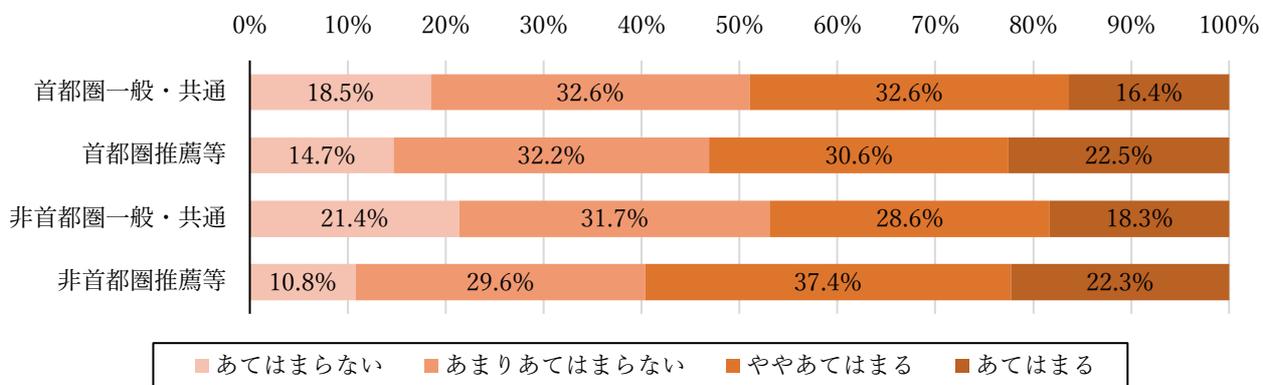


図3-68 キャリア形成について学ぶ

最後に、部活動や課外活動、リーダー経験、学習行動について分析する。部活動や課外活動は、非首都圏一般・共通の進学者がやや参加していない傾向にあるが、いずれのタイプも参加していた割合が8割を超えてる（図3-69～図3-70）。リーダー経験では、出身地域に関わらず推薦等が授業や部活動、課外活動においてよりリーダー的な役割を担ったと回答している。特に非首都圏推薦等は、部活動と課外活動でよりリーダー的な役割を担っている（図3-72～図3-73）。

科目別の学習状況については、文系科目（図3-74）では出身地域に関わらず一般・共通等の方が「あてはまる」の割合が6割を超えており、推薦等よりやや高い。理系科目（図3-75）については、首都圏推薦等の「あてはまる」の割合が46.1%と他のタイプよりやや高い。外国語科目（図3-76）については非首都圏推薦等の「あてはまる」が48.8%と他のタイプと比較してやや低い。

校内成績の自己認識（図3-78）では、高校3年時では、首都圏の場合、一般・共通が推薦等よりも相対的に低い関係にある。上述したような定期試験中の学習時間から考えれば、より上位の成績をとっていることと整合的である。他方で、非首都圏の場合、「上の方」の割合は一般・共通の方がより多い。

学習行動の面では出身地域に関わらず、推薦等の方が、一般・共通よりも、高い傾向にある。「授業で積極的に質問した」（図3-79）、「分からない点は先生に質問した」（図3-81）、「分からない点は友達に質問した」（図3-82）といった積極的かつ、他者に尋ねることを厭わない学習行動の肯定的な回答が高い。最も一般・共通と差があるのは、「課題は締切までに提出した」（図3-80）であり、推薦等では「よくあった」が9割弱である。これは勤勉的な学習行動と整理できるのか、あるいは推薦等の入試制度において学校の成績に関わることに起因する学習行動なのかは今後検証されて良い。

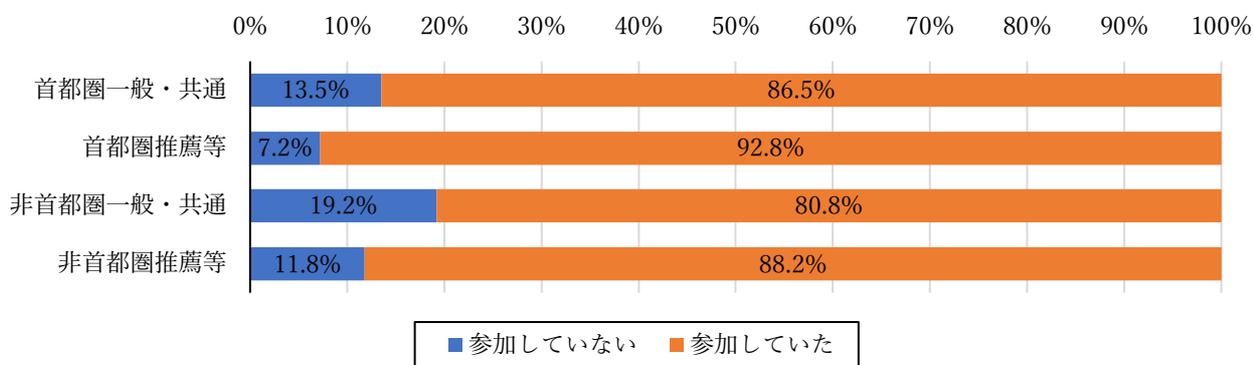


図3-69 部活動の参加

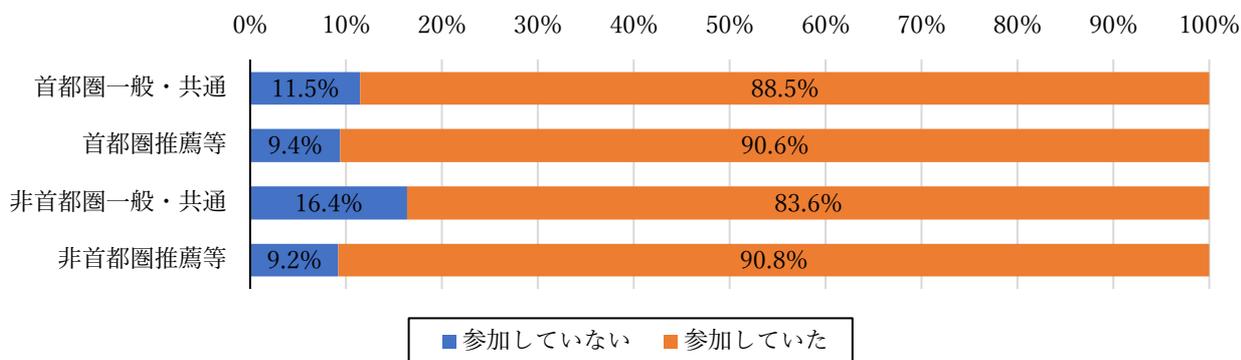


図3-70 課外活動（体育祭や文化祭、修学旅行、生徒会、地域活動、ボランティアなど）

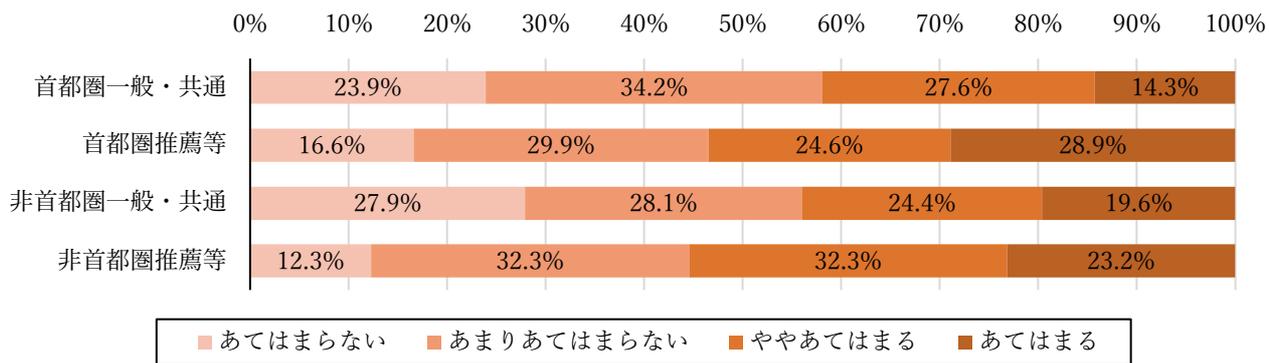


図3-71 高校生の頃を振り返り、リーダー的な役割を担いましたかー授業

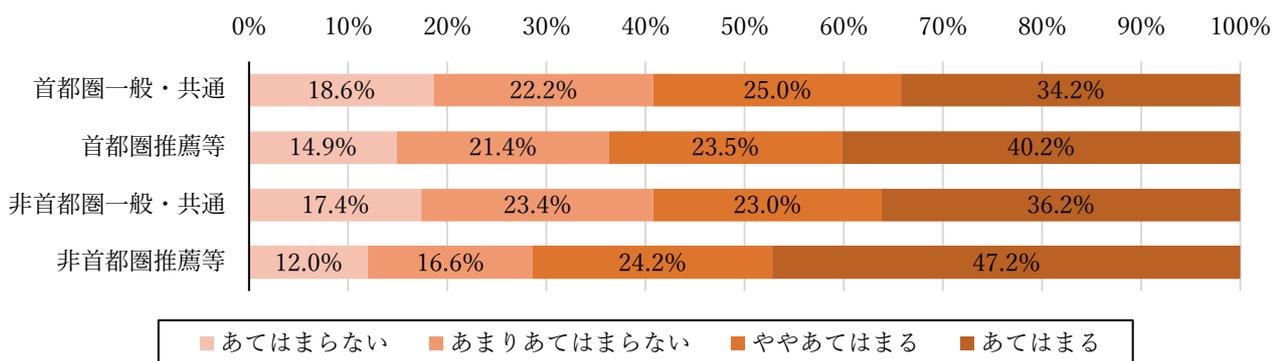


図3-72 高校生の頃を振り返り、リーダー的な役割を担いましたかー部活動

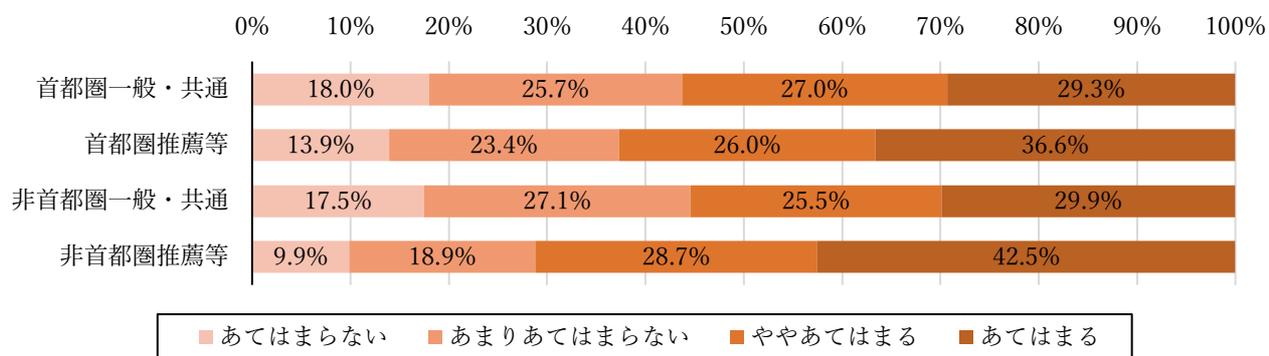


図3-73 高校生の頃を振り返り、リーダー的な役割を担いましたかー課外活動（体育祭や文化祭、修学旅行、生徒会、地域活動、ボランティアなど）

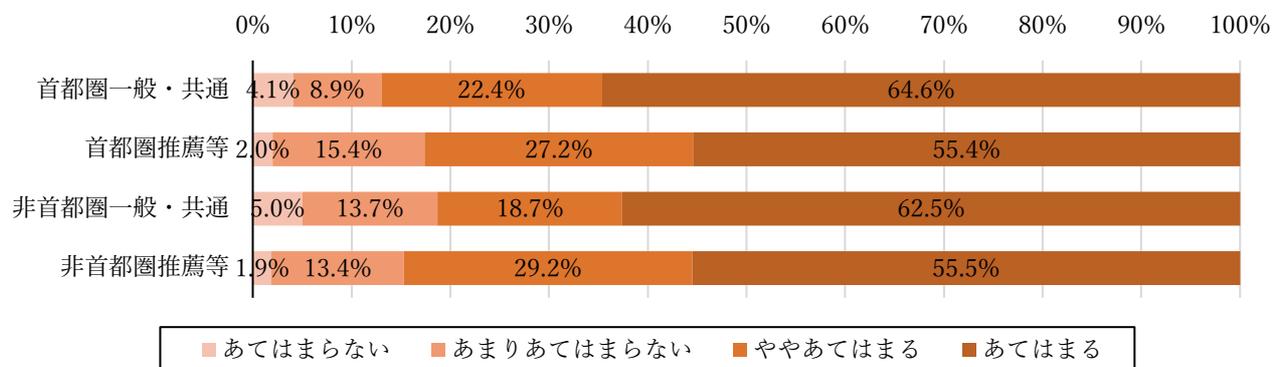


図3-74 文系科目（国語・地歴・公民等）についてしっかり学習した

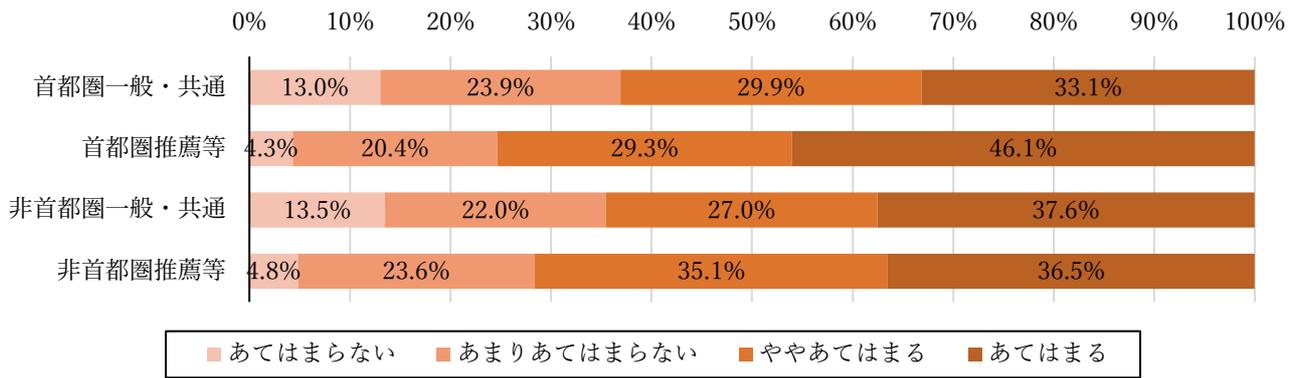


図3-75 理系科目（数学・理科等）についてしっかり学習した

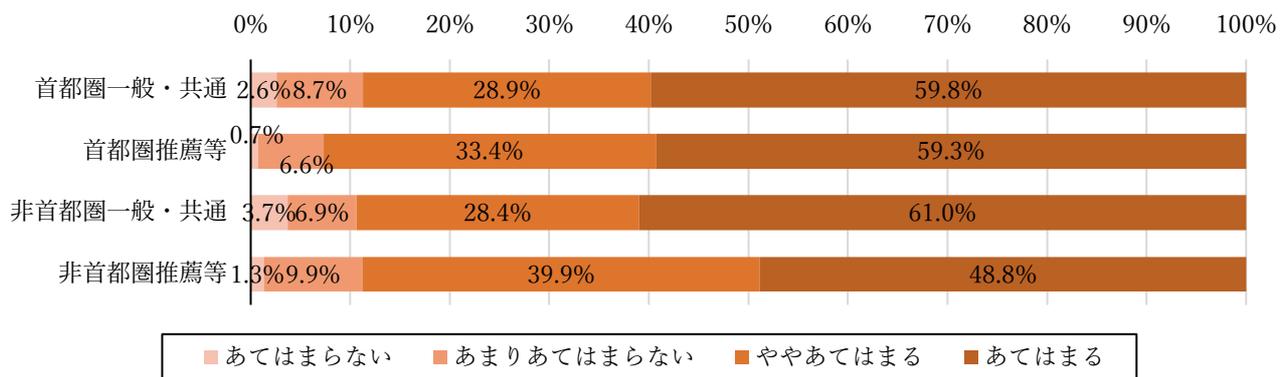


図3-76 外国語科目（英語等）についてしっかり学習した

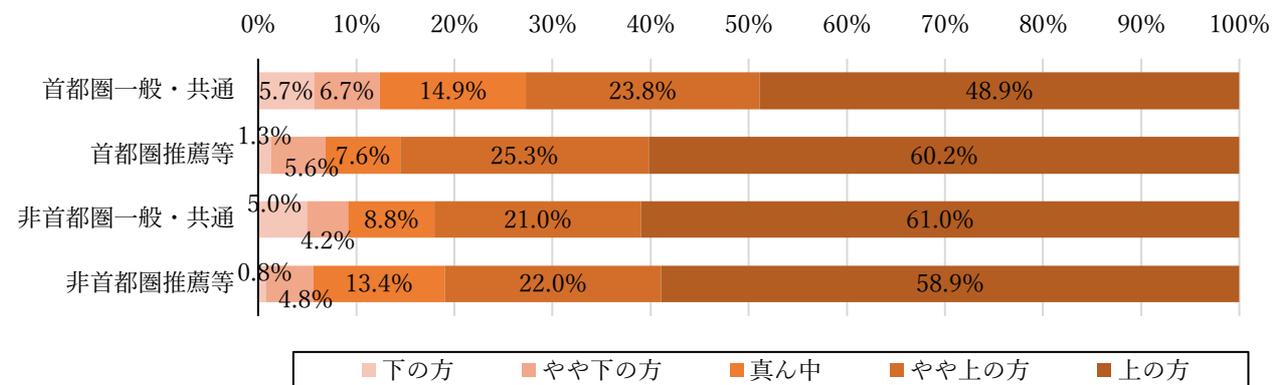


図3-77 校内成績 中学3年の時

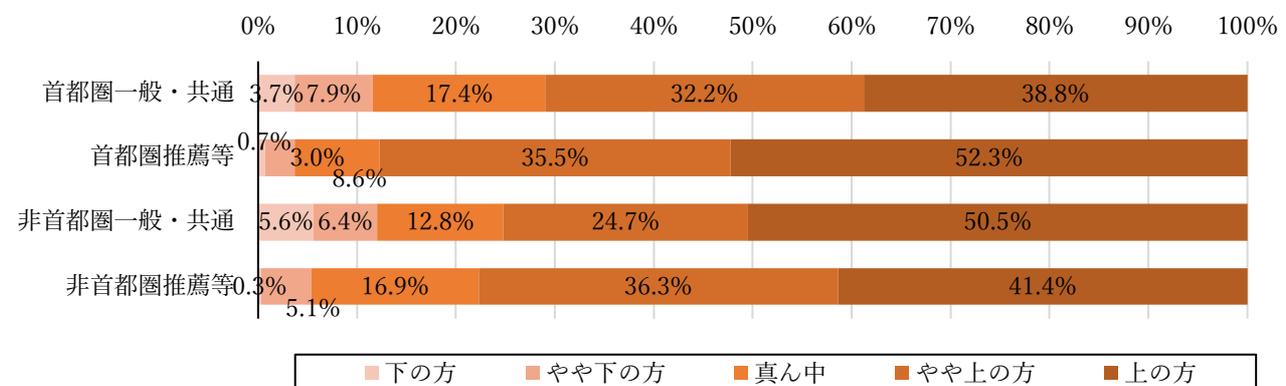


図3-78 校内成績 高校3年の時

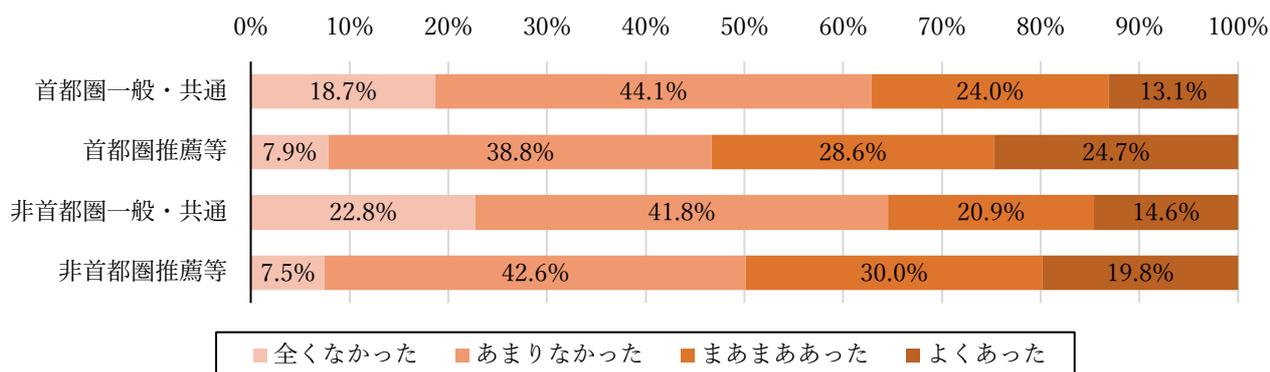


図3-79 授業で積極的に質問した

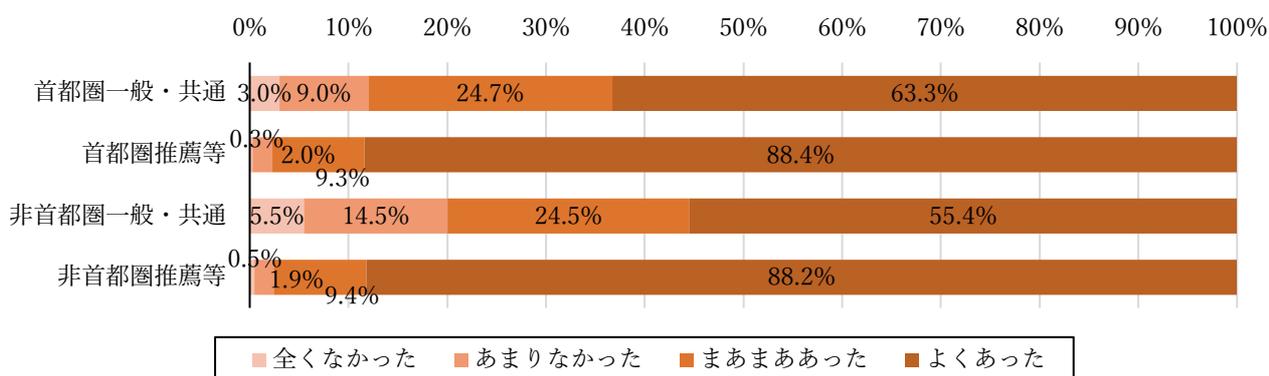


図3-80 課題は締切までに提出した

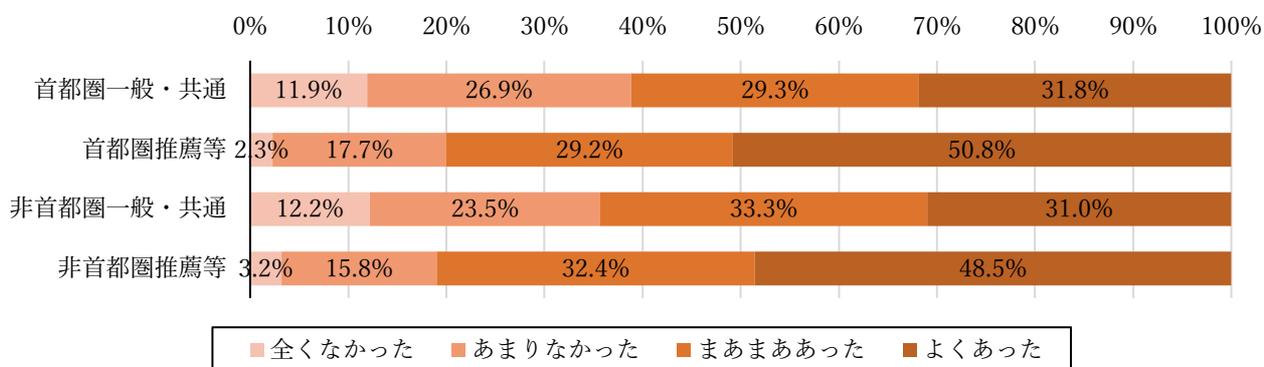


図3-81 分からない点は先生に質問した

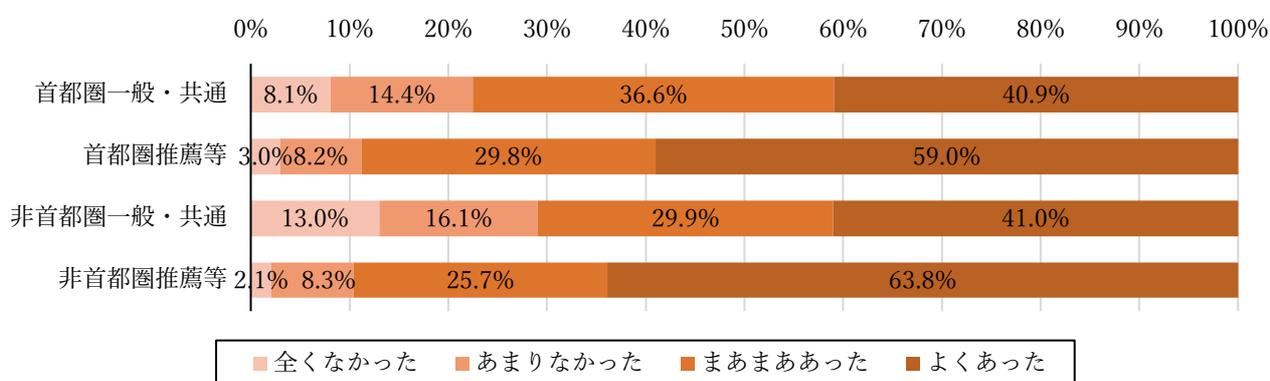


図3-82 分からない点は友達に質問した

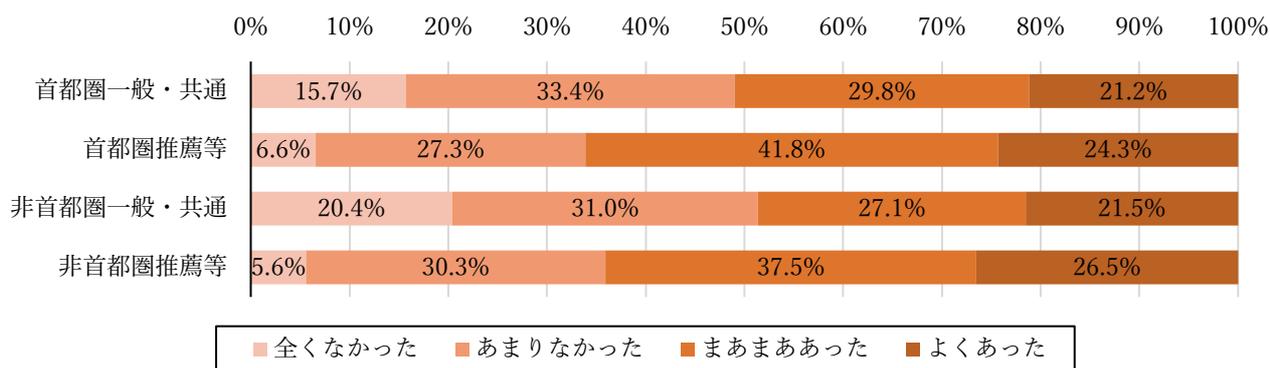


図3-83 勉強の妨げになるものを遠ざけた

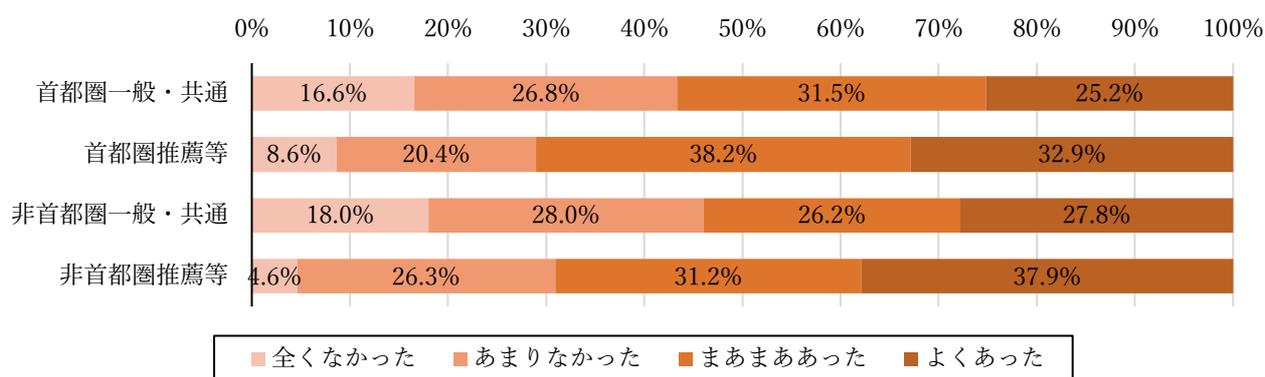


図3-84 時間を決めて勉強した



図3-85 高校生活について、10点満点で満足度得点を付けるとすれば、何点になりますか。

3-7. まとめ

本章では、学部新入生を対象に、首都圏（埼玉、千葉、東京、神奈川）出身入学者と非首都圏出身入学者（地方出身入学者と呼ぶ）の比較分析を行い、それぞれの特徴を明らかにすることを目的とした。具体的には、今回用いたタイプについて整理した上で（3-2）、志望理由（3-3）、進学までのプロセス（3-4）、進学理由（3-5）、高校までの学習（3-6）について4つのタイプごとに記述分析を行った。

学びという点で述べれば、出身地域に関わらず、一般・共通よりも推薦等の方がより高校時に主体的な学びを実践できており、かつ早稲田大学と入学学部が第一志望で、アドミッション・ポリシーはじめ必要

な情報をより収集している傾向にある。出願を決めた時期についても、推薦等の場合は、「高校1年の時」と「高校2年の時」の割合がより高い。つまり、早稲田大学と入学学部の学校推薦型等の制度があつて、それを利用するために学習に励むのではなく、出願を早い段階で想定し、定期試験期間中により勉強するなかで、たまたま利用可能な入試制度があつた（図3-55）と説明できるのではないか。

他方で、出身地域間に差がある項目もある。たとえば、早稲田大学を志望した理由として、奨学金の受給可能性（図3-22）を、非首都圏推薦等がより魅力を感じている。また、学生へのケアやサポート体制（図3-23）やOB・OGの結束力、OB・OG会の社会的影響力（図3-26）についても非首都圏推薦等が「とても魅力に感じ」ている割合が高い。また、非首都圏一般・共通では「ほとんど影響を受けなかった」の割合が高く、かつ「学校や会社の友人・同僚・先輩」で「ほとんど影響を受けなかった」の割合も高く、学校の中で早稲田大学への出願意思が形成されてはいない層が多かつた。

第4章 大学院新入生の分析

4-1. 本章の目的

本章では、新入生のなかでも大学院新入生を対象に、入学までのプロセスを記述分析していく。今回の調査データからは、1,000名以上の学生の回答が得られた。内訳は、図4-1のように文系修士、理系修士合せて86.3%、残りは文系、理系博士の回答であった。

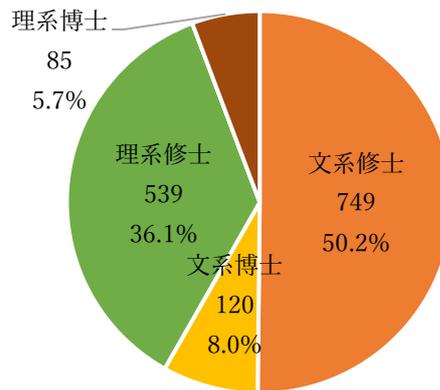


図4-1 本調査データの大学院新入生の割合（文理・課程別）

以下では、この文理別、課程別に分けた4つのタイプごとに記述分析をしていく。

4-2. 入学時の意識・能力の分析

本節では、大学院新入生の入学時点での意識や能力について見ていく。まず、大学院や研究科の志望度であるが、大学については、文理・課程に関わらず9割程度が第一志望である（図4-2）。研究科については、理系の場合、修士で第一志望ではなかった割合が16.6%、博士では21.1%と比較的高い（図4-3）。

大学院や研究科のAP認知については、「やや知っていた」、「よく知っていた」を見ると、理系修士を除くと6割程度は認知している（図4-4、図4-6）。理系修士の場合、大学院、研究科のAPそのもの知らないという割合が20%弱と他タイプと比較してやや多い。一方、大学院、研究科APに対する理解（共感）という点ではいずれのタイプも「少し理解（共感）できる」、「大いに理解（共感）」合せて8割以上となっている（図4-5、図4-7）。

入学時点での専門知識、能力の修得状況を早稲田大学の学部DPの観点から尋ねた項目については、文理に関わらず、ほとんどの項目で修士よりも博士の方が肯定的な回答が高い傾向にある（図4-8～図4-17）。特徴として「物事を論理的に考えることができる」（図4-10）や「課題の解決方法を提案できる」（図4-11）は、理系博士が文系博士よりも「身につけている」の割合がより大きい。一方、文系博士は「健全に批判することができる」（図4-15）や「異文化を理解できる」（図4-17）で「身につけている」の割合が理系博士より大きく、「外国語を理解し、話せる」の割合の肯定的な回答の割合も高い。

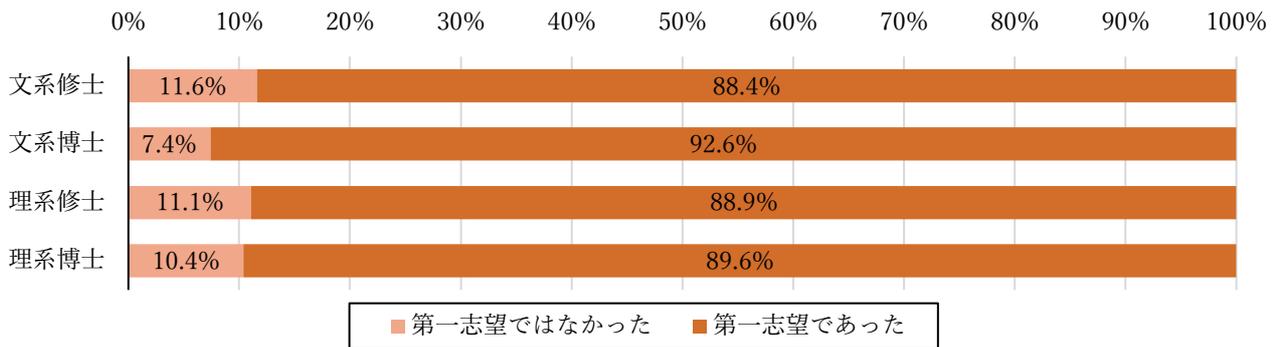


図 4 - 2 大学院志望度

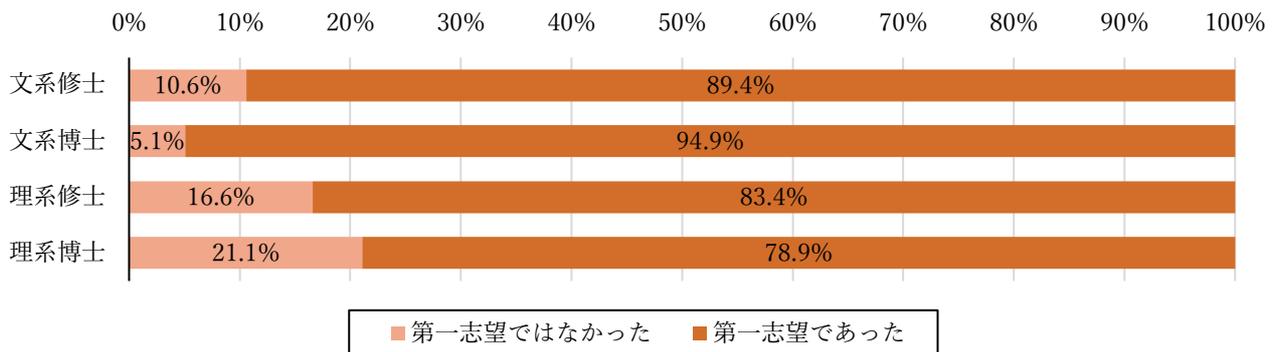


図 4 - 3 研究科志望度

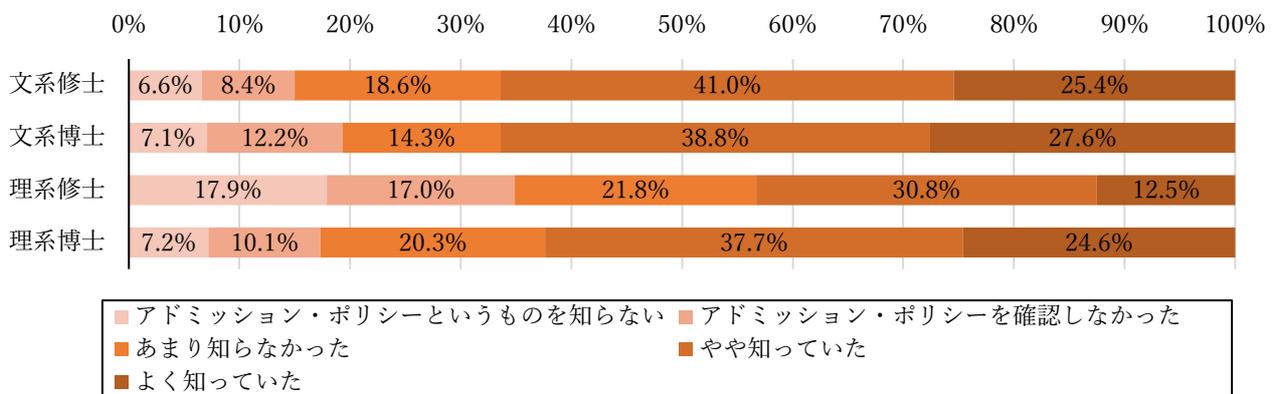


図 4 - 4 早稲田大学大学院の AP 認知度

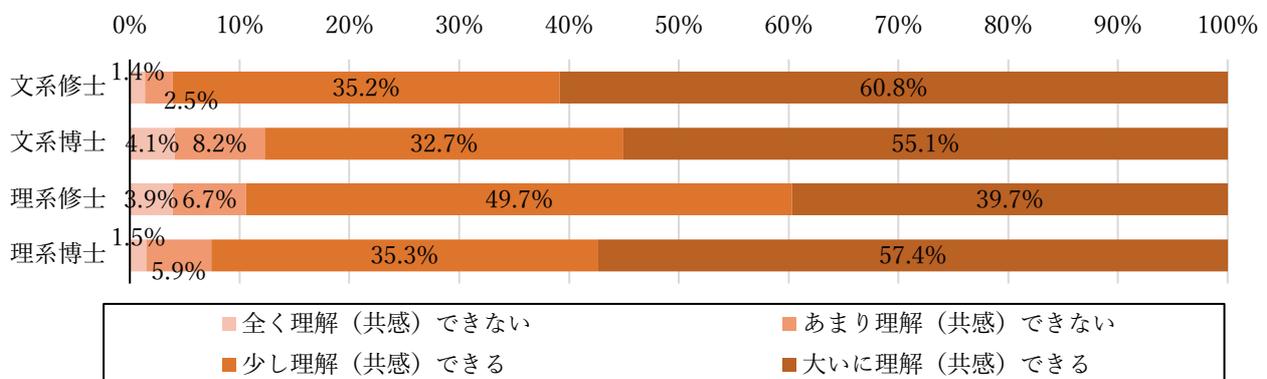


図 4 - 5 早稲田大学大学院の AP に対する理解 (共感)

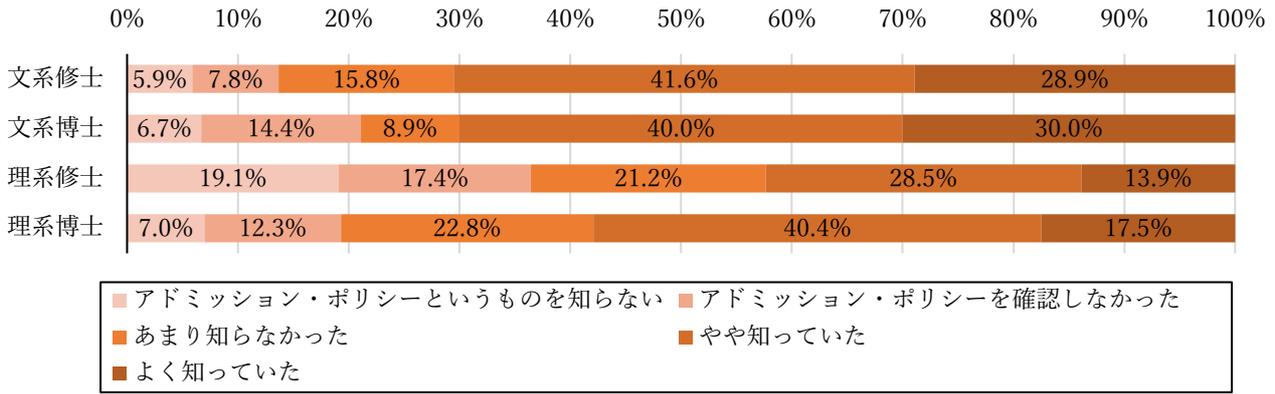


図 4-6 研究科の AP 認知度

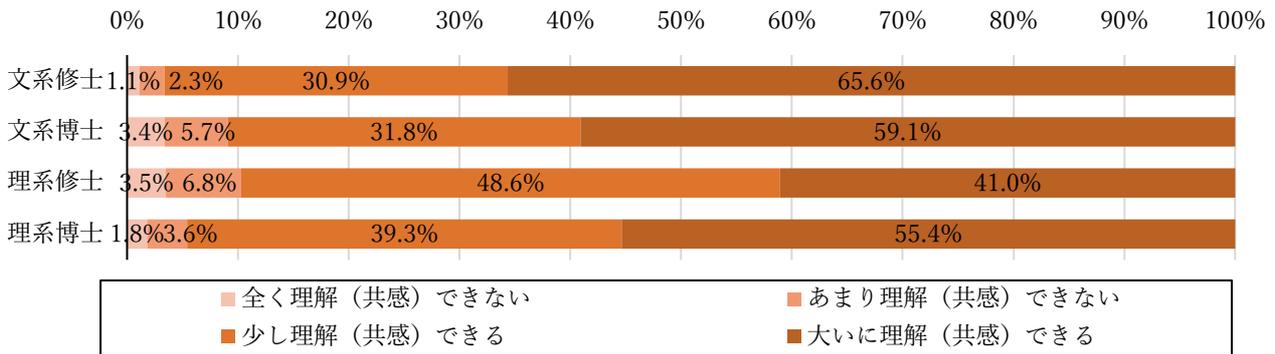


図 4-7 研究科の AP に対する理解（共感）

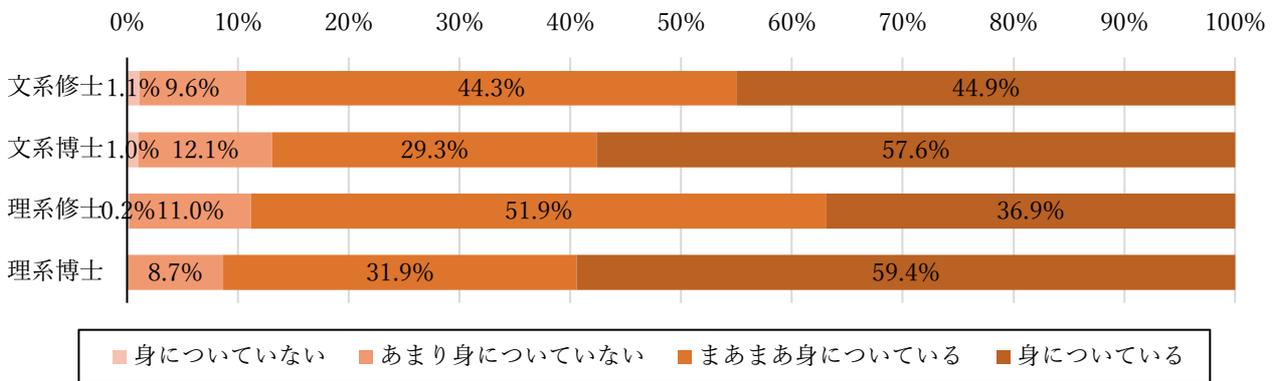


図 4-8 新しいことに挑戦できる

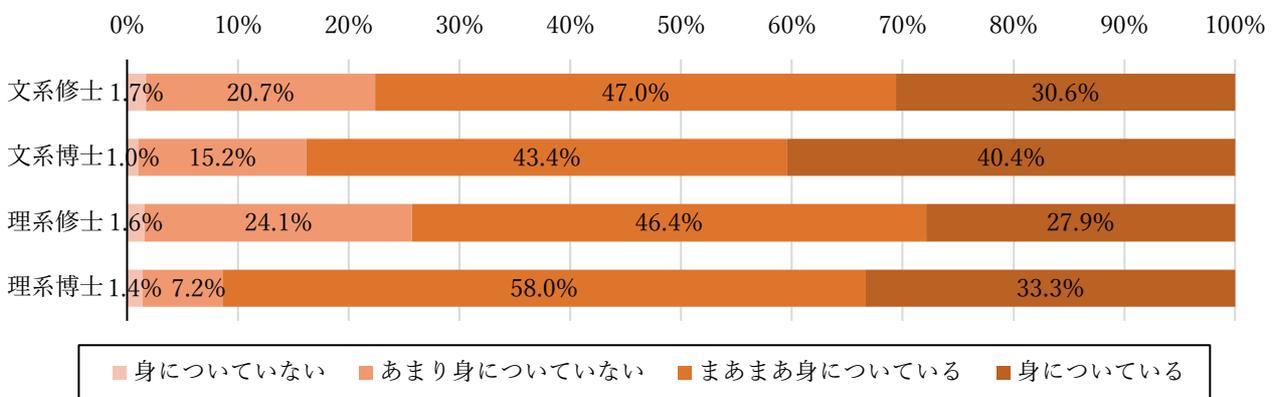


図 4-9 既存の考え方にとらわれず、新しいアイデアを生み出せる

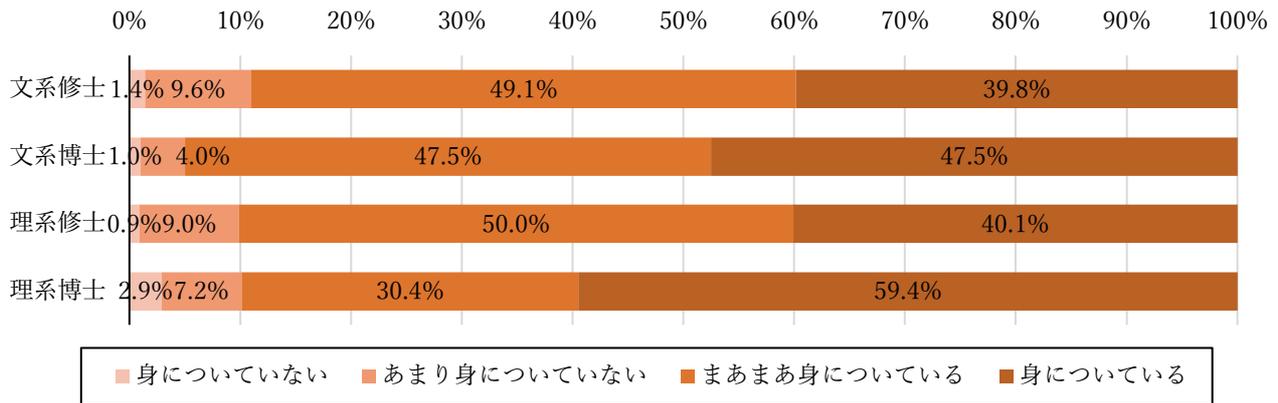


図4-10 物事を論理的に考えることができる

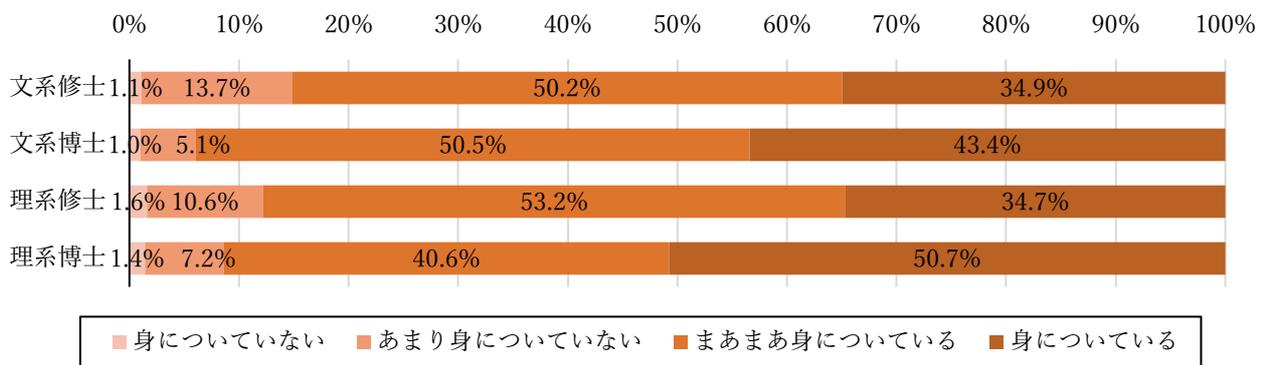


図4-11 課題の解決方法を提案できる

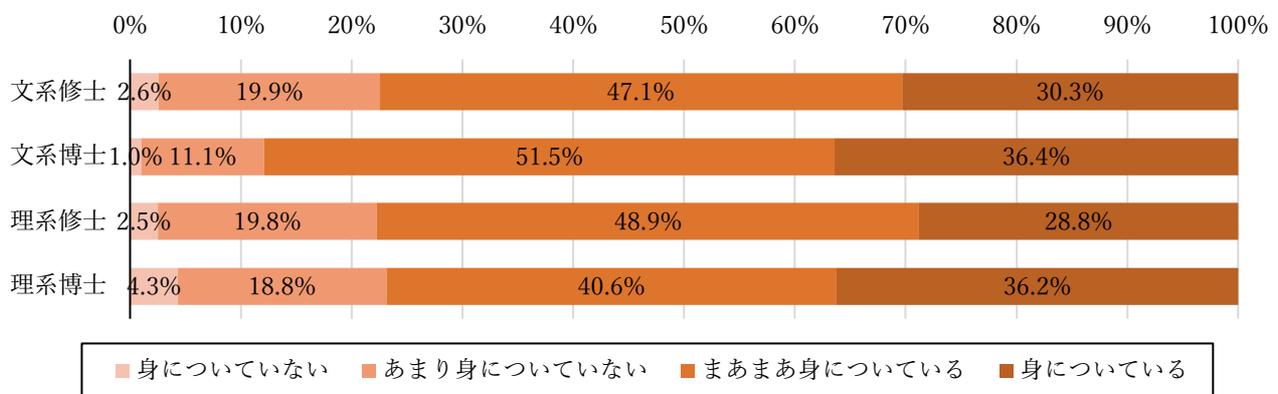


図4-12 自分の考えを分かりやすく表現できる

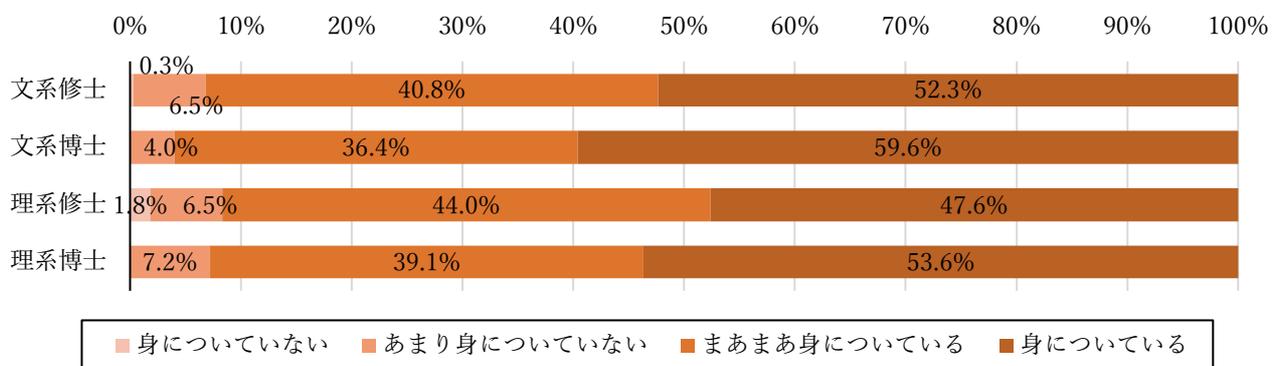


図4-13 相手の状況や考え方を尊重できる

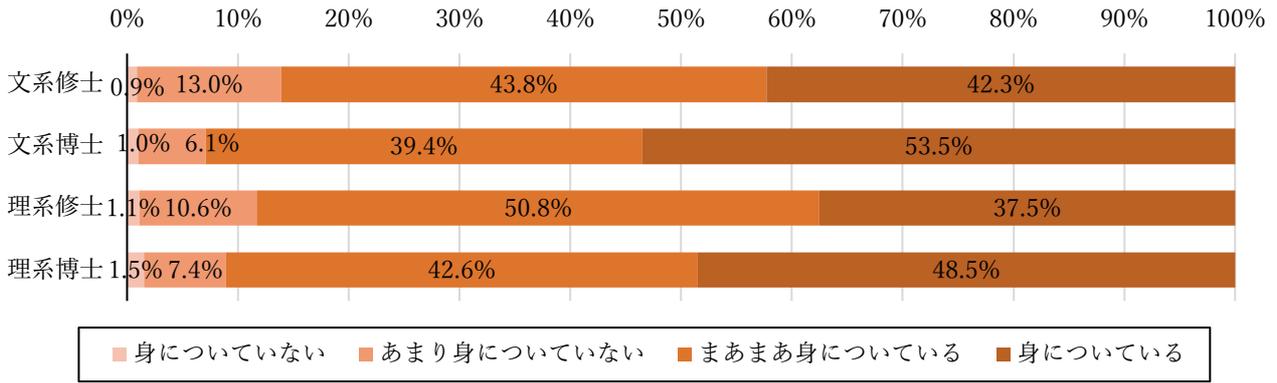


図 4-14 物事を多面的に考えることができる

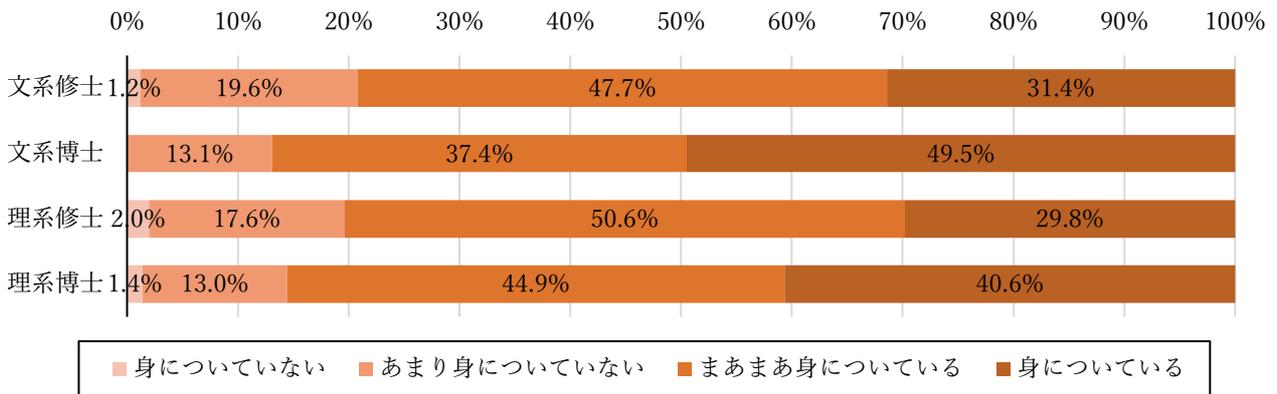


図 4-15 健全に批判することができる

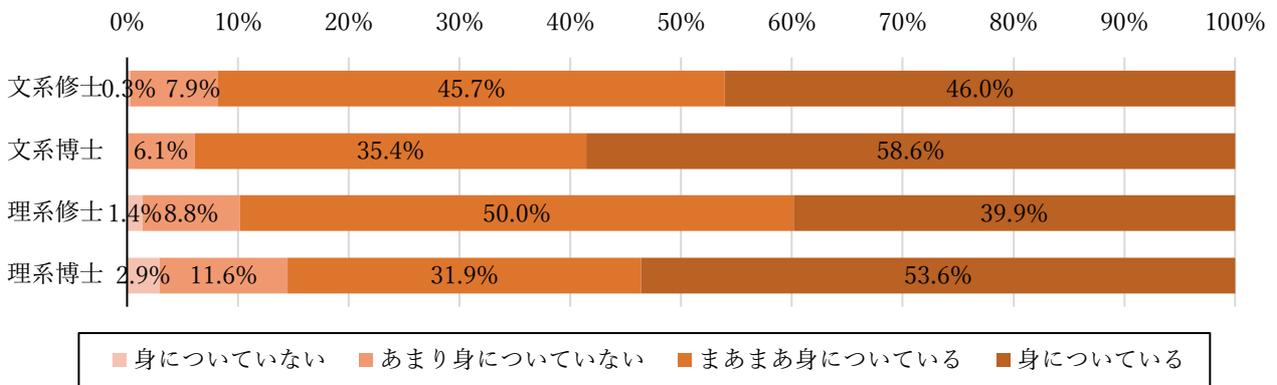


図 4-16 公正な視点で多様性を受け入れられる

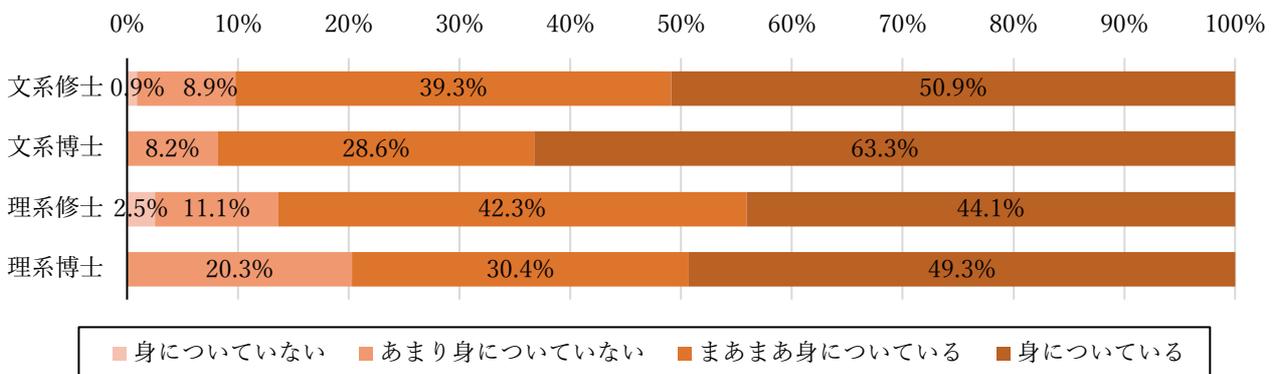


図 4-17 異文化を理解できる

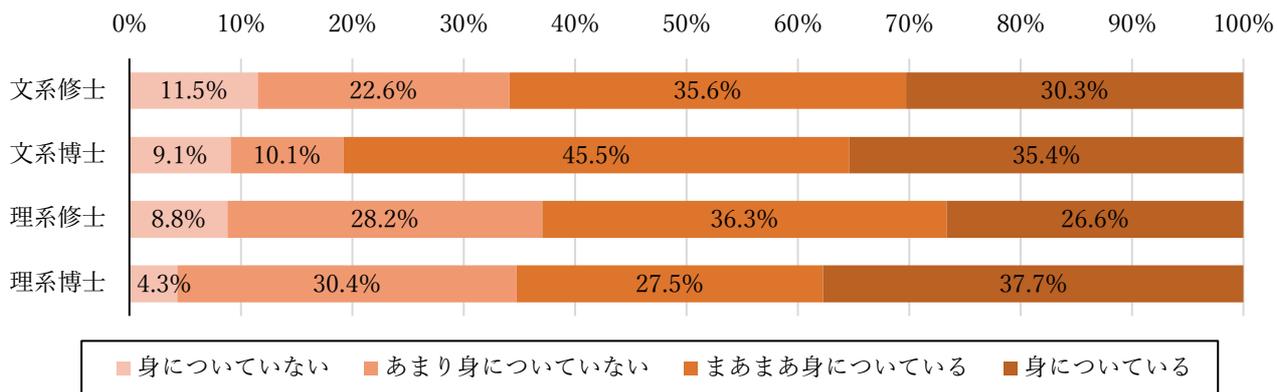


図4-18 外国語を理解し、話せる

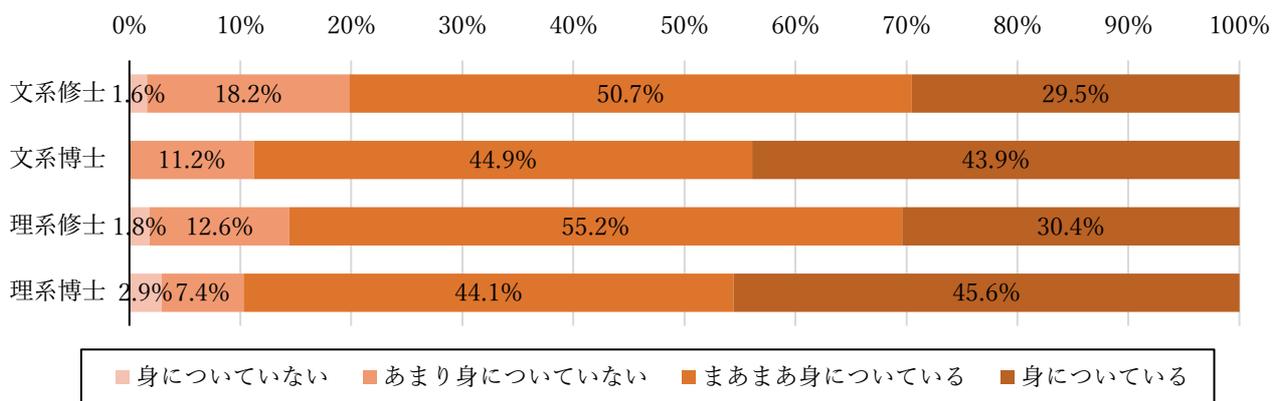


図4-19 自身の専門に関する知識

4-3. 志望理由と出願に影響を受けた人・情報源の分析

本節では、早稲田大学大学院を志望した理由について見ていく。

まず「あなたは『学び・研究に関する点』について、どのような点に魅力を感じて早稲田大学を志望しましたか？」という質問文の項目を見ていく（図4-20～図4-28）。文系と理系を比較すると「特定の分野の専門性を高める体系的カリキュラム」（図4-20）、「教員数と学生数の比率、少人数・双方向型授業の実施状況」（図4-24）といった学習、研究環境に文系の方がより魅力を感じている。博士課程では「国際的な教育環境（英語による授業、留学生と共に学べる環境）、キャンパス内での国際交流の機会」（図4-25）の回答が文理を問わずより高い傾向にある。

次に「あなたは『進路・学生生活・イメージに関する点』について、どのような点に魅力を感じて早稲田大学を志望しましたか？」という質問文の項目を見る（図4-29～図4-34）。

課程で違いが大きいのは「奨学金の受給可能性」（図4-30）であり、文理に関わらず修士よりも博士の方がより魅力を感じて早稲田大学大学院を志望している。また「学生へのケアやサポート体制」（図4-31）という点では理系修士の「とても魅力的に感じた」が他のタイプと比較すると低い傾向にある。「OB・OGの結束力、OB・OG会の社会的影響力」（図4-34）という点では、文系博士の肯定的な割合が他のタイプと比較してやや低い。

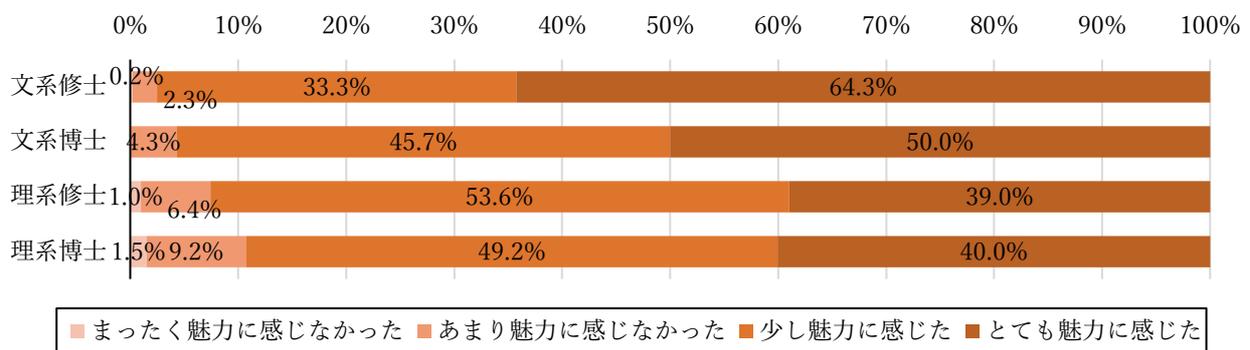


図4-20 特定の分野の専門性を高める体系的カリキュラム

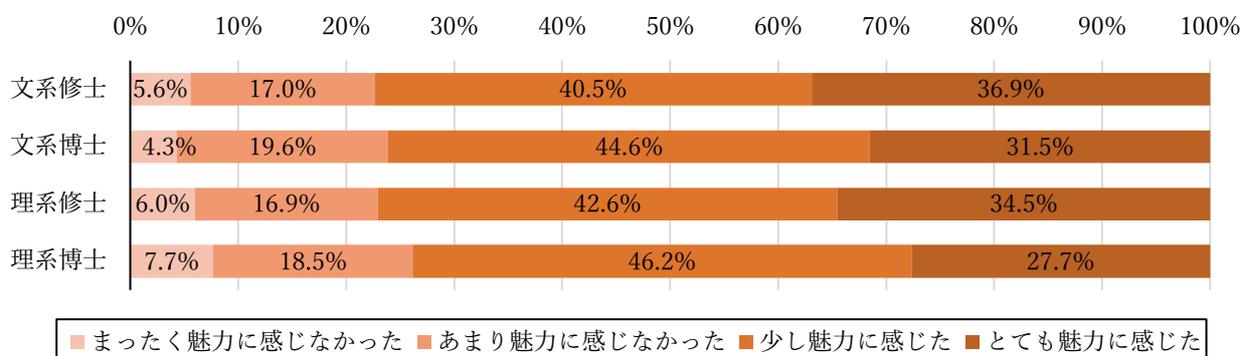


図4-21 入学後一定期間を経てから学科・専攻を決められる教育システム

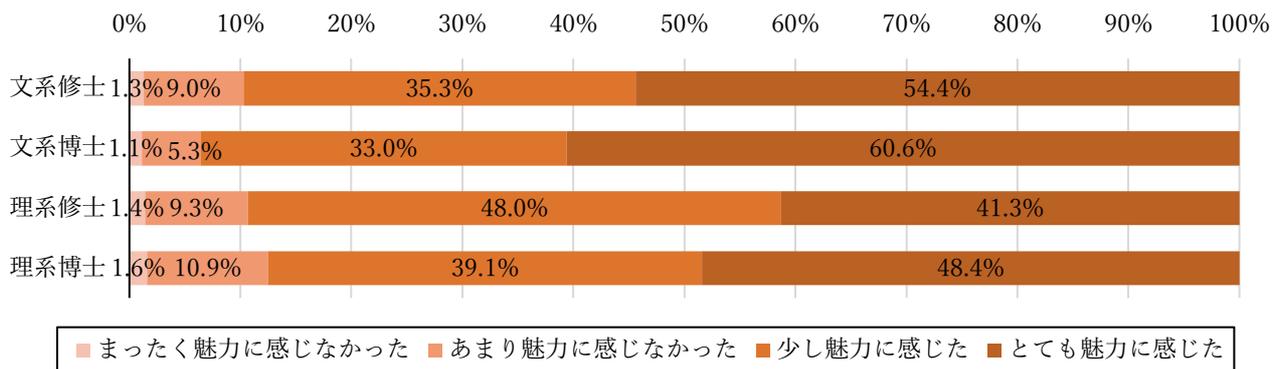


図 4-22 複数の分野に跨って学べる学際的カリキュラム、全学的な教育システム

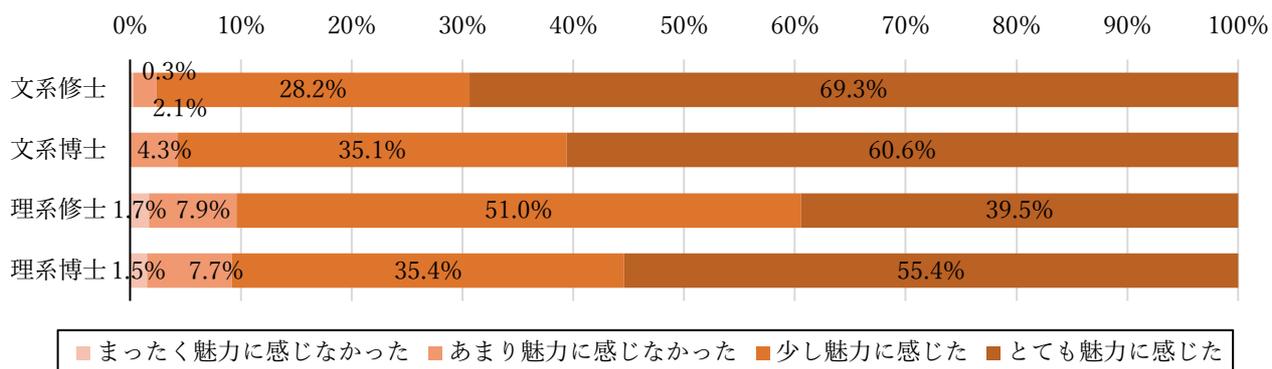


図 4-23 教員の全体的なレベル

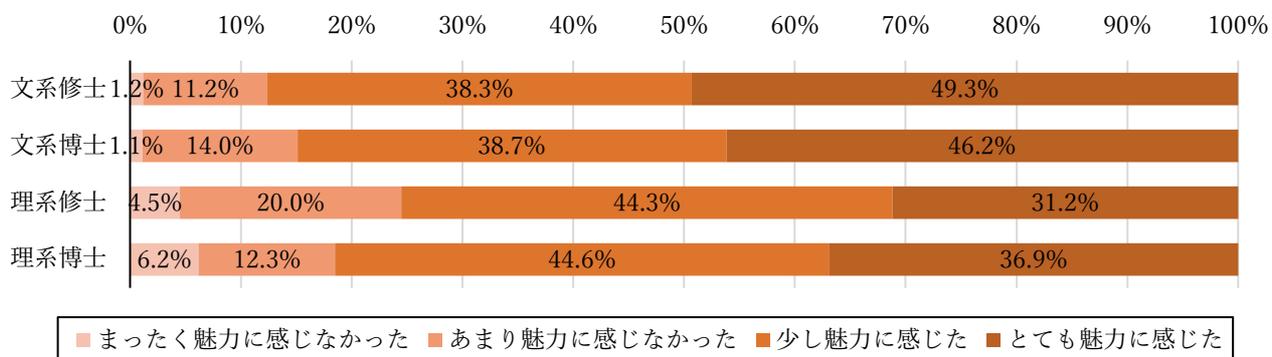


図 4-24 教員数と学生数の比率、少人数・双方向型授業の実施状況

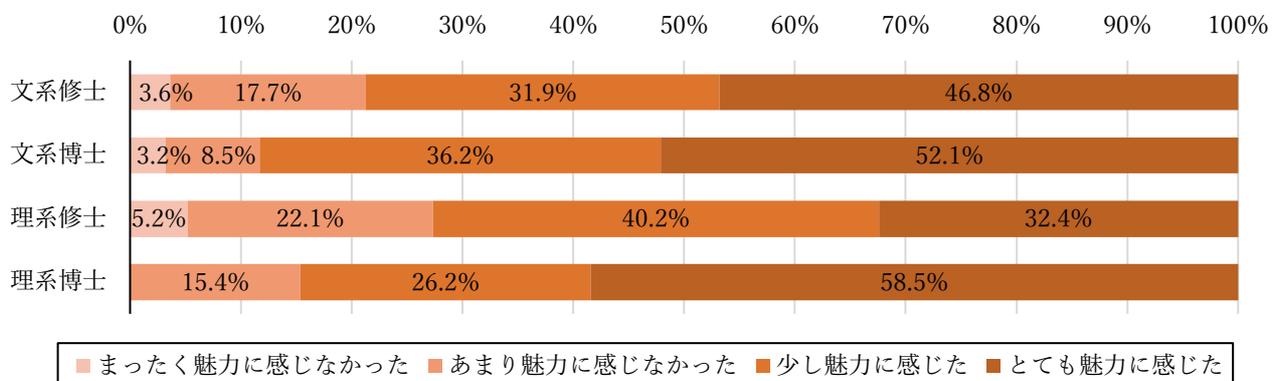


図 4-25 国際的な教育環境（英語による授業、留学生と共に学べる環境）、キャンパス内での国際交流の機会

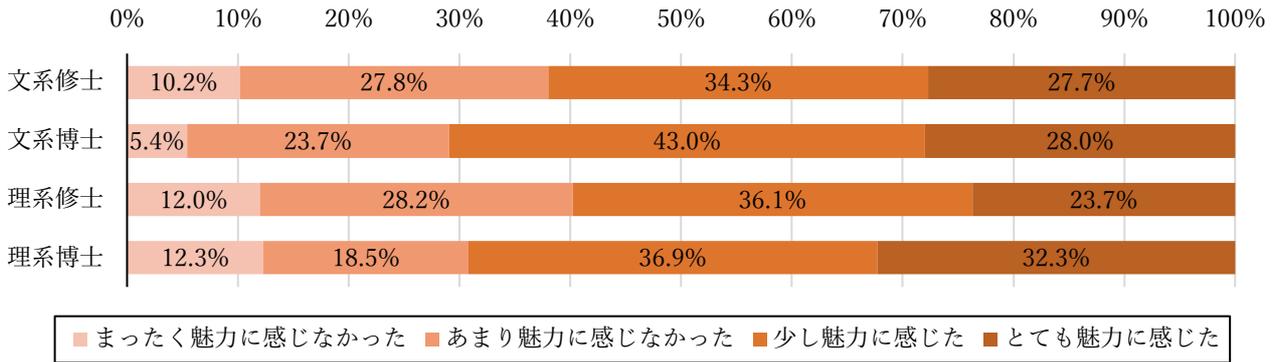


図4-26 留学制度

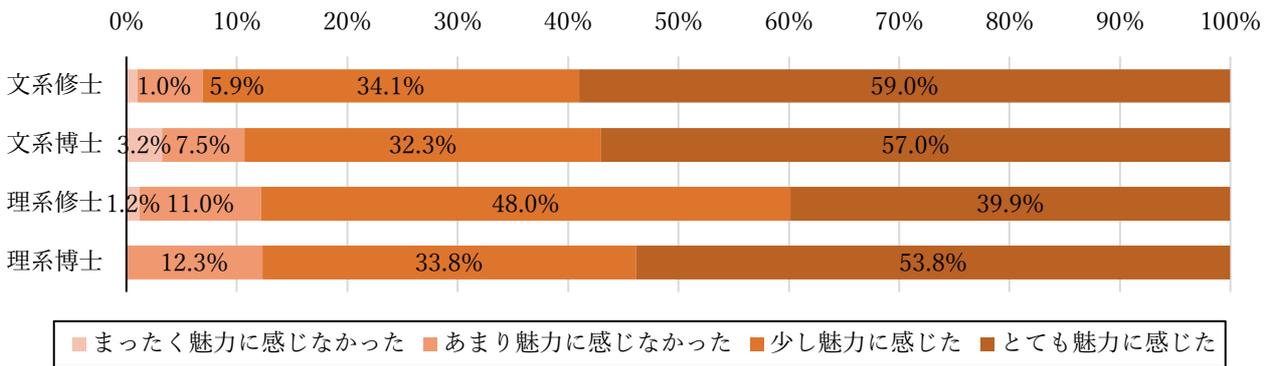


図4-27 大学としての研究レベル（大学ランキング、研究資金獲得実績等）、研究環境

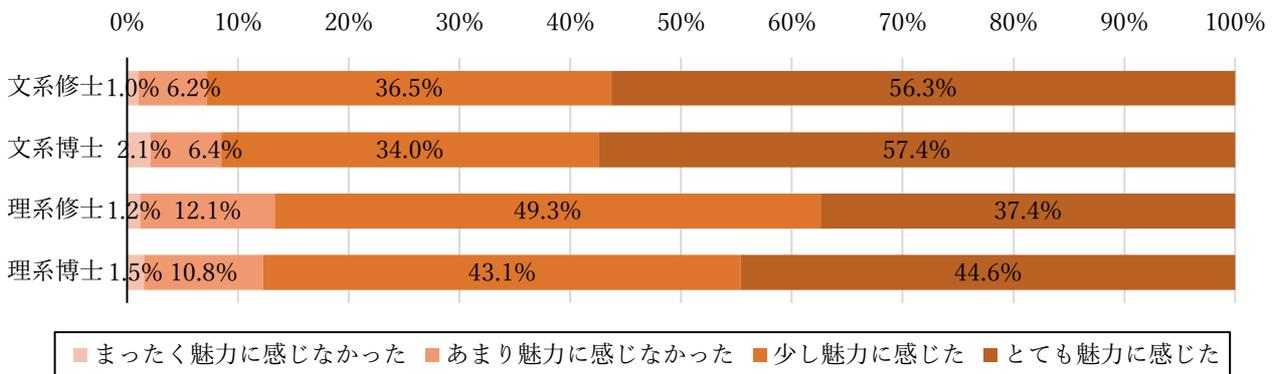


図4-28 施設・設備

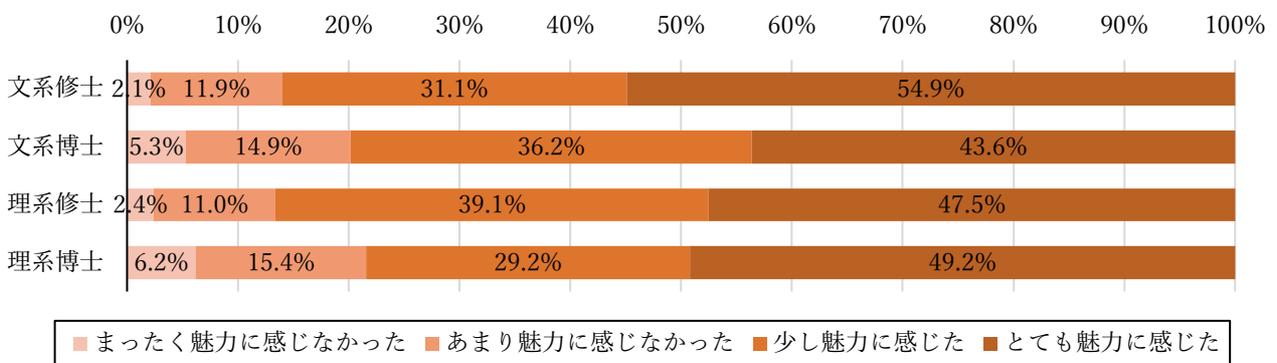


図4-29 学生数の多さ・学生の多様性、それに伴う大学全体の活気・交友関係の広がり

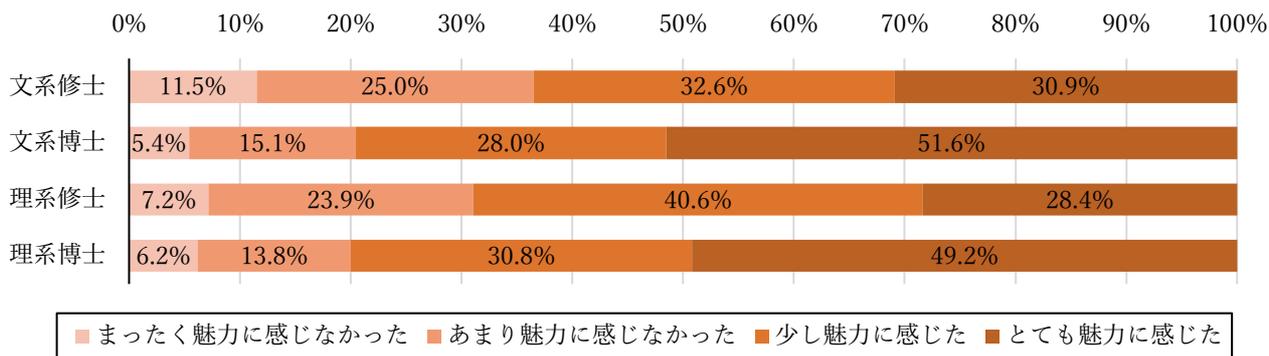


図 4-30 奨学金の受給可能性

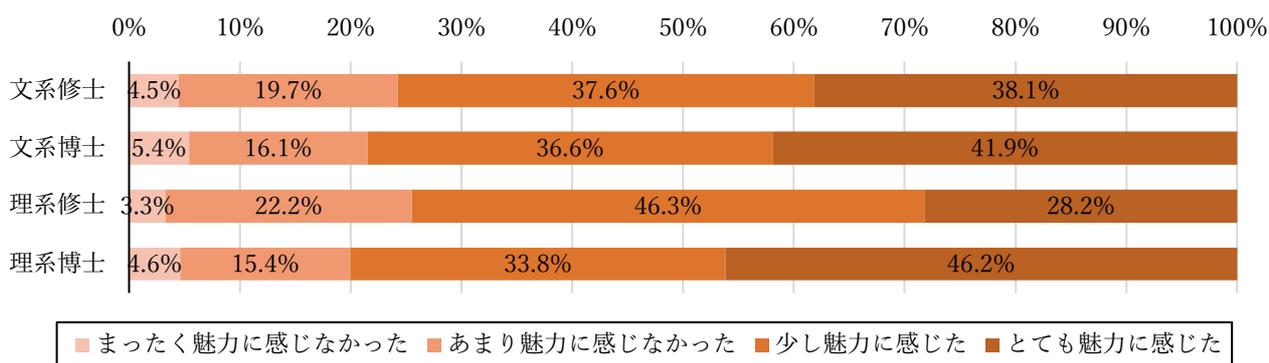


図 4-31 学生へのケアやサポート体制

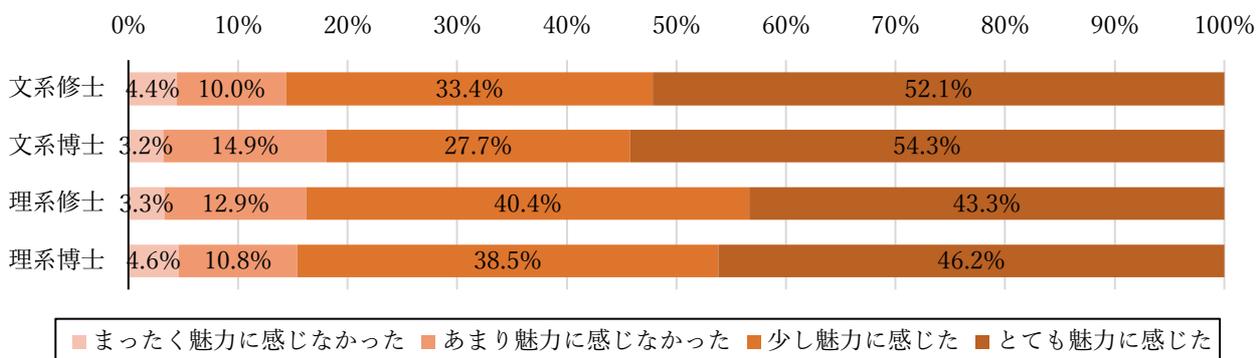


図 4-32 歴史・伝統・スクールカラー

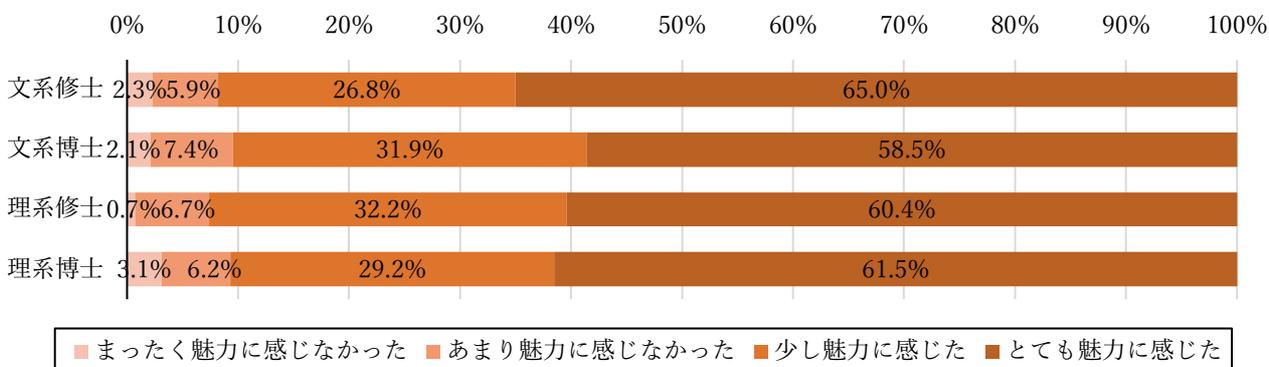


図 4-33 知名度・ブランド力

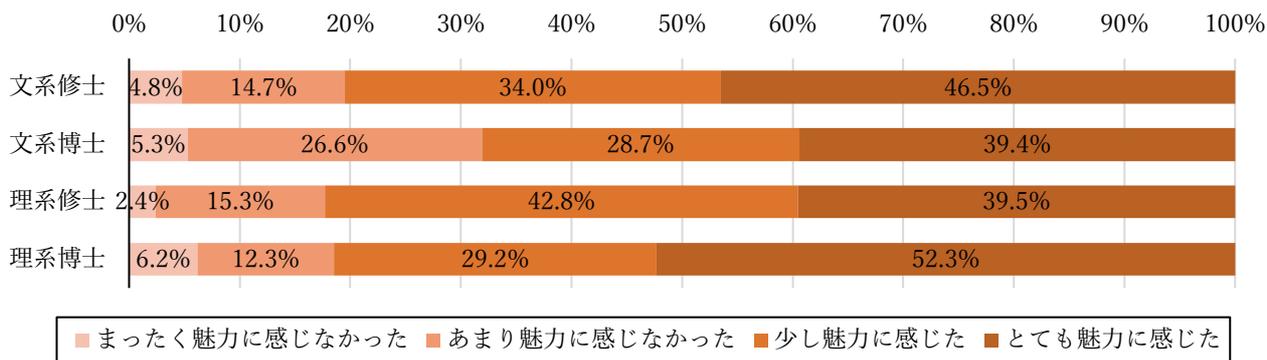


図 4-34 OB・OGの結束力、OB・OG会の社会的影響力

次に、大学院の出願を決定した時期(図 4-35)については、理系修士のみ、「学部入学前まで」(24.8%)と「出願の1年前まで」(34.1%)の割合が高く、修士課程をより早い段階で想定している。出願の決定に影響を受けた人という点では、父親(図 4-36)、母親(図 4-37)では課程に関わらず、理系のほうが「少し影響を受けた」と回答する割合が高い。文系では「ほとんど影響を受けなかった」と回答する割合が半数以上となっており、文理の違いを見ることができる。「活躍している卒業生や著名な教員」(図 4-42)では理系修士が他のタイプと比較してやや影響を受けたと回答する割合が小さい。

出願の決定に影響を受けた情報源という点では、文系では現在籍学部・研究科の Web サイト(図 4-48)がより高い。

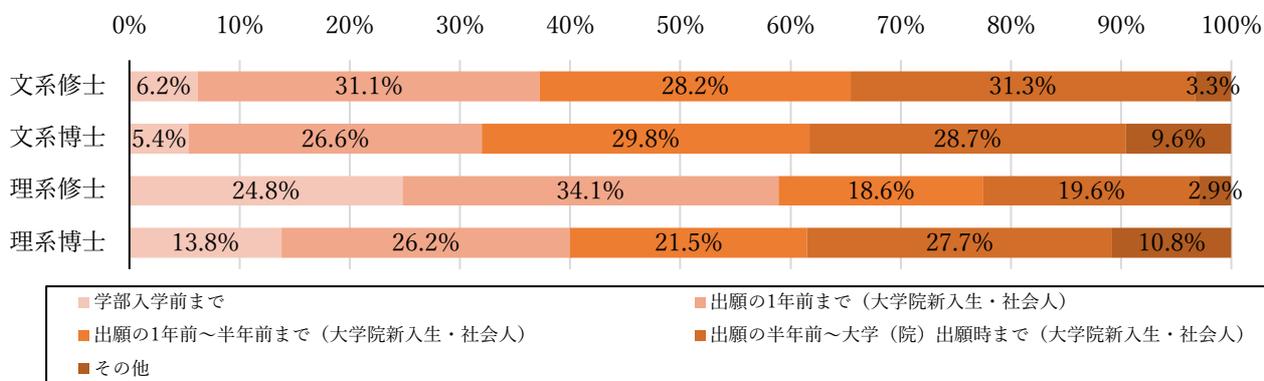


図 4-35 早稲田大学・大学院の現在籍学部・研究科への出願を決定した時期

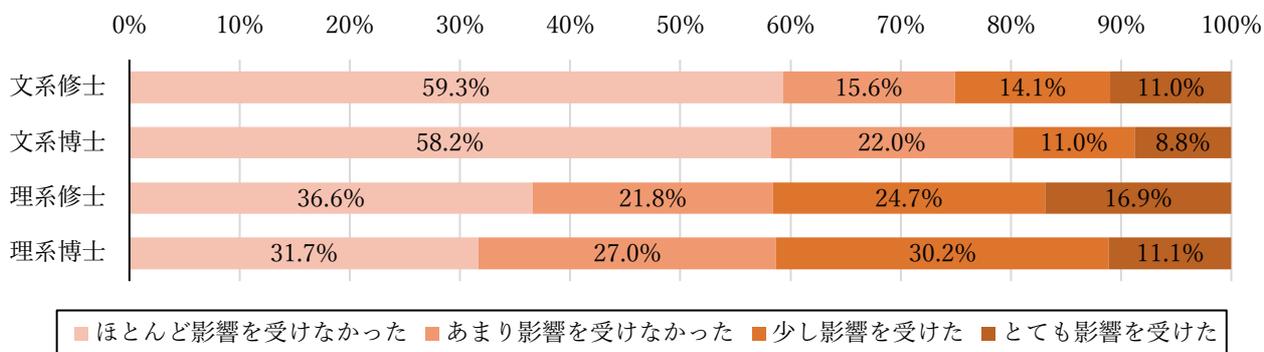


図 4-36 出願の決定に影響を受けた人—父親

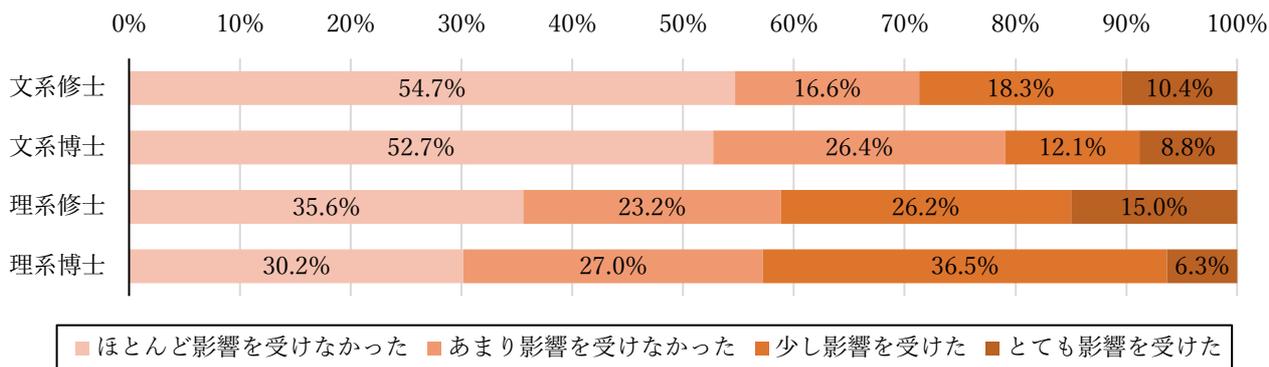


図 4-37 出願の決定に影響を受けた人—母親

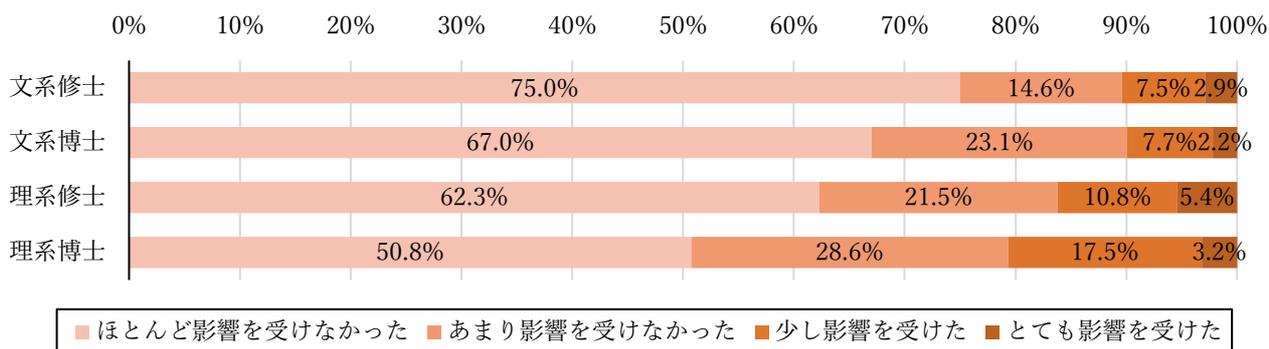


図 4-38 出願の決定に影響を受けた人—兄弟・姉妹

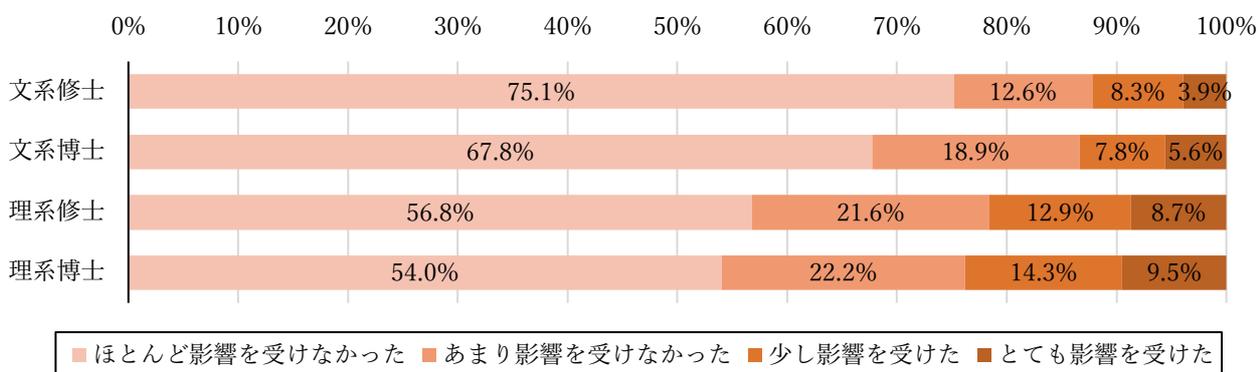


図 4-39 出願の決定に影響を受けた人—高校の先生

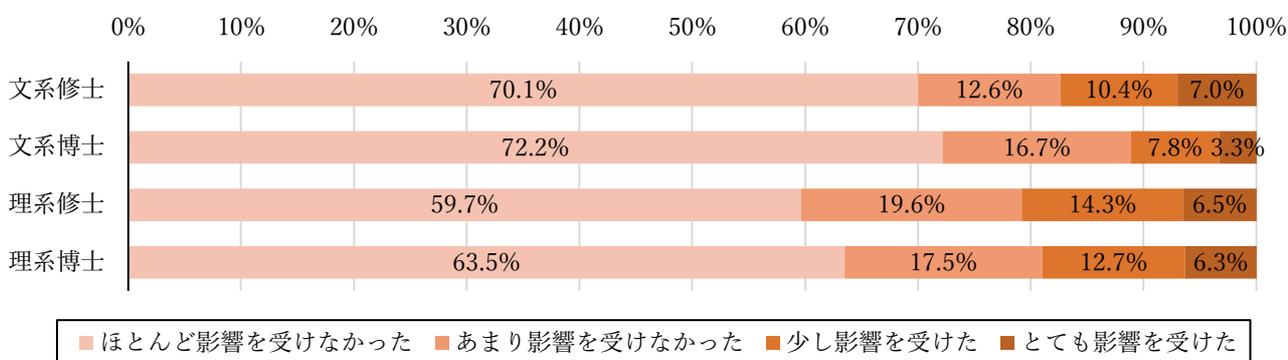


図 4-40 出願の決定に影響を受けた人—予備校・塾の先生、スタッフ

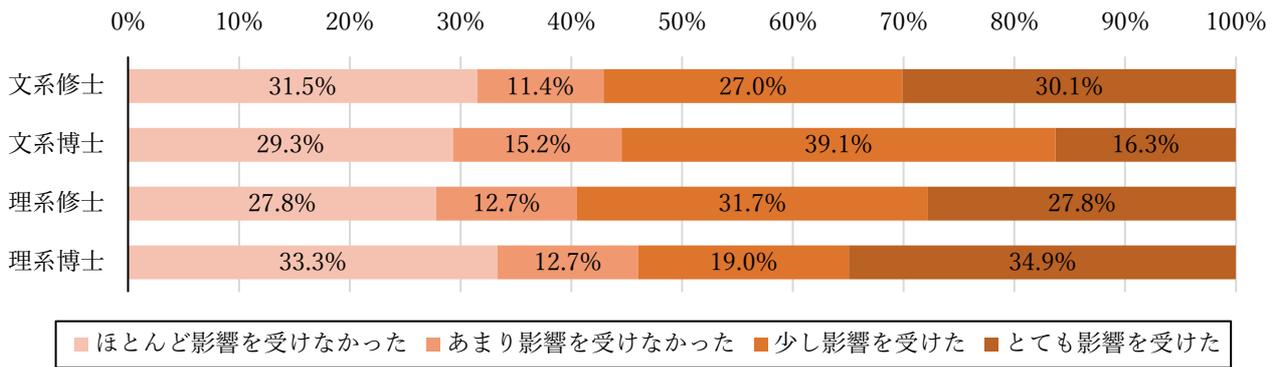


図4-41 出願の決定に影響を受けた人—学校や会社の友人・同僚・先輩

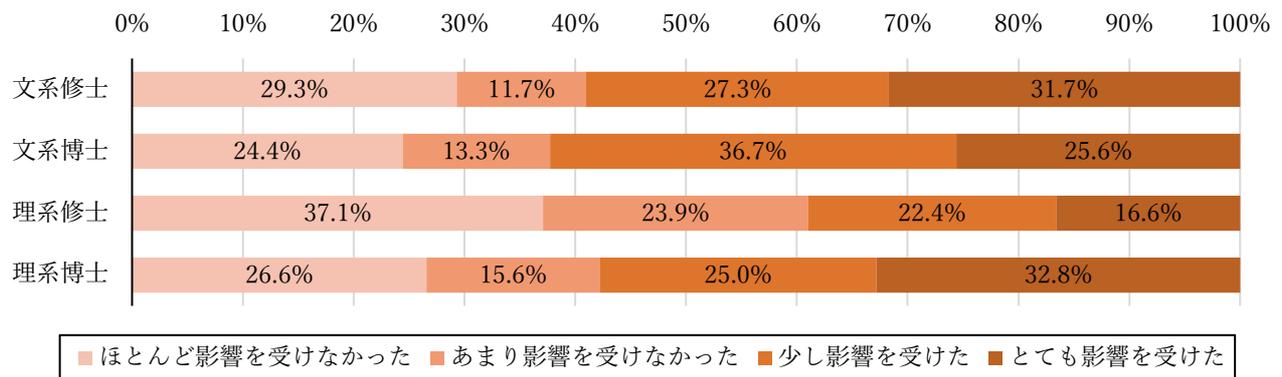


図4-42 出願の決定に影響を受けた人—活躍している卒業生や著名な教員

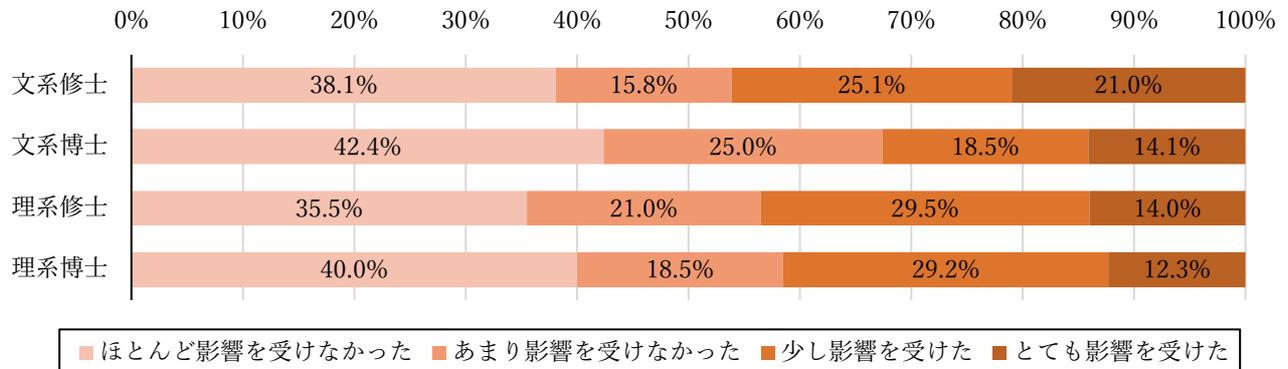


図4-43 出願の決定に影響を受けた情報源—受験情報誌・進学サイト（学部・大学院）

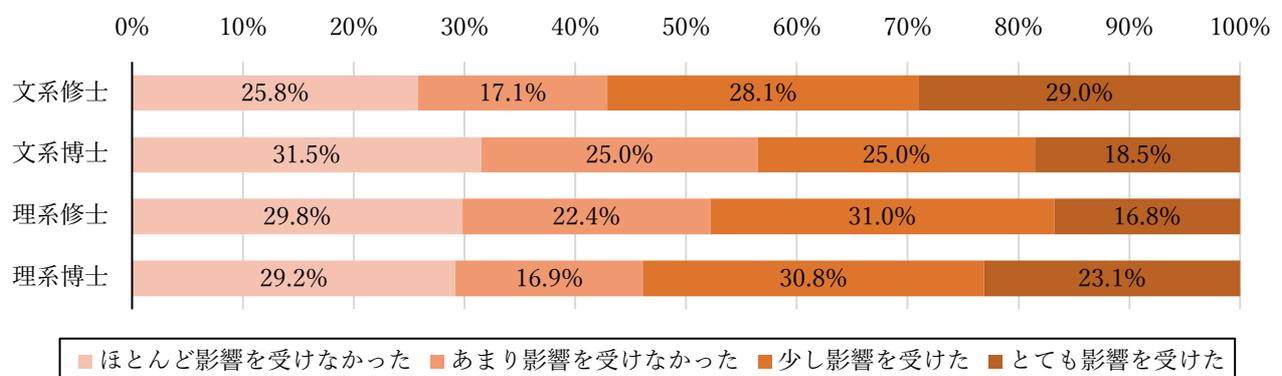


図4-44 出願の決定に影響を受けた情報源—早稲田大学・大学院の入学案内パンフレット

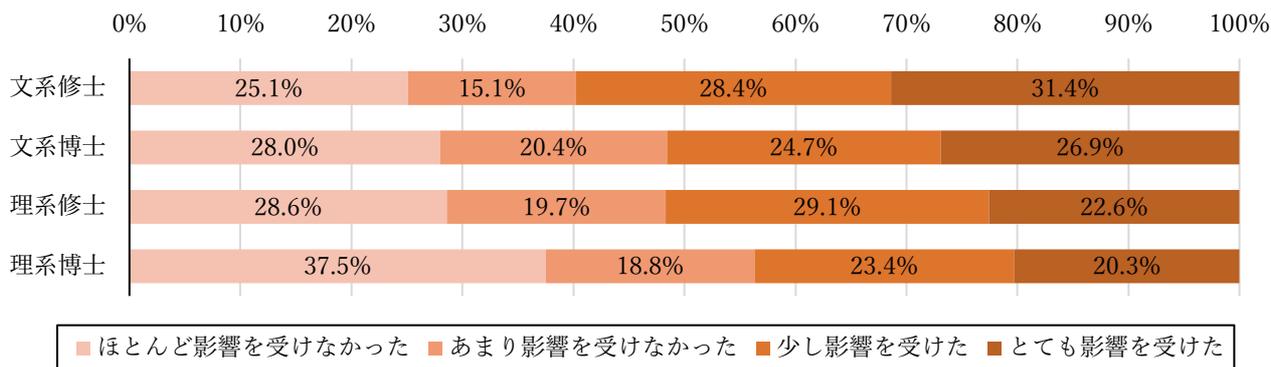


図 4-45 出願の決定に影響を受けた情報源—現在籍学部・研究科のパンフレット

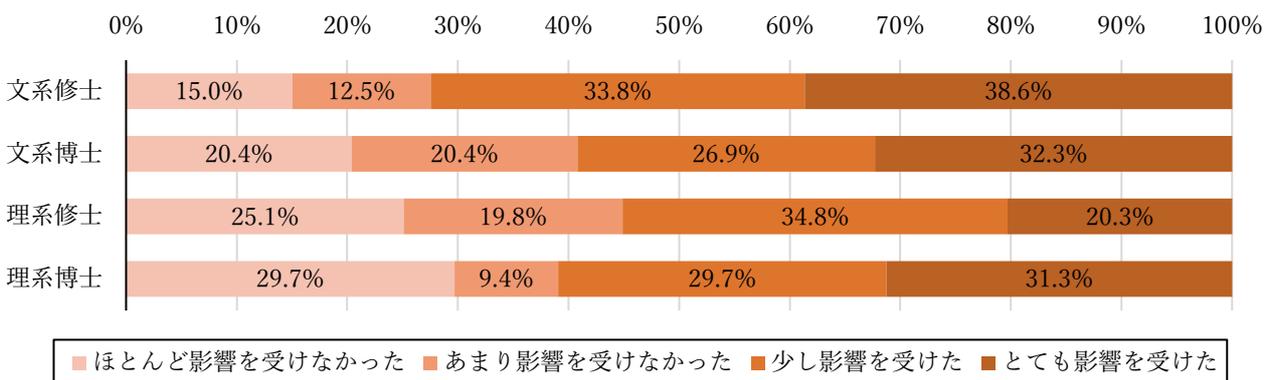


図 4-46 出願の決定に影響を受けた情報源—早稲田大学 Web サイト（大学全体、入学センターの HP）

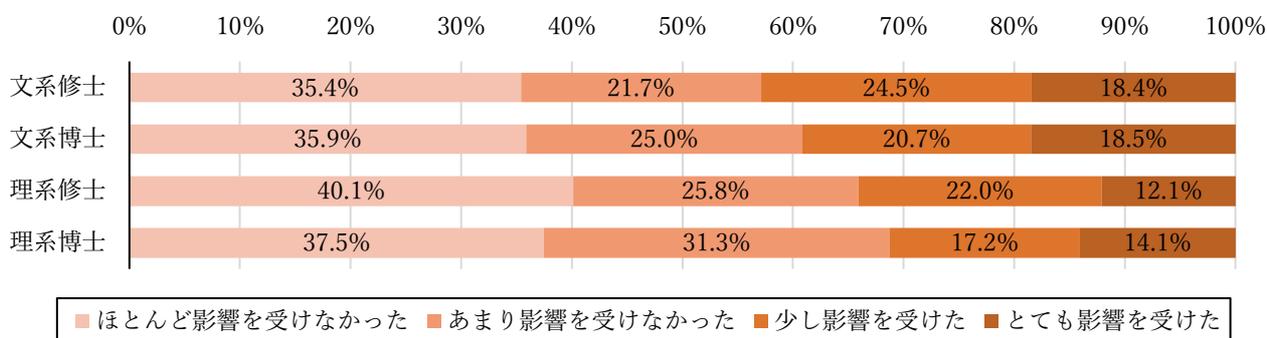


図 4-47 出願の決定に影響を受けた情報源—大学体験 Web サイト（早稲田大学各教員の模擬授業や学部説明等の動画コンテンツを閲覧できるサイト）

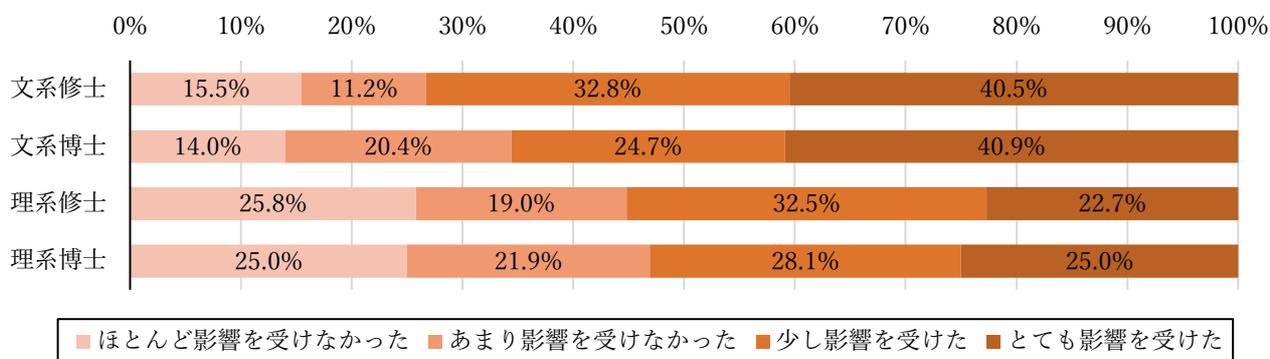


図 4-48 出願の決定に影響を受けた情報源—現在籍学部・研究科の Web サイト

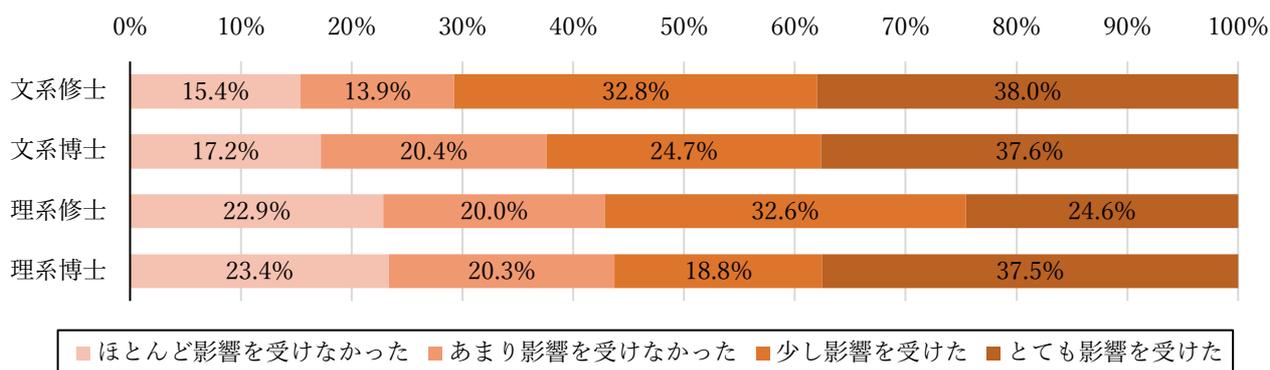


図 4-49 出願の決定に影響を受けた情報源—現在籍学科・専攻の Web サイト

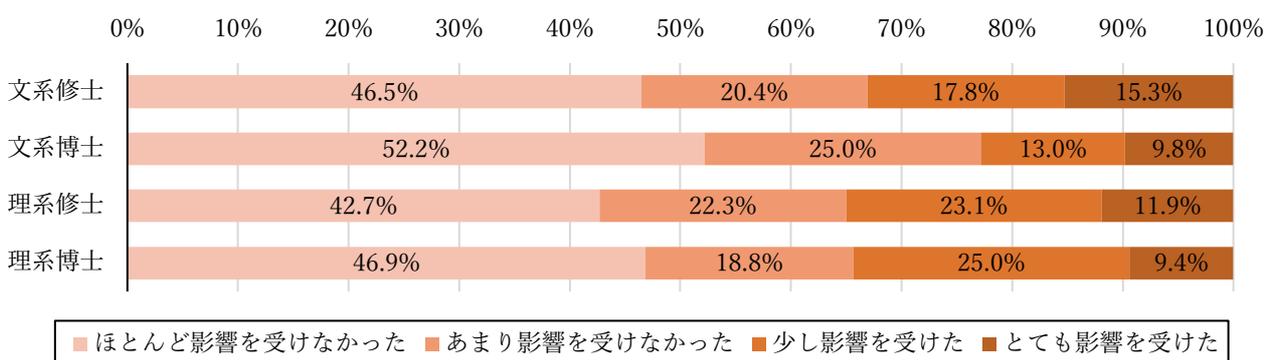


図 4-50 出願の決定に影響を受けた情報源—早稲田大学のオープンキャンパス・キャンパスツアー・大学祭（オンラインを含む）

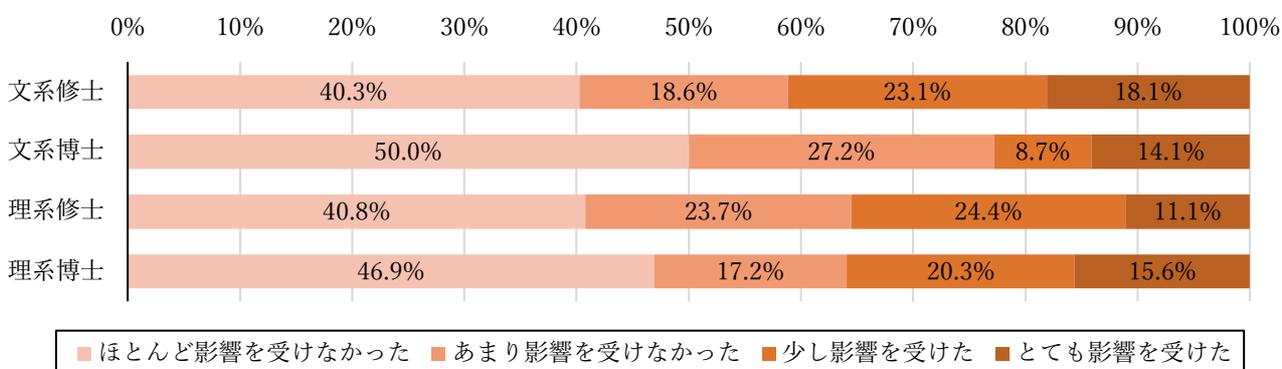


図 4-51 出願の決定に影響を受けた情報源—早稲田大学教員の模擬授業や職員による説明会

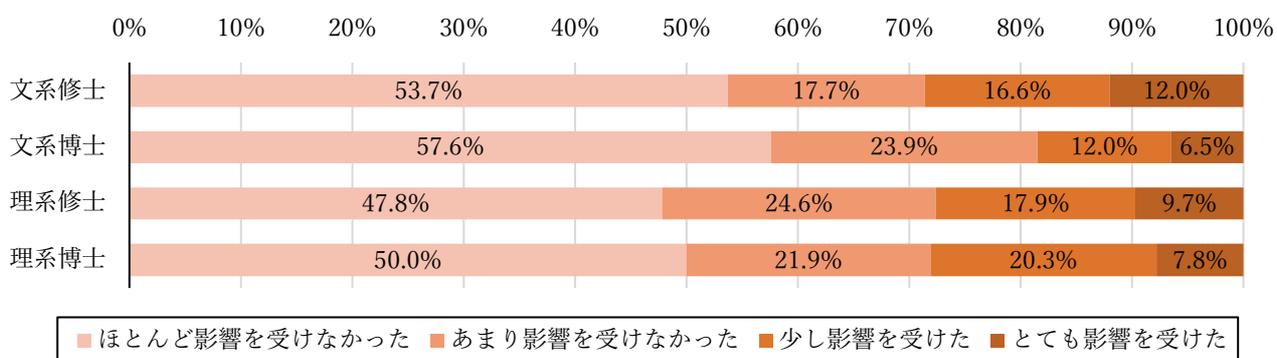


図 4-52 出願の決定に影響を受けた情報源—進学相談会（学部・大学院）での早稲田大学のブース

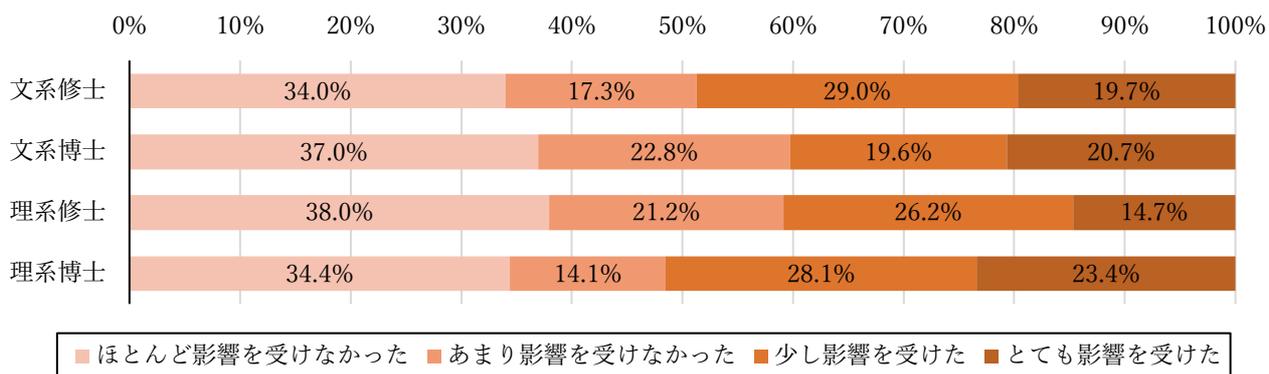


図4-53 出願の決定に影響を受けた情報源—メディアの報道・ネットでの評判

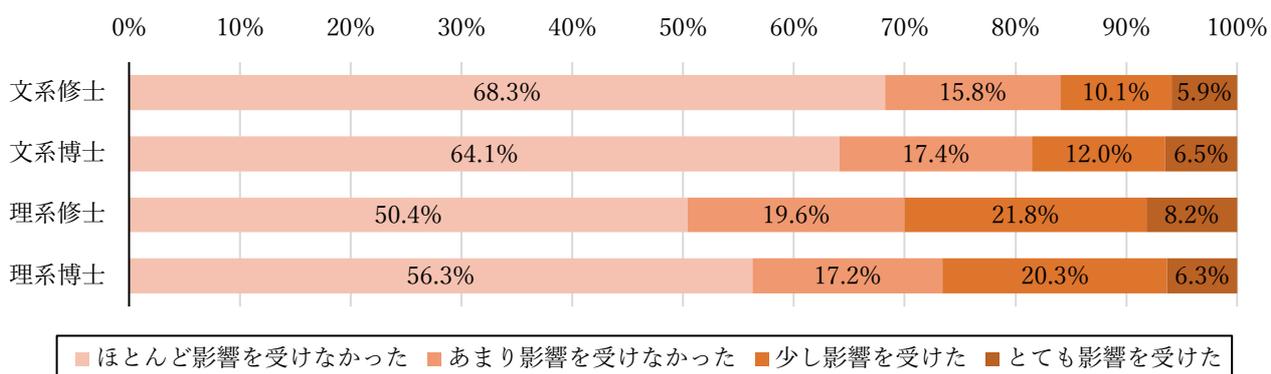


図4-54 出願の決定に影響を受けた情報源—模擬試験の結果

4-4. 進学理由

本節では、最終的に早稲田大学大学院に進学した理由を見ていく。まず課程の違いでは、修士に比べ博士の方が「学部で学んだ学問をさらに探究したい」(図4-55)や「師事したい教員がいた」(図4-56)といった指導教員に師事し、学問を深めていくために進学したと回答している。また、キャリアにおいても文理問わず「研究所・シンクタンクではたらくことを目指している」(図4-63)が修士よりも高い傾向にある。文系博士の場合、「大学教員を目指している」(図4-61)で「あてはまる」と回答する割合が61.3%であり、理系博士(30.2%)と比較しても大学教員への就職をより想定している。

一方、「就職する意志がなかった」(図4-59)では理系修士が他タイプと比較してやや高い傾向にある。これは学部時代に修士課程への進学を想定している割合が多いことと関係していると考えられる。「就職できそうになかった」(図4-60)においても「あてはまる」が12.4%と他タイプと比較してやや高い傾向にある。

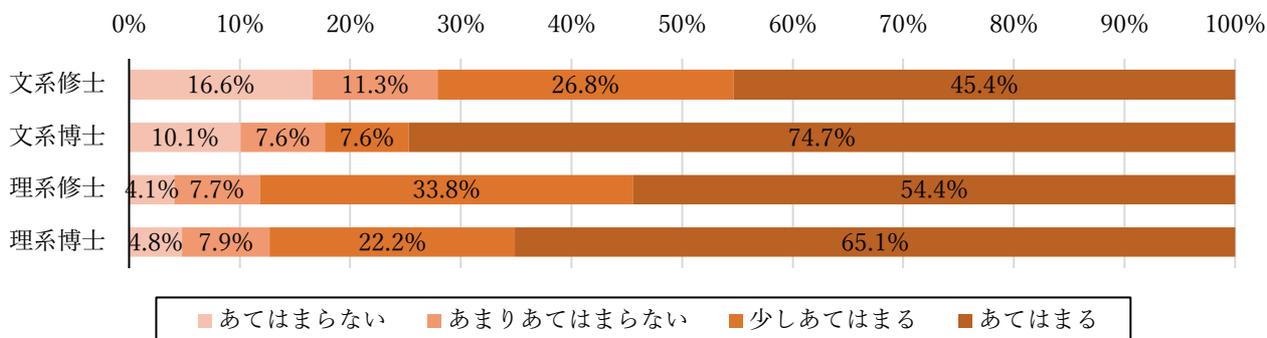


図4-55 学部で学んだ学問をさらに探究したい

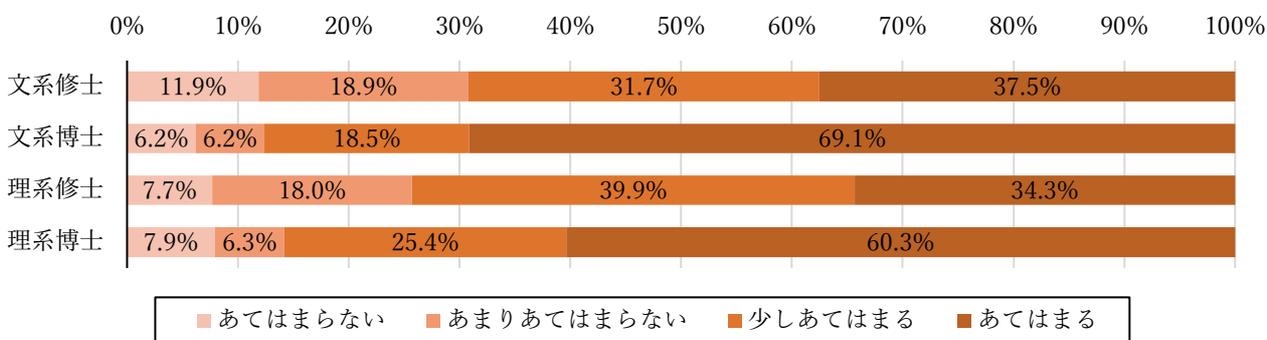


図4-56 師事したい教員がいた

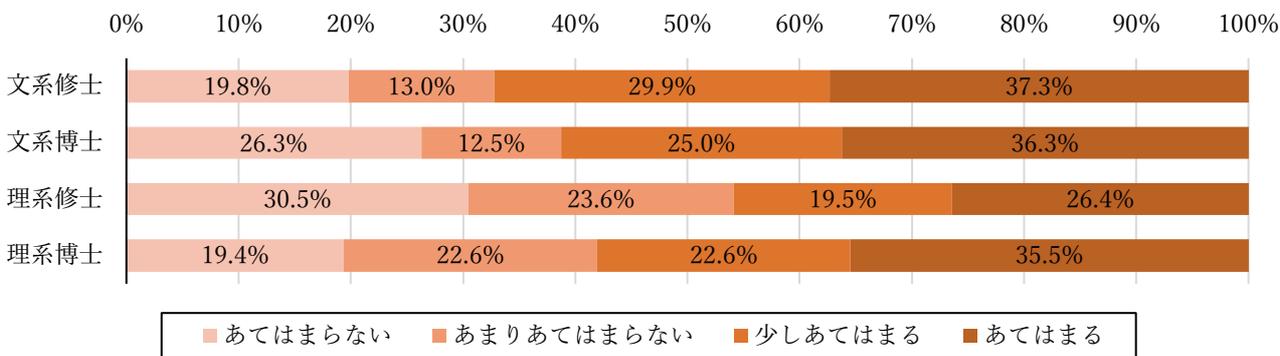


図4-57 学部で学んだ学問とは違った分野の学問を学びたい

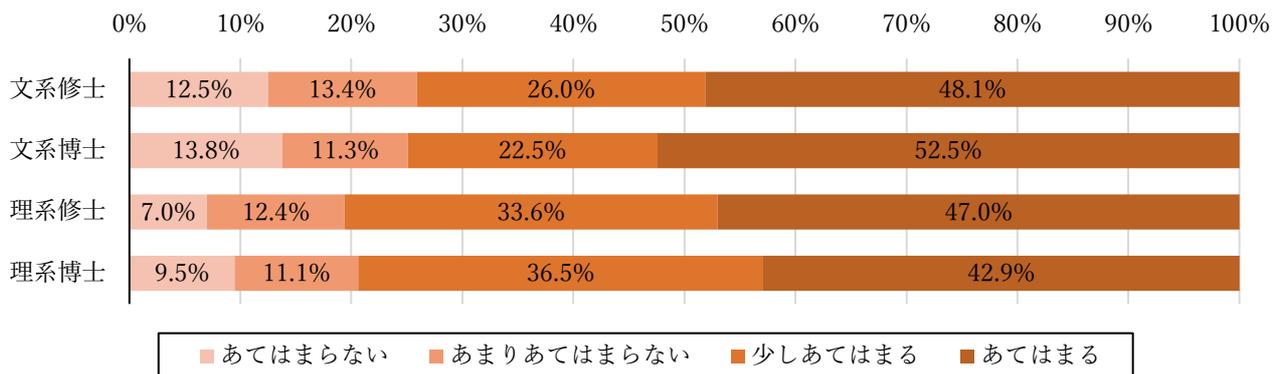


図4-58 希望の職種に就職するために不可欠な、より深い知識や学位を得るため

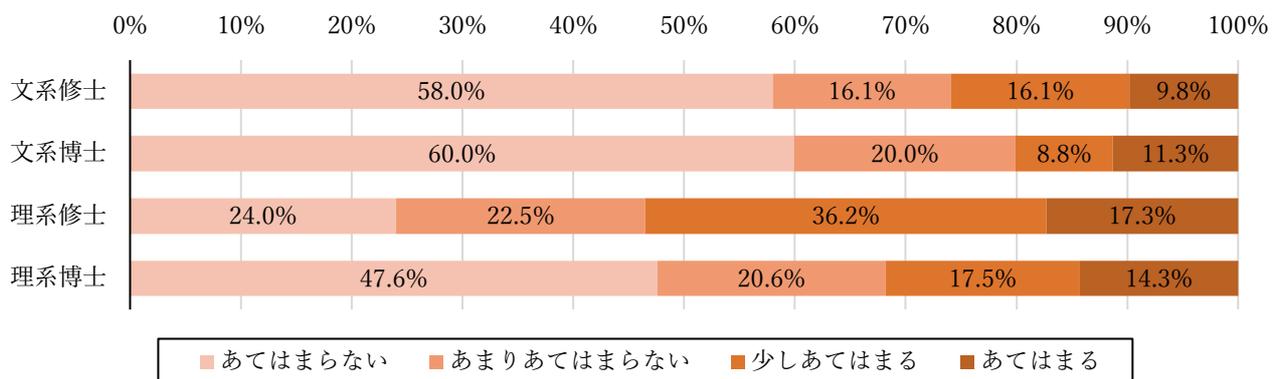


図4-59 就職する意志がなかった

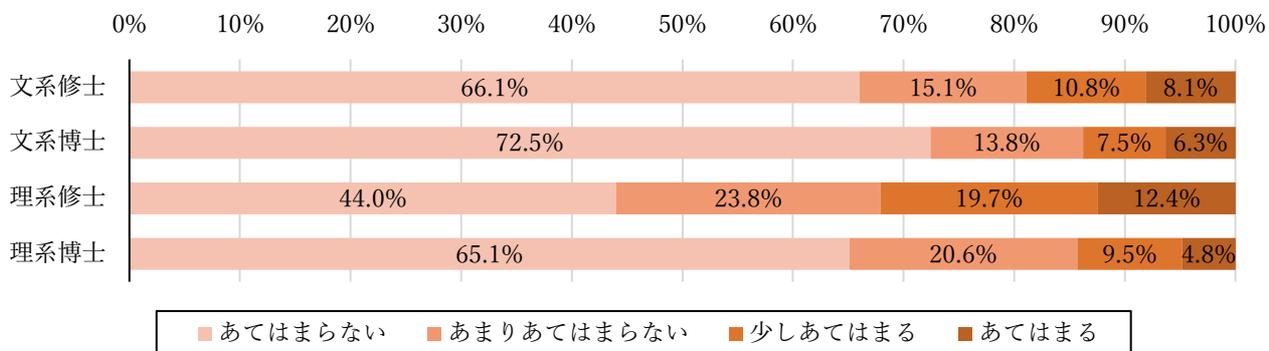


図4-60 就職できそうになかった

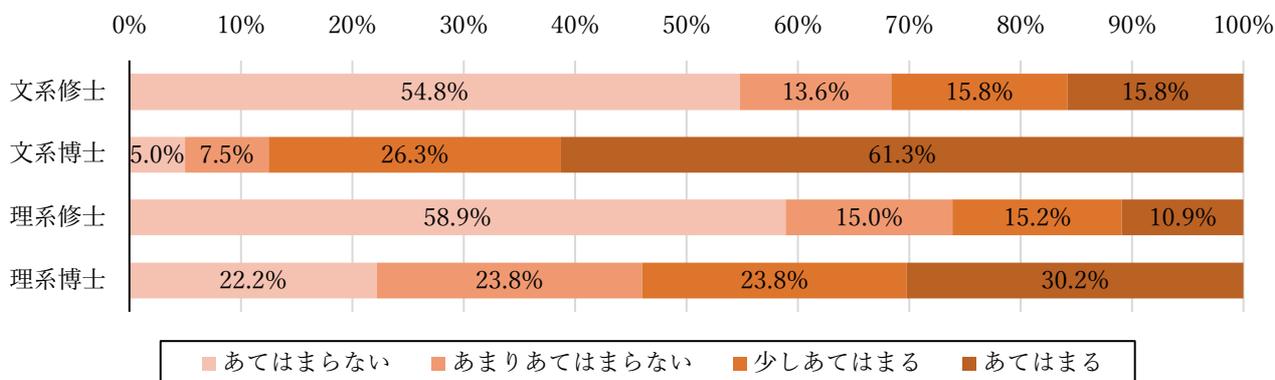


図4-61 大学教員を目指している

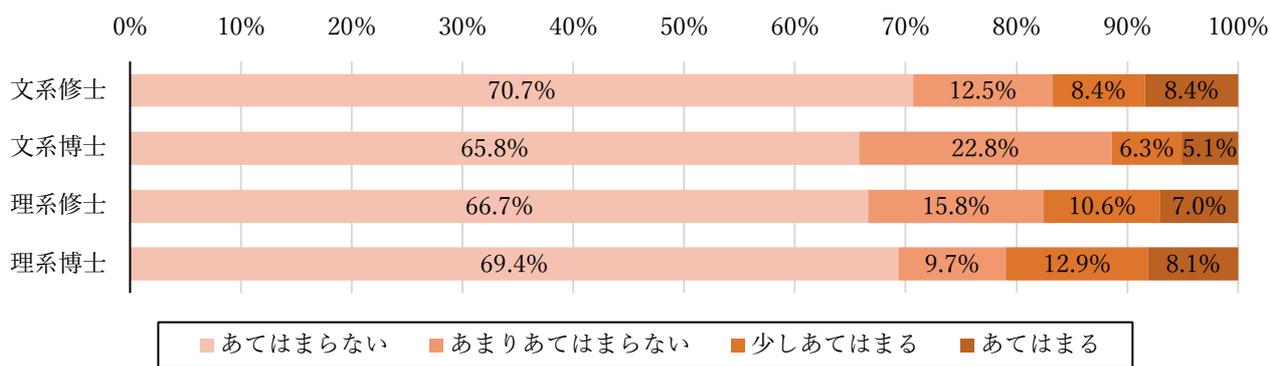


図4-62 小・中・高教員を目指している

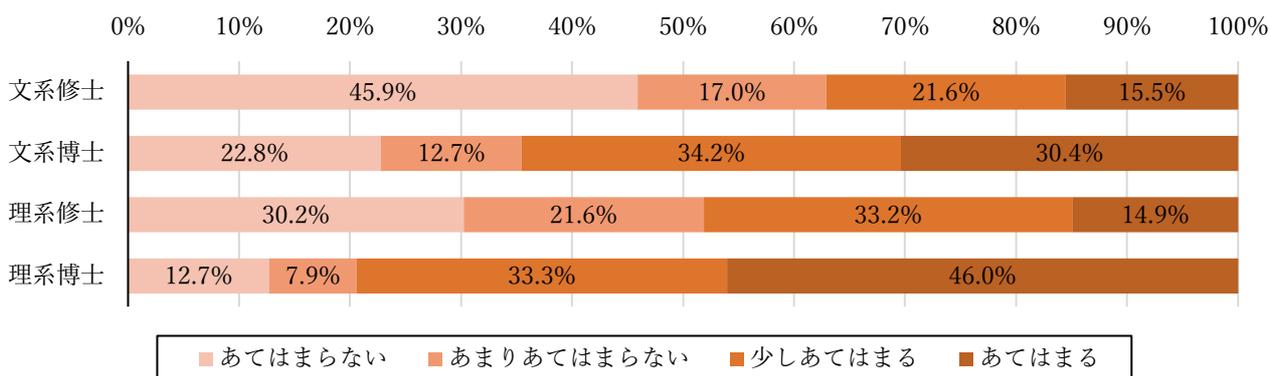


図4-63 研究所・シンクタンクではたらくことを目指している

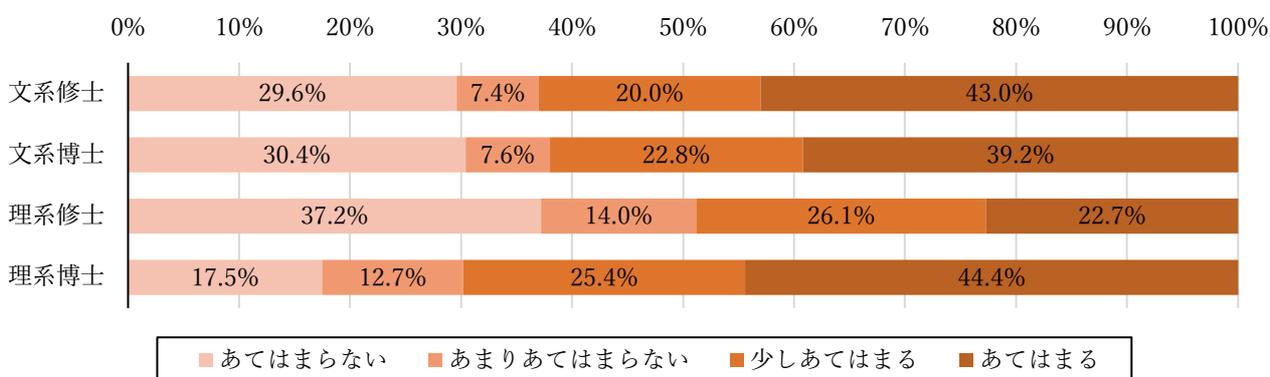


図4-64 現在の仕事においてスキルアップを図るため

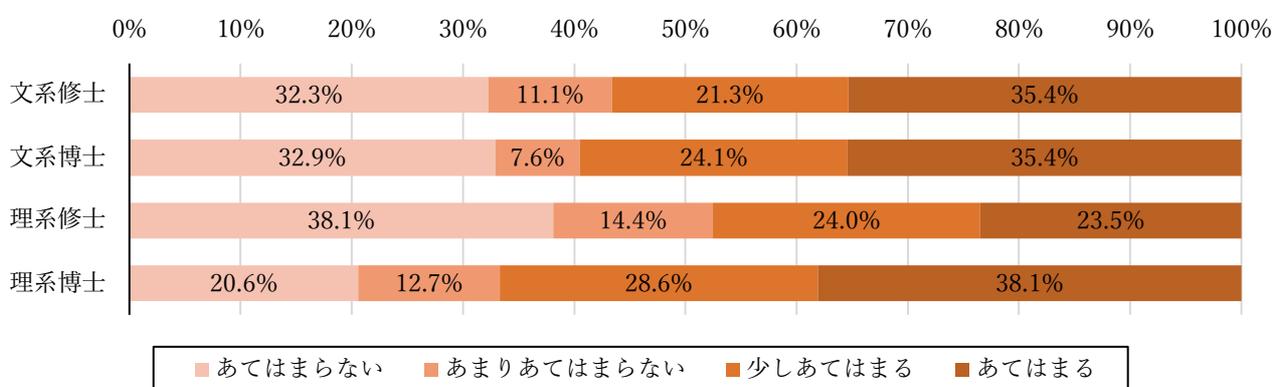


図4-65 今後の転職に生かすため

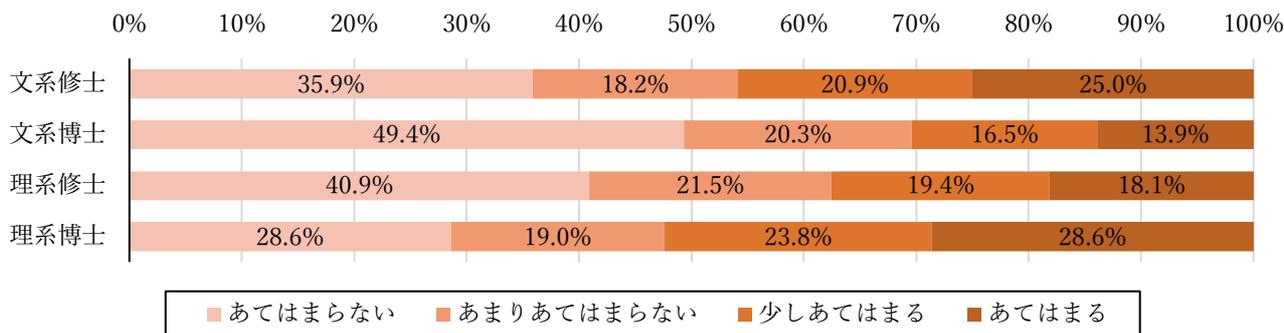


図 4-66 資格を取得するため

4-5. 留学生院生・社会人院生

本節では、大学院生のなかでも留学生と社会人院生について見ていく。まず、今回得られたデータを文理・大学院課程別に（非）留学生数を見ると、図 4-67 のようになった。文系修士課程では留学生の方が 54.2% と多く、博士後期課程においても 45.8% が留学生となっている。理系では、修士課程では 37.3%、博士後期課程では 61.2% と留学生の方が多い。

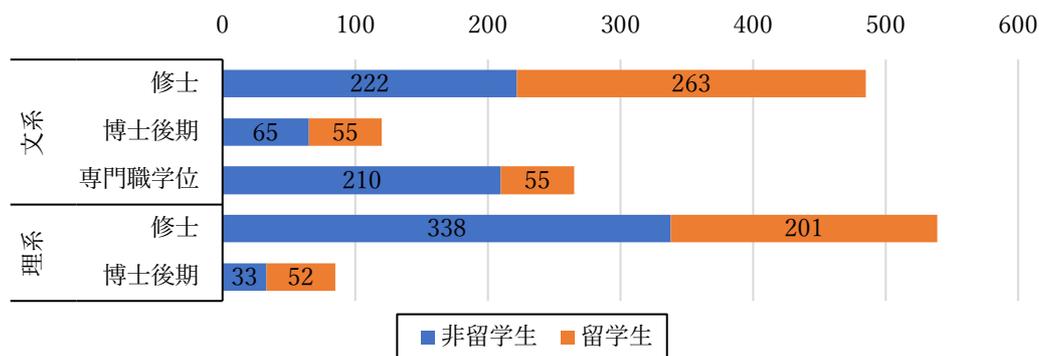


図 4-67 本調査データにおける文理・大学院課程別の（非）留学生院生数

社会人院生は、図 4-68 になった。最も社会人院生が多いのは、専門職学位課程で 64.2% が社会人院生であり、次いで文系博士課程の 45.0% であった。理系修士課程において社会人院生は 8.0% となっており、文理・課程によって社会人の分布は異なっている。

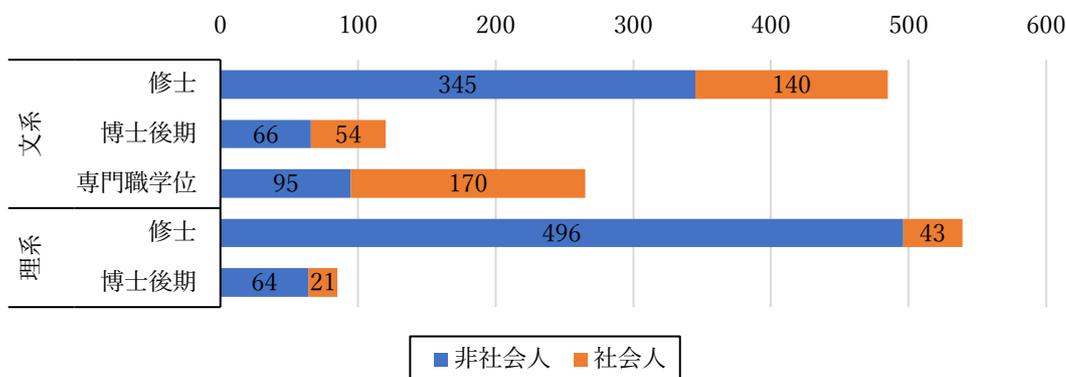


図 4-68 本調査データにおける文理・大学院課程別の（非）社会人院生数

4-5-1. 留学院生

ここでは、留学院生が出願から進学に至ったプロセスを非留学院生と比較する。まず、出願の決定に影響を受けた人（図4-69）という点では、両親からの影響、特に「2. 母親」の影響が非留学院生と比べやや強い。また、「5. 予備校・塾の先生、スタッフ」、「7. 活躍している卒業生や著名な教員」についても非留学院生と比べ影響が強い。

情報源（図4-70、図4-71）という点では、「4. 早稲田大学Webサイト」をはじめ大学のウェブサイトにも非留学院生よりも影響を受けている傾向にある。「8. 早稲田大学のオープンキャンパス・キャンパスツアー・大学祭」も非留学院生と比べ高い。また、「11. メディアでの報道・ネットでの評判」も非留学院生と比較して顕著に影響を受けている点も特徴的である。

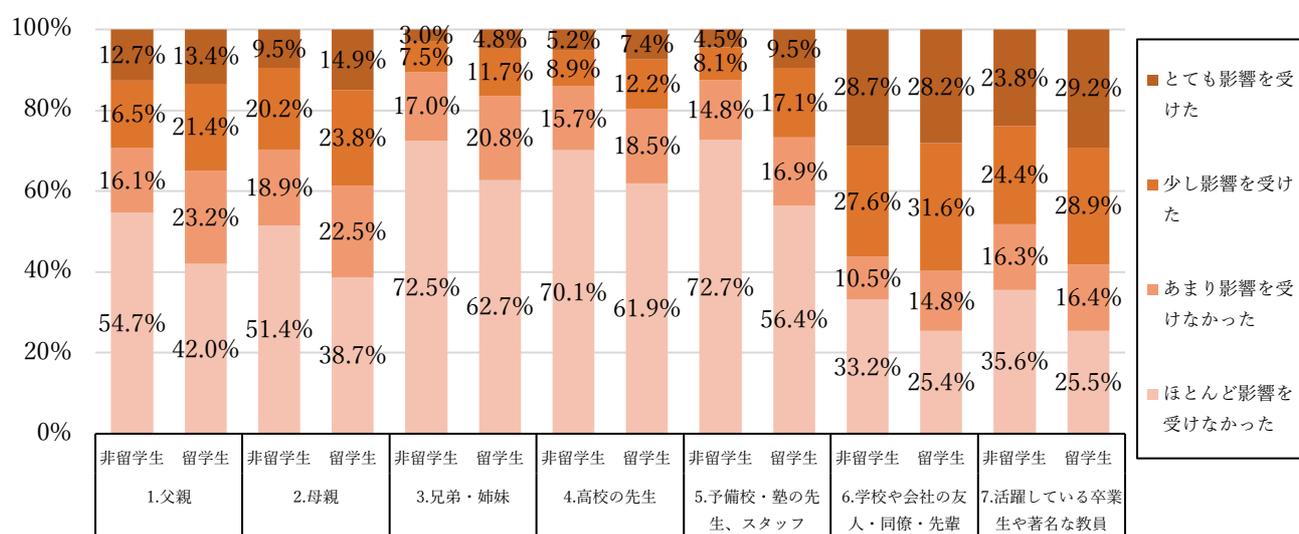


図4-69 出願の決定に影響を受けた人

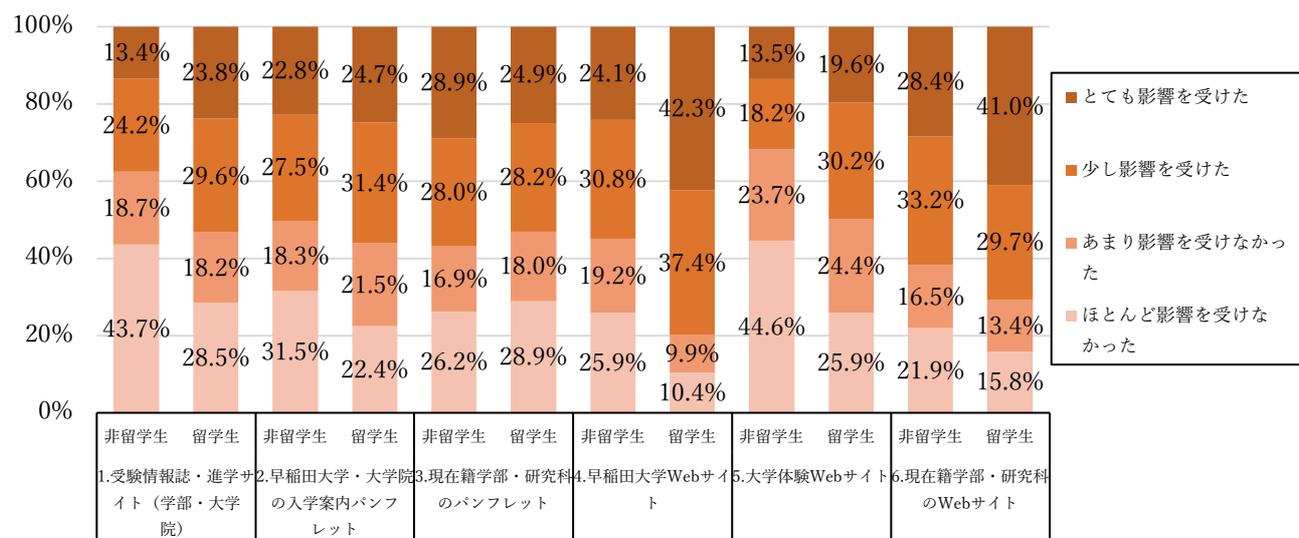


図4-70 出願の決定に影響を受けた情報源 (1)

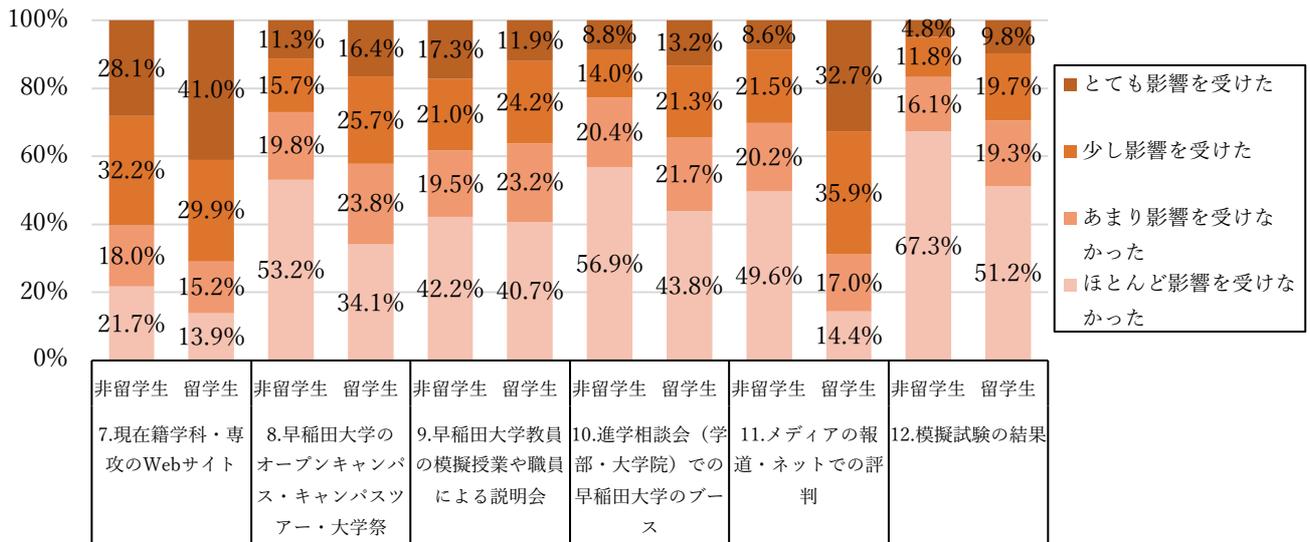


図4-71 出願の決定に影響を受けた情報源（2）

最終的に早稲田大学大学院に進学した理由（図4-72、図4-73）としては、非留学生と比較して、「3. 学部で学んだ学問とは違った分野の学問を学びたい」や「4. 希望の職種に就職するために不可欠な、より深い知識や学位を得るため」といった学部の積み上げで学問を深めていくという非留学生の傾向とはまた異なる特徴が見られる。また、「5. 就職する意志がなかった」や「6. 就職できなそうになかった」も非留学生と比べ高く、出身国の社会状況も関連している。また修了後のキャリアとの関わりという点では「7. 大学教員を目指している」、「9. 研究所・シンクタンクではたらくことを目指している」、「11. 今後の転職に生かすため」といった項目で非留学生よりも高い傾向にある。

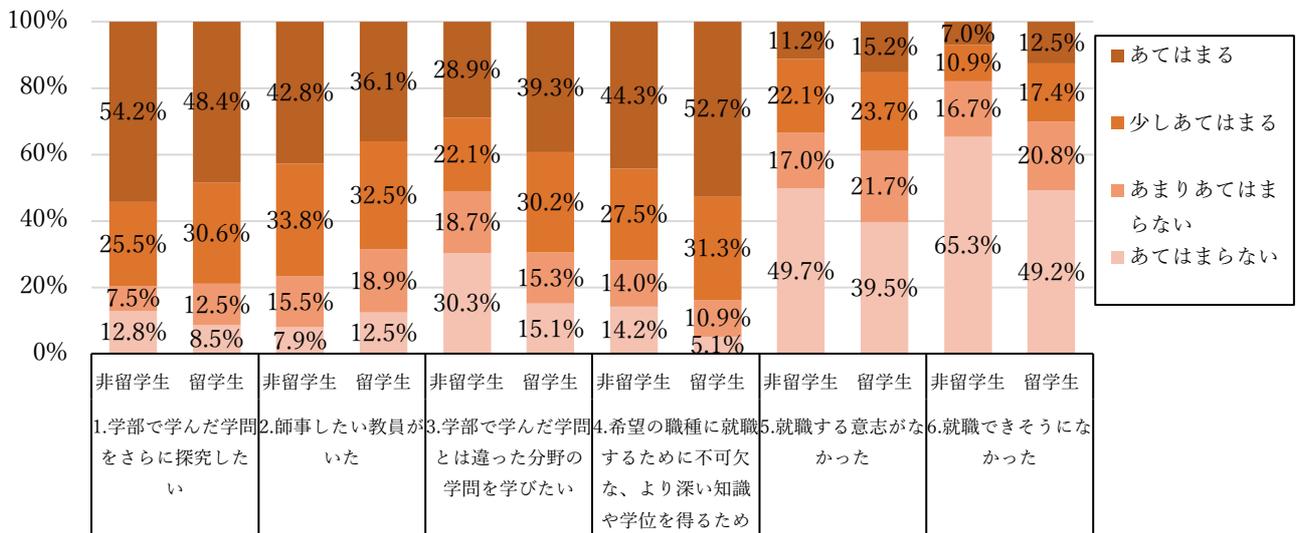


図4-72 進学理由（1）

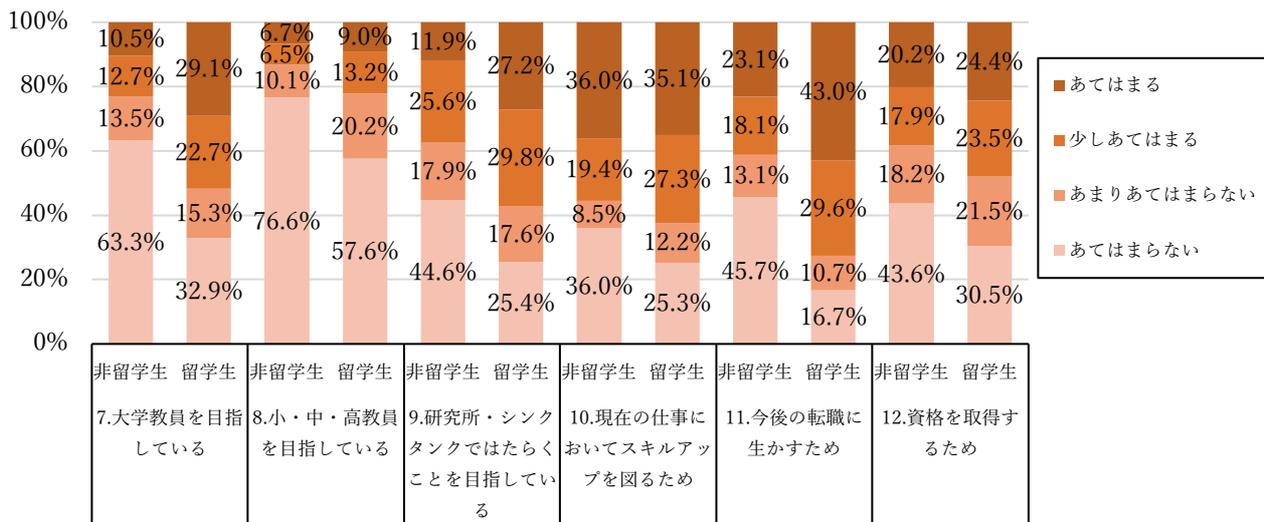


図 4-73 進学理由 (2)

4-5-2. 社会人院生

次に、社会人院生が出願から進学に至ったプロセスを非社会人院生と比較する。まず、出願の決定に影響を受けた人(図 4-74)は、非社会人院生と比較すると少なくとも質問項目の中の身近な人(両親など)の影響は少ない。「7. 活躍している卒業生や著名な教員」が非社会人院生と比べやや影響を受けている。

情報源(図 4-75、図 4-76)となると、「4. 早稲田大学 WEB サイト」や「6. 現在籍学部・研究科の Web サイト」、「11. メディアの報道・ネットでの評判」などが非社会人院生と比較して影響を受けている。

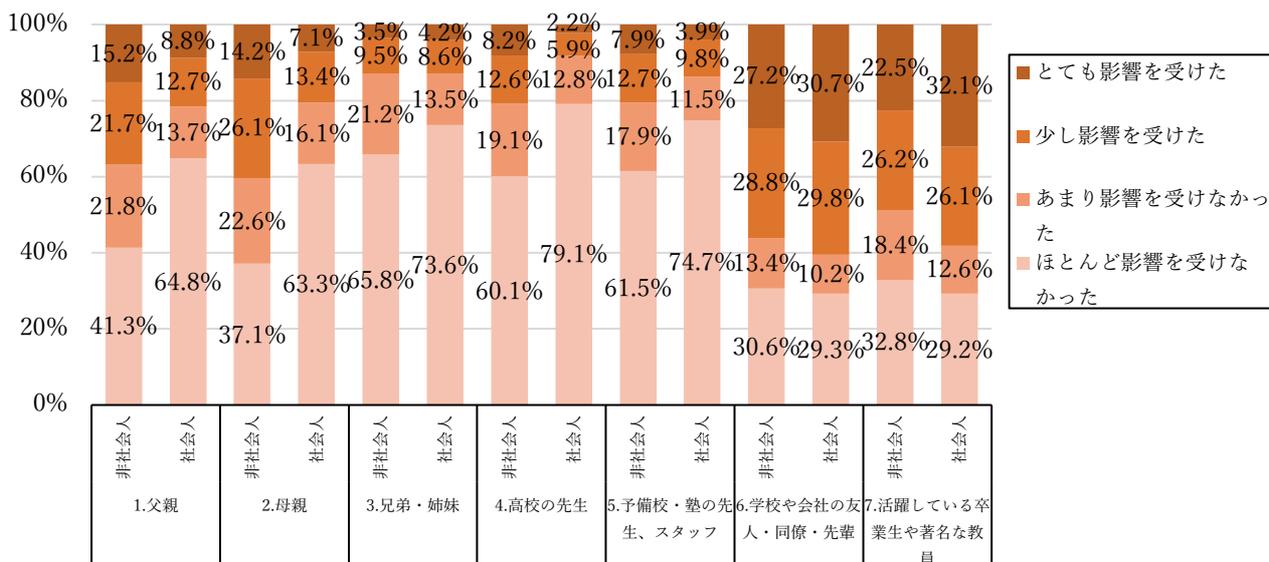


図 4-74 出願の決定に影響を受けた人

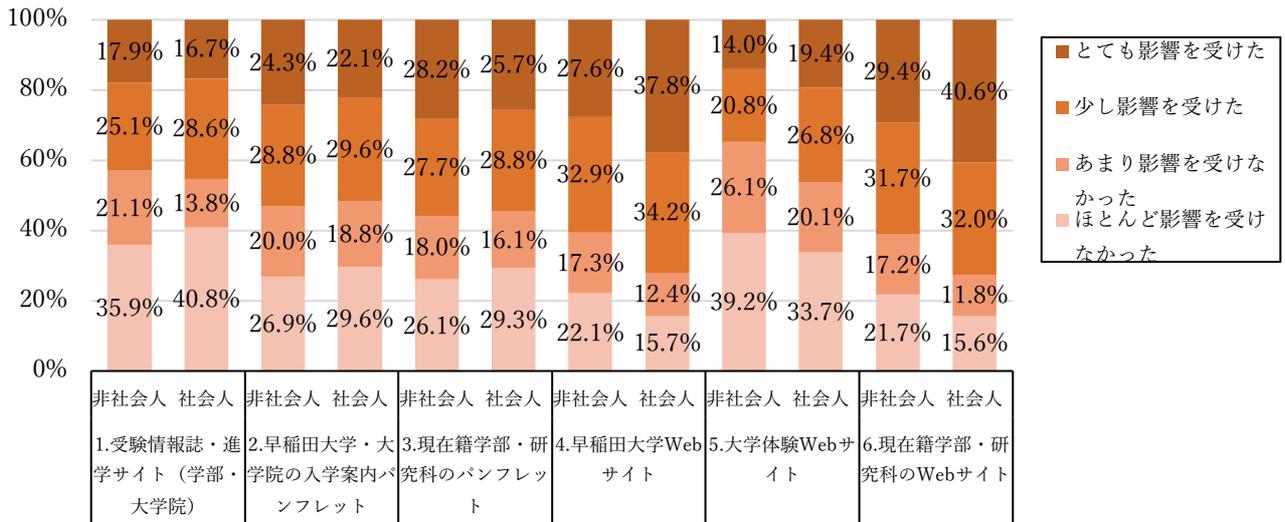


図4-75 出願の決定に影響を受けた情報源（1）

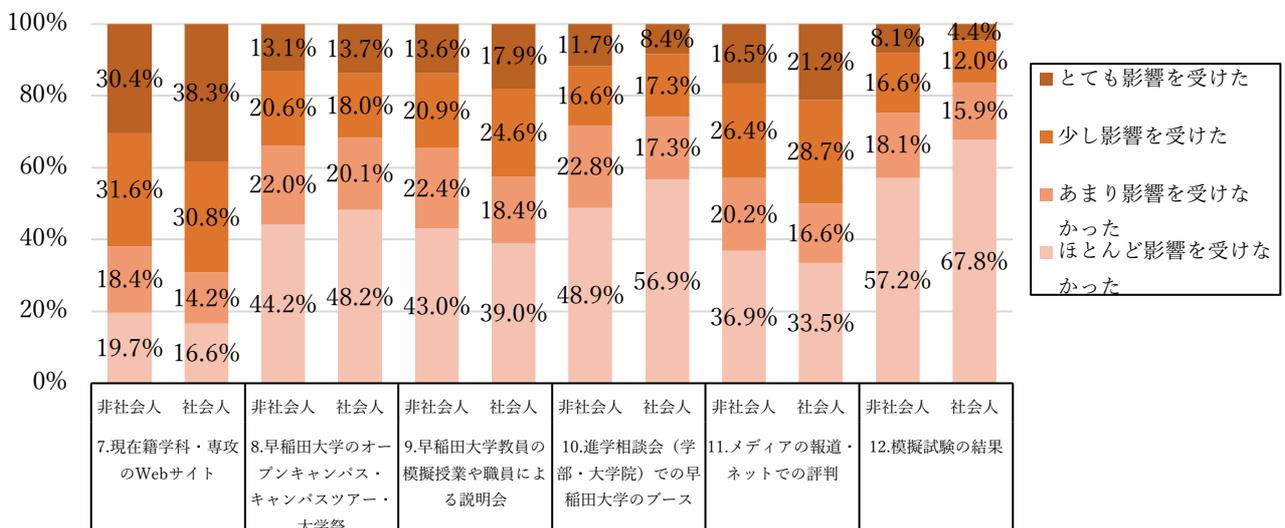


図4-76 出願の決定に影響を受けた情報源（2）

最後に、最終的に早稲田大学大学院に進学した理由（図4-77、図4-78）としては、「10.現在の仕事においてスキルアップを図るため」と「11.今後の転職に生かすため」といった項目で非社会人院生よりも肯定的に回答している。また、非社会人院生と比較して、「1.学部で学んだ学問をさらに探究したい」というよりは、「3.学部で学んだ学問とは違った分野の学問を学びたい」が高い。他方で、「7.大学教員を目指している」は非社会人院生と比較して同程度であり、アカデミアへの道も視野に入っている場合もある。

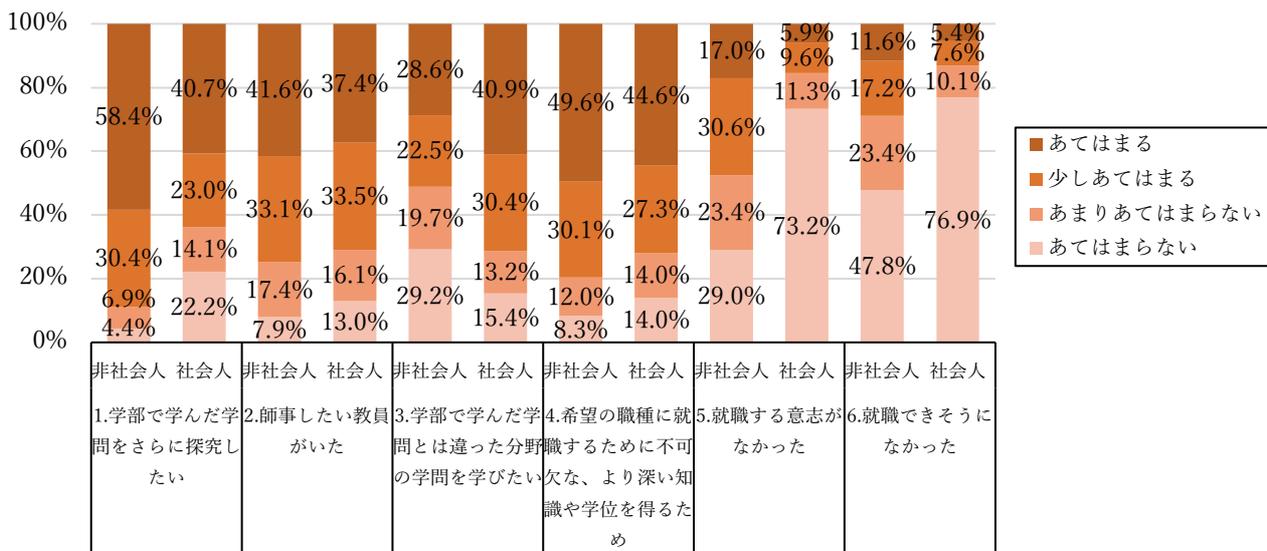


図4-77 進学理由(1)

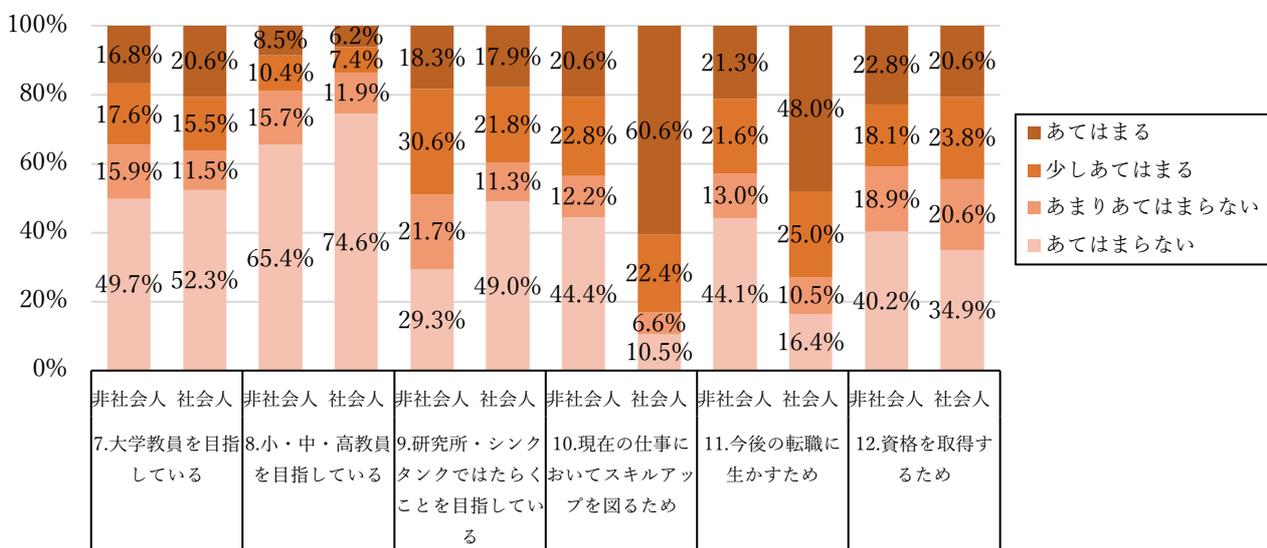


図4-78 進学理由(2)

4-6. まとめ

本章では、新入生のなかでも大学院新入生を対象に、入学までのプロセスを記述分析してきた。

まず、文理別、課程別に分けた4つのタイプごとに記述分析したところ、大学院や研究科のAP認知については、理系修士を除くと6割程度は認知していた(図4-4、図4-6)。理系修士の場合、大学院、研究科のAPそのものを知らないという割合が20%弱と他タイプと比較してやや多かった。理系修士の場合には、大学院進学割合が相対的に高いためか、やや異なる結果となった。また、入学時点での専門知識、能力の修得状況を早稲田大学のDPの観点から尋ねた項目については、文理に関わらず、ほとんどの項目で修士よりも博士の方が肯定的な回答が高い傾向にあった。最終的に早稲田大学大学院に進学した理由としては、修士に比べ博士の方が指導教員に師事し、学問を深めていくために進学したと回答していた。また、キャリアにおいても文理問わず「研究所・シンクタンクではたらくことを目指

している」(図4-63)が修士よりも高い傾向にある。文系博士の場合、「大学教員を目指している」(図4-61)が、理系博士(30.2%)と比較しても高い。

次に、大学院新入生を留学生、社会人院生を抽出し、それぞれの特徴を分析した。まず、文系修士課程では留学生の方が54.2%と多く、博士後期課程においても45.8%が留学生となっている。理系では、修士課程では37.3%、博士後期課程では61.2%と留学生の方が多い。他方で、社会人院生が最も多いのは、専門職学位課程で64.2%が社会人院生であり、次いで文系博士課程の45.0%であった。理系修士課程において社会人院生は8.0%となっており、文理・課程によって社会人の分布は異なっていた。進学までのプロセスについて見ると、留学生では出身国の社会経済状況を考慮した回答が見られ、社会人院生においてはキャリア形成において大学院を活用しようとする意識が高いことが読み取れた。

2024年度 新入生調査 集計表

目次

I. 調査概要

II. 調査項目（グレー部分の自由記述は省略）

1. 入学時点での自己認識について

- Q01. 早稲田大学（大学院）と学部（研究科）は第一志望でしたか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。
- Q02. あなたは「早稲田大学（大学院生の場合、早稲田大学大学院）」入学前に、アドミッション・ポリシーを確認しましたか。
- Q03. 「大学（大学院）のアドミッション・ポリシー」および「入学した学部（研究科）のアドミッション・ポリシー」の内容について、理解（共感）できるかどうか、それぞれについてお答えください。
- Q04. あなたのこれまで（学部・大学院に入学するまで）のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にはどの程度あてはまりますか。
- Q05. あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。
- Q06. 現時点で、あなたが学部生であれば学部卒業後、大学院生であれば大学院修了後の進路としてどのようなものを考えていますか。最もあてはまるものを選択してください。
- Q07. 具体的にどのような就職先を考えていますか。最もあてはまるものを選択してください。
- Q08. 具体的にどのような進学先を考えていますか。最もあてはまるものを選択してください。

2. 早稲田大学に入学するにあたって

- Q09. あなたは「学び・研究に関する点」について、どのような点に魅力を感じて早稲田大学を志望しましたか？魅力を感じた度合いをそれぞれ選択してください。
- Q10. あなたは「進路・学生生活・イメージに関する点」について、どのような点に魅力を感じて早稲田大学を志望しましたか？魅力を感じた度合いをそれぞれ選択してください。
- Q11. 早稲田大学・大学院の現在籍学部・研究科への出願を決定したのはいつ頃ですか？
- Q12.1. 出願の決定（現在籍学部・研究科の出願）に際して影響を受けた人について、影響を受けた度合いをそれぞれ選択してください。
- Q12.2. 出願の決定に際して「影響を受けた人・情報源」として選択した回答について、影響の度合い

が大きいものに関して、あなたの進路選択に具体的にどのように影響しましたか？ご自由にお書きください。

Q13. あなたが大学に進学する上で、最終的に早稲田大学を選んだ理由は何ですか。それぞれあてはまるものを選択してください。

Q14. あなたが大学院に進学した理由は何ですか。それぞれあてはまるものを選択してください。

Q15. あなたのご両親の最終学歴について、それぞれあてはまるものをそれぞれ選択してください。

Q16. あなたの現在の生計を維持している方について、あてはまるものをすべて選択してください。

(複数回答可)

Q17. 前年（2023年1月～12月）の世帯収入（税込）について、もっともあてはまるものを選択してください。

3. 入学前の学習・生活習慣について

Q18. 大学・大学院入学前の在学状況等について、次のどれにあてはまりますか。それぞれ1つを選択してください。

Q19. あなたが高校生の頃、次のようなことは、どのくらいあてはまりましたか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。

Q20. あなたが「高校2年生の2学期」の頃、1日当たり学校の授業以外の学習時間がどれほどだったのか、「平日（ふだん）」と「定期試験期間中」についてお答えください。塾・予備校での学習時間も含めます。それぞれあてはまるものを選択してください。

Q21. (既に社会人経験のある方のみお答えください) あなたの大学（大学院）入学前の社会人経験の中で、下記のことはどれくらいあてはまりますか。それぞれもっともあてはまるものを選択してください。

Q22. あなたが高校生の頃、次のことはどれほど経験しましたか。それぞれあてはまるものを選択してください。

Q23. あなたの高校生の頃を振り返り、以下のような活動において、参加していましたか。

Q24. あなたの学部卒業直後の居住地について都道府県名をお選びください（海外の場合は海外をお選びください）。

Q25. あなたの高校時代について、次のことはどの程度あてはまりますか。それぞれあてはまるものを選択してください。

Q26. あなたの校内成績についてお尋ねします。通っていた学校のなかでのあなたの成績はどれぐらいでしたか。学部生の方は中学3年生の時と高校3年生の時それぞれについて、大学院生の方は学部時代の成績について、全教科・科目トータルでみた場合の状況をお答えください。それぞれあてはまるものを選択してください。

Q27. あなたの高校時代について、次のことはどれほどありましたか。それぞれあてはまるものを選択してください。

Q28. 大学・大学院入学以前の海外経験についてお答えください。

Q29. 大学・大学院入学前の生活全般（高校生活、または社会人経験をお持ちの方はこれまでの生活）について、10点満点で満足度得点を付けるとすれば、何点になりますか。

Q30. あなたが早稲田大学・大学院に期待することについて、自由にお書きください。（自由記述）

Q31. あなたがこれから早稲田大学・大学院で学習・研究等を進めるにあたって、不安に感じている点がありましたら、自由にお書きください。（自由記述）

調査概要

- ◆ 調査方法：メール配信を通じた「Qualtrics」を用いたオンライン調査
- ◆ 調査時期：2024年4月3日～2024年5月10日
- ◆ 調査対象者：2024年度学部・大学院入学者（2023年度9月入学者含む） 12,697名
- ◆ 回収状況：5,207件 回収率（41.0%）
- ◆ 調査結果引用に関するお願い

本調査結果を引用される際には、下記の出典を明記くださいますようお願いいたします。

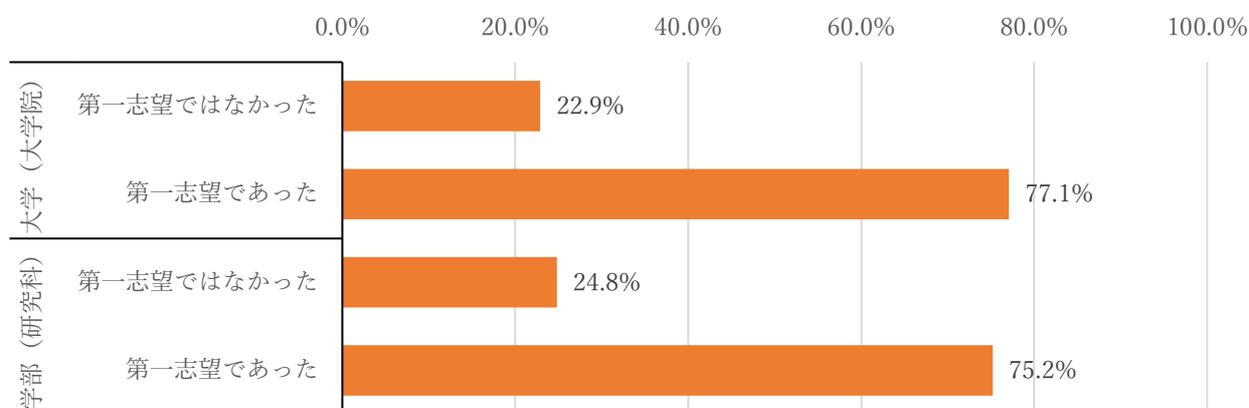
著者：早稲田大学大学総合研究センター

タイトル：2024年度 早稲田大学新入生調査報告書

II. 調査項目

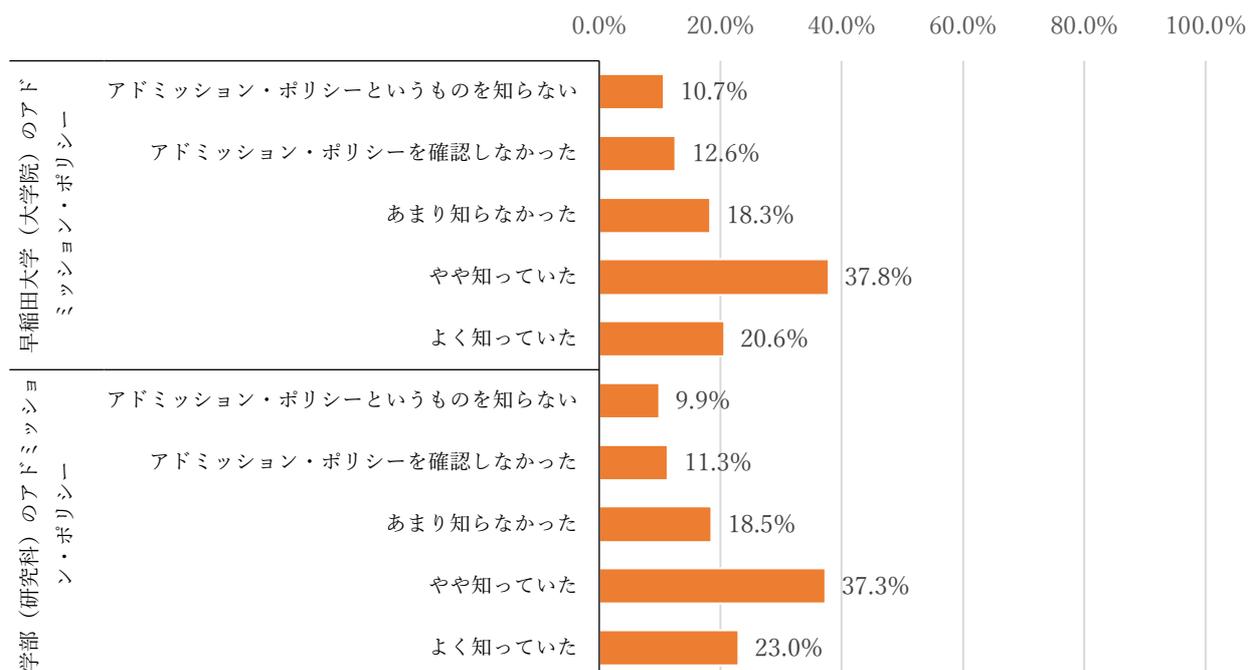
1. 基本情報

Q01. 早稲田大学（大学院）と学部（研究科）は第一志望でしたか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。



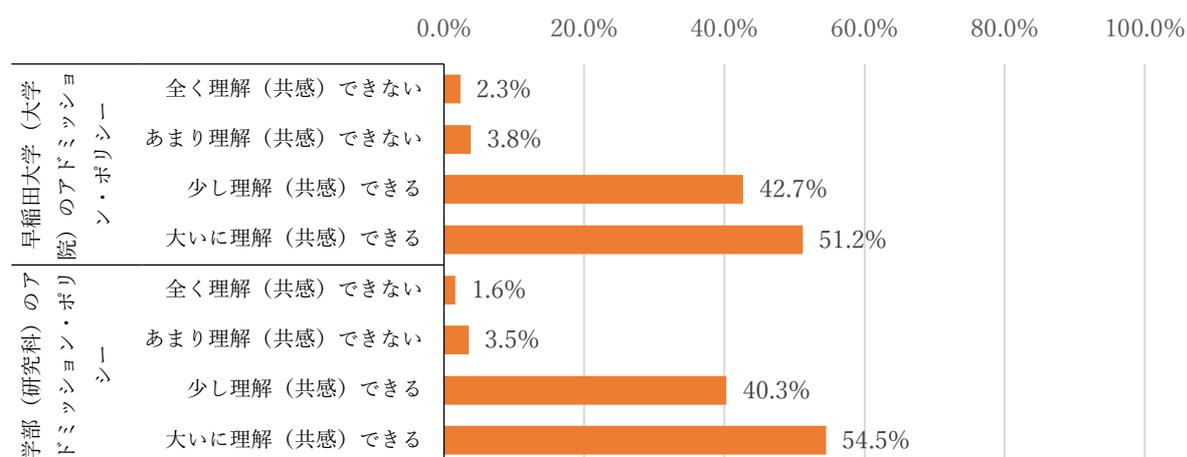
大学（大学院）	第一志望ではなかった	936
	第一志望であった	3158
学部（研究科）	第一志望ではなかった	993
	第一志望であった	3005

Q02. あなたは「早稲田大学（大学院生の場合、早稲田大学大学院）」入学前に、アドミッション・ポリシーを確認しましたか。



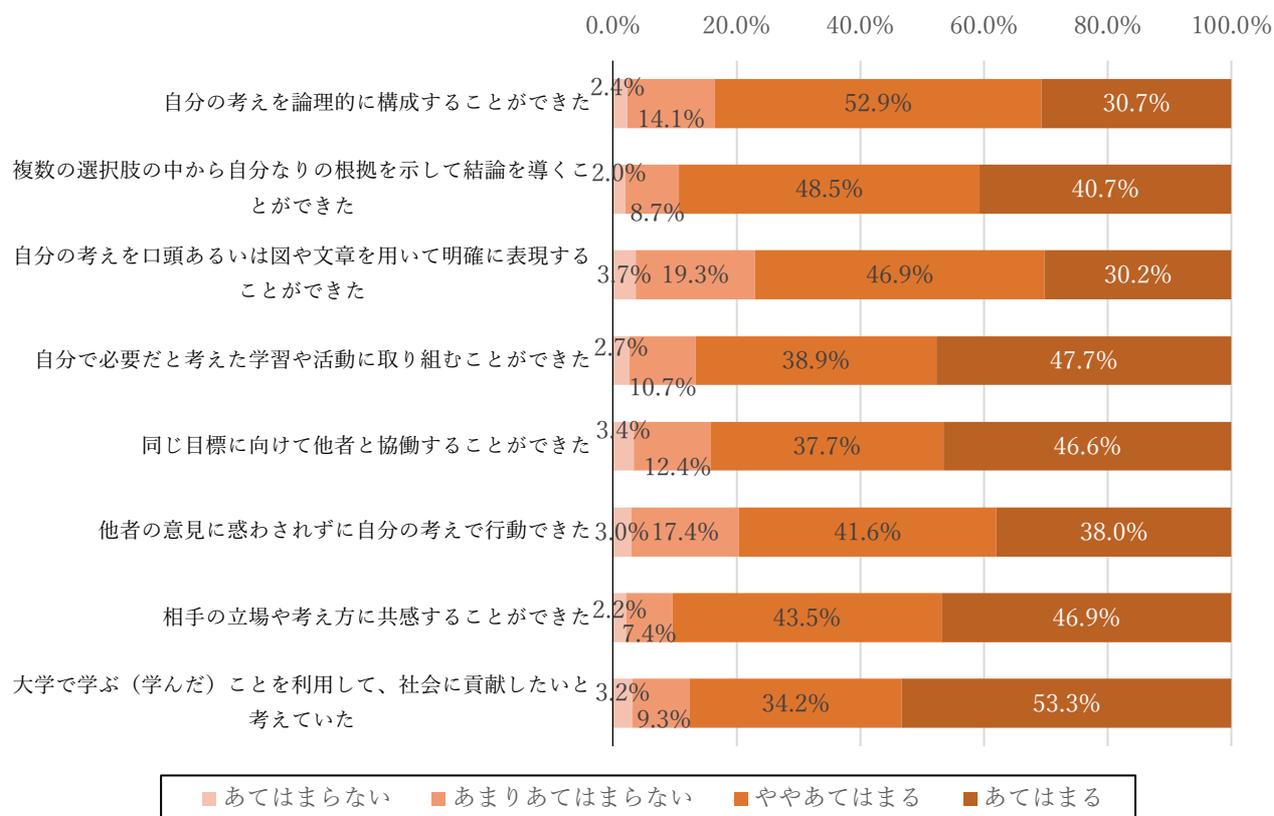
早稲田大学（大学 院）のアドミッション・ ポリシー	アドミッション・ポリシーというものを知らない	465
	アドミッション・ポリシーを確認しなかった	545
	あまり知らなかった	795
	やや知っていた	1639
	よく知っていた	896
学部（研究科）のアド ミッション・ポリシー	アドミッション・ポリシーというものを知らない	415
	アドミッション・ポリシーを確認しなかった	473
	あまり知らなかった	772
	やや知っていた	1561
	よく知っていた	960

Q03. 「大学（大学院）のアドミッション・ポリシー」および「入学した学部（研究科）のアドミッション・ポリシー」の内容について、理解（共感）できるかどうか、それぞれについてお答えください。



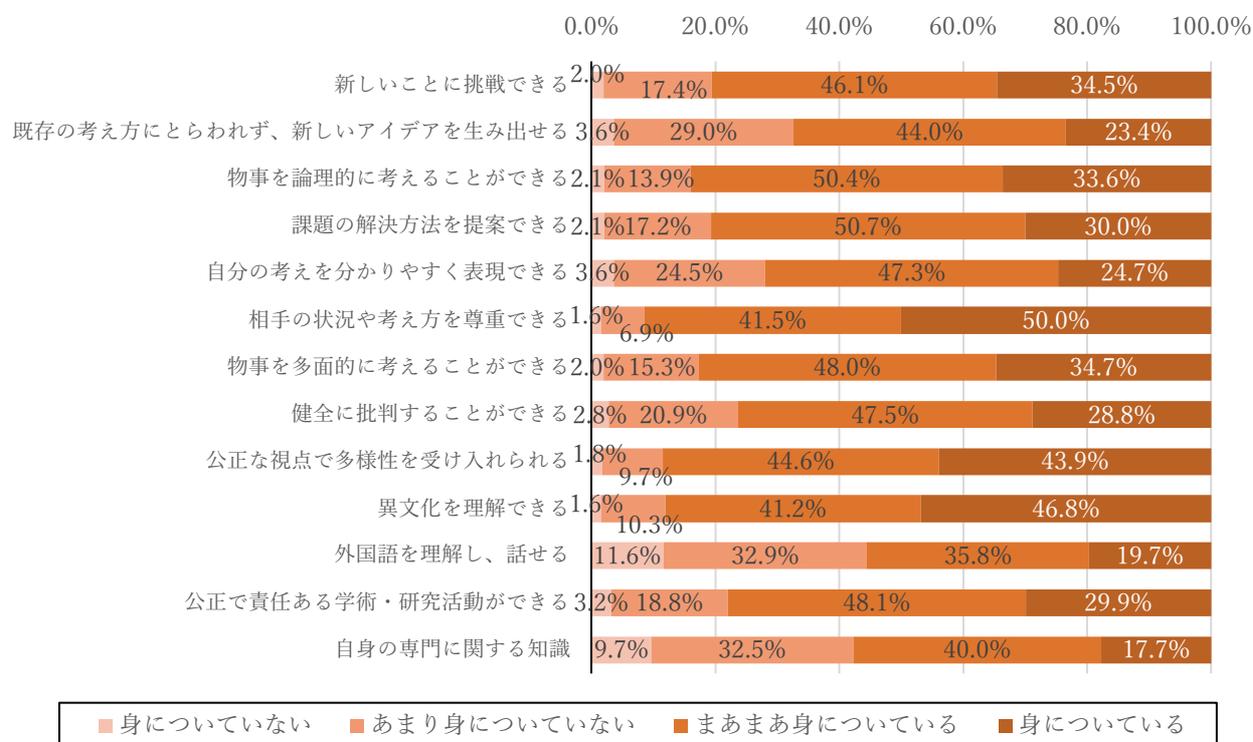
早稲田大学（大学 院）のアドミッション・ポ リシー	全く理解（共感）できない	96
	あまり理解（共感）できない	158
	少し理解（共感）できる	1780
	大いに理解（共感）できる	2136
学部（研究科）のアド ミッション・ポリシー	全く理解（共感）できない	68
	あまり理解（共感）できない	147
	少し理解（共感）できる	1673
	大いに理解（共感）できる	2264

Q04. あなたのこれまで（学部・大学院に入学するまで）のご自身の行動を振り返り、下記のそれぞれの行動にはどの程度あてはまりますか。



	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる
自分の考えを論理的に構成することができた	108	630	2366	1372
複数の選択肢の中から自分なりの根拠を示して結論を導くことができた	90	391	2170	1822
自分の考えを口頭あるいは図や文章を用いて明確に表現することができた	165	862	2096	1350
自分で必要だと考えた学習や活動に取り組むことができた	120	479	1741	2130
同じ目標に向けて他者と協働することができた	152	553	1684	2082
他者の意見に惑わされずに自分の考えで行動できた	133	779	1858	1701
相手の立場や考え方に共感することができた	98	331	1944	2099
大学で学ぶ（学んだ）ことを利用して、社会に貢献したいと考えていた	145	415	1530	2385

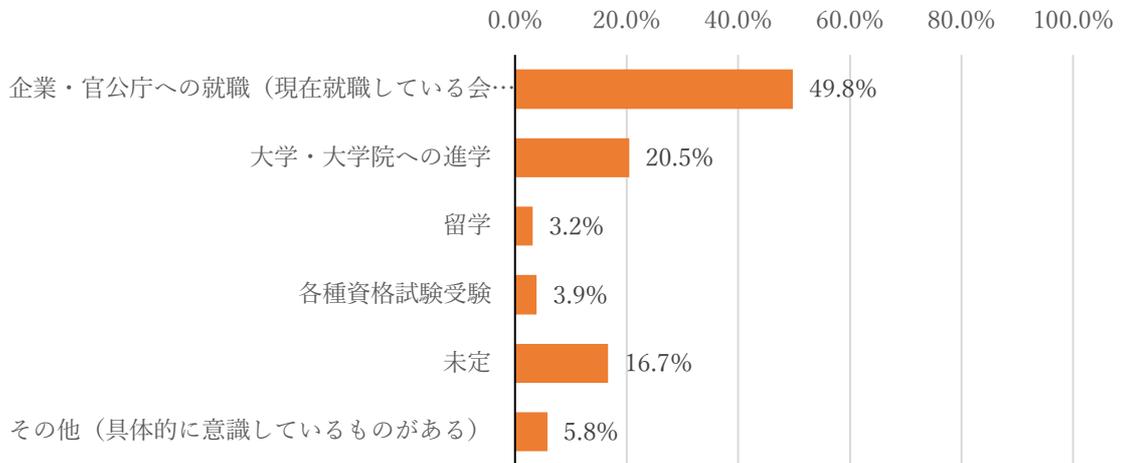
Q05. あなたは現時点において、次のようなことはどれくらい身に付いていると考えていますか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。



	身に付いていない	あまり身に付いていない	まあまあ身に付いている	身に付いている
新しいことに挑戦できる	89	781	2069	1547
既存の考え方にとらわれず、新しいアイデアを生み出せる	161	1299	1972	1051
物事を論理的に考えることができる	94	623	2261	1508
課題の解決方法を提案できる	96	768	2271	1343
自分の考えを分かりやすく表現できる	162	1096	2118	1105
相手の状況や考え方を尊重できる	70	311	1859	2241
物事を多面的に考えることができる	91	687	2147	1552
健全に批判することができる	125	936	2128	1291
公正な視点で多様性を受け入れられる	80	435	2000	1965
異文化を理解できる	72	462	1846	2097
外国語を理解し、話せる	517	1473	1600	883
公正で責任ある学術・研究活動ができる	142	841	2155	1340

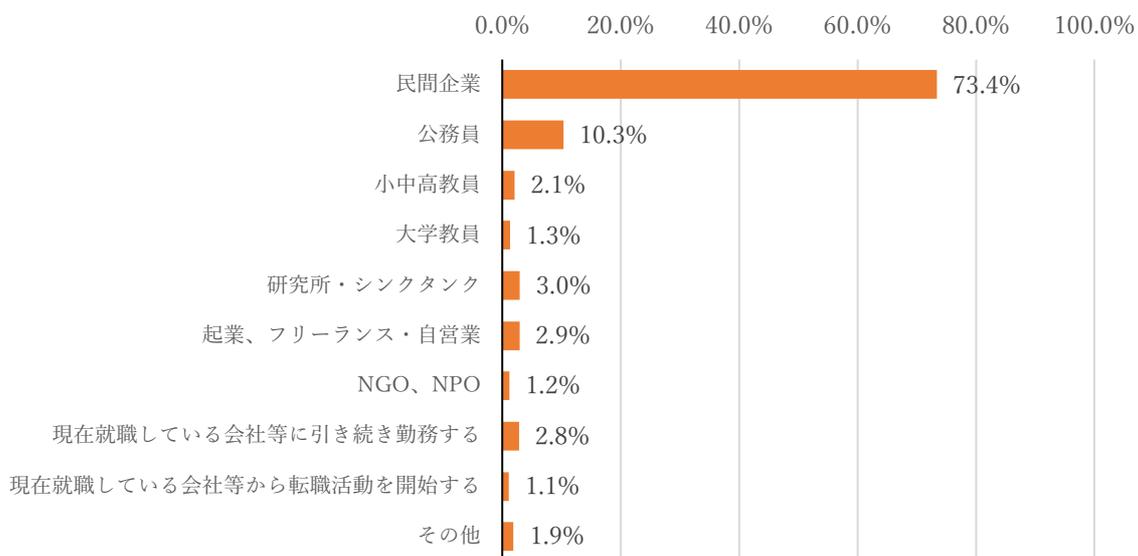
自身の専門に関する知識	434	1457	1792	794
-------------	-----	------	------	-----

Q06. 現時点で、あなたが学部生であれば学部卒業後、大学院生であれば大学院修了後の進路としてどのようなものを考えていますか。最もあてはまるものを選択してください。



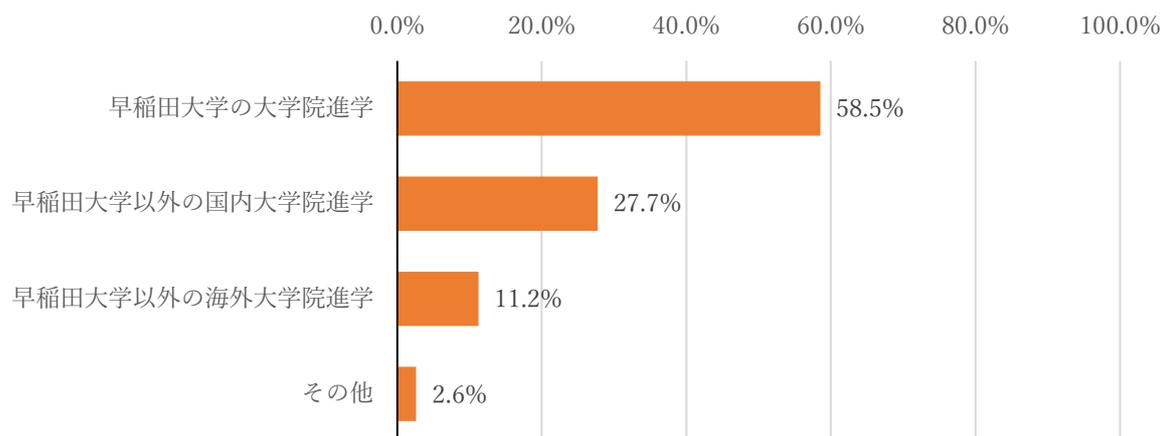
企業・官公庁への就職 (現在就職している会社への勤務、転職を含む)	2233
大学・大学院への進学	920
留学	145
各種資格試験受験	177
未定	748
その他 (具体的に意識しているものがある)	260

Q07. 具体的にどのような就職先を考えていますか。最もあてはまるものを選択してください。



民間企業	1616
公務員	227
小中高教員	47
大学教員	29
研究所・シンクタンク	67
起業、フリーランス・自営業	64
NGO、NPO	26
現在就職している会社等に引き続き勤務する	62
現在就職している会社等から転職活動を開始する	24
その他	41

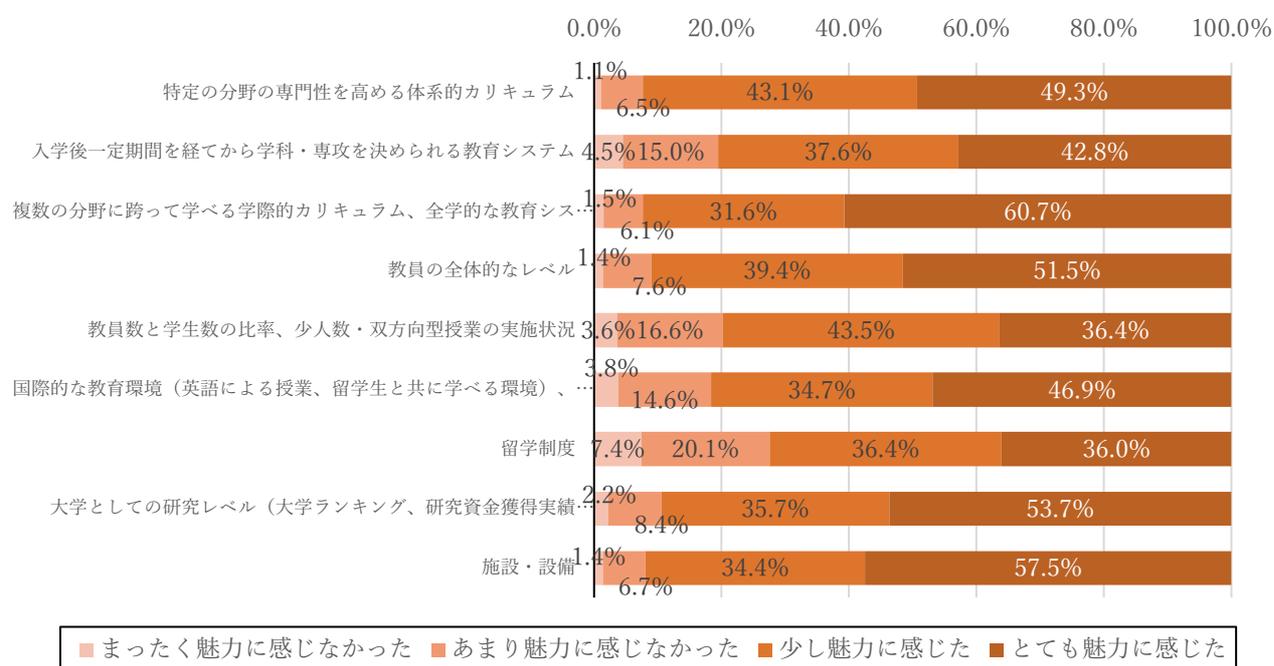
Q08. 具体的にどのような進学先を考えていますか。最もあてはまるものを選択してください。



早稲田大学の大学院進学	532
早稲田大学以外の国内大学院進学	252
早稲田大学以外の海外大学院進学	102
その他	24

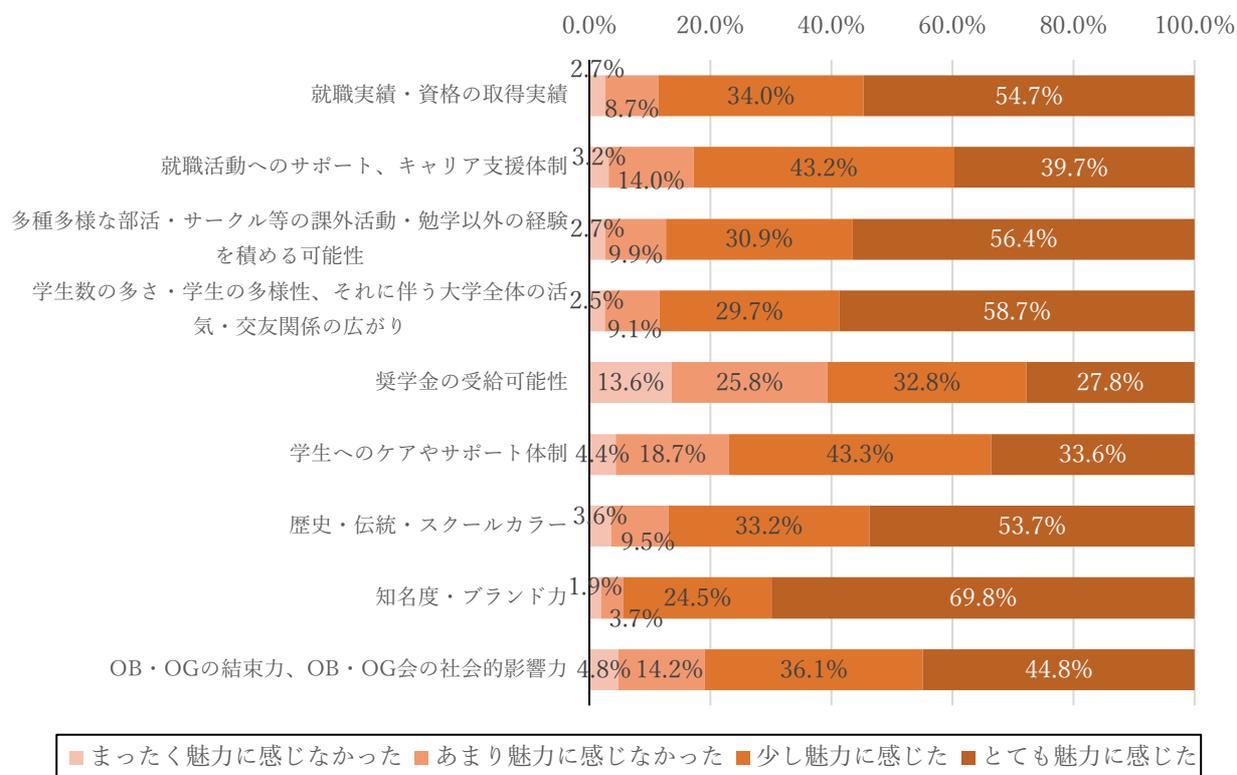
2. 早稲田大学に入学するにあたって

Q09. あなたは「学び・研究に関する点」について、どのような点に魅力を感じて早稲田大学を志望しましたか？魅力を感じた度合いをそれぞれ選択してください。



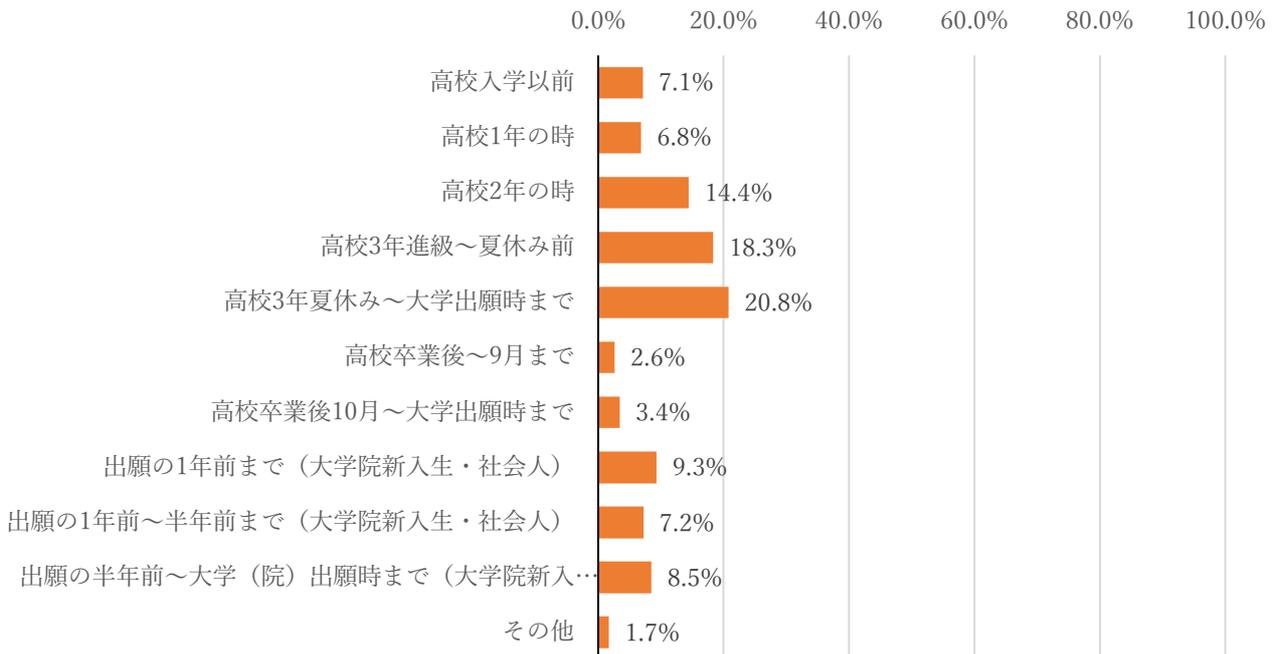
	まったく魅力を感じなかった	あまり魅力を感じなかった	少し魅力を感じた	とても魅力を感じた
特定の分野の専門性を高める体系的カリキュラム	47	270	1800	2055
入学後一定期間を経てから学科・専攻を決められる教育システム	189	623	1565	1782
複数の分野に跨って学べる学際的カリキュラム、全学的な教育システム	63	256	1319	2535
教員の全体的なレベル	60	315	1643	2147
教員数と学生数の比率、少人数・双方向型授業の実施状況	149	689	1809	1516
国際的な教育環境（英語による授業、留学生と共に学べる環境）、キャンパス内での国際交流の機会	160	607	1446	1954
留学制度	308	835	1513	1495
大学としての研究レベル（大学ランキング、研究資金獲得実績等）、研究環境	91	350	1485	2230
施設・設備	60	278	1435	2394

Q10. あなたは「進路・学生生活・イメージに関する点」について、どのような点に魅力を感じて早稲田大学を志望しましたか？魅力を感じた度合いをそれぞれ選択してください。



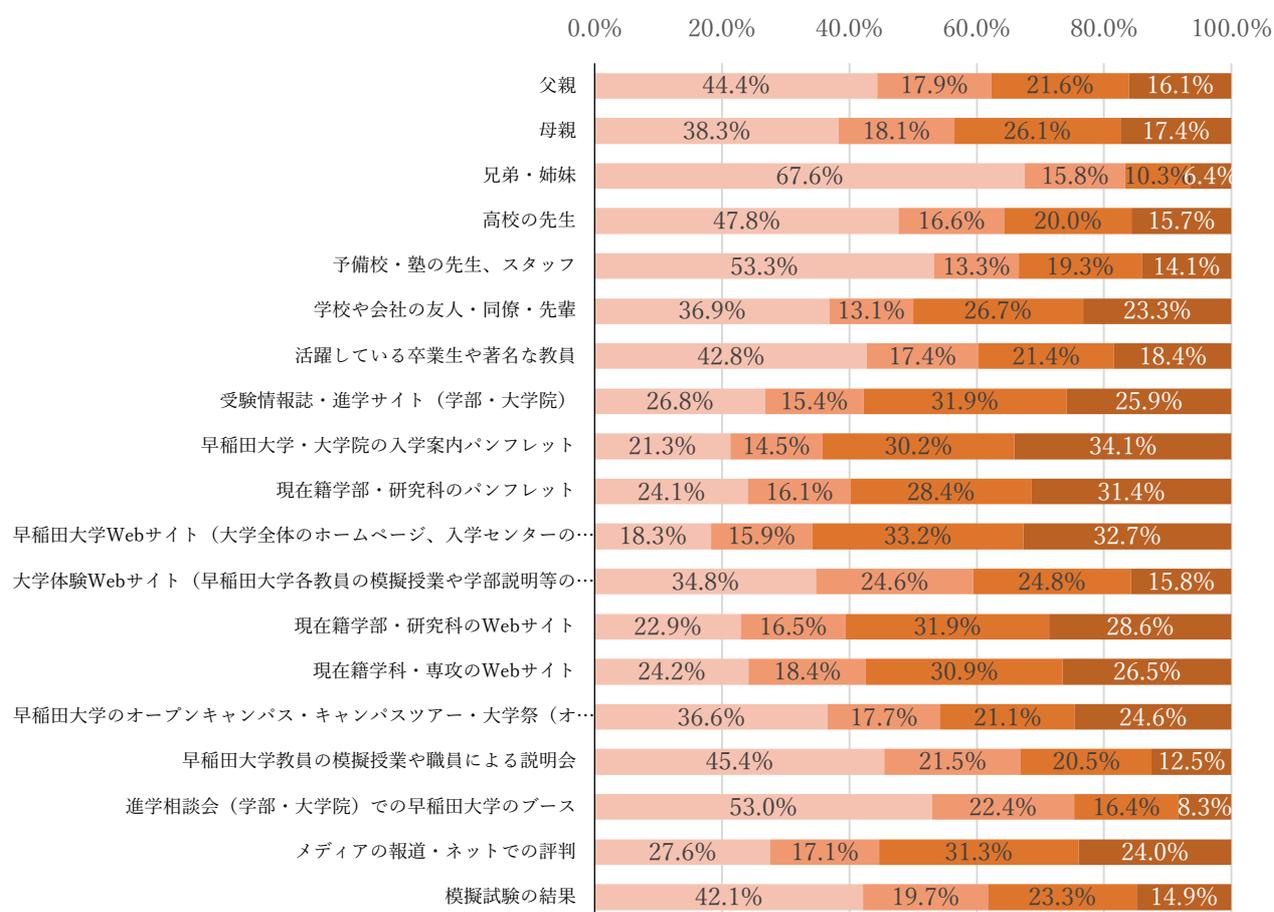
	まったく魅力を感じなかった	あまり魅力を感じなかった	少し魅力を感じた	とても魅力を感じた
就職実績・資格の取得実績	111	361	1415	2276
就職活動へのサポート、キャリア支援体制	131	582	1793	1648
多種多様な部活・サークル等の課外活動・勉学以外の経験を積める可能性	113	414	1288	2350
学生数の多さ・学生の多様性、それに伴う大学全体の活気・交友関係の広がり	102	379	1237	2444
奨学金の受給可能性	564	1073	1362	1157
学生へのケアやサポート体制	182	777	1797	1395
歴史・伝統・スクールカラー	151	394	1382	2232
知名度・ブランド力	80	155	1022	2911
OB・OGの結束力、OB・OG会の社会的影響力	201	592	1502	1866

Q11. 早稲田大学・大学院の現在籍学部・研究科への出願を決定したのはいつ頃ですか？



高校入学以前	295
高校1年の時	283
高校2年の時	599
高校3年進級～夏休み前	765
高校3年夏休み～大学出願時まで	870
高校卒業後～9月まで	108
高校卒業後10月～大学出願時まで	140
出願の1年前まで（大学院新入生・社会人）	389
出願の1年前～半年前まで（大学院新入生・社会人）	302
出願の半年前～大学（院）出願時まで（大学院新入生・社会人）	353
その他	70

Q12.1 出願の決定（現在籍学部・研究科の出願）に際して影響を受けた人について、影響を受けた度合いをそれぞれ選択してください。

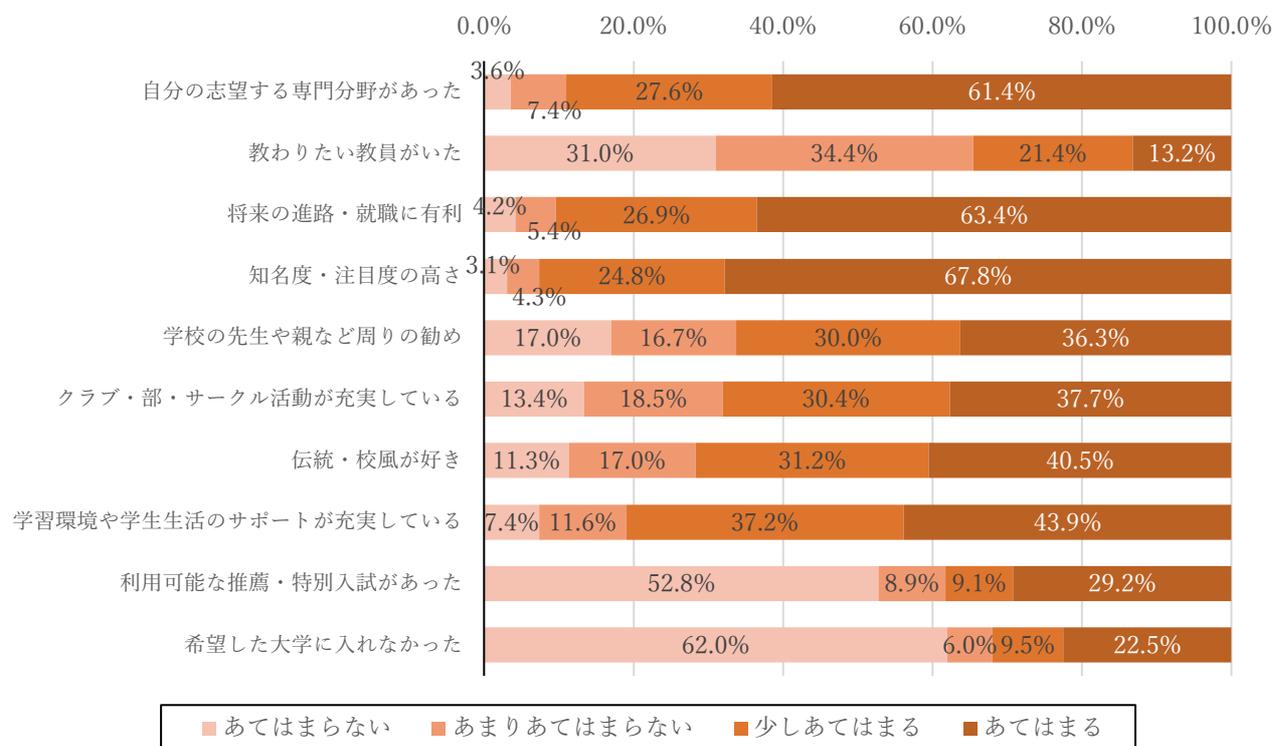


■ ほとんど影響を受けなかった ■ あまり影響を受けなかった ■ 少し影響を受けた ■ とても影響を受けた

	ほとんど影響を受けなかった	あまり影響を受けなかった	少し影響を受けた	とても影響を受けた
父親	1808	730	882	654
母親	1563	740	1066	709
兄弟・姉妹	2718	634	414	256
高校の先生	1941	673	812	638
予備校・塾の先生、スタッフ	2168	541	783	574
学校や会社の友人・同僚・先輩	1512	539	1096	954
活躍している卒業生や著名な教員	1740	709	870	748
受験情報誌・進学サイト（学部・大学院）	1108	635	1319	1068
早稲田大学・大学院の入学案内パンフレット	880	598	1247	1409

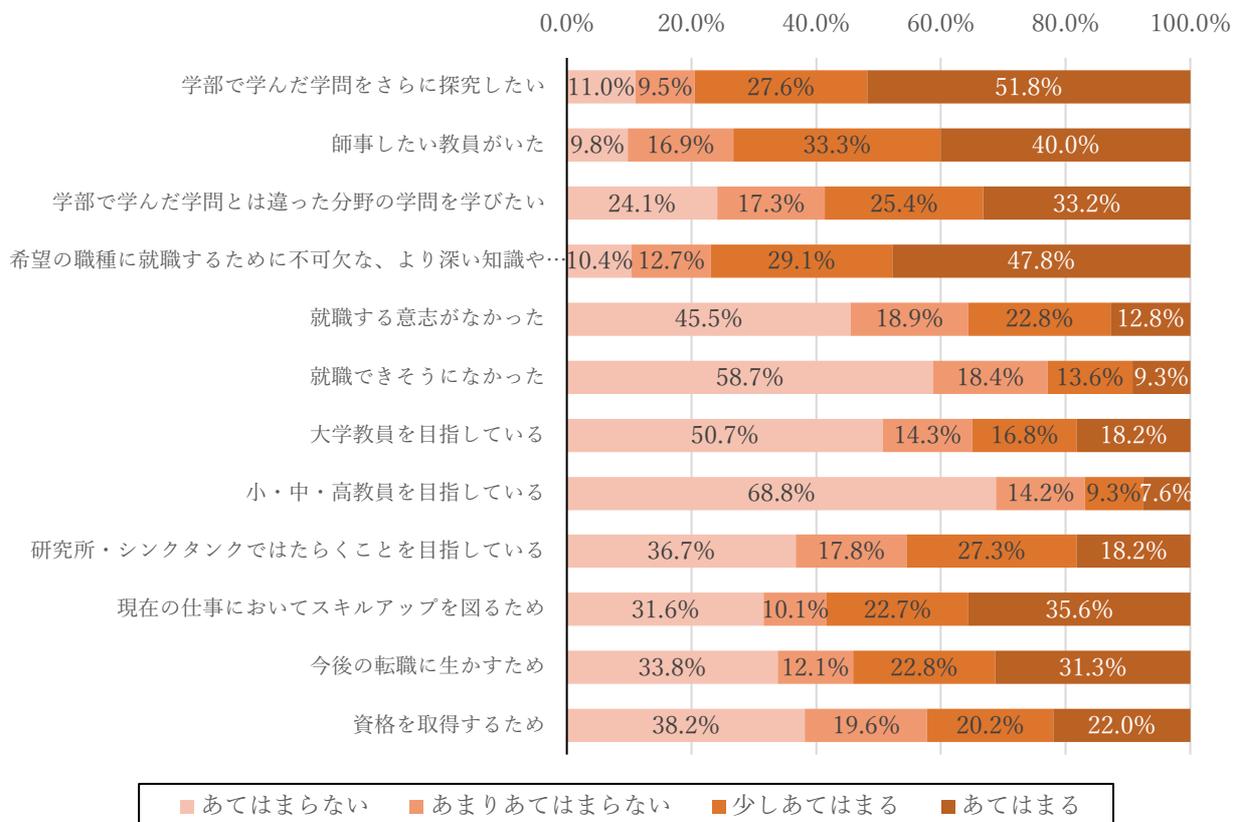
現在籍学部・研究科のパンフレット	992	663	1169	1295
早稲田大学 Web サイト（大学全体のホームページ、入学センターのホームページ）	754	657	1370	1350
大学体験 Web サイト（早稲田大学各教員の模擬授業や学部説明等の動画コンテンツを閲覧できるサイト）	1432	1010	1019	650
現在籍学部・研究科の Web サイト	943	679	1310	1177
現在籍学科・専攻の Web サイト	988	753	1261	1085
早稲田大学のオープンキャンパス・キャンパスツアー・大学祭（オンラインを含む）	1505	729	867	1011
早稲田大学教員の模擬授業や職員による説明会	1864	883	843	514
進学相談会（学部・大学院）での早稲田大学のブース	2164	914	669	339
メディアの報道・ネットでの評判	1135	701	1285	985
模擬試験の結果	1724	805	955	610

Q13. あなたが大学に進学する上で、最終的に早稲田大学を選んだ理由は何ですか。それぞれあてはまるものを選択してください。



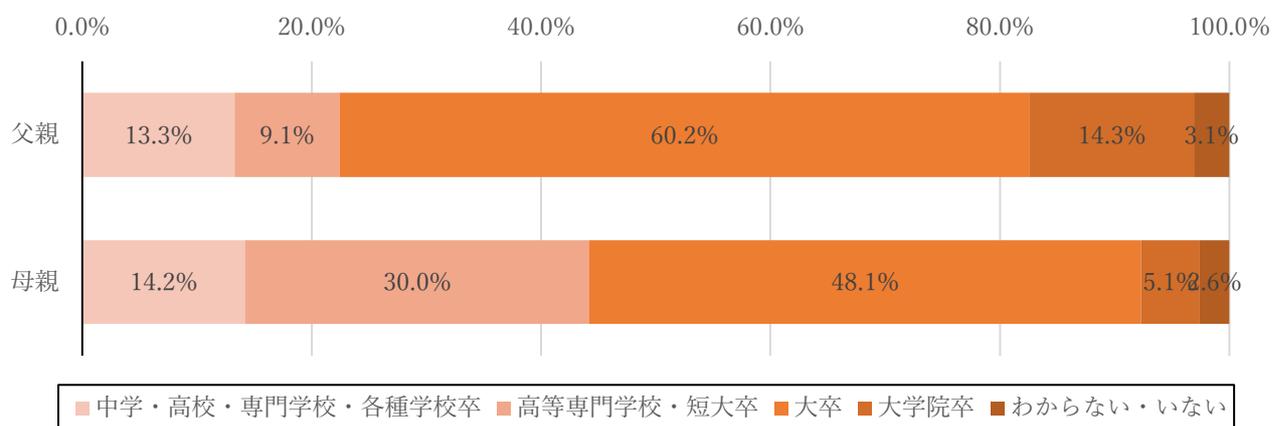
	あてはまらない	あまりあてはまらない	少しあてはまる	あてはまる
自分の志望する専門分野があった	92	189	703	1563
教わりたい教員がいた	783	868	539	333
将来の進路・就職に有利	107	138	683	1608
知名度・注目度の高さ	79	110	628	1719
学校の先生や親など周りの勧め	429	423	758	919
クラブ・部・サークル活動が充実している	340	468	768	953
伝統・校風が好き	286	429	789	1022
学習環境や学生生活のサポートが充実している	186	293	939	1108
利用可能な推薦・特別入試があった	1335	226	229	737
希望した大学に入れなかった	1566	151	241	568

Q14. あなたが大学院に進学した理由は何ですか。それぞれあてはまるものを選択してください。



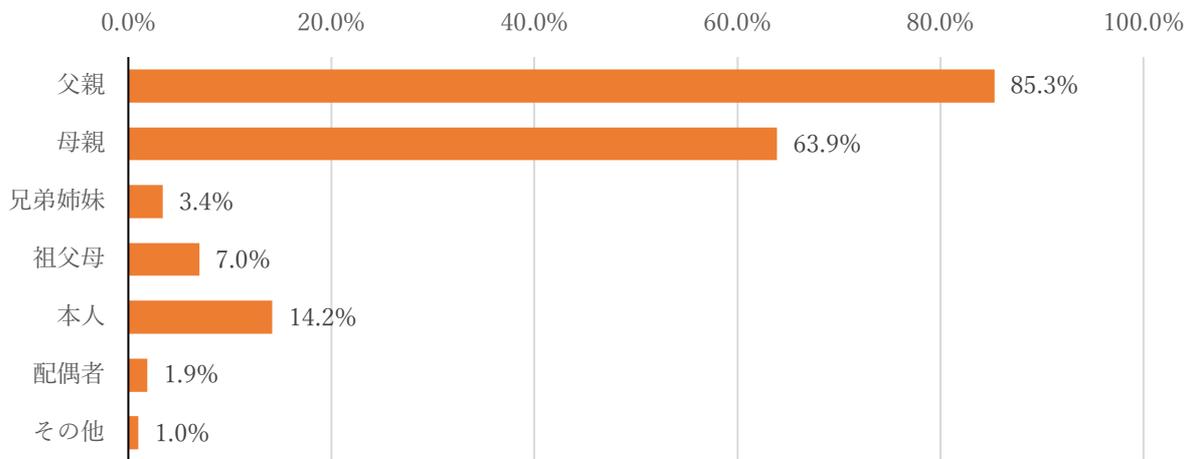
	あてはま ない	あまりあ てはま らない	少しあ ては まる	あてはまる
学部で学んだ学問をさらに探究したい	120	104	301	565
師事したい教員がいた	107	185	364	438
学部で学んだ学問とは違った分野の学問を学びたい	263	189	278	363
希望の職種に就職するために不可欠な、より深い知識や学位を得るため	114	139	317	521
就職する意志がなかった	496	206	248	140
就職できそうになかった	638	200	148	101
大学教員を目指している	551	155	183	198
小・中・高教員を目指している	749	155	101	83
研究所・シンクタンクではたらくことを目指している	400	194	298	198
現在の仕事においてスキルアップを図るため	346	110	248	390
今後の転職に生かすため	368	132	249	341
資格を取得するため	416	213	220	239

Q15. あなたのご両親の最終学歴について、それぞれあてはまるものをそれぞれ選択してください。



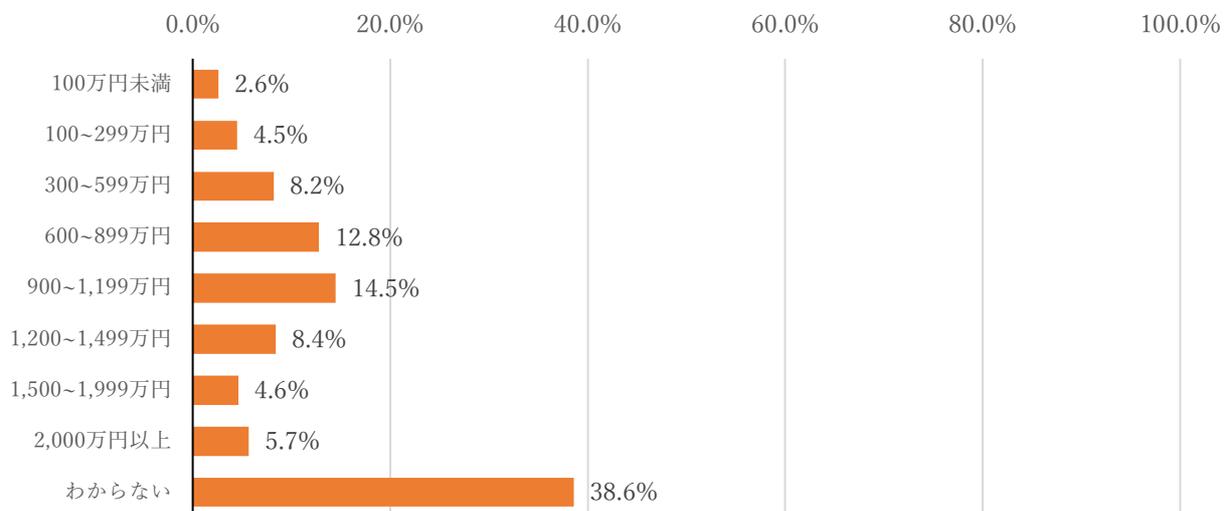
	中学・高校・ 専門学校・ 各種学校卒	高等専門学 校・短大卒	大卒	大学院卒	わからない・い ない
父親	533	362	2406	572	122
母親	565	1197	1916	204	105

Q16. あなたの現在の生計を維持している方について、あてはまるものをすべて選択してください。（複数回答可）



父親	3418
母親	2563
兄弟姉妹	136
祖父母	281
本人	568
配偶者	78
その他	42

Q17. 前年（2023年1月～12月）の世帯収入（税込）について、もっともあてはまるものを選択してください。

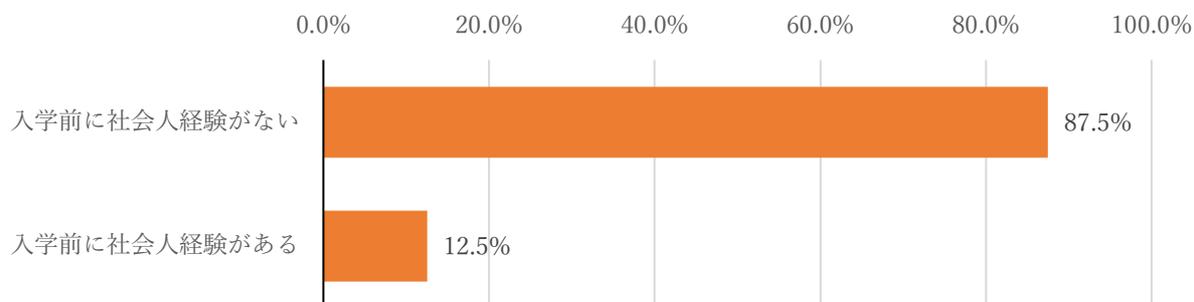


100 万円未満	105
100~299 万円	179
300~599 万円	327
600~899 万円	509
900~1,199 万円	575
1,200~1,499 万円	333
1,500~1,999 万円	184
2,000 万円以上	228
わからない	1533

3. 入学前の学習・生活習慣について

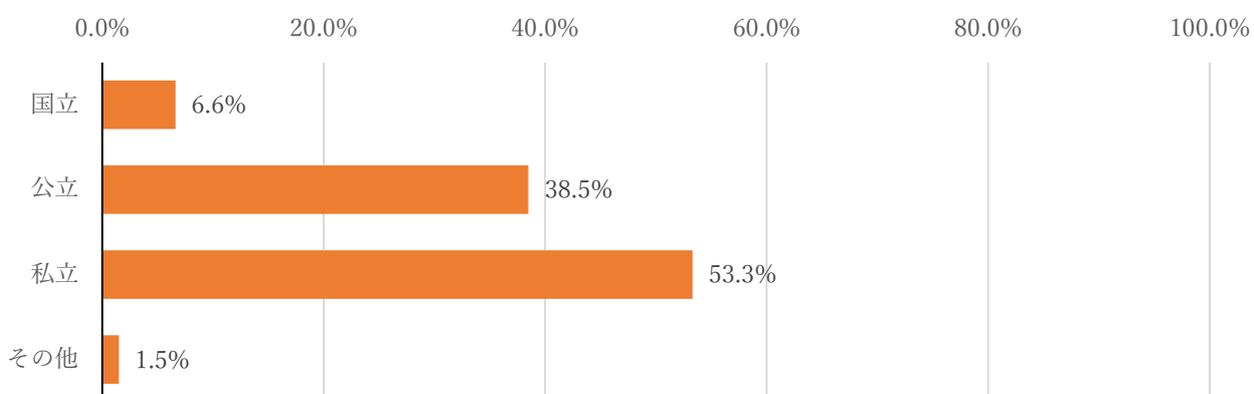
Q18. 大学・大学院入学前の在学状況等について、次のどれにあてはまりますか。それぞれ1つを選択してください。

(その1)



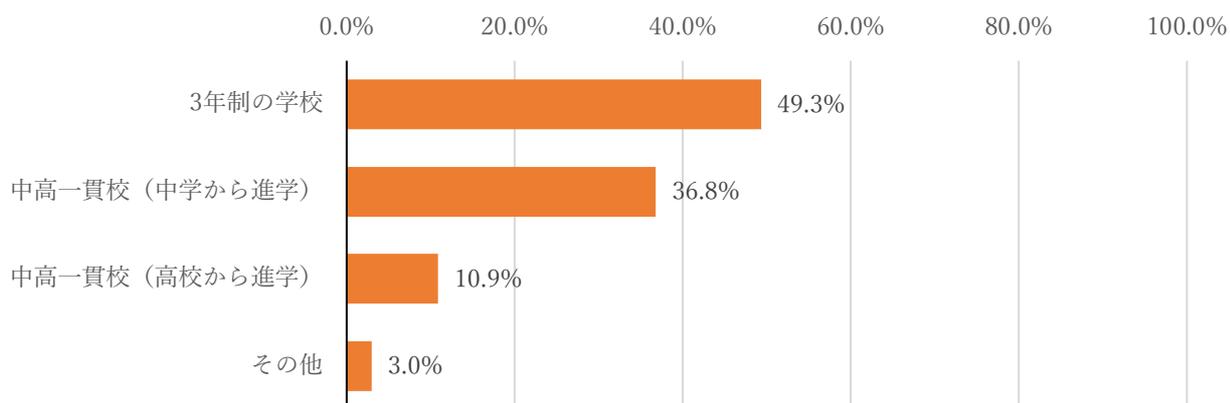
入学前に社会人経験がない	3550
入学前に社会人経験がある	509

(その2) - 高校の設置者



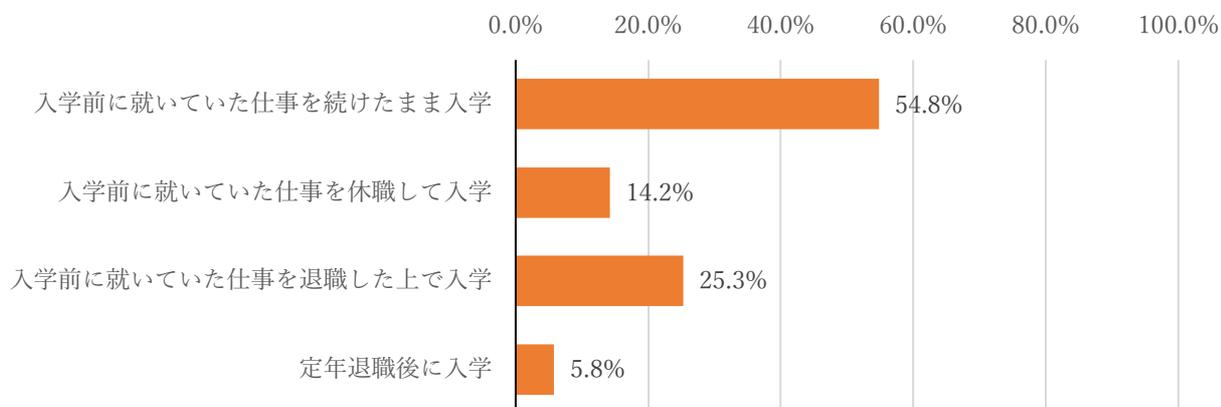
国立	227
公立	1326
私立	1835
その他	52

(その2) - 3年制 or 中高一貫



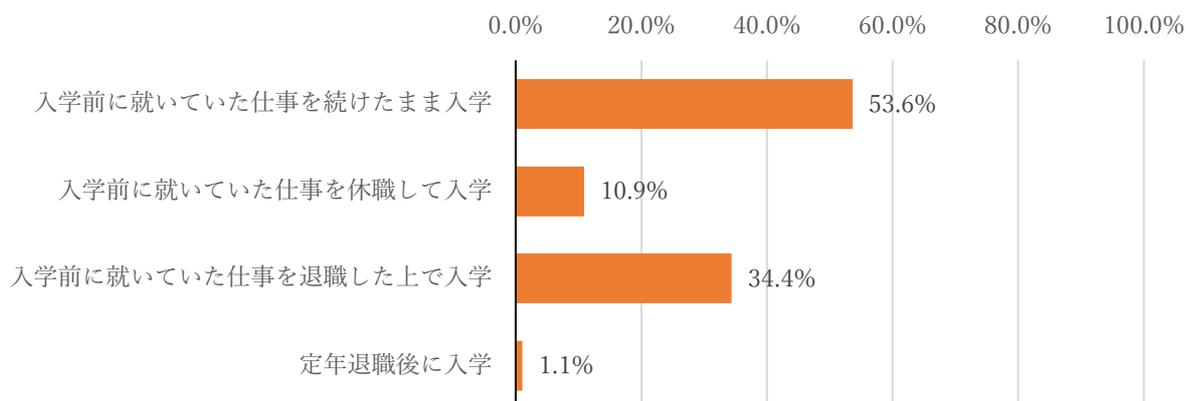
3年制の学校	1657
中高一貫校（中学から進学）	1237
中高一貫校（高校から進学）	368
その他	101

(その2) - 現在の状況



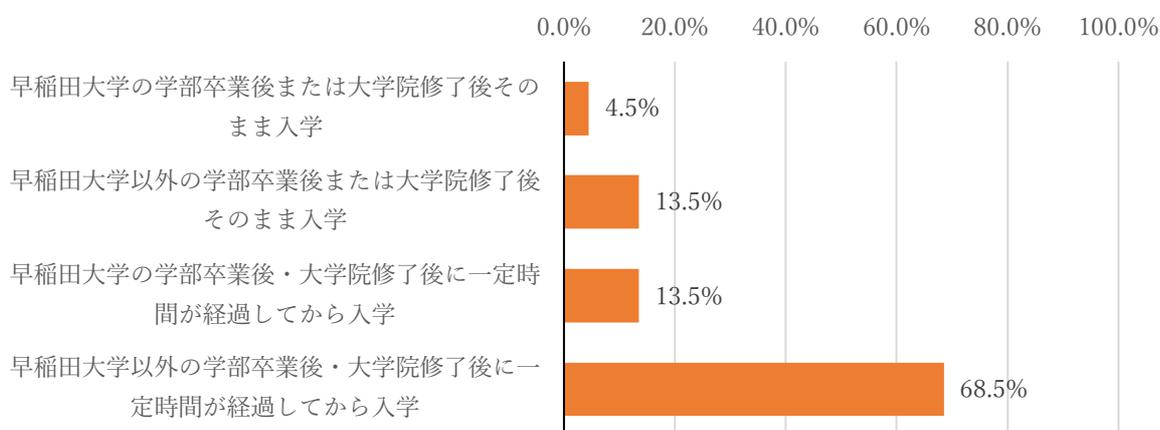
入学前に就いていた仕事を続けたまま入学	219
入学前に就いていた仕事を休職して入学	57
入学前に就いていた仕事を退職した上で入学	101
定年退職後に入学	23

(その2) - 現在の状況



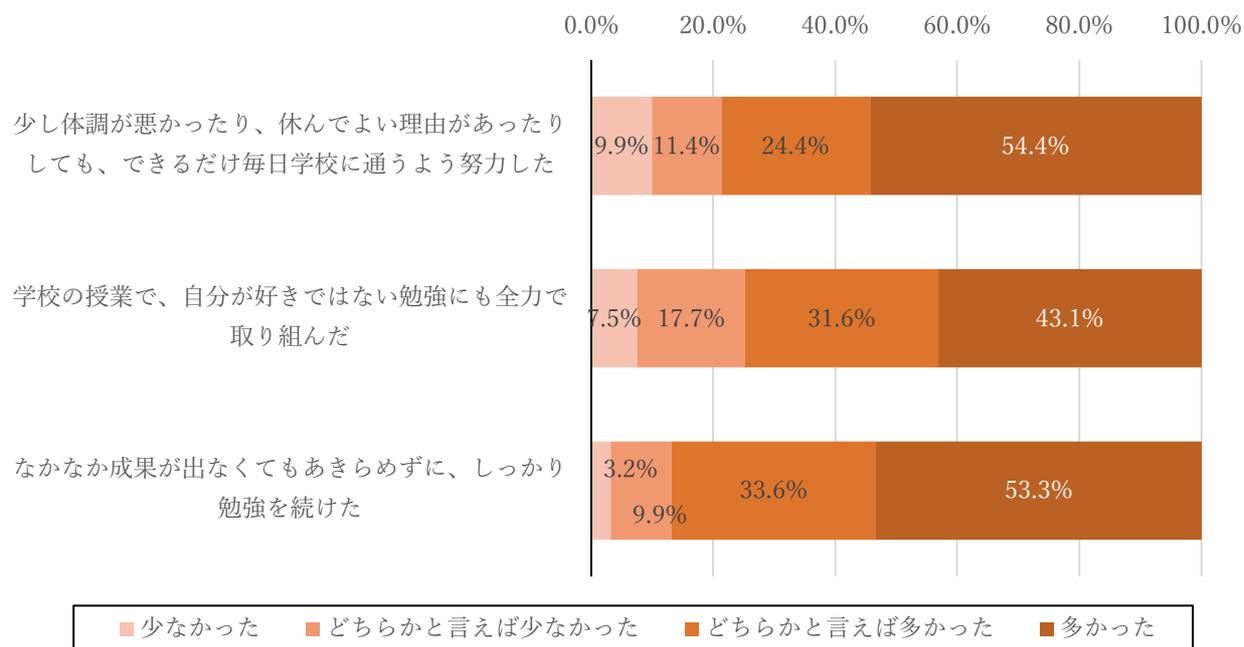
入学前に就いていた仕事を続けたまま入学	251
入学前に就いていた仕事を休職して入学	51
入学前に就いていた仕事を退職した上で入学	161
定年退職後に入学	5

(その2) - 他大学等での経験



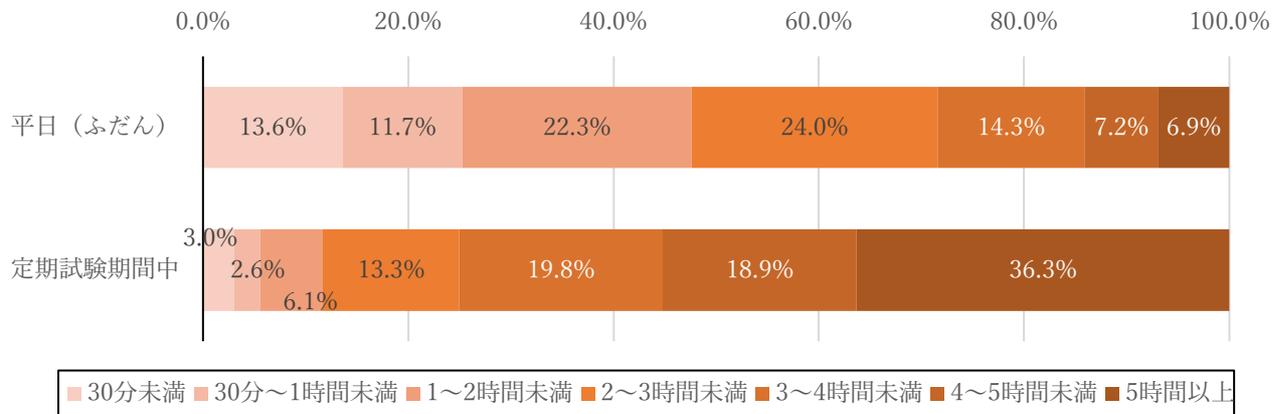
早稲田大学の学部卒業後または大学院修了後そのまま入学	18
早稲田大学以外の学部卒業後または大学院修了後そのまま入学	54
早稲田大学の学部卒業後・大学院修了後に一定時間が経過してから入学	54
早稲田大学以外の学部卒業後・大学院修了後に一定時間が経過してから入学	274

Q19. あなたが高校生の頃、次のようなことは、どのくらいあてはまりましたか。それぞれ最も当てはまるものを選択してください。



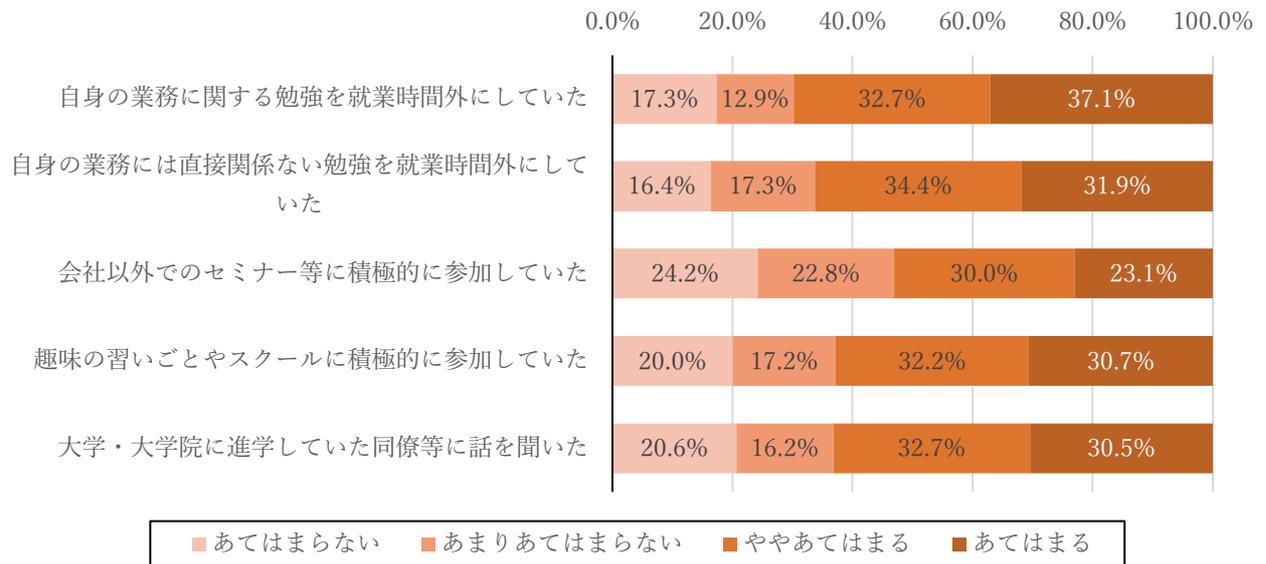
	少なかった	どちらかと言えば少なかった	どちらかと言えば多かった	多かった
少し体調が悪かったり、休んでよい理由があったりしても、できるだけ毎日学校に通うよう努力した	237	274	585	1305
学校の授業で、自分が好きではない勉強にも全力で取り組んだ	181	425	759	1034
なかなか成果が出なくてもあきらめずに、しっかり勉強を続けた	76	237	807	1279

Q20. あなたが「高校2年生の2学期」の頃、1日当たり学校の授業以外の学習時間がどれほどだったのか、「平日（ふだん）」と「定期試験期間中」についてお答えください。塾・予備校での学習時間も含めます。それぞれあてはまるものを選択してください。



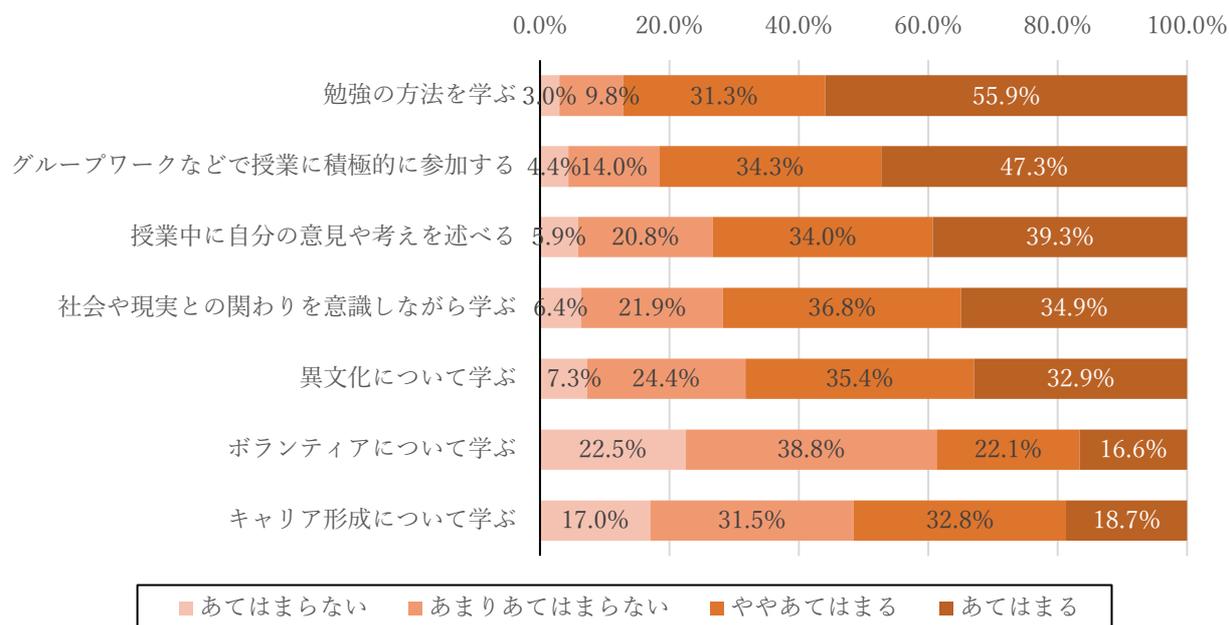
	30分未満	30分～1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5時間以上
平日（ふだん）	325	280	532	575	341	172	166
定期試験期間中	71	63	145	316	471	449	865

Q21. (既に社会人経験のある方のみお答えください) あなたの大学(大学院)入学前の社会人経験の中で、下記のことはどれくらいあてはまりますか。それぞれもっともあてはまるものを選択してください。



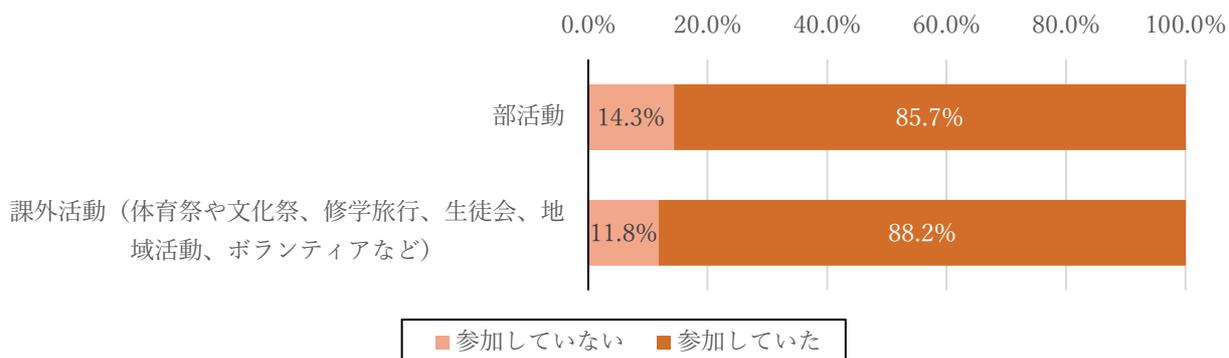
	あてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	あてはまる
自身の業務に関する勉強を就業時間外にしていた	142	106	268	304
自身の業務には直接関係ない勉強を就業時間外にしていた	126	133	265	246
会社以外でのセミナー等に積極的に参加していた	179	169	222	171
趣味の習いごとやスクールに積極的に参加していた	149	128	240	229
大学・大学院に進学していた同僚等に話を聞いた	153	120	242	226

Q22. あなたが高校生の頃、次のことはどれほど経験しましたか。それぞれあてはまるものを選択してください。



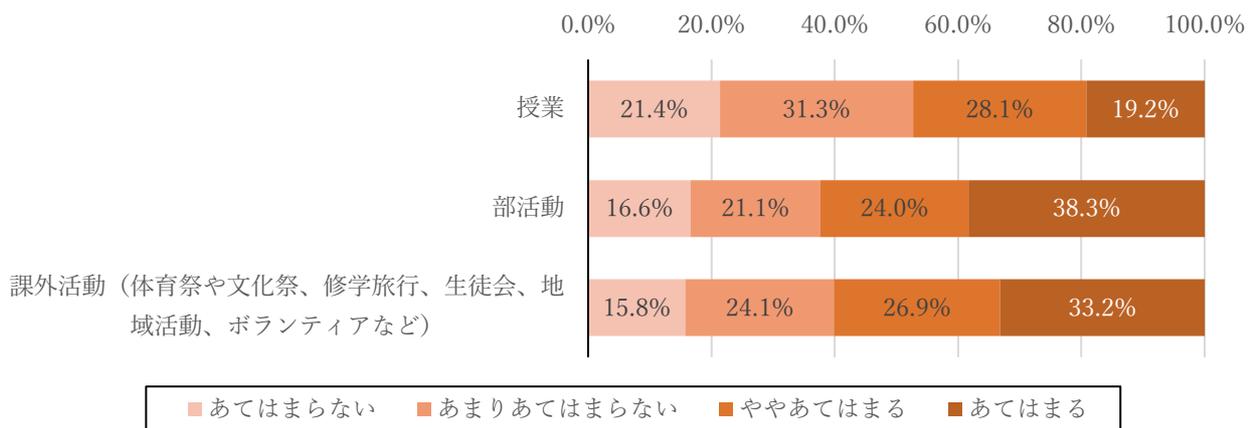
	あてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	あてはまる
勉強の方法を学ぶ	71	234	748	1333
グループワークなどで授業に積極的に参加する	104	334	819	1128
授業中に自分の意見や考えを述べる	141	496	812	938
社会や現実との関わりを意識しながら学ぶ	153	523	878	833
異文化について学ぶ	175	583	844	784
ボランティアについて学ぶ	536	926	528	396
キャリア形成について学ぶ	406	753	782	446

Q23. あなたの高校生の頃を振り返り、以下のような活動において、参加していましたか。



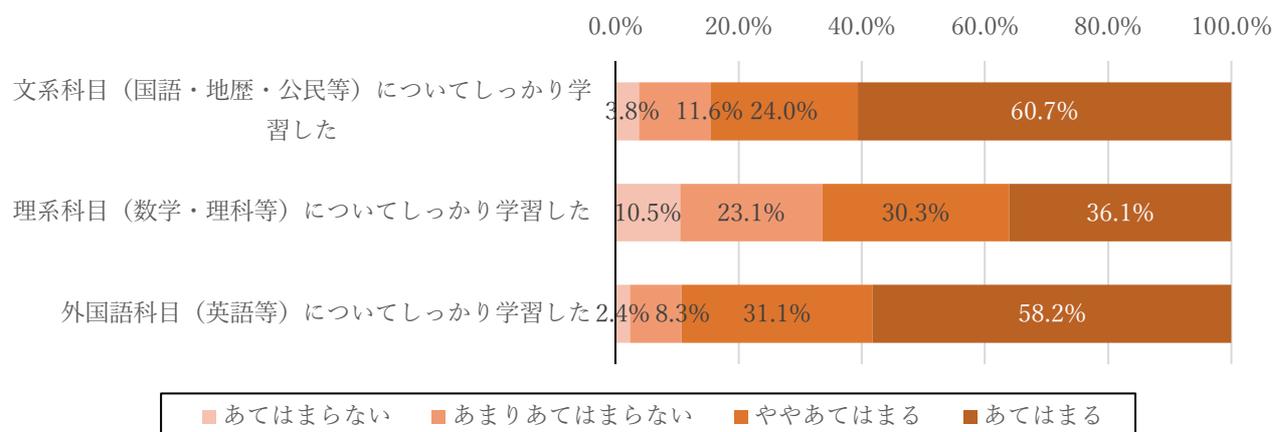
	参加していない	参加していた
部活動	343	2053
課外活動（体育祭や文化祭、修学旅行、生徒会、地域活動、ボランティアなど）	282	2103

Q24. あなたの高校生の頃を振り返り、以下のような活動において、リーダー的な役割を担いましたか（それぞれあてはまるものを選択）。



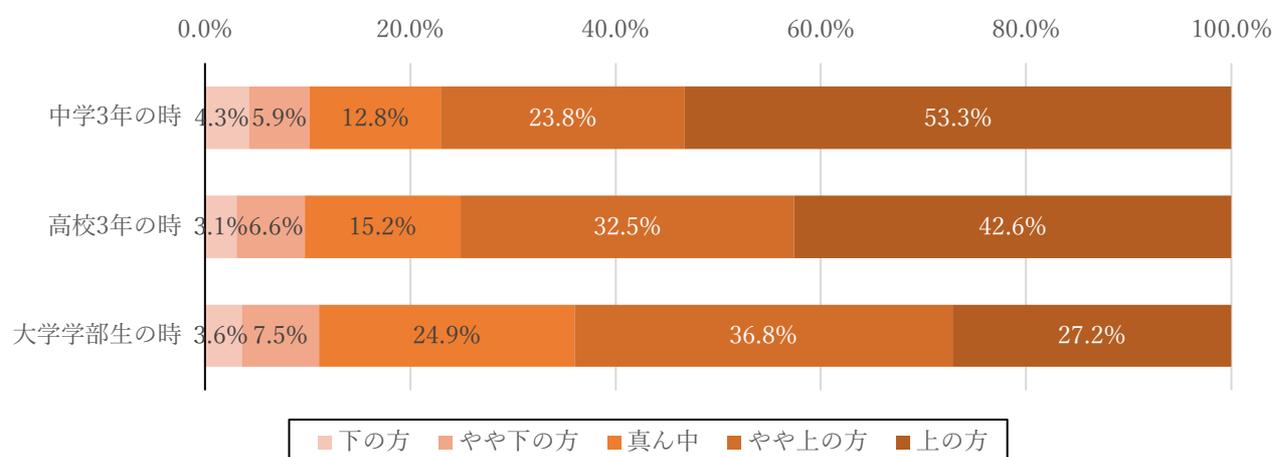
	あてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	あてはまる
授業	511	746	669	459
部活動	339	431	489	782
課外活動（体育祭や文化祭、修学旅行、生徒会、地域活動、ボランティアなど）	330	504	561	694

Q25. あなたの高校時代について、次のことはどの程度あてはまりますか。それぞれあてはまるものを選択してください。



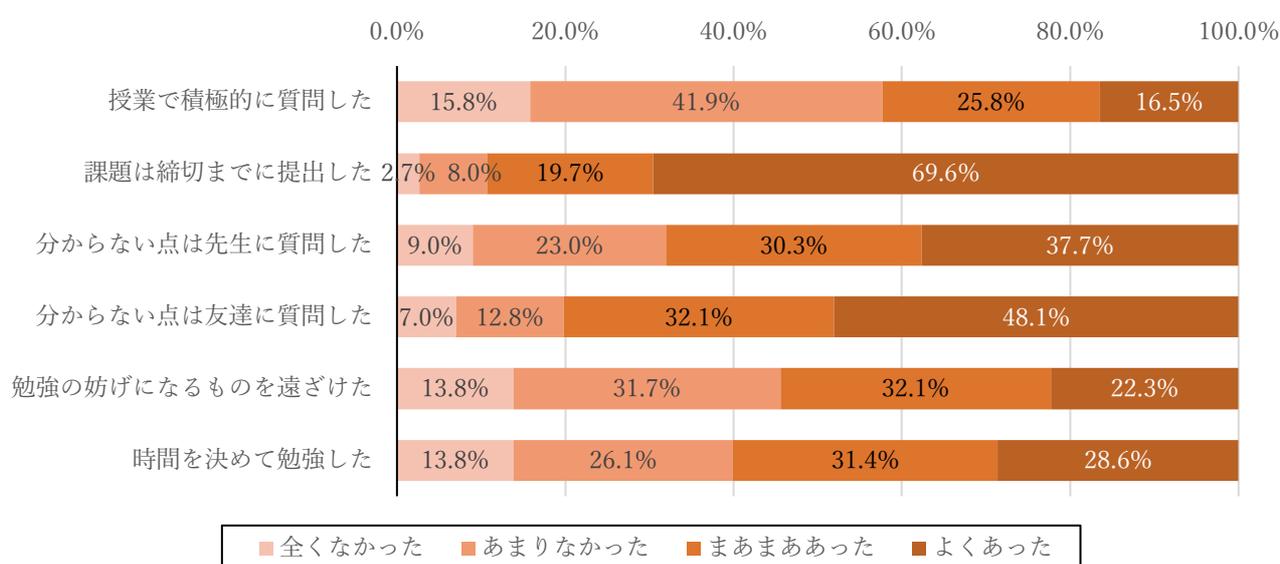
	あてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	あてはまる
文系科目（国語・地歴・公民等）についてしっかり学習した	91	277	574	1454
理系科目（数学・理科等）についてしっかり学習した	251	552	725	864
外国語科目（英語等）についてしっかり学習した	57	199	745	1391

Q26. あなたの校内成績についてお尋ねします。通っていた学校のなかでのあなたの成績はどれぐらいでしたか。学部生の方は中学3年生の時と高校3年生の時それぞれについて、大学院生の方は学部時代の成績について、全教科・科目トータルでみた場合の状況をお答えください。それぞれあてはまるものを選択してください。



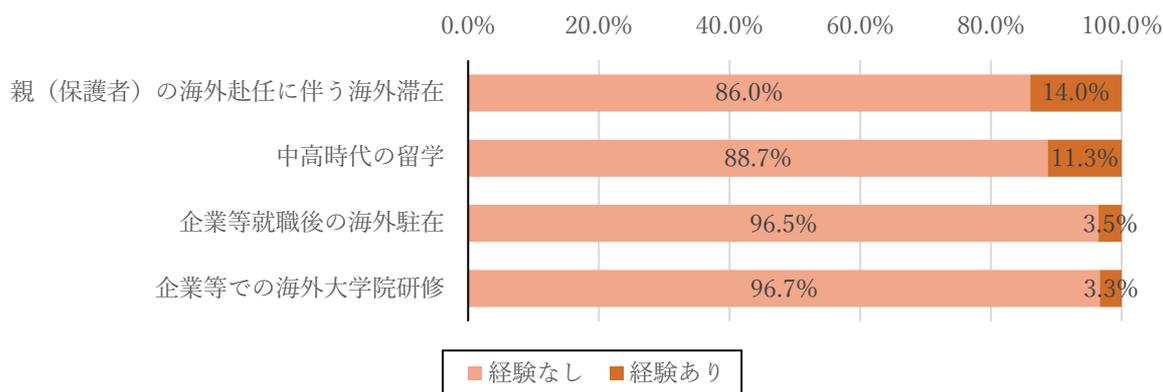
	下の方	やや下の方	真ん中	やや上の方	上の方
中学 3 年の時	102	140	305	568	1272
高校 3 年の時	74	158	364	775	1016
大学学部生の時	38	80	265	392	289

Q27. あなたの高校時代について、次のことはどれほどありましたか。それぞれあてはまるものを選択してください。



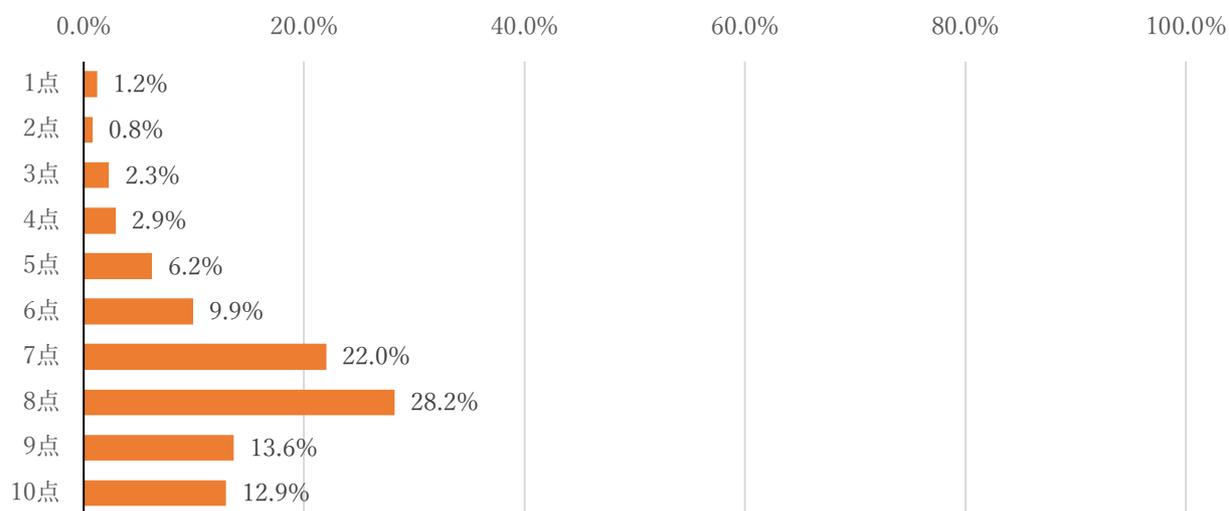
	全くなかった	あまりなかった	まあまああった	よくあった
授業で積極的に質問した	377	1001	616	395
課題は締切までに提出した	64	192	471	1663
分からない点は先生に質問した	215	551	726	901
分からない点は友達に質問した	167	307	767	1151
勉強の妨げになるものを遠ざけた	331	757	768	534
時間を決めて勉強した	330	624	751	684

Q28. 大学・大学院入学以前の海外経験についてお答えください。



	経験なし	経験あり
親（保護者）の海外赴任に伴う海外滞在	3352	546
中高時代の留学	3452	438
企業等就職後の海外駐在	3638	130
企業等での海外大学院研修	3642	126

Q29. 大学・大学院入学前の生活全般（高校生活、または社会人経験をお持ちの方はこれまでの生活）について、10点満点で満足度得点を付けるとすれば、何点になりますか。



1点	45	6点	379
2点	31	7点	841
3点	86	8点	1077
4点	112	9点	519
5点	236	10点	493

2024年度 早稲田大学新入生調査 報告書

2025年2月

早稲田大学 大学総合研究センター

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1 (7号館4F)